資料3

ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)の分析結果

<目　次>

基本クロスのパターンについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（1）性別・・・ 5
（2）年齢階層別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
（3）今回の路上生活期間別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
（4）支援制度利用タイプ別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
（5）地域別（事業実施別）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
（6）地域別（人口別）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
（7）設問間クロス集計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・174

<基本クロスのパターンについて>

平成２８年１０月に実施したホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）より、単純に得られた結果について、さらに詳細に分析・検証を進めるに当たり、主に以下の６つ＜（１）～（６）＞の基本クロスのパターンにより分析を行った。

（１）性別　　以下の２分類

①男性
②女性

（２）年齢階層別　以下の１４分類

①１９歳以下
②２０～２４歳
③２５～２９歳
④３０～３４歳
⑤３５～３９歳
⑥４０～４４歳
⑦４５～４９歳
⑧５０～５４歳
⑨５５～５９歳
⑩６０～６４歳
⑪６５～６９歳
⑫７０～７４歳
⑬７５～７９歳
⑭８０歳以上

<基本クロスのパターンについて>

（３）路上生活期間別　　以下の８分類

①１ヶ月未満
②１ヶ月以上３ヶ月未満
③３ヶ月以上６ヶ月未満
④６ヶ月以上１年未満
⑤１年以上３年未満
⑥３年以上５年未満
⑦５年以上１０年未満
⑧１０年以上

（４）支援制度利用タイプ別　以下の５分類

①自立相談支援事業（巡回相談）
⇒巡回相談員に相談したことはあるものの、下記の②、③にあてはまらないケース
②一時生活支援事業（自立支援センター）
⇒ホームレス自立支援センターを利用したことがあるケース
③一時生活支援事業（シェルター）
⇒シェルターを利用したことがあるものの、上記②にあてはまらないケース
④その他の支援
⇒住宅の斡旋や宿泊事業、健康診断、食糧・衣類の支給などの公的支援を利用したことがあるものの、上記①～③にはあてはまらないケース
⑤制度利用無し
⇒上記①～④のいずれにもあてはまらないケース

<基本クロスのパターンについて>

（５）地域別（事業実施別）　　以下の３（４）分類

①一時生活支援事業（自立支援センター）実施自治体（９自治体）

（仙台市、東京都２３区、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、北九州市、福岡市）

②一時生活支援事業（シェルター）実施自治体

（ア）シェルター、自立支援センターの双方を実施（７自治体）

（東京都２３区、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、福岡市）

（イ）シェルターのみ実施（１５自治体）

（札幌市、さいたま市、千葉市、相模原市、新潟市、静岡市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、豊橋市、那覇市、松戸市、市川市、府中市）

③一時生活支援事業未実施自治体（６自治体）

（浜松市、尼崎市、川口市、平塚市、厚木市、戸田市）

＜※平成28年３月現在（生活困窮者自立支援室調べ）＞

（６）地域別（人口別）　以下の５分類

①２００万人以上（４自治体）

（東京都２３区、横浜市、大阪市、名古屋市）

②１００～２００万人未満（８自治体）

（札幌市、神戸市、福岡市、川崎市、京都市、さいたま市、広島市、仙台市）

③５０～１００万人未満（９自治体）

（北九州市、千葉市、堺市、新潟市、浜松市、相模原市、静岡市、岡山市、川口市）

④３０～５０万人未満（５自治体）

（松戸市、市川市、尼崎市、豊橋市、那覇市）

⑤３０万人未満（４自治体）

（府中市、平塚市、厚木市、戸田市）

＜※28年1月1日住民基本台帳より＞

（１）性別

<性別の傾向について>

（１）路上での生活

○　寝場所は、男性は女性に比べ、一定の場所で決まっている割合が高く、具体的な寝場所としては、男女とも河川、公園が多いが、それ以外では男性は道路、女性は駅舎にいる割合が高い。
　また、寝場所をつくる方法としては、男性はテント又は小屋を常設する者の割合が高いが、女性は簡易な敷物や寝場所をつくらない者の割合が高い。

○　仕事は、女性において、仕事をしている者の割合が低い一方で、仕事以外の収入がある者の割合が高く、その内容としては年金収入が多い。

○　障害者手帳の所持については、男性に比べ女性は、今持っている割合が高い。

（２）路上生活までのいきさつ

○　これまで一番長くやっていた仕事は、男性は建設関係者が多く、女性はサービス業が多い。

○　路上生活に至った理由は、男性は仕事関係に起因するものが多いが、女性は家庭の事情に起因するものが多い。

（３）福祉制度の周知・利用状況

○　シェルターや自立支援センターの周知度・利用度は、いずれも女性よりも男性の方が高い。

○　生活保護は、利用経験がない者が男女とも多いが、制度を利用しなかった理由は、男性は「利用したくない」、女性は「自分は利用できないと思っている」といった制度の利用を肯定的に捉えていない割合が高い。

（４）今後の生活

○　今後望んでいる生活は、男性はアパートや寮等の住居と仕事を確保して自活を希望する又は現状の路上生活の維持を希望する割合が高いのに対し、女性は福祉を利用しながらの生活を希望する又は家族の元に戻ることを希望する割合が高い。

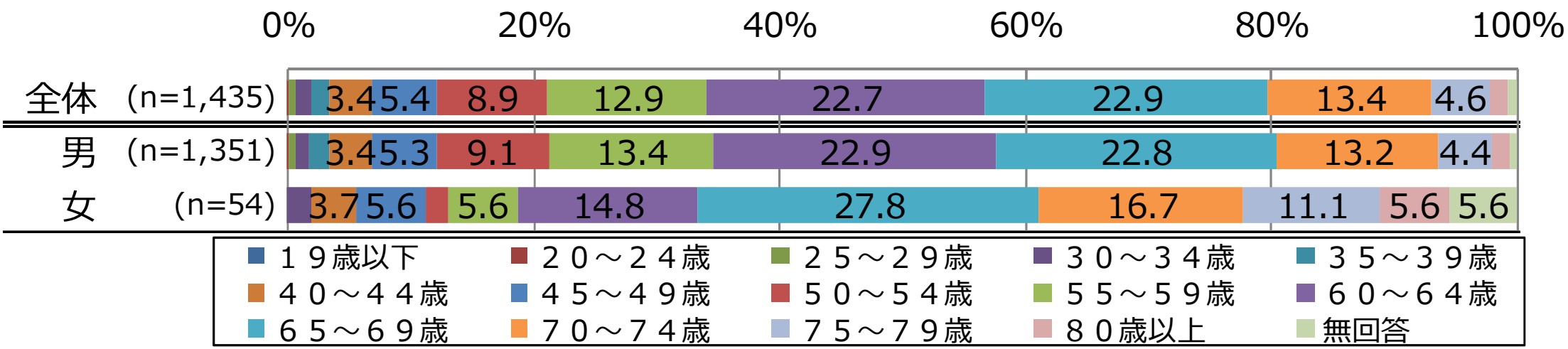
（５）生活歴

○　女性は男性に比べ、結婚歴のある者が多く、家族・親族と連絡を取っている者も多い。

年齢階層

- 年齢階層については、「女性」では「６５歳以上」の割合が高い傾向にある。

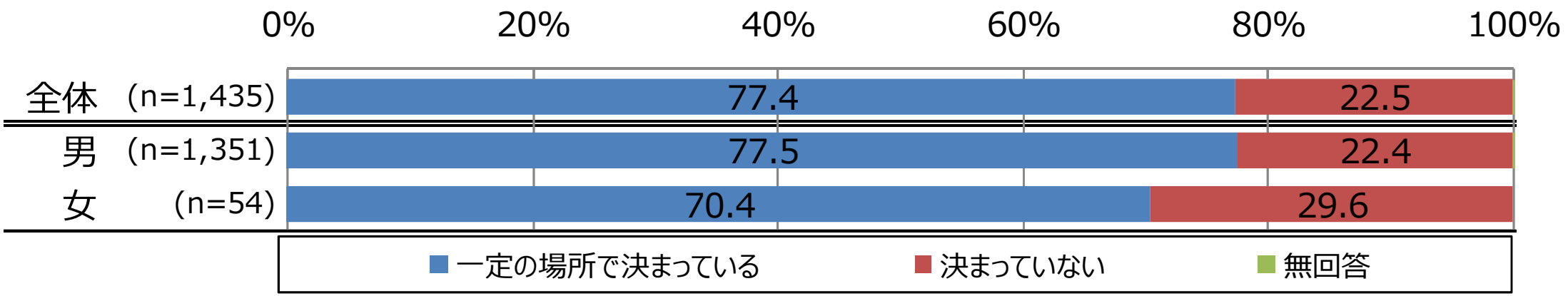
図表1　年齢階層（性別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「男性」では「一定の場所で決まっている」の割合が77.５％である一方、「女性」では「決まっていない」の割合が29.6%と高い。

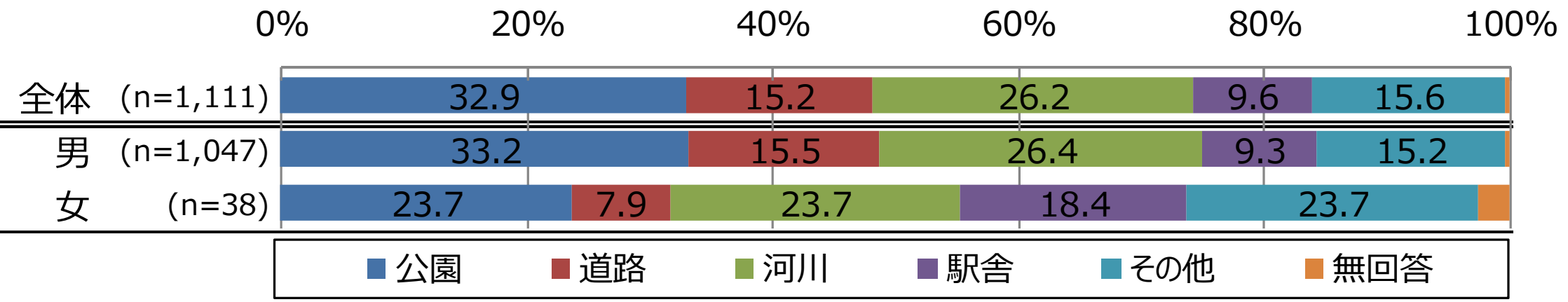
図表2　寝ている場所（性別）



問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「男性」では「公園」（33.2%）、「河川」（26.4%）、「道路」（15.5%）、「駅舎」（9.3%）の順となっているが、「女性」では「公園」「河川」（それぞれ23.7%）、「駅舎」（18.4%）、「道路」（7.9%）の順となるなど「駅舎」の割合が高い。

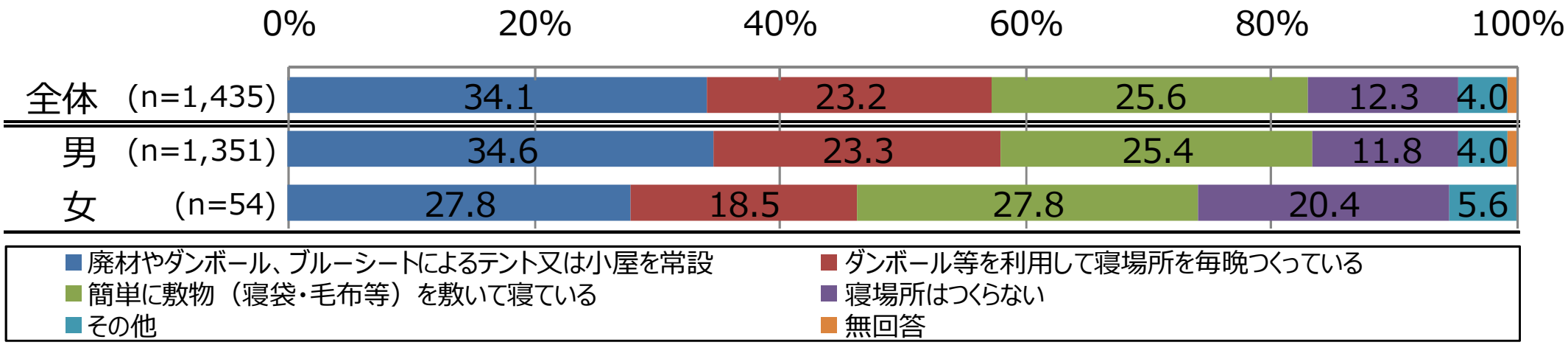
図表3　寝ている場所（具体的に）（性別）



問２　寝（野宿）場所をつくる方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法は、「男性」では「テント又は小屋を常設」の割合が高いが、「女性」では「テント又は小屋を常設」（男性：34.6%、女性：27.8%）の割合が低く、「簡単に敷物を敷いて寝ている」（男性：25.4%、女性：27.8%）及び「寝場所はつくらない」（男性：11.8%、女性：20.4%）の割合が高い。

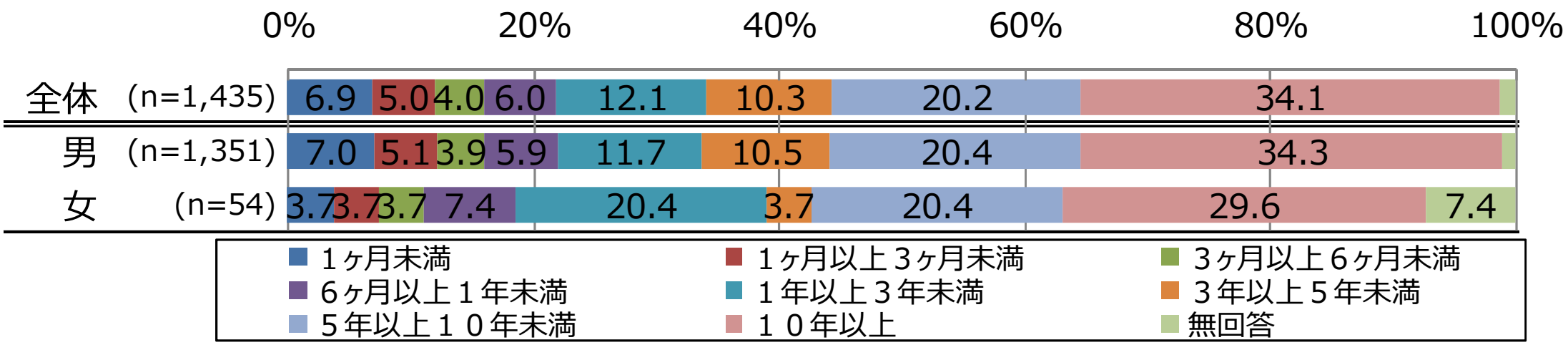
図表4　　寝（野宿）場所をつくる方法（性別）



問３　今回の路上生活期間

- 今回の路上生活期間については、「女性」では「１年以上３年未満」の割合が高い傾向にある。

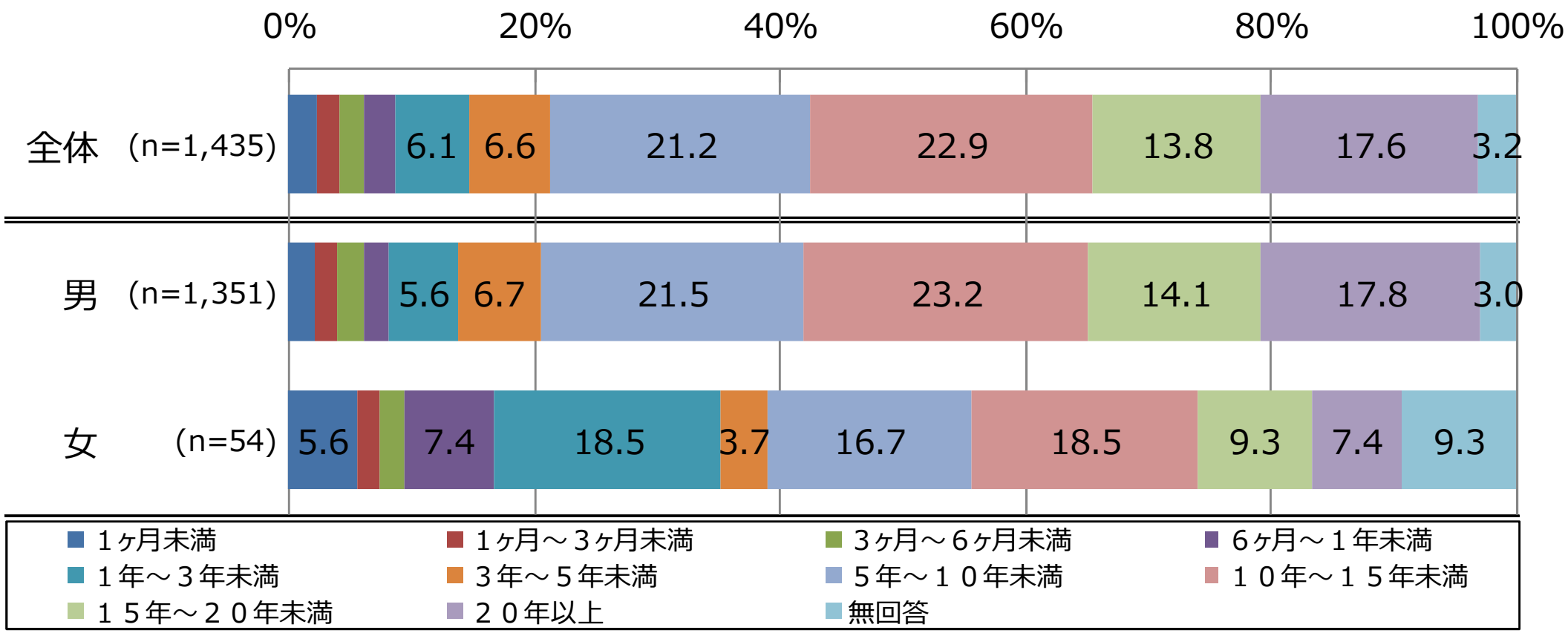
図表5　今回の路上生活期間（性別）



問５　初めて路上（野宿）生活してからの経過期間

- 初めて路上（野宿）生活してからの経過期間については、「男性」では「５年以上」（男性：79.6%、女性：61.2%）の割合が高く、「女性」では「１ヶ月未満」（男性：2.1%、女性：5.6%）、「６ヶ月～１年未満」（男性2.1%、女性7.4%）及び「１年～３年未満」（男性：5.6%、女性：18.5%）割合が高い。

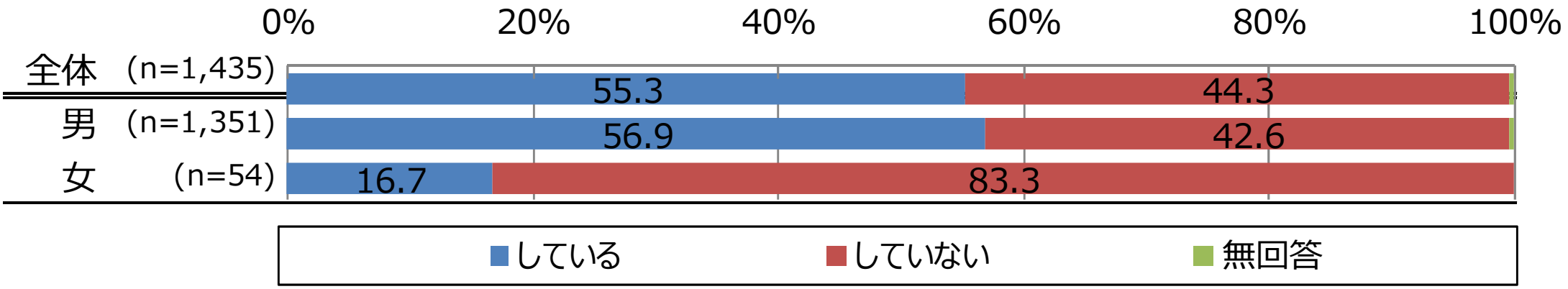
図表6　初めて路上（野宿）生活してからの経過期間（性別）



問６　現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについて、「男性」では「している」の割合が56.9%と高く、「女性」では16.7%と低い。

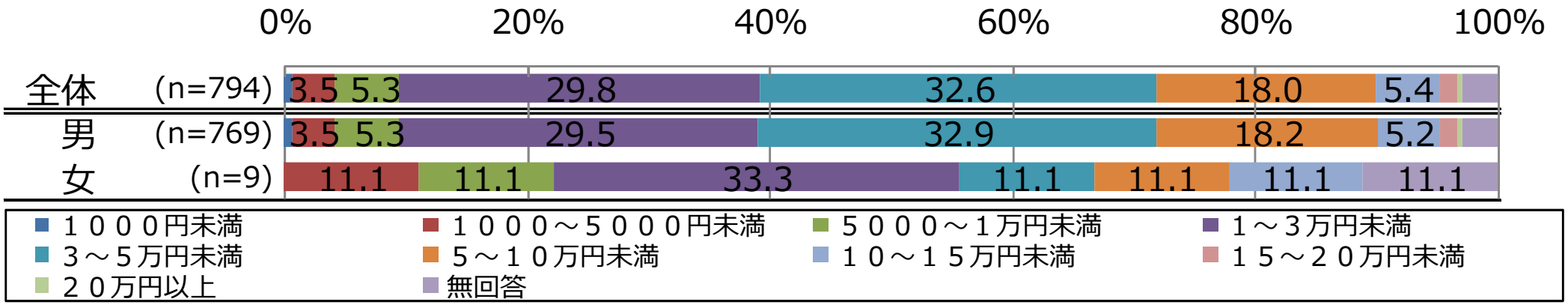
図表7　現在収入のある仕事（性別）



問６－２　仕事による平均収入（月額・円）

- 仕事による平均収入（月額）については、「男性」では「３～５万円未満」の割合が高く、「女性」では「１～３万円未満」の割合が高い。

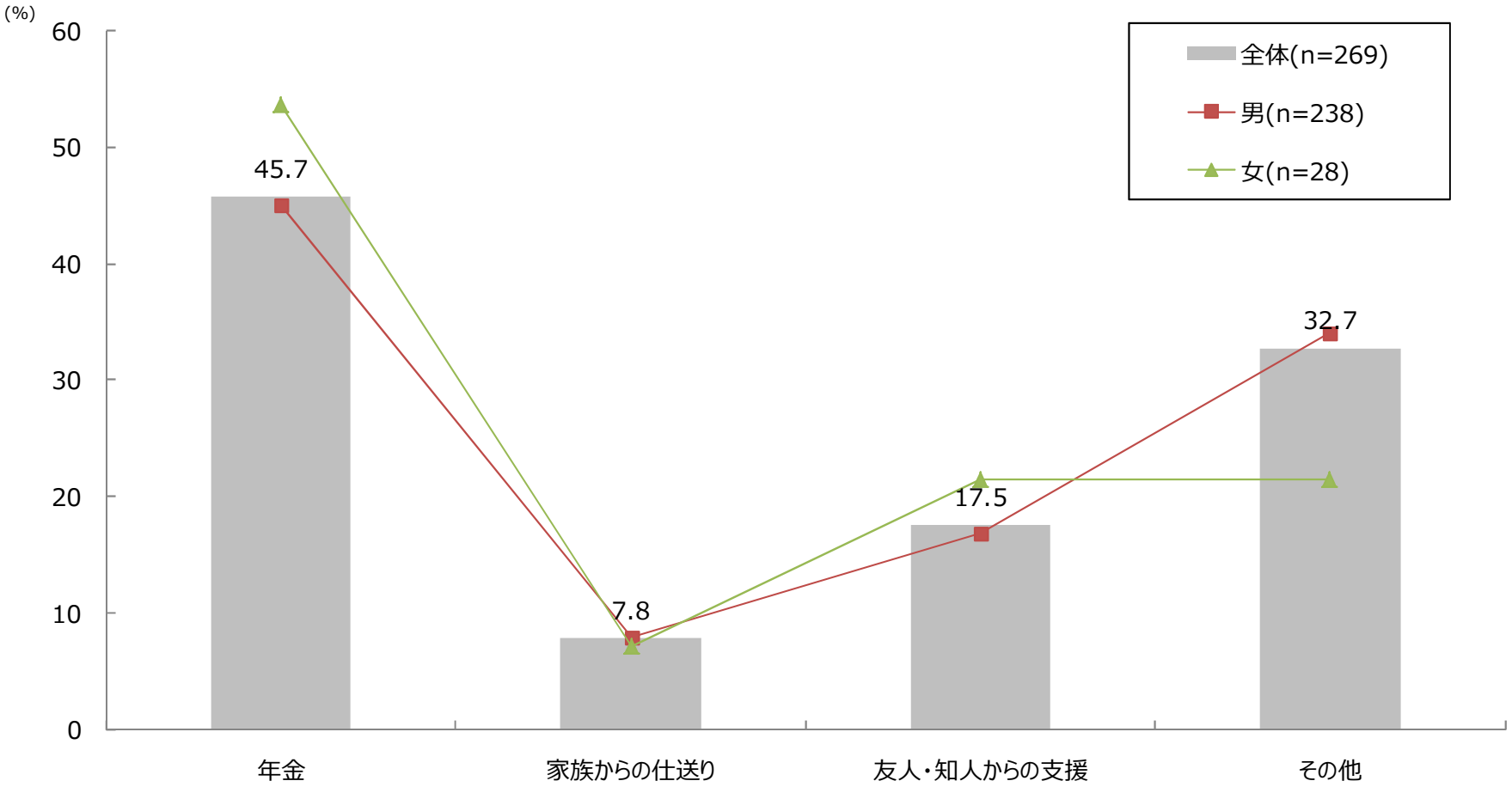
図表8　仕事による平均収入（月額・円）（性別）



問７－１　仕事以外の収入の種類（複数回答）

- 仕事以外の収入の種類については、「年金」の割合が、「男性」では45.0%となっている一方、「女性」では53.6%と高い。
- また、「友人・知人からの支援」の割合についても、「男性」では16.8%となっている一方、「女性」では21.4%と高い。

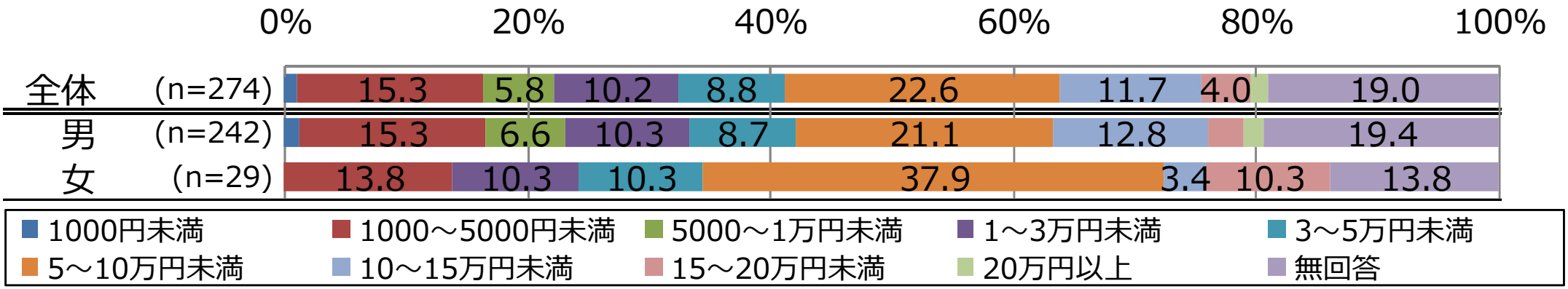
図表9　仕事以外の収入の種類（複数回答）（性別）



問７－２　仕事以外の平均収入（月額・円）

- 仕事以外の平均収入（月額）については、「女性」では「３～５万円未満」（男性：8.7%、女性：10.3%）、「５～１０万円未満」（男性：21.1%、女性：37.9%）、「１５～２０万円未満」（男性：2.9%、女性：10.3%）の割合が高い。

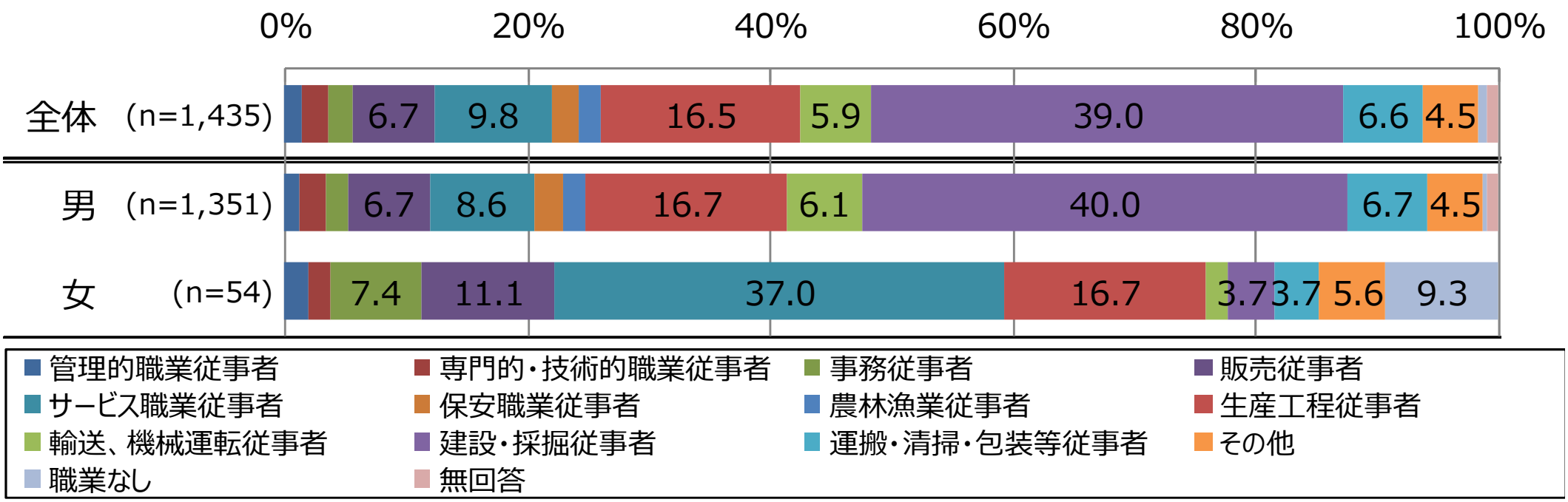
図表10　仕事以外の平均収入（月額・円）（性別）



問１２　これまで一番長くやっていた仕事

- これまで一番長くやっていた仕事については、「男性」では「建設・採掘従事者」（40.0%）の割合が高いのに対し、「女性」では「サービス職業従事者」（37.0%）、「職業なし」（9.3%）の割合が高い。

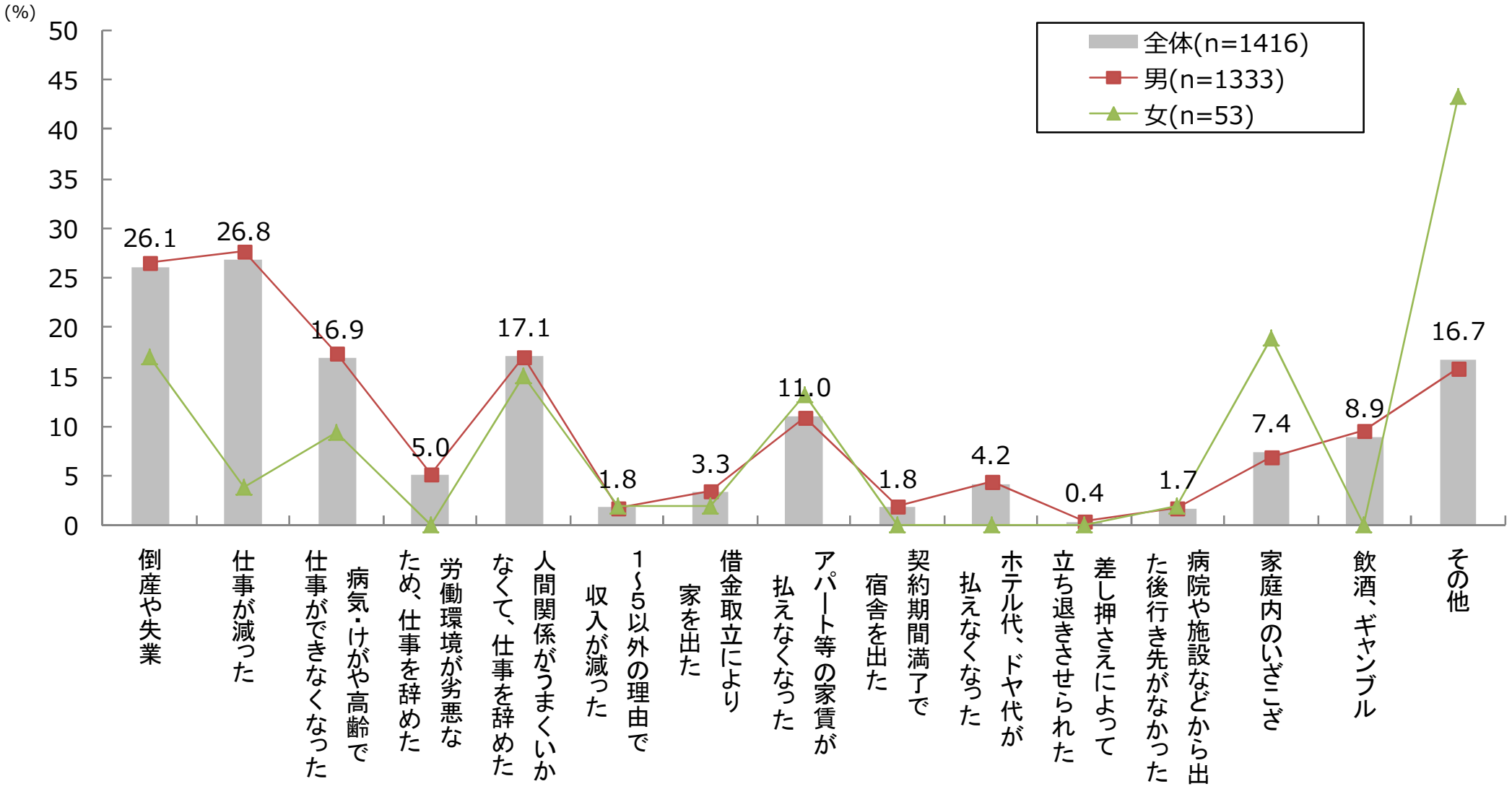
図表11　これまで一番長くやっていた仕事（性別）



問１５　今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由（複数回答）

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、「男性」では「倒産や失業」（26.5%）、「仕事が減った」（27.6%）、「病気・けがや高齢」（17.4%）、「人間関係」（17.0%）の割合が高いのに対し、「女性」では「家庭内のいざこざ」（18.9%）、「アパート等の家賃が支払えなくなった」（13.2%）の割合が高い。

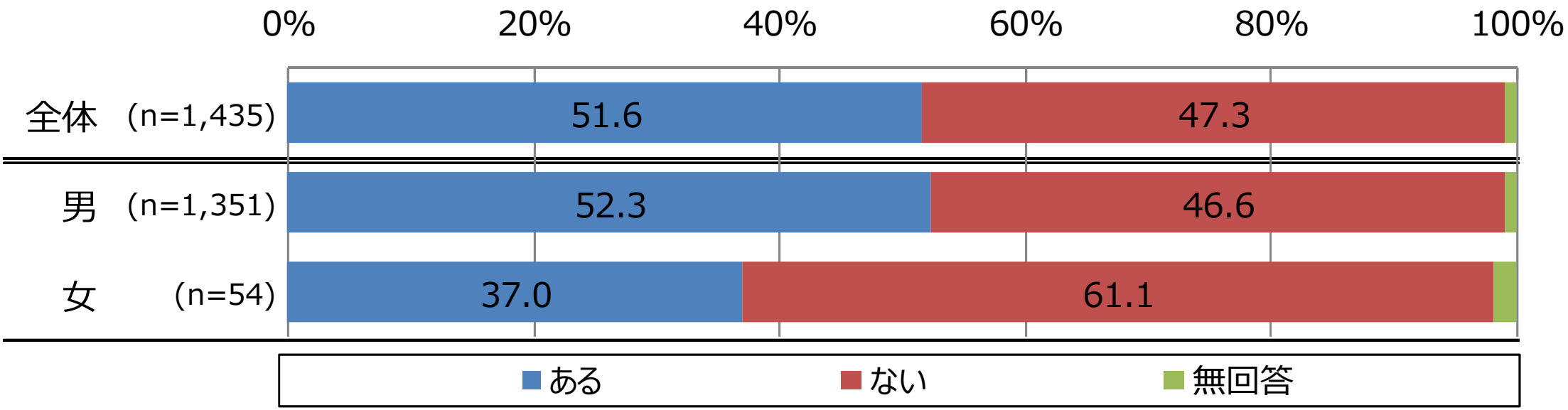
図表12　今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由（複数回答）（性別）



問１６　別の場所での路上（野宿）生活経験

- 別の場所での路上（野宿）生活経験については、「男性」では「ある」の割合が52.3%である一方、「女性」では37.0%と低い。

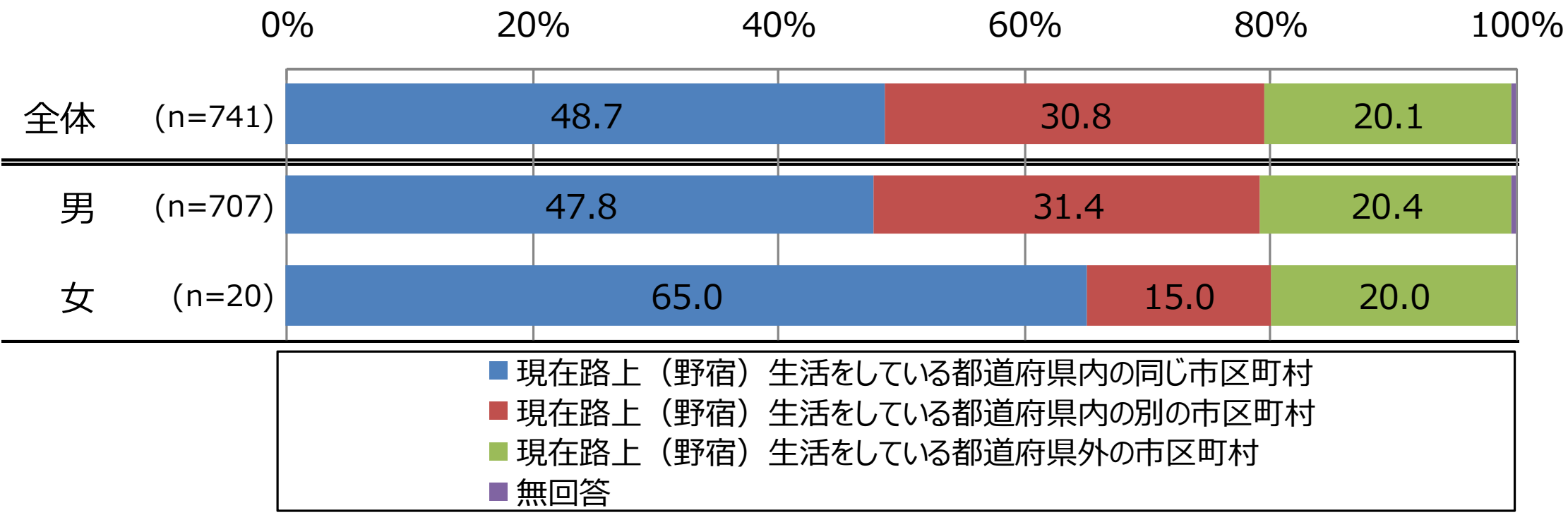
図表13　別の場所での路上（野宿）生活経験（性別）



問１６－１　別の路上（野宿）生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所が「ある」と回答した人の場所については、「女性」では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」（65.0%）の割合が高く、「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」（15.0%）の割合が低い。

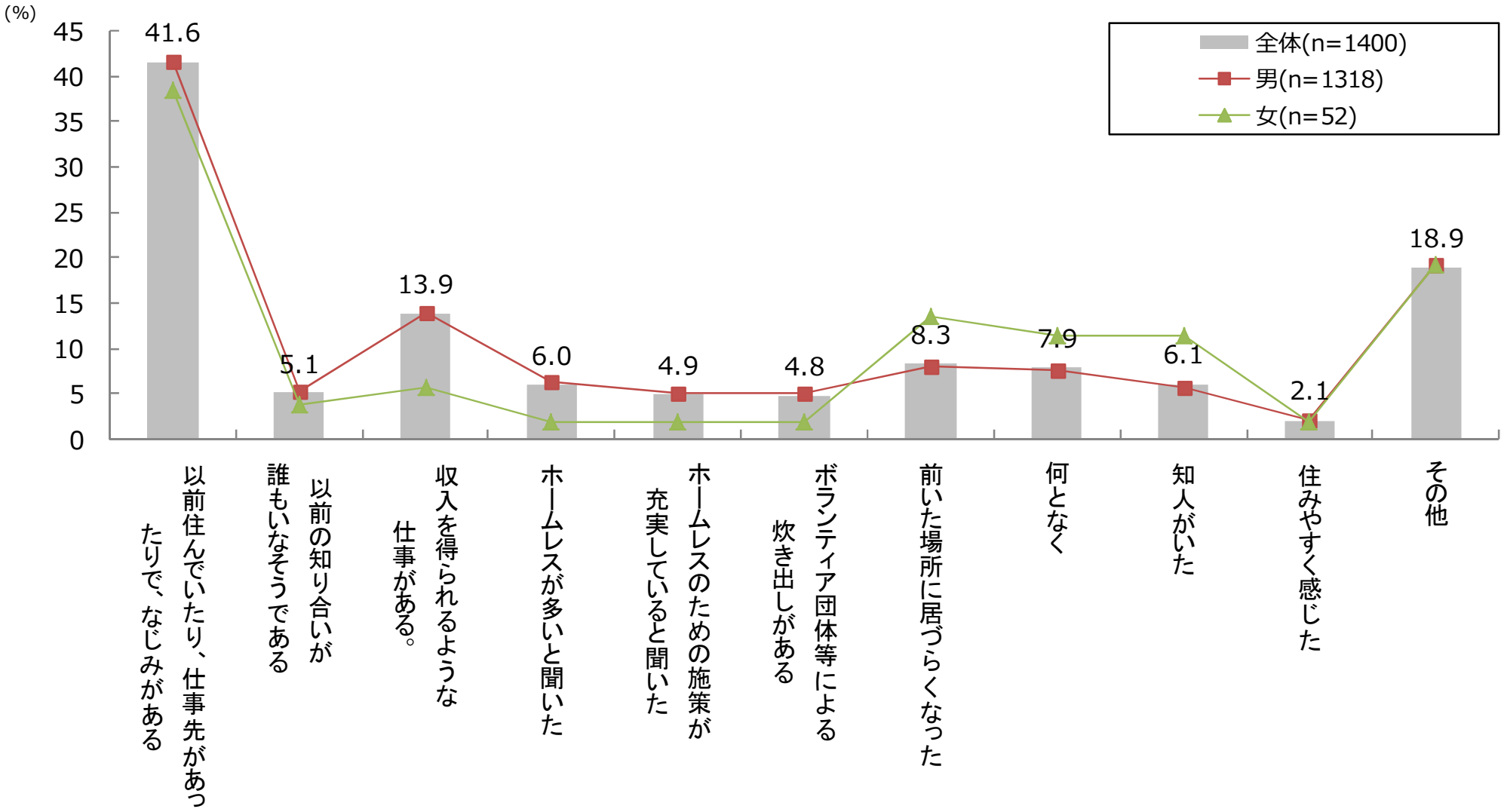
図表14　別の路上（野宿）生活場所（性別）



問１７　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）

- 現在の市区町村に来た主な理由については、男女とも「なじみがある」（男性：41.7%、女性：38.5%）の割合が最も高くなっているが、「女性」では「前いた場所に居づらくなった」（13.5%）、「知人がいた」（11.5%）、「何となく」（11.5%）の割合が高く、「男性」では「収入を得られるような仕事がある」（14.0%）の割合が高い。

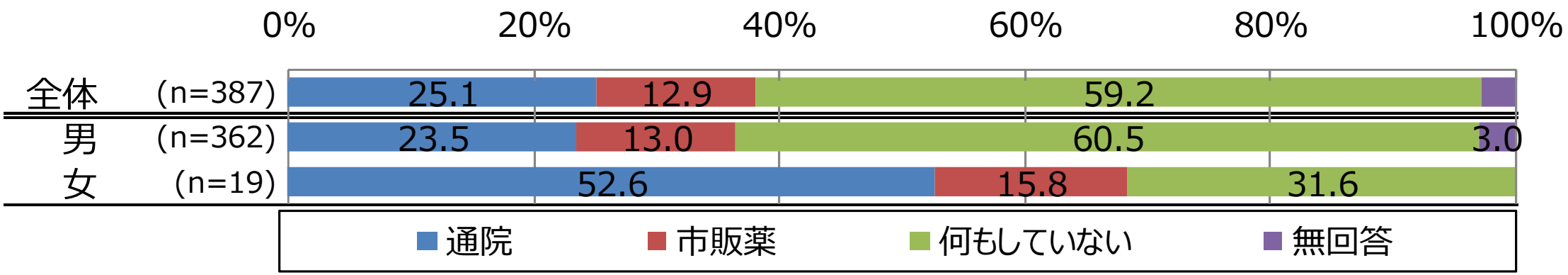
図表15　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）（性別）



問１９－１　対処方法

- 健康状態が「悪い」と回答した人の対処方法については、「通院」の割合が「男性」では23.5%であるのに対し、「女性」では52.6%と高い。
- また、「何もしていない」の割合は「男性」では60.5%であるのに対し、「女性」では31.6%と低い。

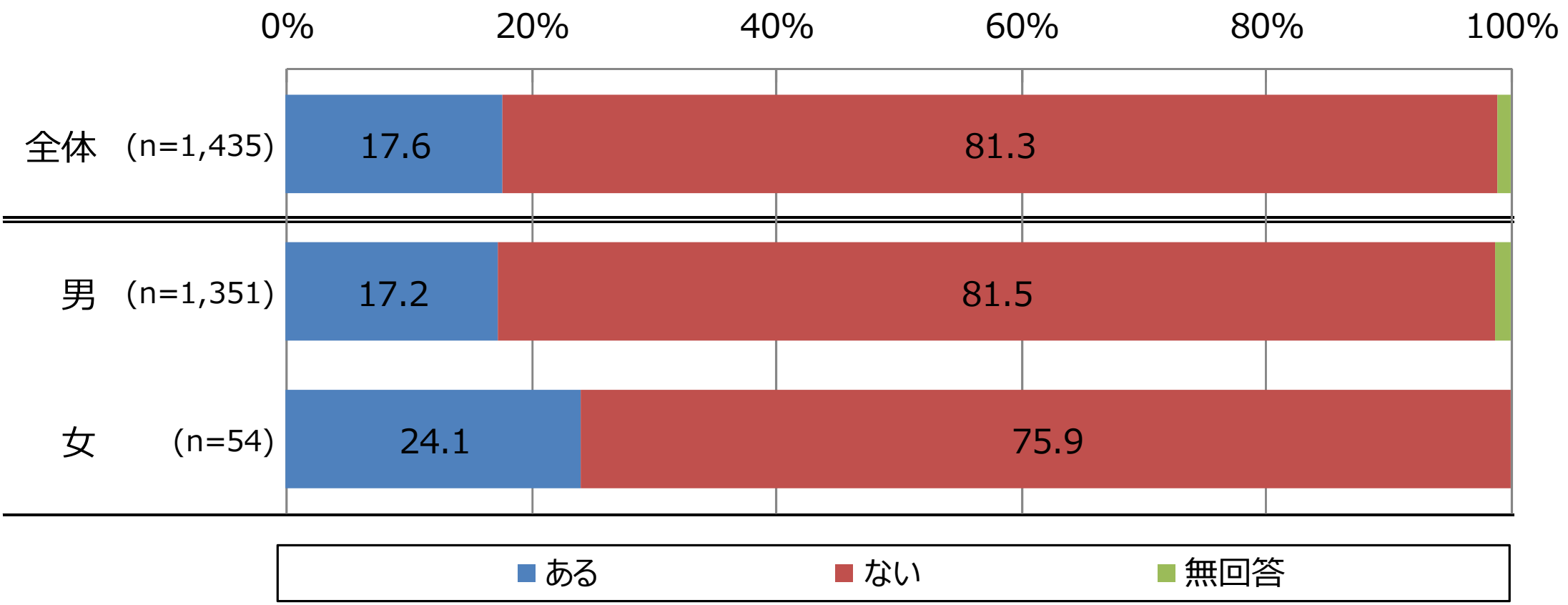
図表16　対処方法（性別）



問２３　路上（野宿）生活をしてからの入院

- 路上（野宿）生活をしてからの入院経験については、「ある」の割合が「男性」では17.2%であるのに対し、「女性」では24.1%と高い。

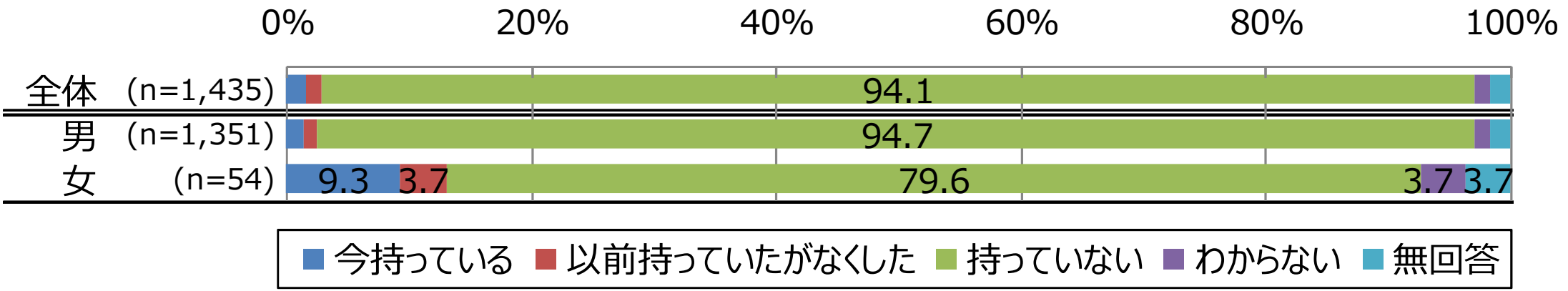
図表17　路上（野宿）生活をしてからの入院（性別）



問２４　障害者の手帳の所持

- 障害者手帳の所持状況については、「今持っている」の割合が「男性」では1.3%であるのに対し、「女性」は9.3%と高い。

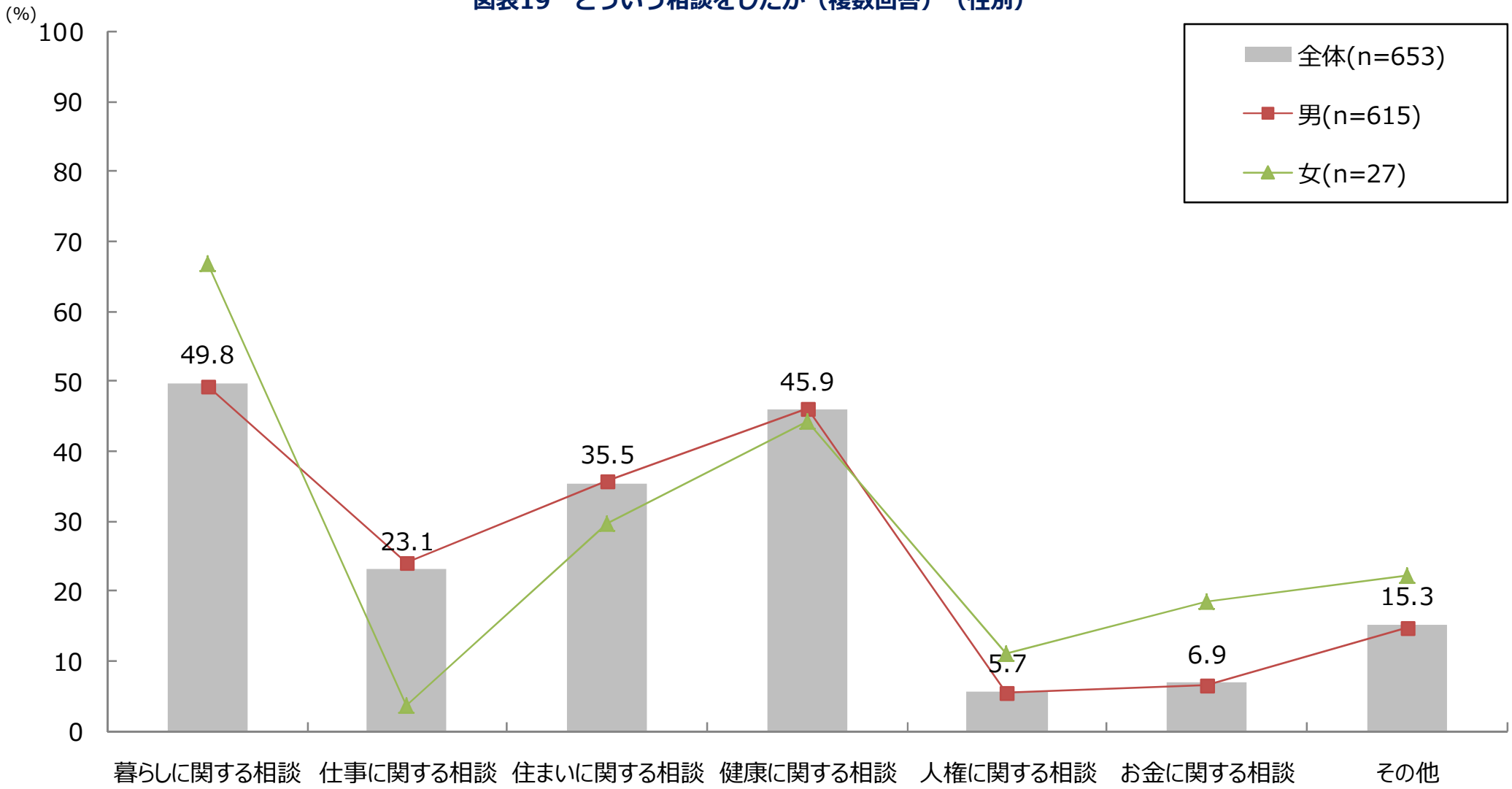
図表18　障害者の手帳の所持（性別）



問２５－３　どういう相談をしたか（複数回答）

- 巡回相談員にどういう相談をしたかについては、「仕事に関する相談」（男性：24.1%、女性：3.7%）の割合は「男性」が高く、「暮らしに関する相談」（男性：49.4%、女性：66.7%）及び「お金に関する相談」（男性：6.5%、女性：18.5%）の割合は「女性」が高い。

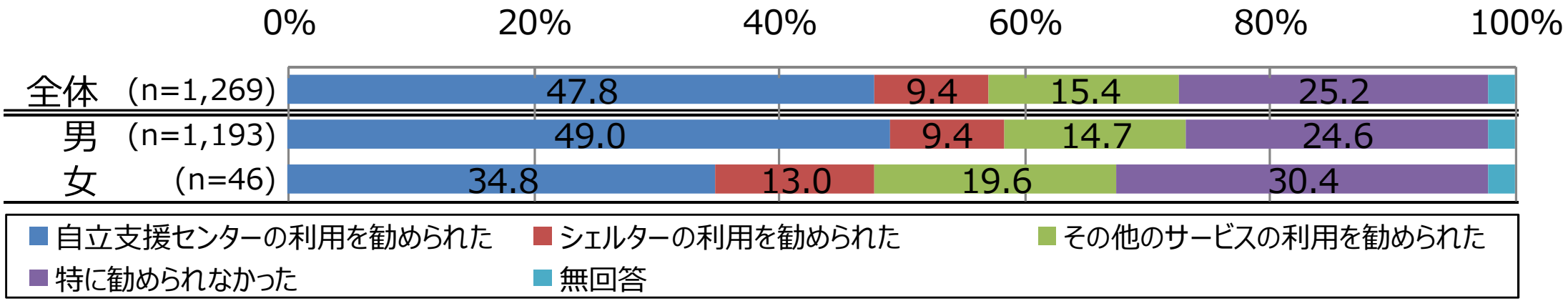
図表19　どういう相談をしたか（複数回答）（性別）



問２５－４　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「男性」では「自立支援センターの利用を勧められた」（男性：49.0%、女性：34.8%）の割合が高く、「女性」では「その他のサービスを勧められた」（男性：14.7%、女性：19.6%）及び「特に勧められなかった」（男性：24.6%、女性：30.4%）の割合が高い。

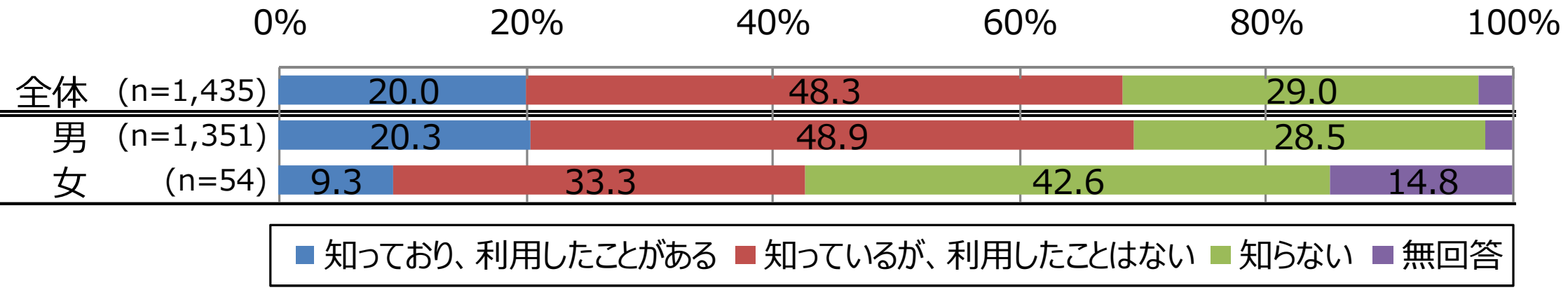
図表20　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（性別）



問２６　シェルターの内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「知っている」の割合が全体で68.3%であるのに対し、「女性」では42.6%と低く、「知っており、利用したことがある」の割合が全体で20.0%であるのに対し、「女性」では9.3%と低い。

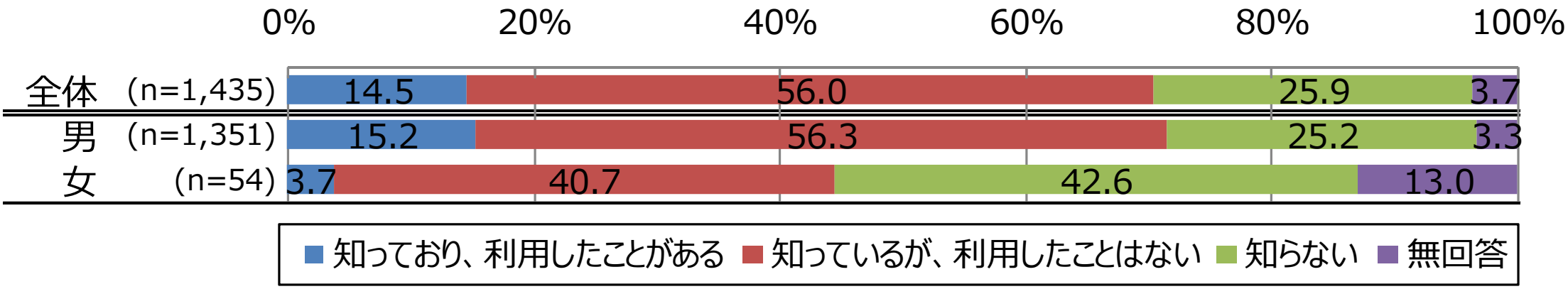
図表21　シェルターの内容の認知度・利用度（性別）



問２７　自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「知っている」の割合が全体で70.5%であるのに対し、「女性」では44.4%と低く、「知っており、利用したことがある」の割合が全体で14.5%であるのに対し、「女性」では3.7%と低い。

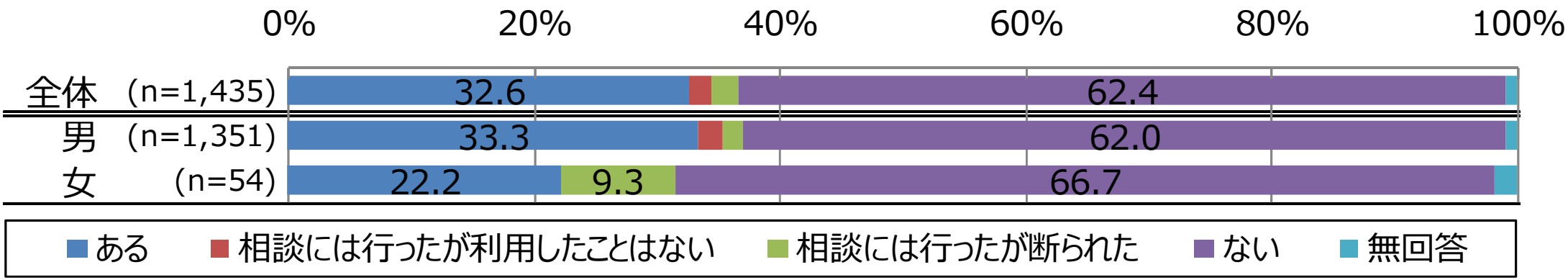
図表22　自立支援センターの内容の認知度、利用度（性別）



問２９　生活保護制度の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「ある」の割合が「男性」では33.3%であるのに対し、「女性」では22.2%と低く、「相談には行ったが断られた」の割合が「男性」では1.7%であるのに対し、「女性」では9.3%と高い。

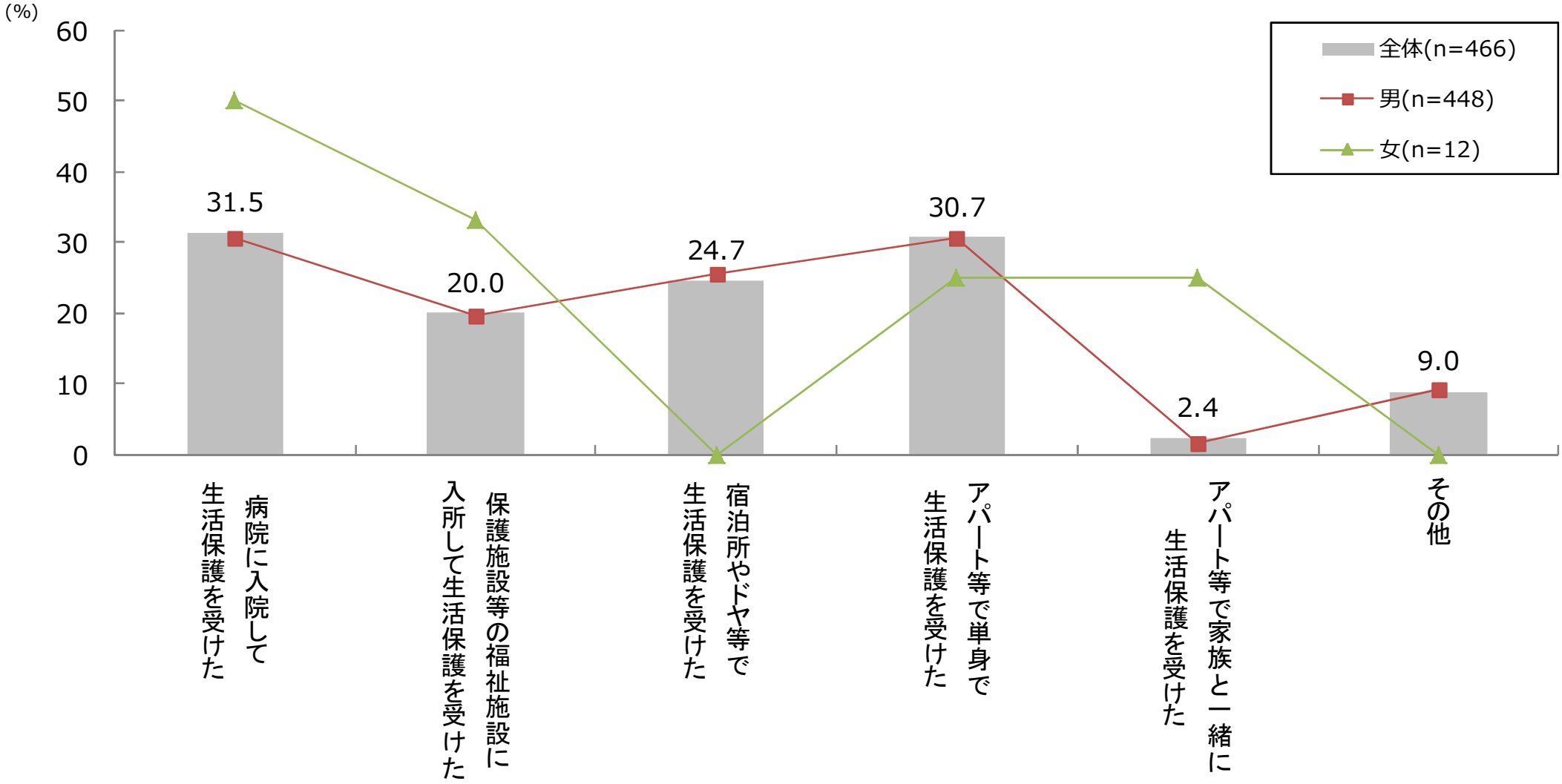
図表23　生活保護制度の利用経験（性別）



問２９－１　生活保護制度の利用方法（複数回答）

- 生活保護制度の利用方法については、「男性」では「宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた」（男性：25.7%、女性：0%）の割合が高く、「女性」では「病院に入院して生活保護を受けた」（男性：30.6%、女性：50.0%）、「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」（男性：19.6%、女性：33.3%）、「アパート等で家族と一緒に生活保護を受けた」（男性：1.6%、女性：25.0%）の割合が高い。

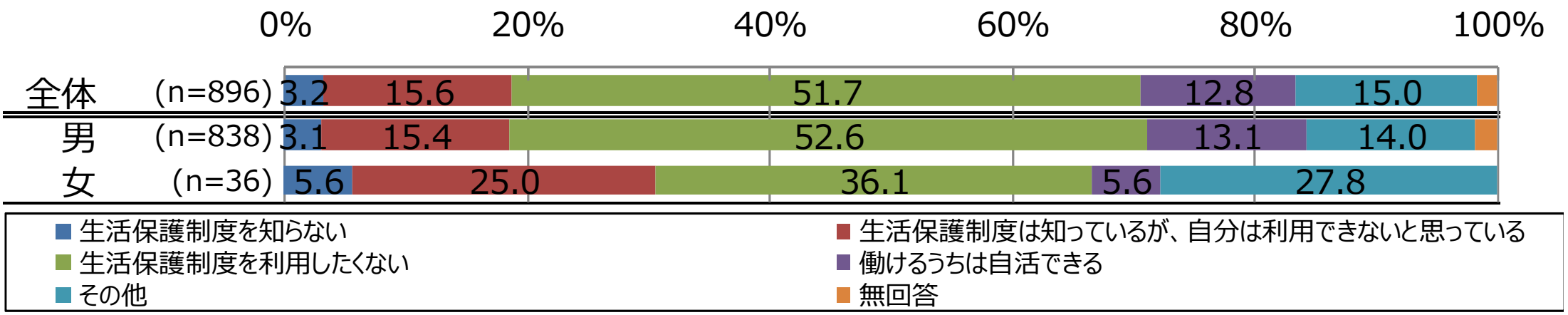
図表24　生活保護制度の利用方法（複数回答）（性別）



問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護を利用しなかった理由については、「男性」では「生活保護制度を利用したくない」（男性：52.6%、女性：36.1%）、「働けるうちは自活できる」（男性：13.1%、女性：5.6%）の割合が高く、「女性」では「制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（男性：15.4%、女性：25.0%）及び「制度を知らない」（男性：3.1%、女性：5.6%）の割合が高い。

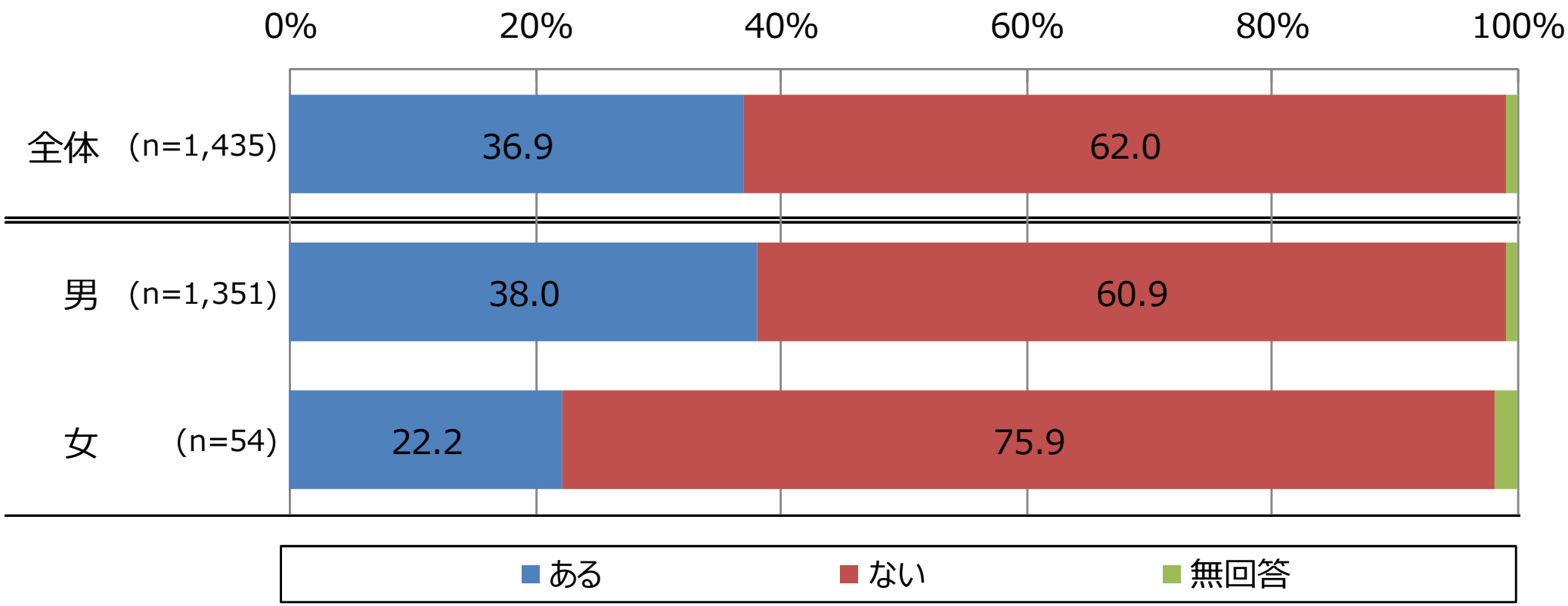
図表25　生活保護制度を利用しなかった理由（性別）



問３０　その他の公的支援の利用

- その他の公的支援の利用経験については、「ある」の割合が「男性」では38.0%であるのに対し、「女性」では22.2%と低い。

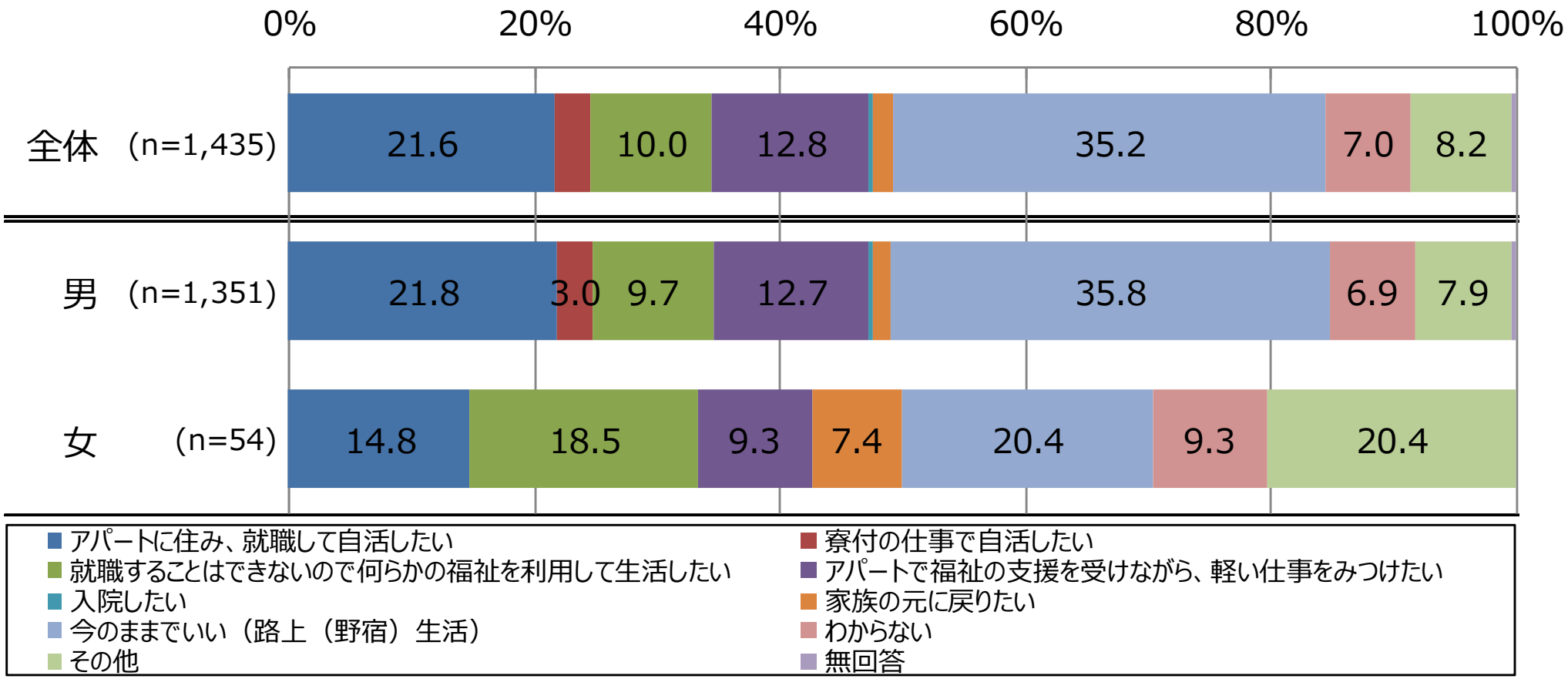
図表26　その他の公的支援の利用（性別）



問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「男性」では「アパートに住み、就職して自活したい」（男性：21.8%、女性：14.8%）、「今のままでいい」（男性：35.8%、女性：20.4%）の割合が高く、「女性」では「就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい」（男性：9.7%、女性：18.5%）、「家族の元に戻りたい」（男性：1.4%、女性：7.4%）の割合が高い。

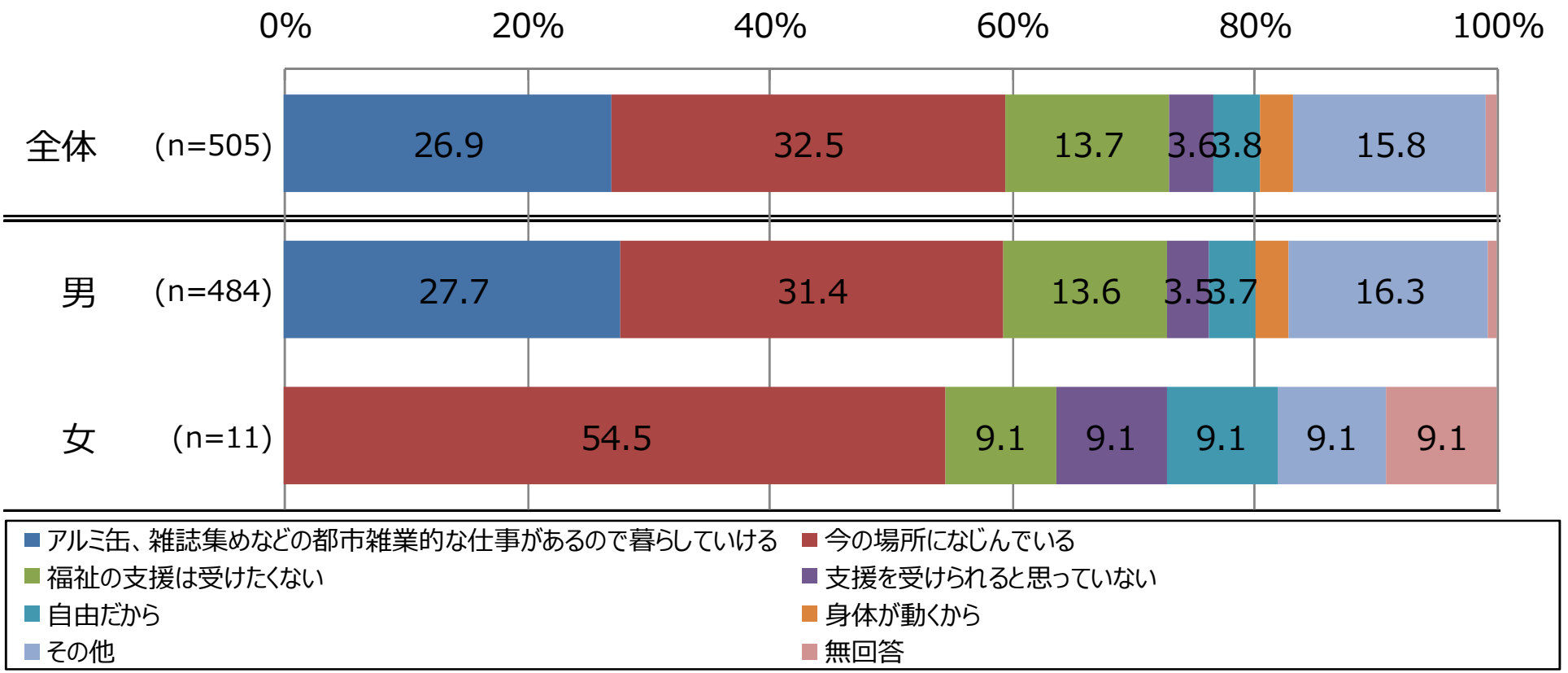
図表27　今後望んでいる生活（性別）



問３３－１　今の生活のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「男性」では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」（男性：27.7%、女性：0%）の割合が高く、「女性」では「今の場所になじんでいる」（男性：31.4%、女性：54.5%）、「支援を受けられると思っていない」（男性：3.5%、女性：9.1%）の割合が高い。

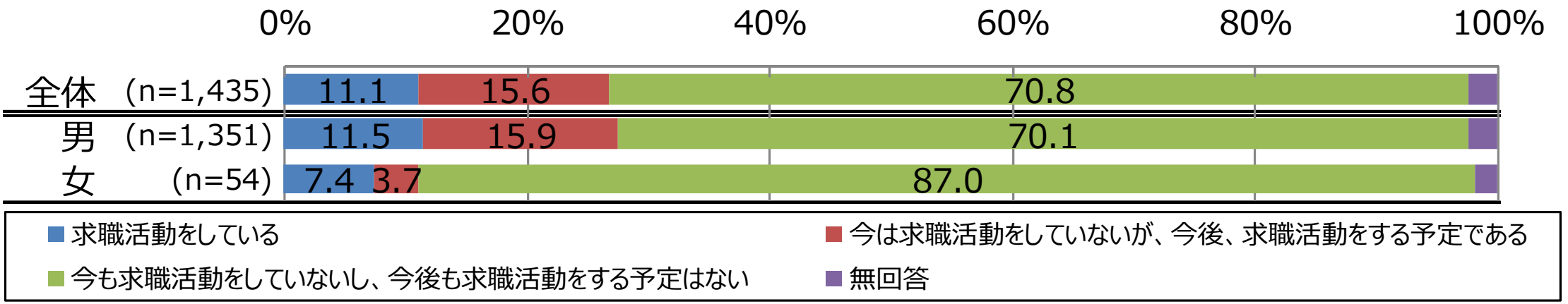
図表28　今の生活のままでいい理由（性別）



問３４　就職するための求職活動

- 就職するための求職活動の状況については、「男性」では「求職活動をしている」（11.5%）、「今はしていないが、今後する予定である」（15.9%）の割合が高く、「女性」では「今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はない」（87.0%）の割合が高い。

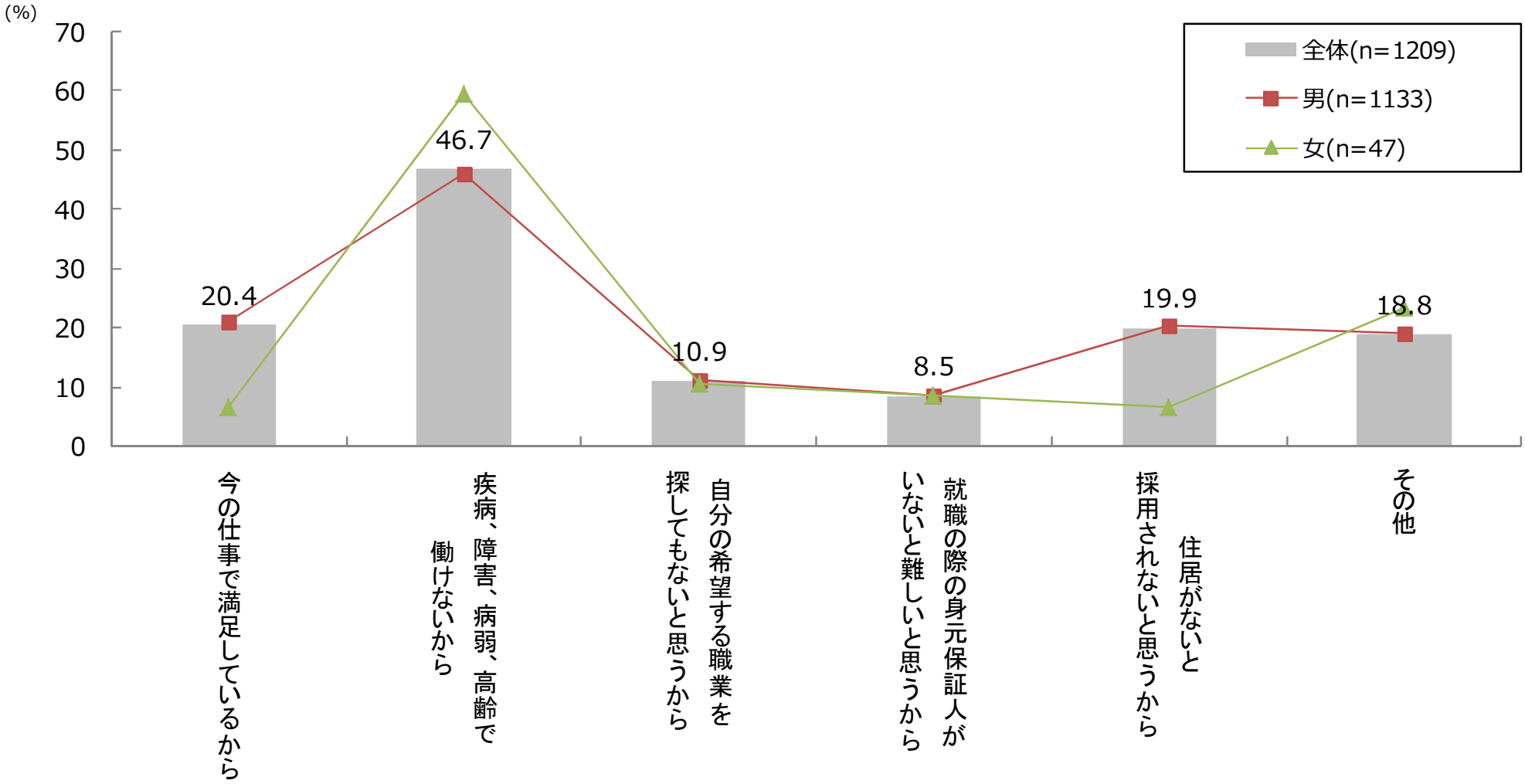
図表29　就職するための求職活動（性別）



問３４－２　求職活動をしていない理由（複数回答）

- 求職活動をしていない理由については、「男性」では「今の仕事で満足しているから」（男性：20.9%、女性：6.4%）、「住居がないと採用されないと思うから」（男性：20.5%、女性：6.4%）の割合が高く、「女性」では「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」（男性：45.9%、女性：59.6%）の割合が高い。

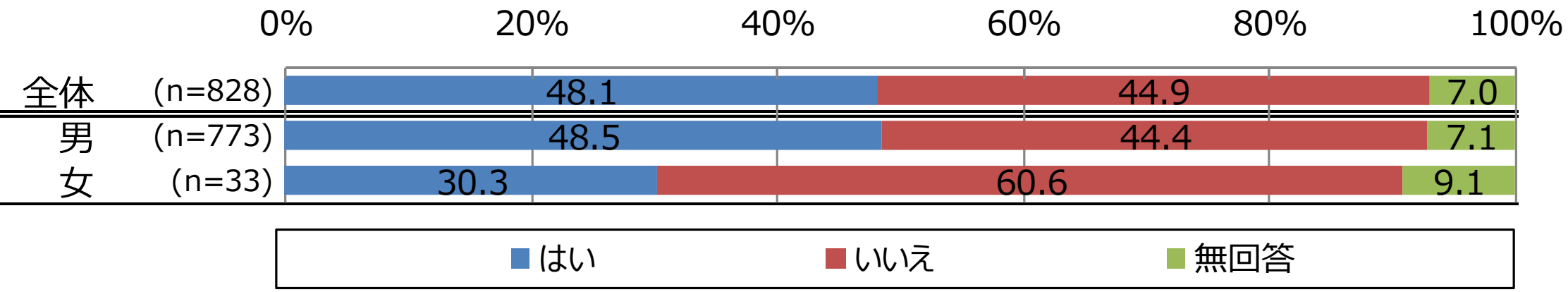
図表30　求職活動をしていない理由（複数回答）（性別）



問３４－３　軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向の有無については、「はい」の割合が「男性」では48.5%であるのに対し、「女性」では30.3%と低い。

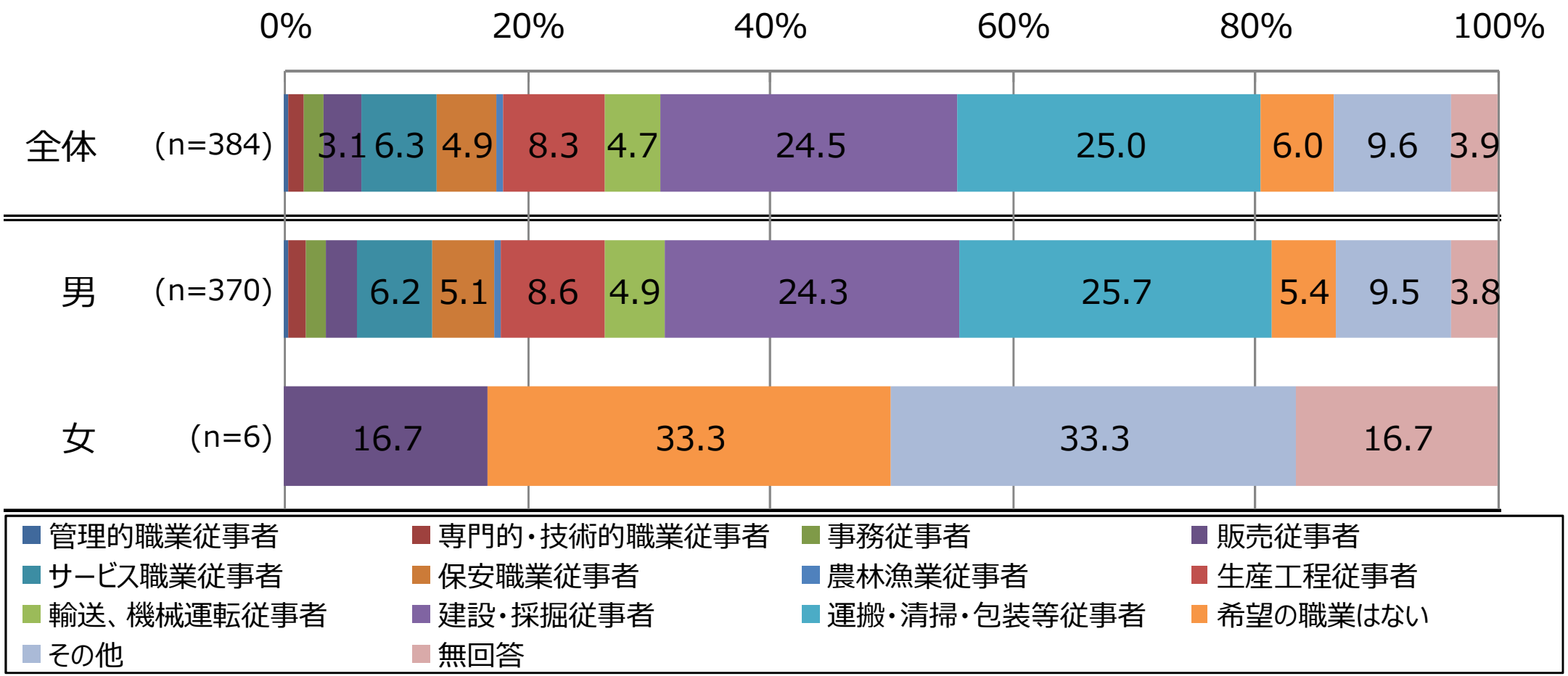
図表31　軽作業への参加意向（性別）



問３４－４　希望の職業

- 希望の職業については、「男性」では「建設・採掘従事者」（男性：24.3%、女性：0%）、「運搬・清掃・包装等従事者」（男性：25.7%、女性：0%）の割合が高く、「女性」では「販売従事者」（男性：2.7%、女性：16.7%）、「希望の職業はない」（男性：5.4%、女性：33.3%）の割合が高い。

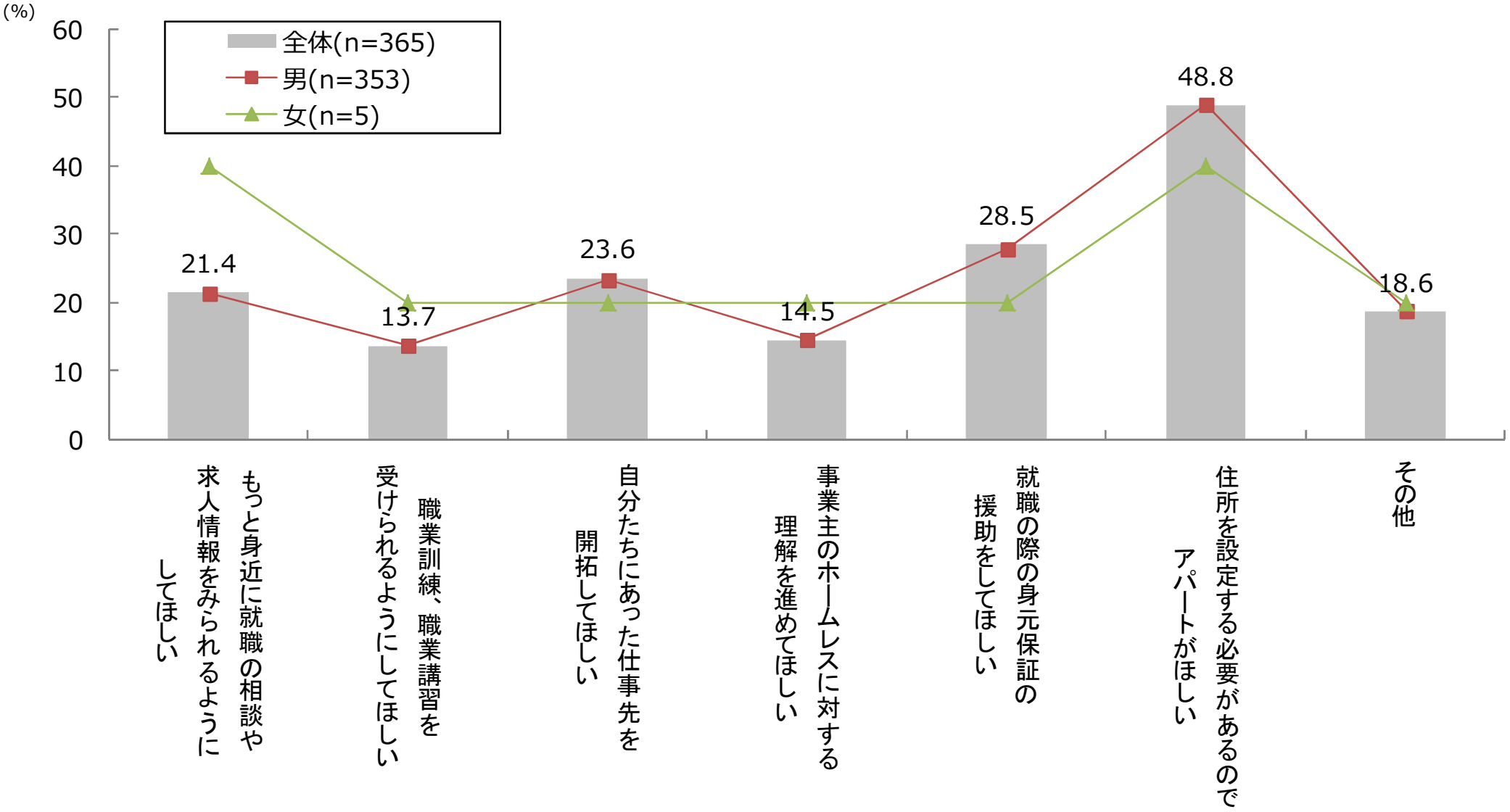
図表32　希望の職業（性別）



問３４－５　就職するために望む支援（複数回答）

- 就職するために望む支援については、「男性」では「アパートがほしい」（男性：49.0%、女性：40.0%）、「身元保証の援助をしてほしい」（男性：28.0%、女性：20.0%）の割合が高く、「女性」では「もっと身近に就職の相談や求人情報をみられるようにしてほしい」（男性：21.5%、女性：40.0%）、「職業訓練、職業講習を受けられるようにしてほしい」（男性：13.9%、女性：20.0%）の割合が高い。

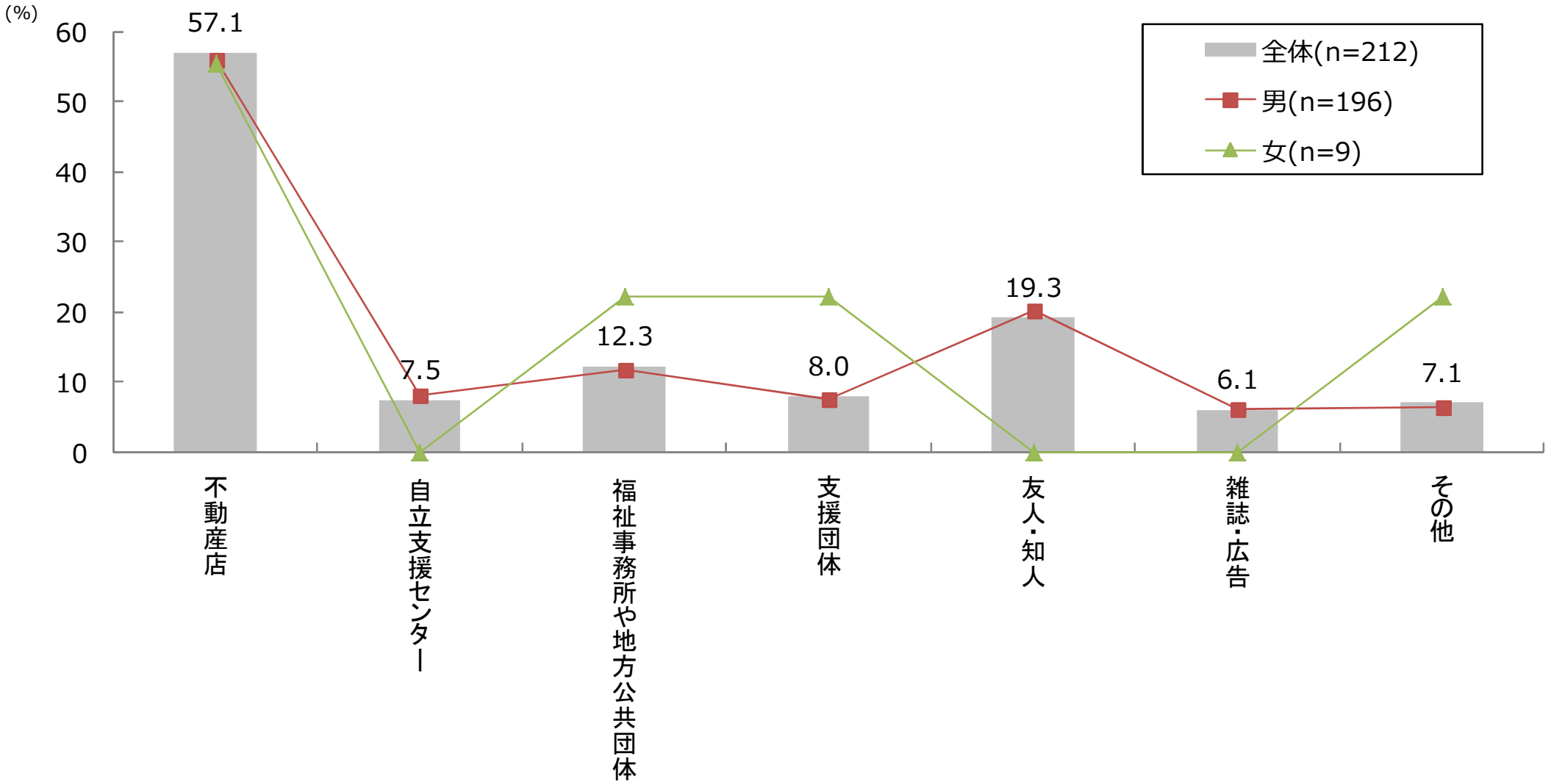
図表33　就職するために望む支援（複数回答）（性別）



問３６－１　住宅を探した場所（複数回答）

- 住宅を探した場所については、男女ともに「不動産店」（男性：56.1%、女性：55.6%）の割合が高いが、「男性」では「自立支援センター」（男性：8.2%、女性：0%）、「友人・知人」（男性：20.4%、女性：0%）の割合が高く、「女性」では「福祉事務所や地方公共団体」（男性：11.7%、女性：22.2%）、「支援団体」（男性：7.7%、女性：22.2%）の割合が高い。

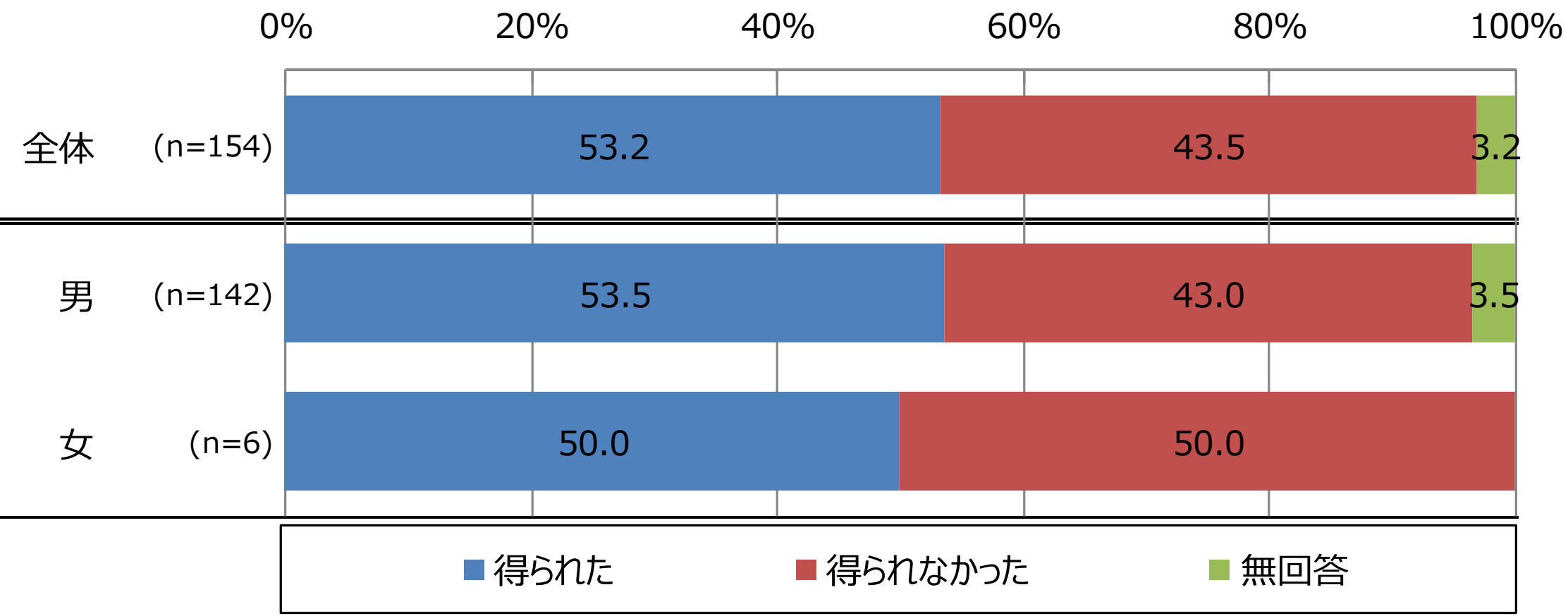
図表34　住宅を探した場所（複数回答）（性別）



問３６－２　安い家賃の情報

- 安い家賃の情報については、性別による差異は見られない。

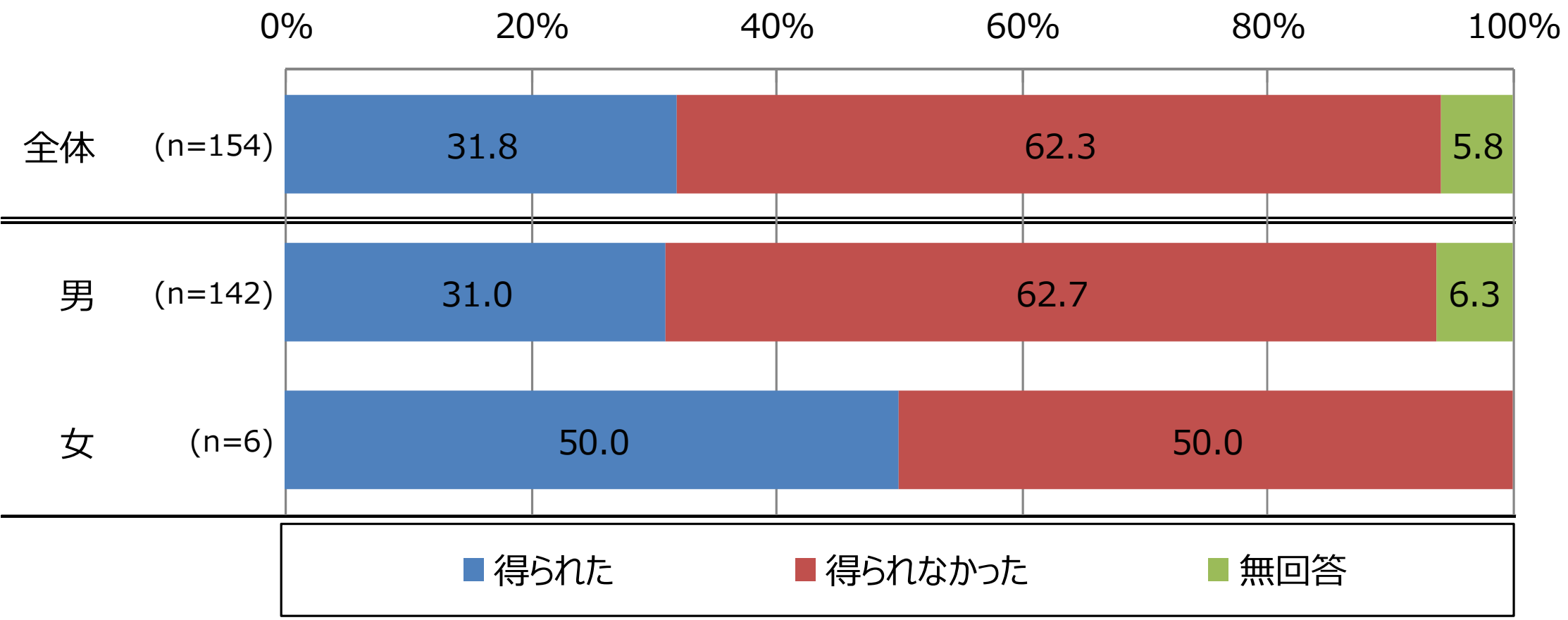
図表35　安い家賃の情報（性別）



問３６－３　民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報については、「得られた」の割合が「男性」では31.0%であったが、「女性」では50.0%と高い。

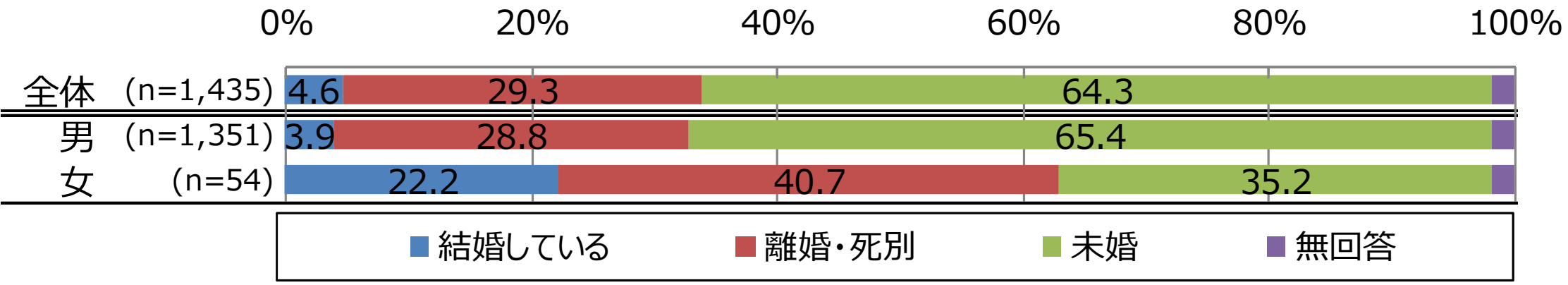
図表36　民間保証会社の情報（性別）



問３８　結婚

- 結婚については、「女性」では「結婚している」（男性：3.9%、女性：22.2%）、「離婚・死別」（男性：28.8%、女性：40.7%）の割合が高い。

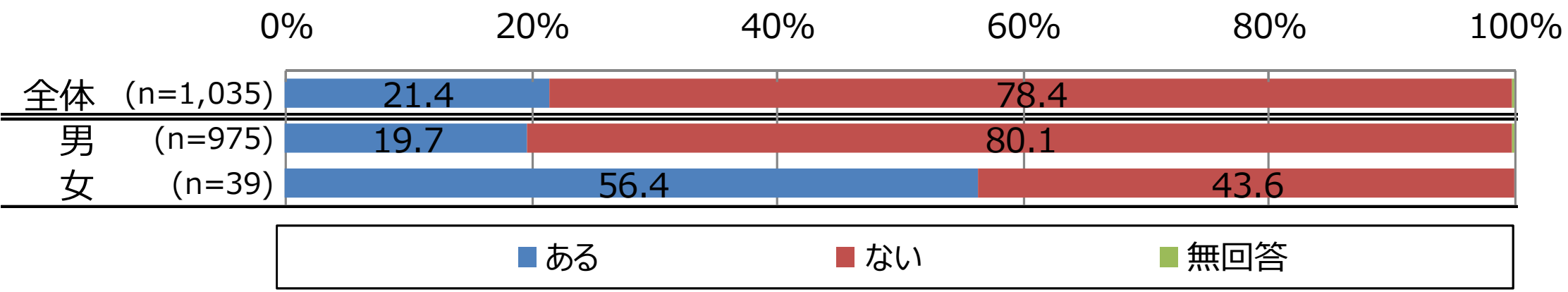
図表●37　結婚（性別）



問３９－１　家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡状況については、「ある」の割合が「男性」では19.7%であるのに対し、「女性」では56.4%と高い。

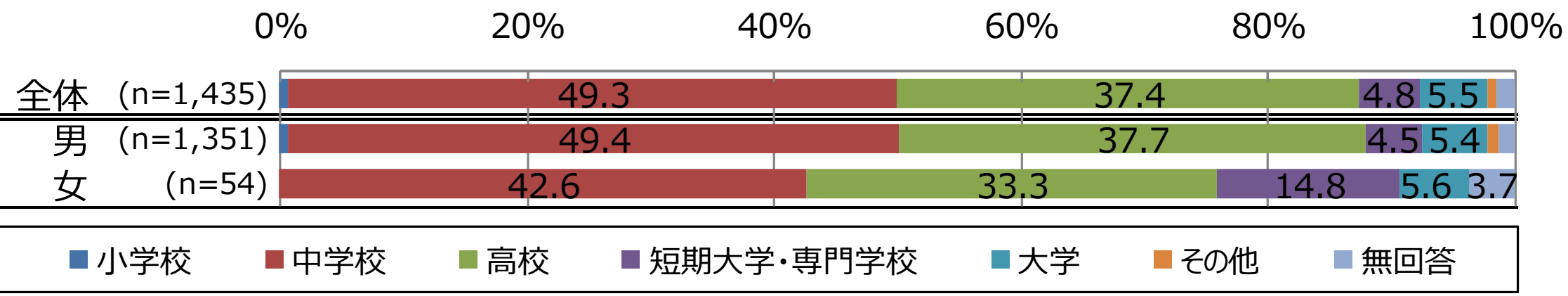
図表38　家族・親族との連絡（性別）



問４２　最後に出た学校

- 最後に出た学校については、男女ともに「中学校」及び「高校」の割合が高いが、「女性」では「短期大学・専門学校」（男性：4.5%、女性：14.8%）の割合が高い。

図表39　最後に出た学校（性別）



（２）年齢階層別

<年齢階層別の傾向について>

（１）路上での生活

○　寝場所は、年齢階層が上がるほど一定の場所で決まっている割合が高くなる傾向にあり、具体的な寝場所としては、５０代以下の者で公園が多く、６０代以上の者で河川が多い傾向にある。
　また、寝場所をつくる方法としては、年齢階層が上がるほどテント又は小屋を常設する者の割合が高く年齢階層が下がるほど簡易な敷物や寝場所をつくらない者の割合が高い傾向にある。

○　仕事は、４０代後半から６０代までの者で仕事により収入を得ている割合が高く、３０代以下や７０代以上の者では仕事による収入がない割合が高い。一方で、３０代以下や７０代以上の者では、仕事以外による収入がある割合が高く、７０代以上の者においては年金収入による割合が高い。

（２）路上生活までのいきさつ

○　路上生活に至った理由は、仕事関係によるものが全般にわたって多いが、３０代以下の者では人間関係や家庭内のいざこざによるものが多い傾向にある。

（３）福祉制度の周知・利用状況

○　シェルター、自立支援センターの周知度・利用度は、シェルターにおいては、３０代から６０代前半までの者で周知度・利用度ともに高く、自立支援センターにおいては、年齢階層が下がるほど周知度・利用度ともに高い傾向にある。

○　シェルター、自立支援センターの利用意向は、シェルターにおいては、３０代以下の者では利用意向が低く、自立支援センターにおいては、年齢階層が下がるほど利用意向が高い傾向にある。

（４）今後の生活

○　今後望んでいる生活は、年齢階層が下がるほどアパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高い傾向にあり、年齢階層が上がるほど福祉を利用しながらの生活を希望する又は現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い傾向にある。

性別

- 性別については、「３０～３４歳以下」及び「６５歳以上」の者では「女性」の割合が高い。

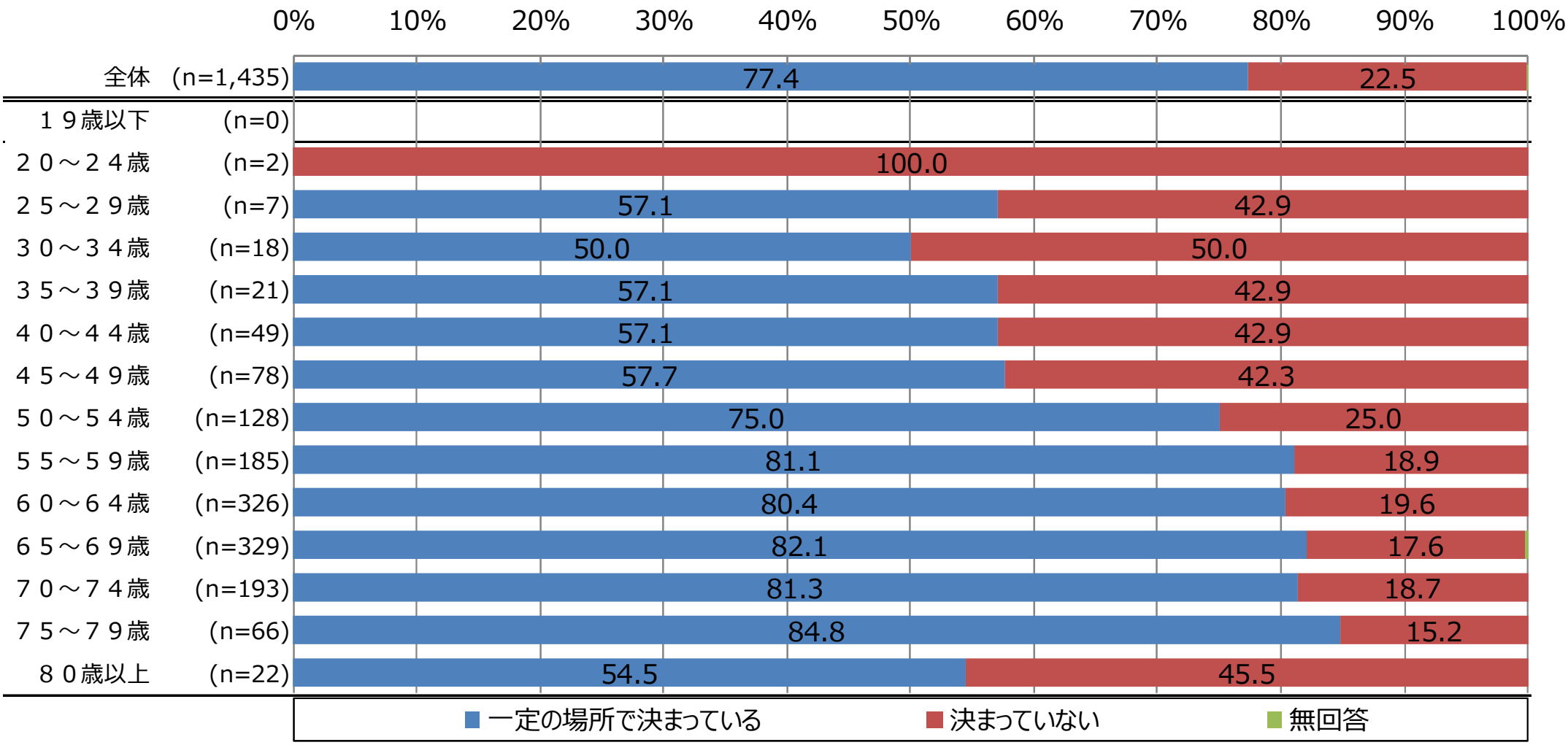
図表40　性別（年齢階層別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「４９歳以下」及び「８０歳以上」の者では「決まっていない」の割合が高く、「５０～７９歳以下」の者では「一定の場所で決まっている」の割合が高い傾向にある。

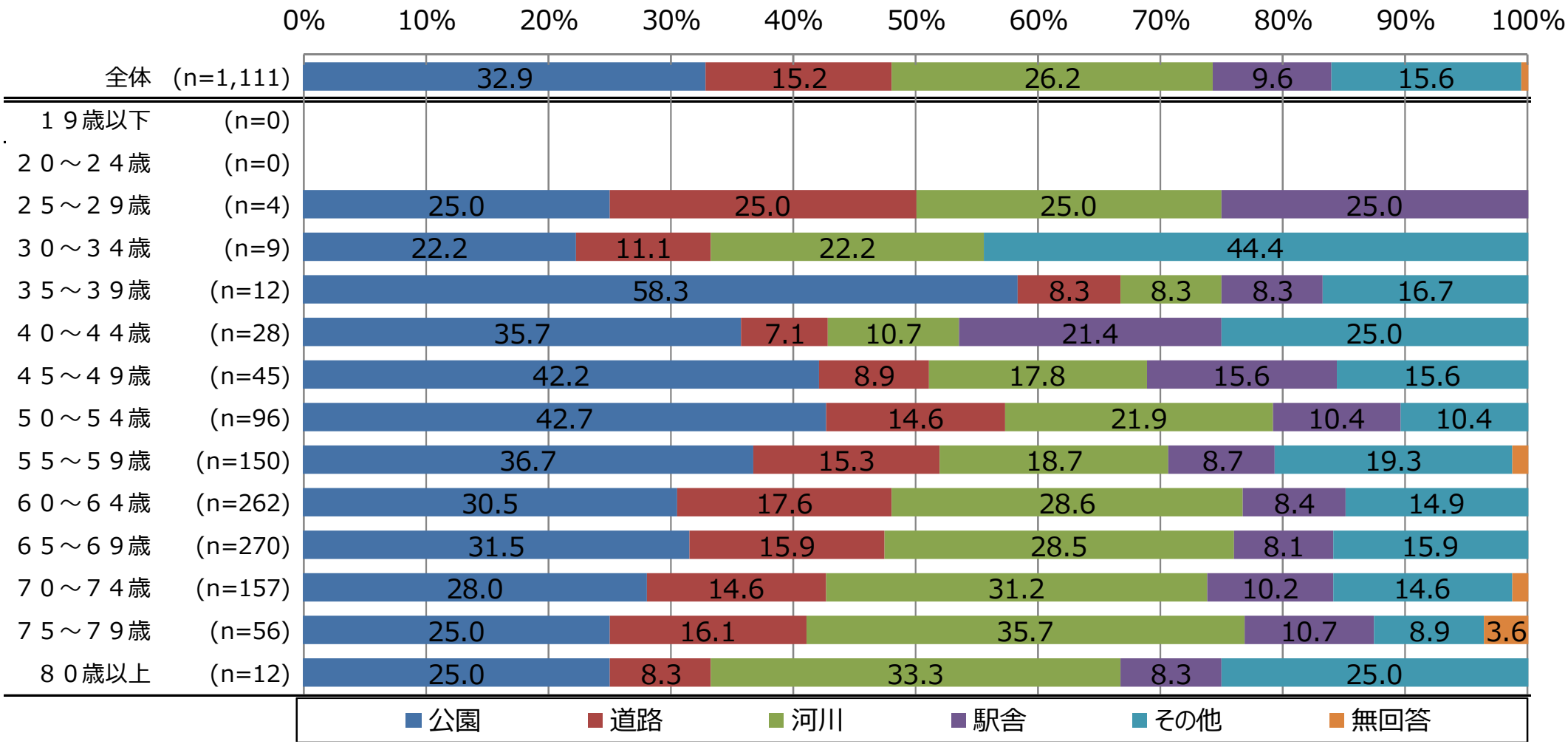
図表41　寝ている場所（年齢階層別）



問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所については、「３５～５９歳以下」の者では「公園」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「河川」の割合が高い傾向にある。

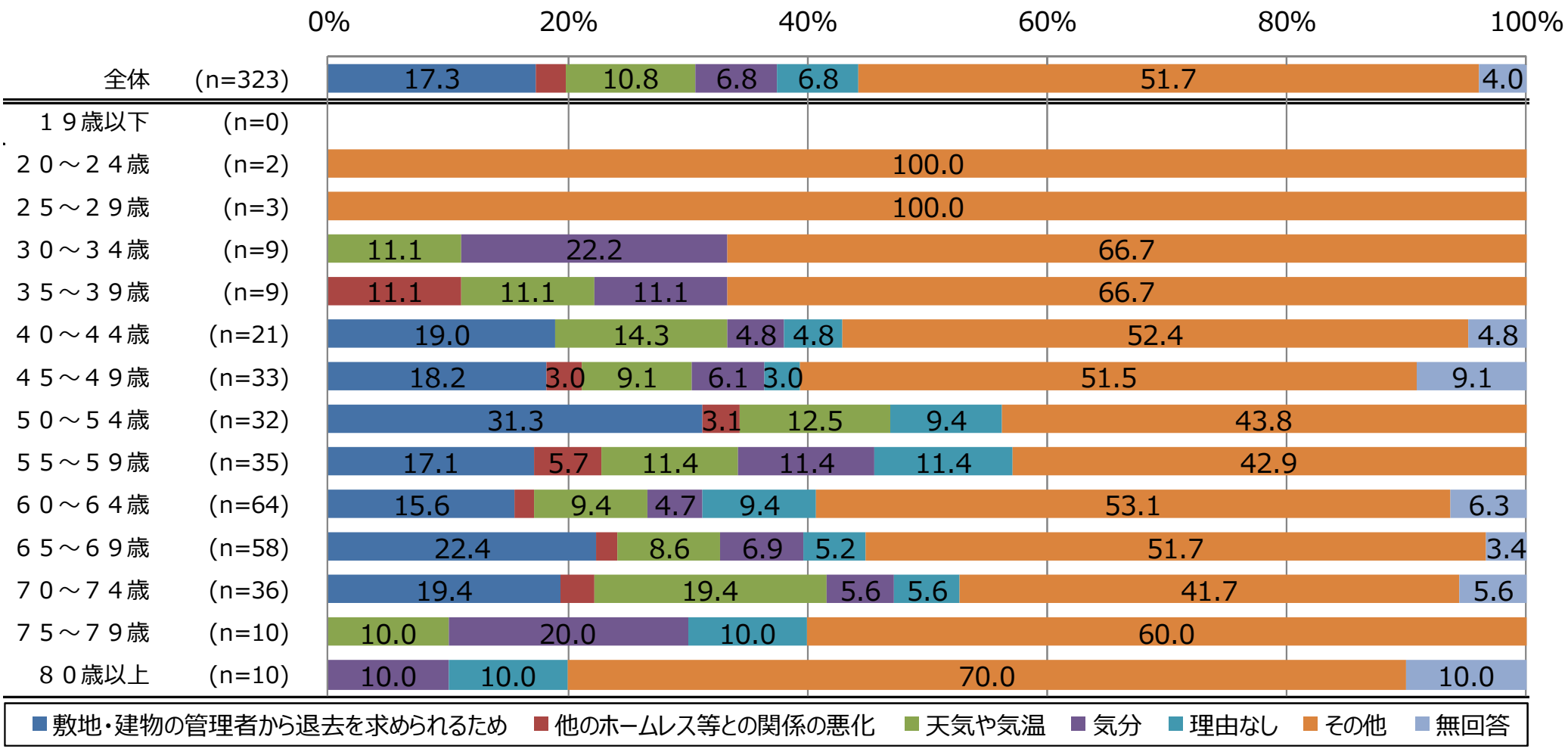
図表42　寝ている場所（具体的に）（年齢階層別）



問１－２　寝ている場所を変更する理由

- 寝ている場所を変更する理由については、「５０～５４歳以下」の者では「敷地・建物の管理者から退去を求められるため」（全体：17.3%、５０～５４歳以下：31.3%）の割合が高い。

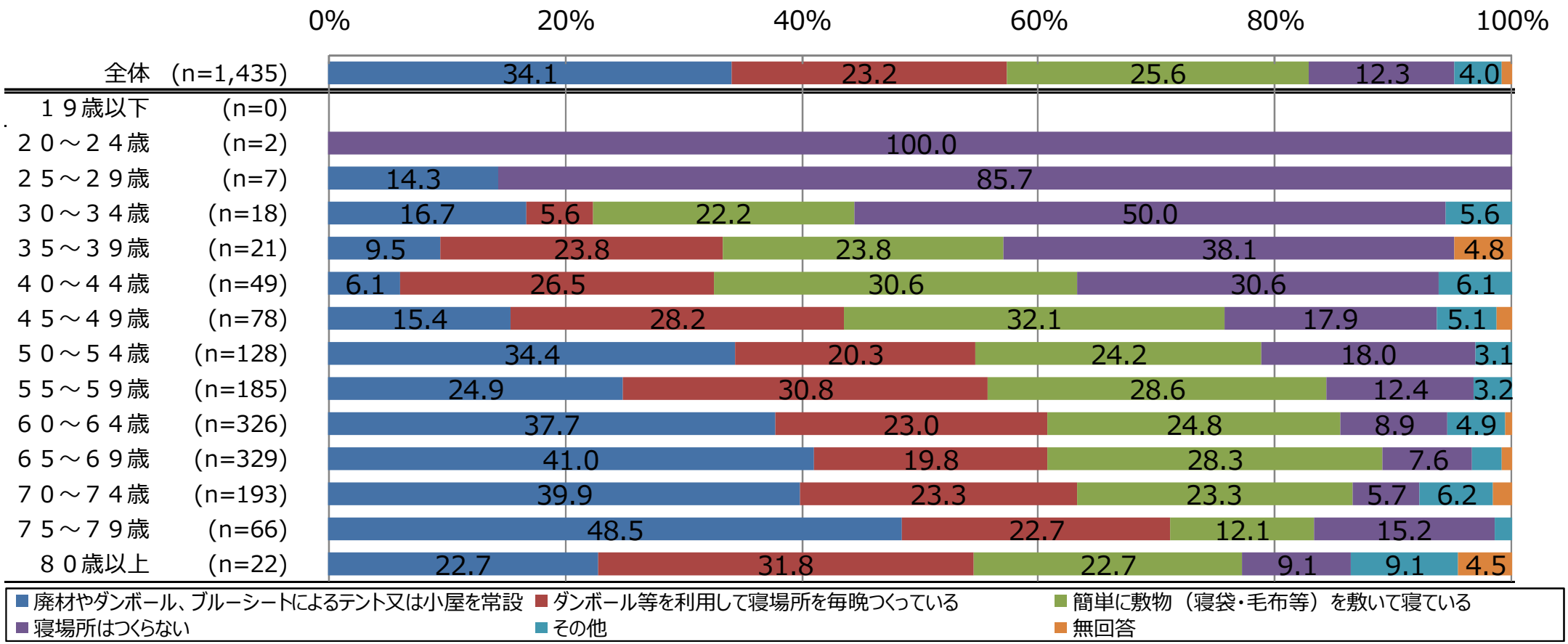
図表43　寝ている場所を変更する理由（年齢階層別）



問２　寝（野宿）場所をつくる方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「６０歳～７９歳以下」の者では「テント又は小屋を常設」の割合が高く、「４０～４９歳以下」の者では「簡易な敷物を敷いて寝ている」の割合が高く、「２０～５９歳以下」の者では、「寝場所はつくらない」の割合が高い傾向にある。

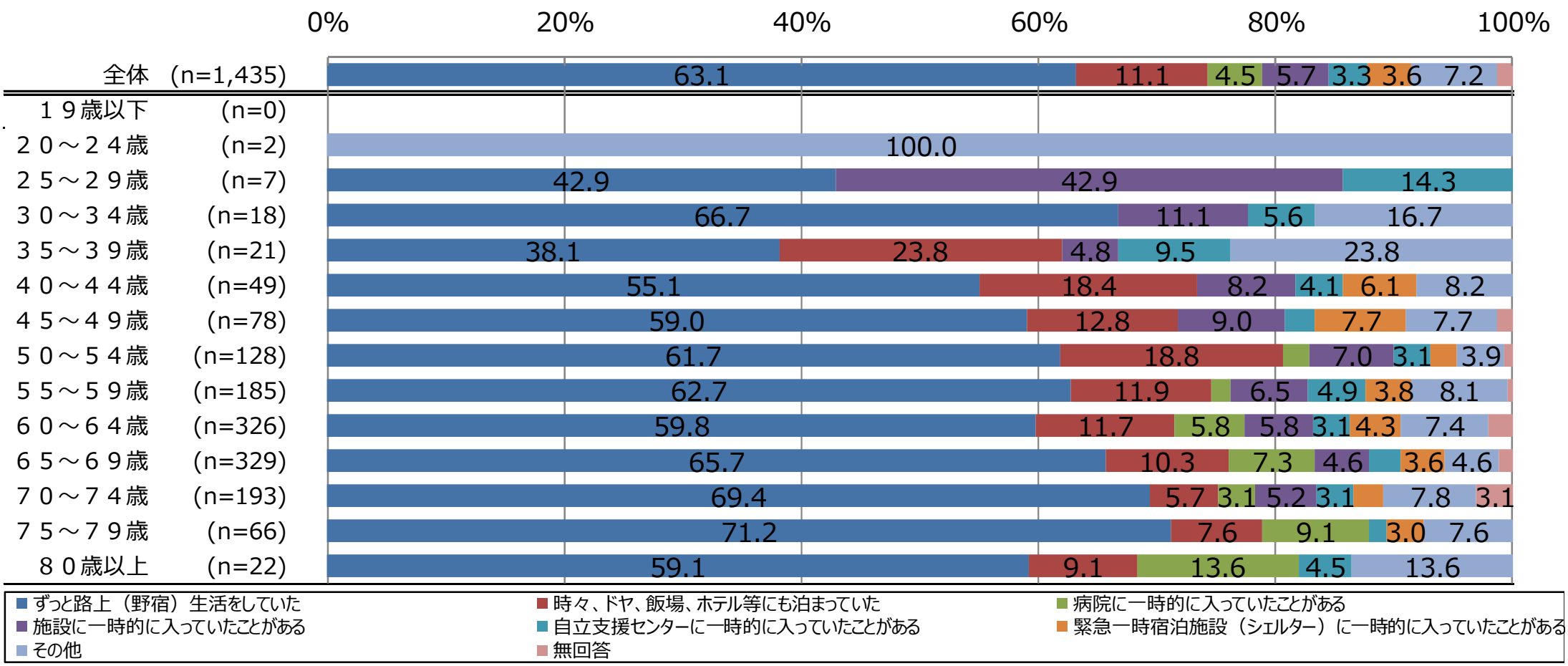
図表44　　寝（野宿）場所をつくる方法（年齢階層別）



問４　今回の路上（野宿）生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、年齢が上がることに伴い、「ずっと路上（野宿）生活」の割合が高くなり、「３５～５４歳以下」の者では「時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた」の割合が高い。

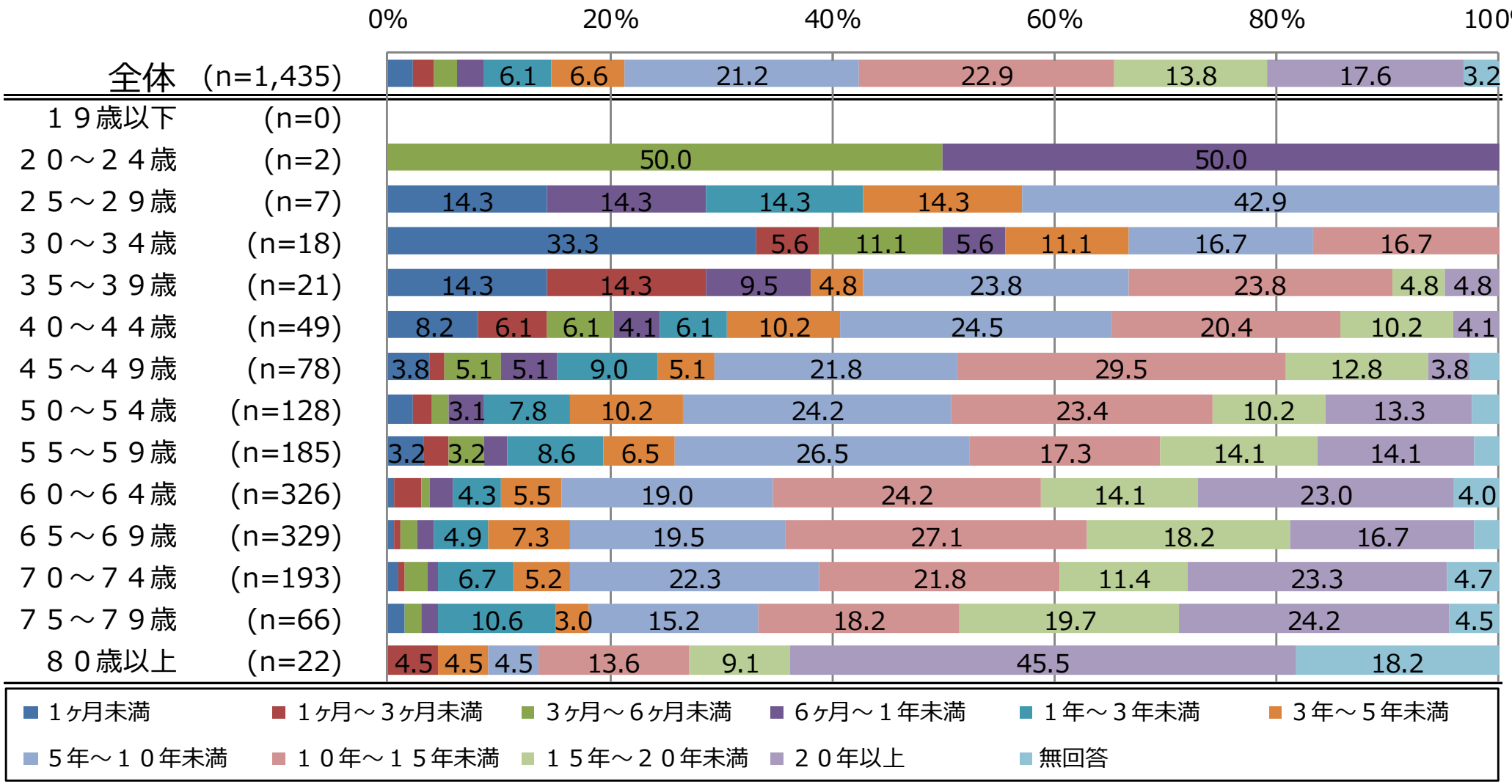
図表45　今回の路上（野宿）生活の継続について（年齢階層別）



問５　初めて路上(野宿)生活をしてからの期間

- 初めて路上(野宿)生活をしてからの期間については、「４４歳以下」では「１ヶ月未満」の割合が高く、「７０歳以上」では「２０年以上」の割合が高い。

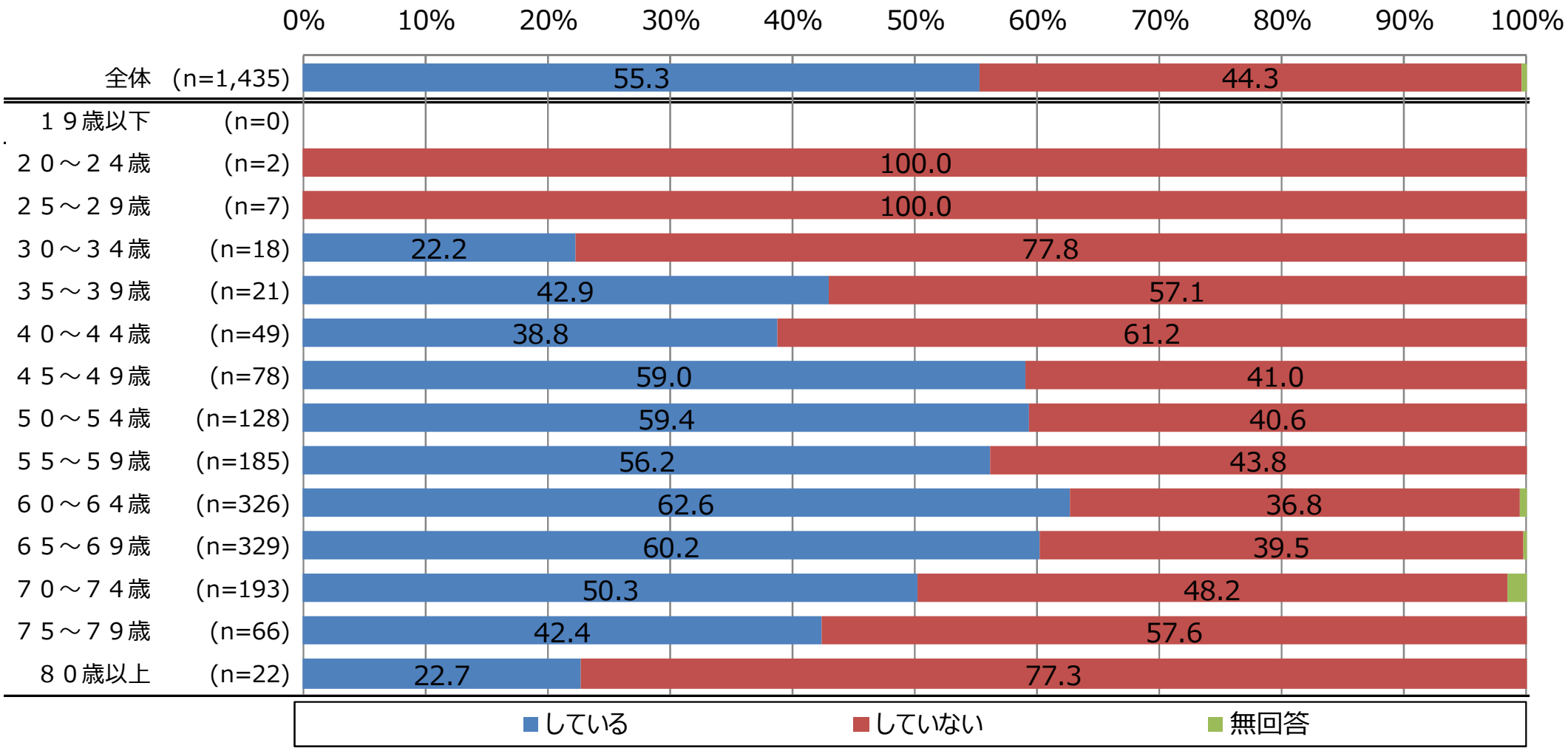
図表46　初めて路上(野宿)生活をしてからの期間（年齢階層別）



問６　現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「４５～６９歳以下」の者では「している」の割合が高く、「４４歳以下」及び「７０歳以上」の者では「していない」の割合が高くなる傾向にある。

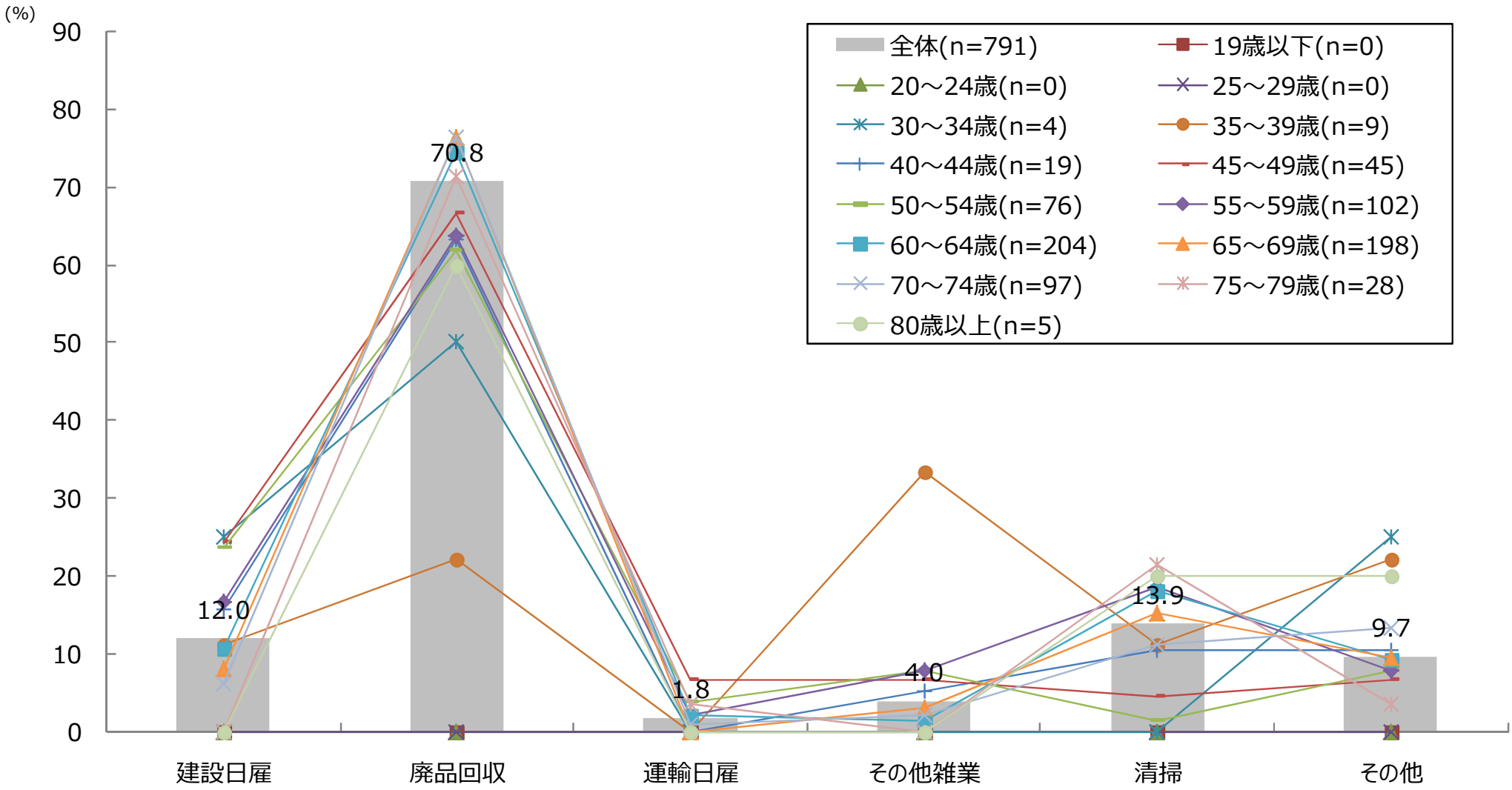
図表47　現在収入のある仕事（年齢階層別）



問６－１　仕事（具体的に）（複数回答）

- 具体的な仕事内容については、「３０～３４歳以下」及び「４５～５４歳以下」の者では「建設日雇」の割合が高く、「５５歳～６４歳以下」及び「７５歳以上」の者では「清掃」の割合が高く、「６５～７４歳以下」の者では「廃品回収」の割合が高い傾向にある。

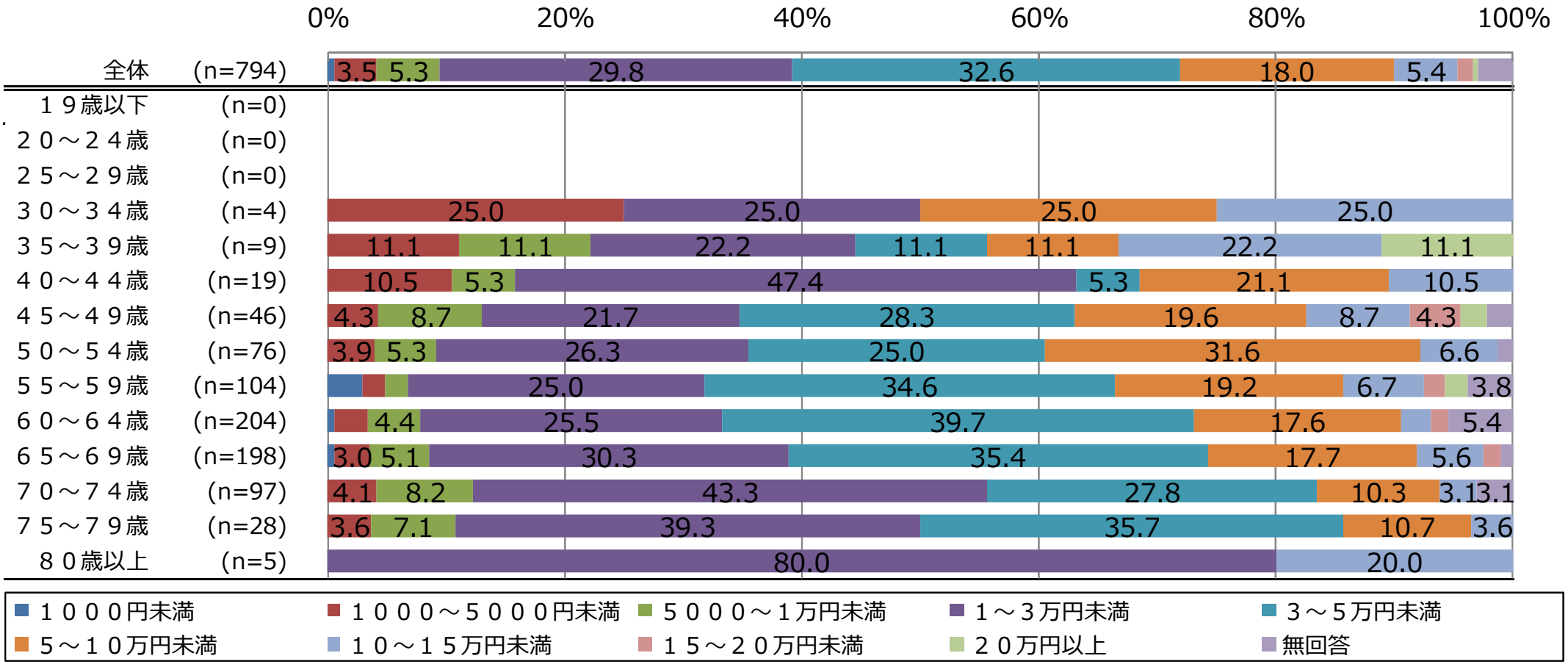
図表48　仕事（具体的に）（複数回答）（年齢階層別）



問６－２　仕事による平均収入（月額・円）

- 仕事による平均収入（月額）については、「４４歳以下」の者では「１，０００～５，０００円未満」及び「１０～１５万円未満」の割合が高く、「５０～５４歳以下」の者では「５～１０万円未満」の割合が高く、「５５～６９歳以下」の者では「３～５万円未満」の割合が高い傾向にある。

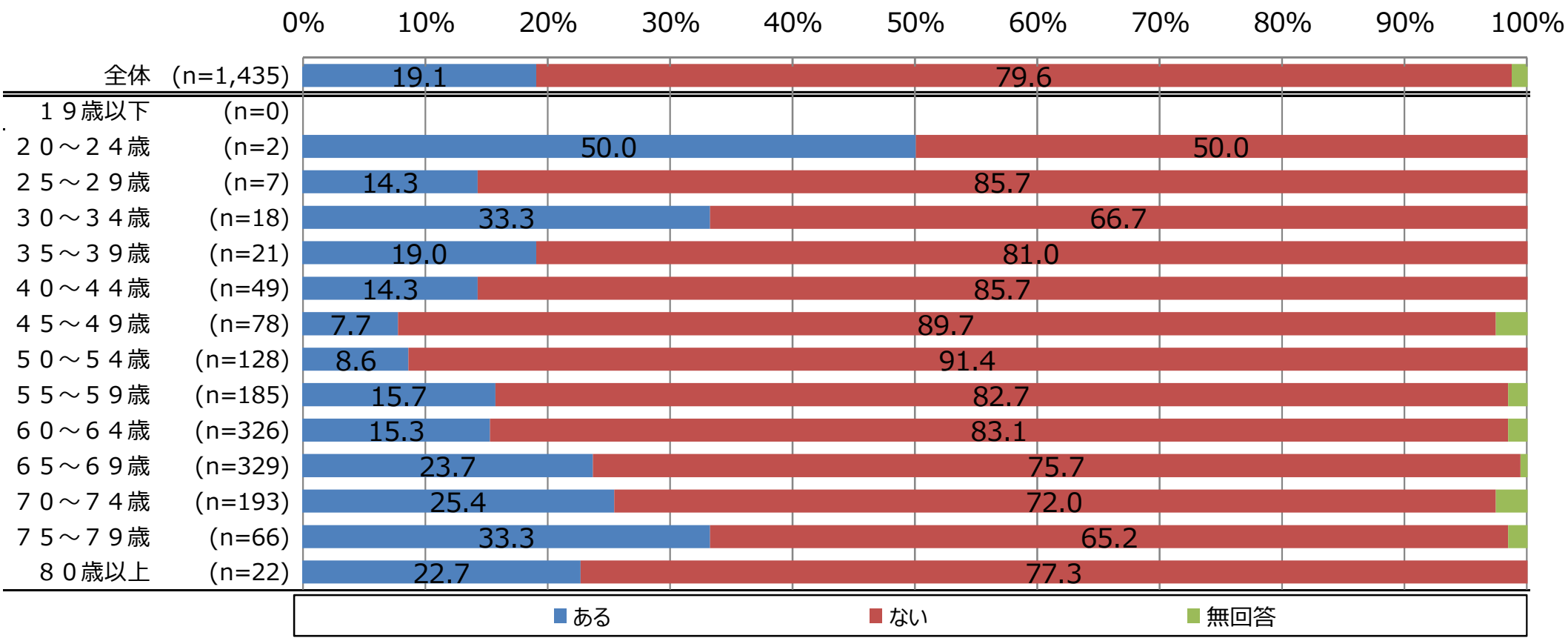
図表49　仕事による平均収入（月額・円）（年齢階層別）



問７　仕事以外の収入

- 仕事以外の収入については、「３０～３４歳以下」及び「６５歳以上」の者では「ある」の割合が高い傾向にある。

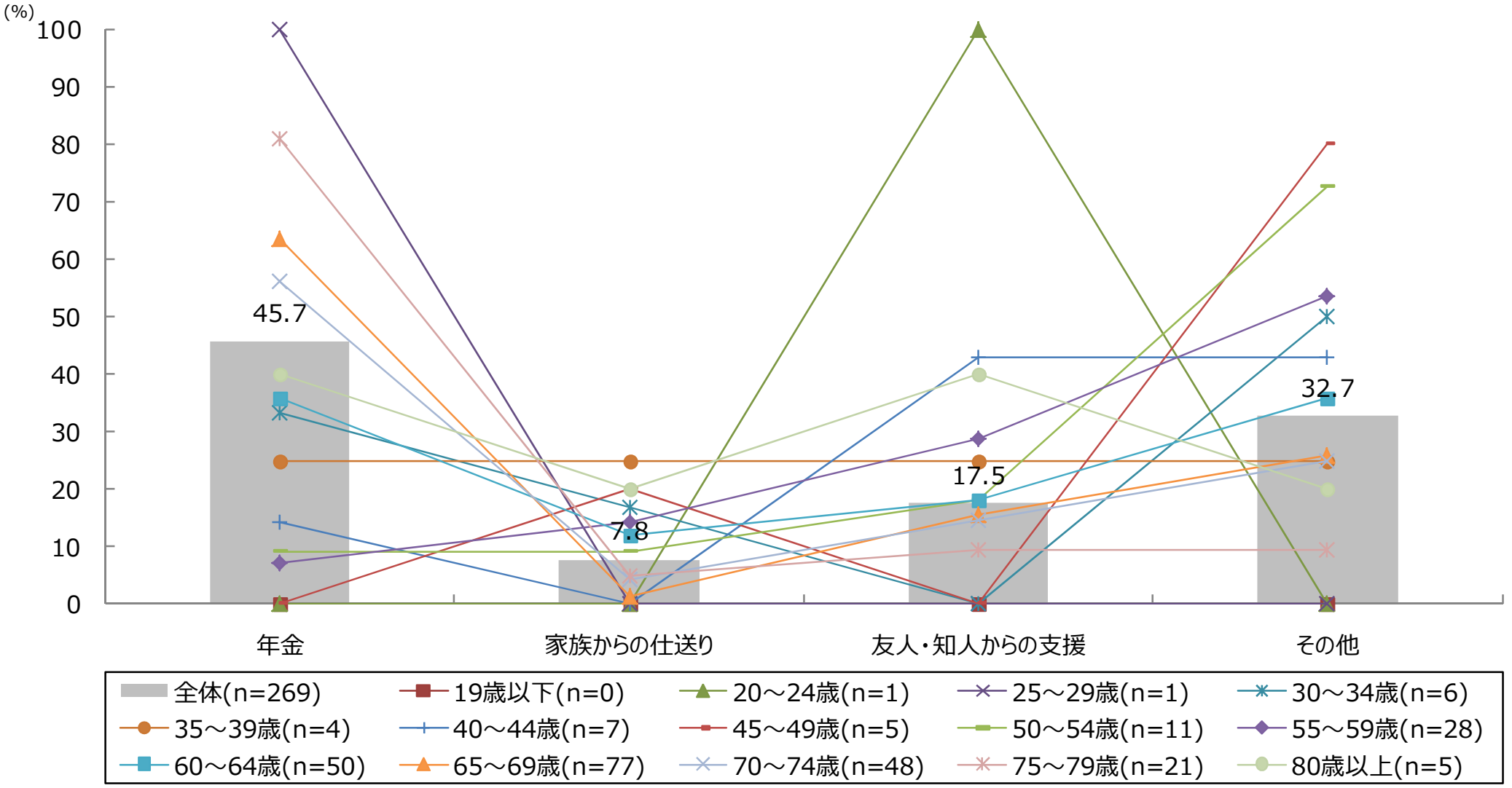
図表50　仕事以外の収入（年齢階層別）



問７－１　仕事以外の収入の種類（複数回答）

- 仕事以外の収入の種類については、「６５歳以上」の者では「年金」の割合が高い傾向にある。

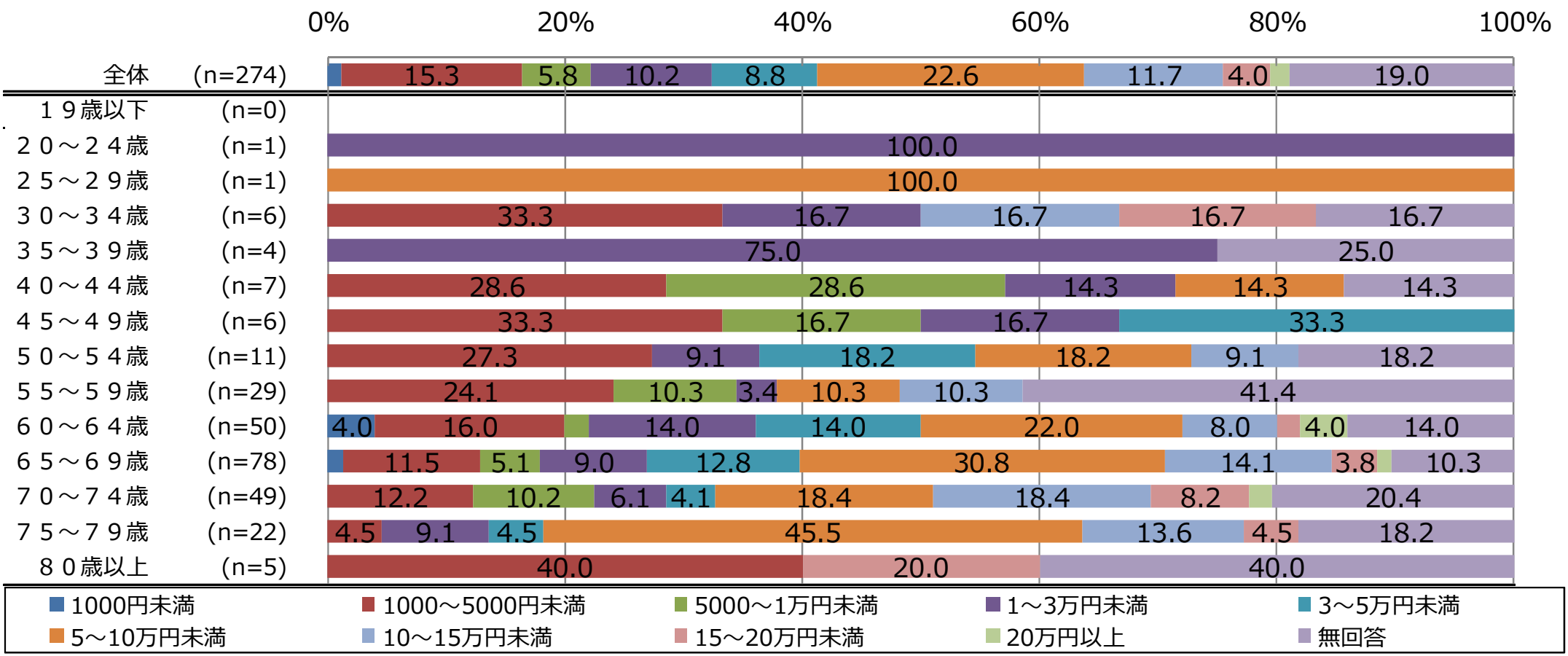
図表51　仕事以外の収入の種類（複数回答）（年齢階層別）



問７－２　仕事以外の平均収入（月額・円）

- 仕事以外の平均収入（月額）については、「４０～５９歳以下」の者では、「５，０００円未満」の割合が高く、「６０歳以上」の者では、「５～１０万円未満」の割合が高い傾向にある。

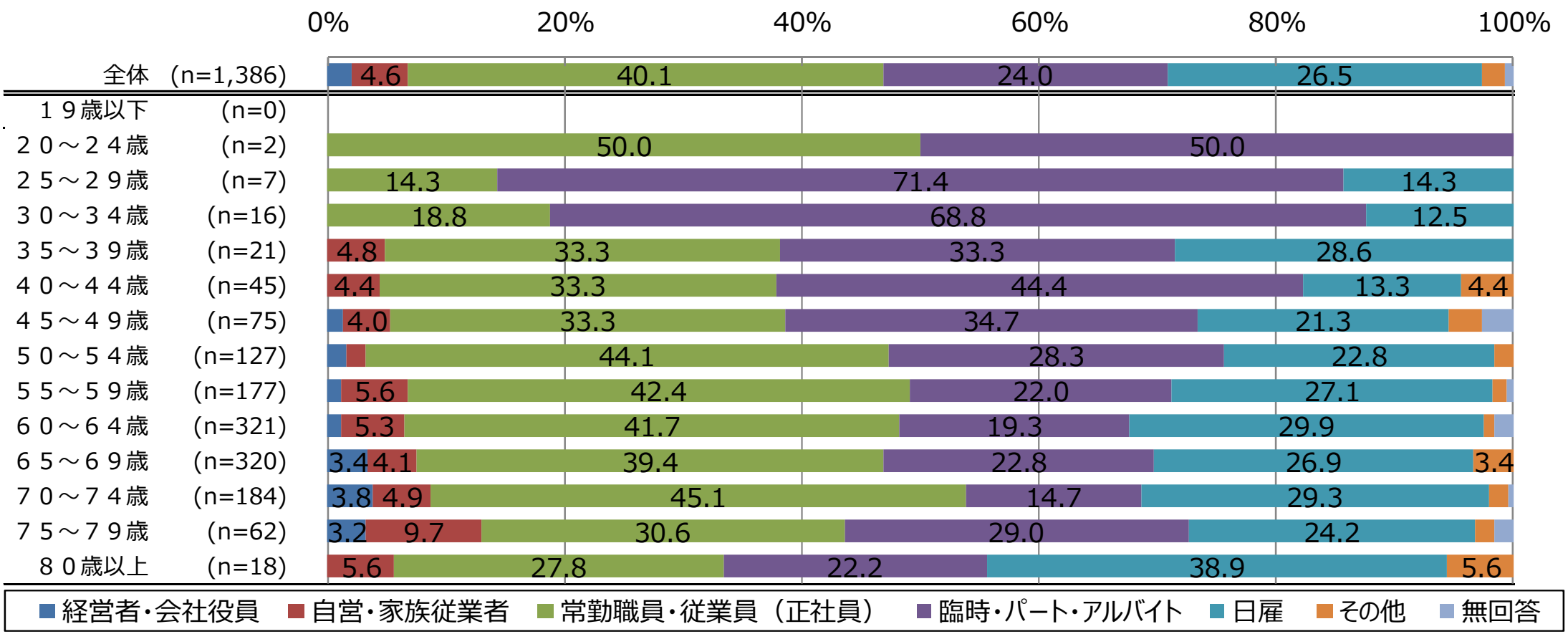
図表52　仕事以外の平均収入（月額・円）（年齢階層別）



問９－１　路上生活前の仕事の立場

- 路上生活前の仕事の立場については、「５４歳以下」の者では、「臨時・パート・アルバイト」の割合が高く、「５０～５４歳以下」の者では「常勤職員・従業員（正社員）」の割合が高く、「５５～７４歳以下」の者では「日雇」の割合が高い傾向にある。

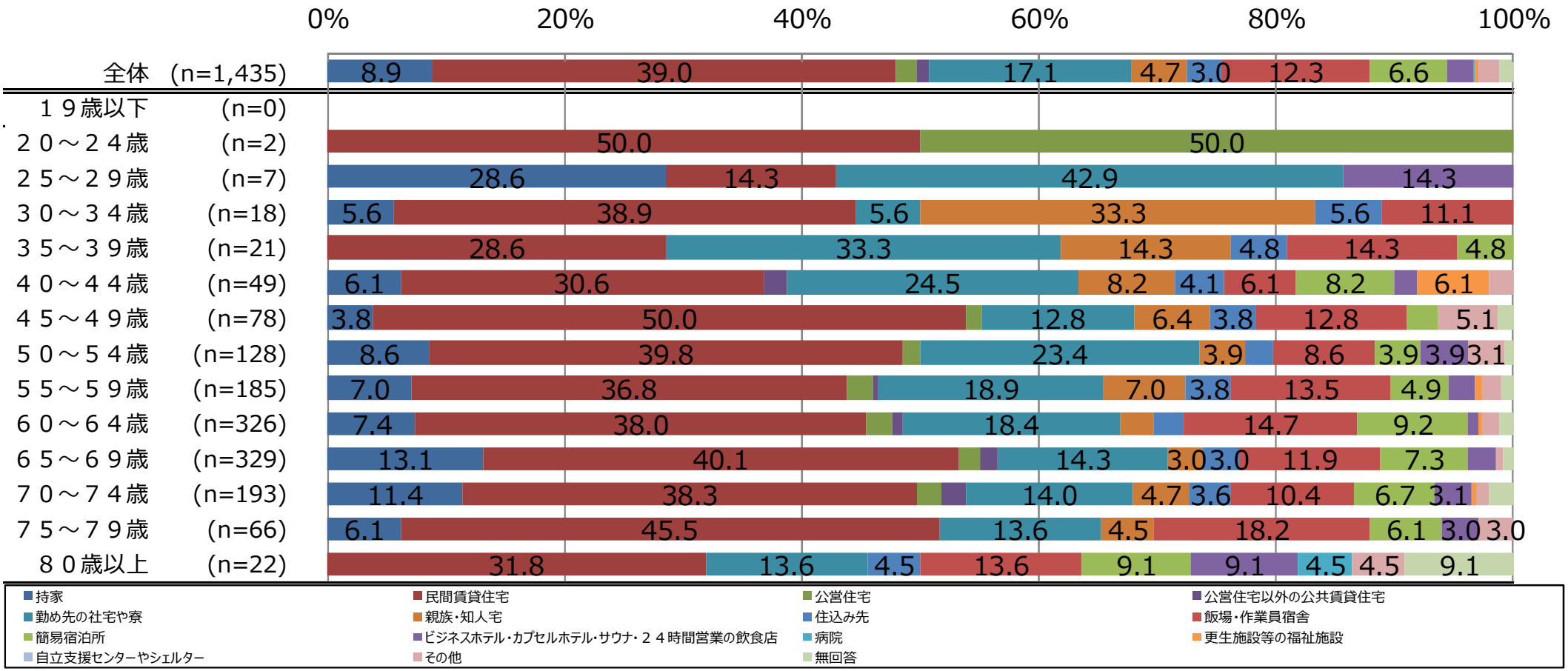
図表53　路上生活前の仕事の立場（年齢階層別）



問１０　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいたところ

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいたところについては、「２５～２９歳以下」の者では「ビジネスホテル等」の割合が高く、「３０～４４歳以下」の者では「勤め先の社宅や寮」及び「親族・知人宅」の割合が高く、「４５歳以上」の者では「民間賃貸住宅」の割合が高く、「５０～７４歳以下」の者では「持家」の割合が高い傾向にある。

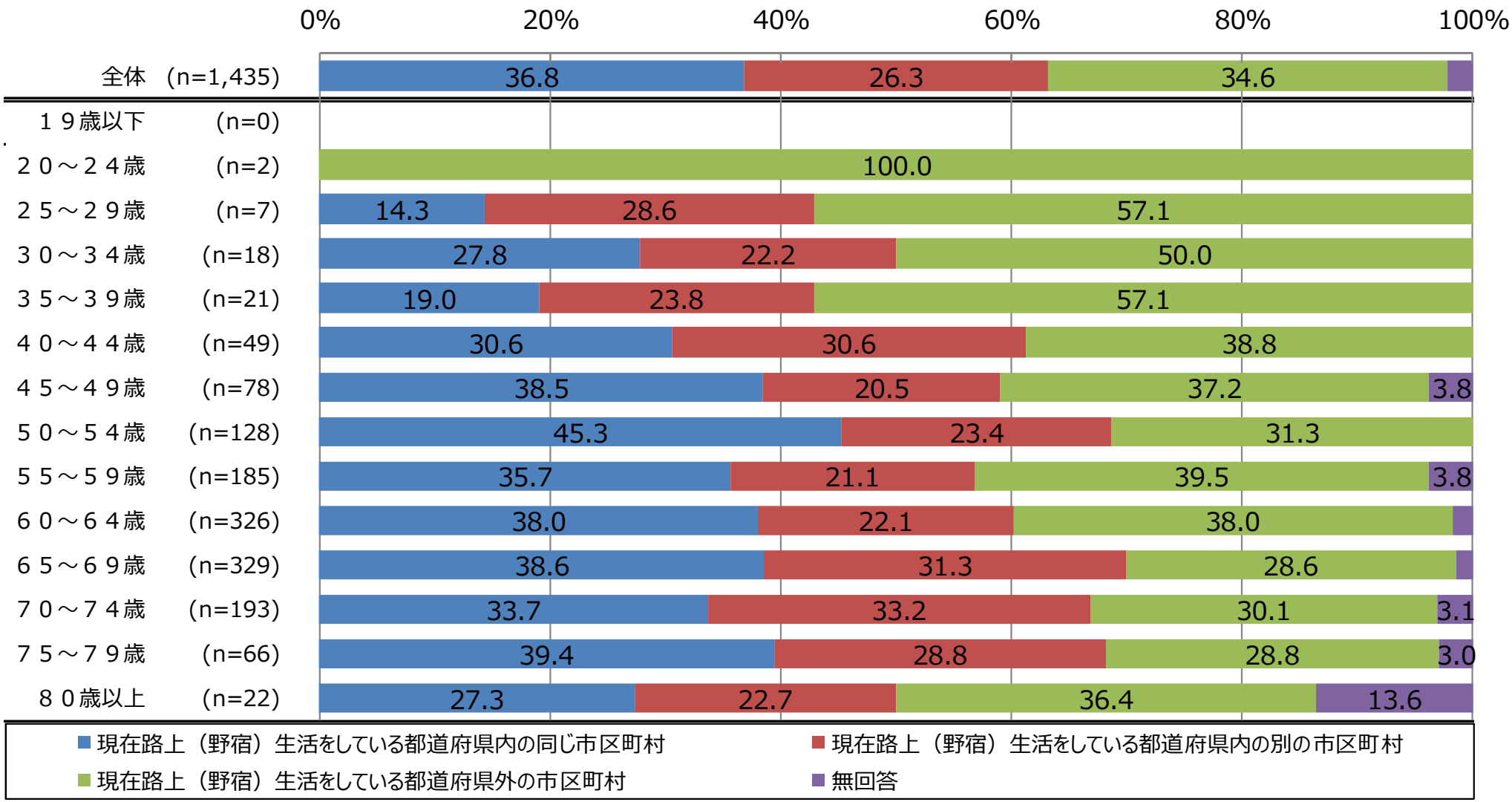
図表54　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいたところ（年齢階層別）



問１１　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「４９歳以下」の者では「都道府県外」の割合が高く、「６０～６９歳以下」の者では「同じ市区町村」の割合が高い傾向にある。

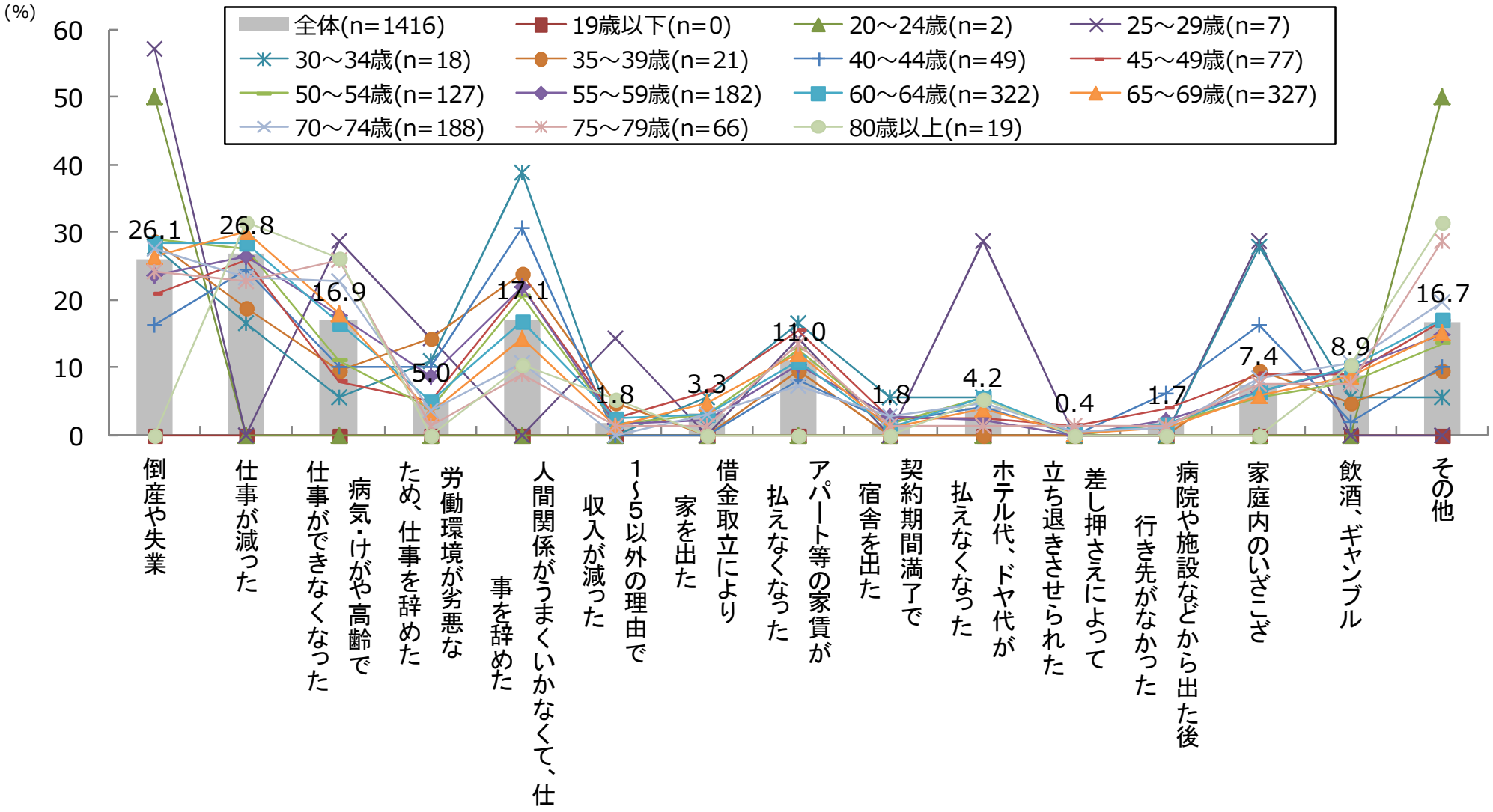
図表55　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域（年齢階層別）



問１５　今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由（複数回答）

- 今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由については、「３０～４４歳以下」の者では「人間関係がうまくいかなくて」の割合が高く、「２９歳以下」の者では「倒産や失業」の割合が高く、「２５～２９歳以下」の者では「ホテル代、ドヤ代が払えなくなった」の割合が高く、「２５～３４歳以下」の者では「家庭内のいざこざ」の割合が高い傾向にある。

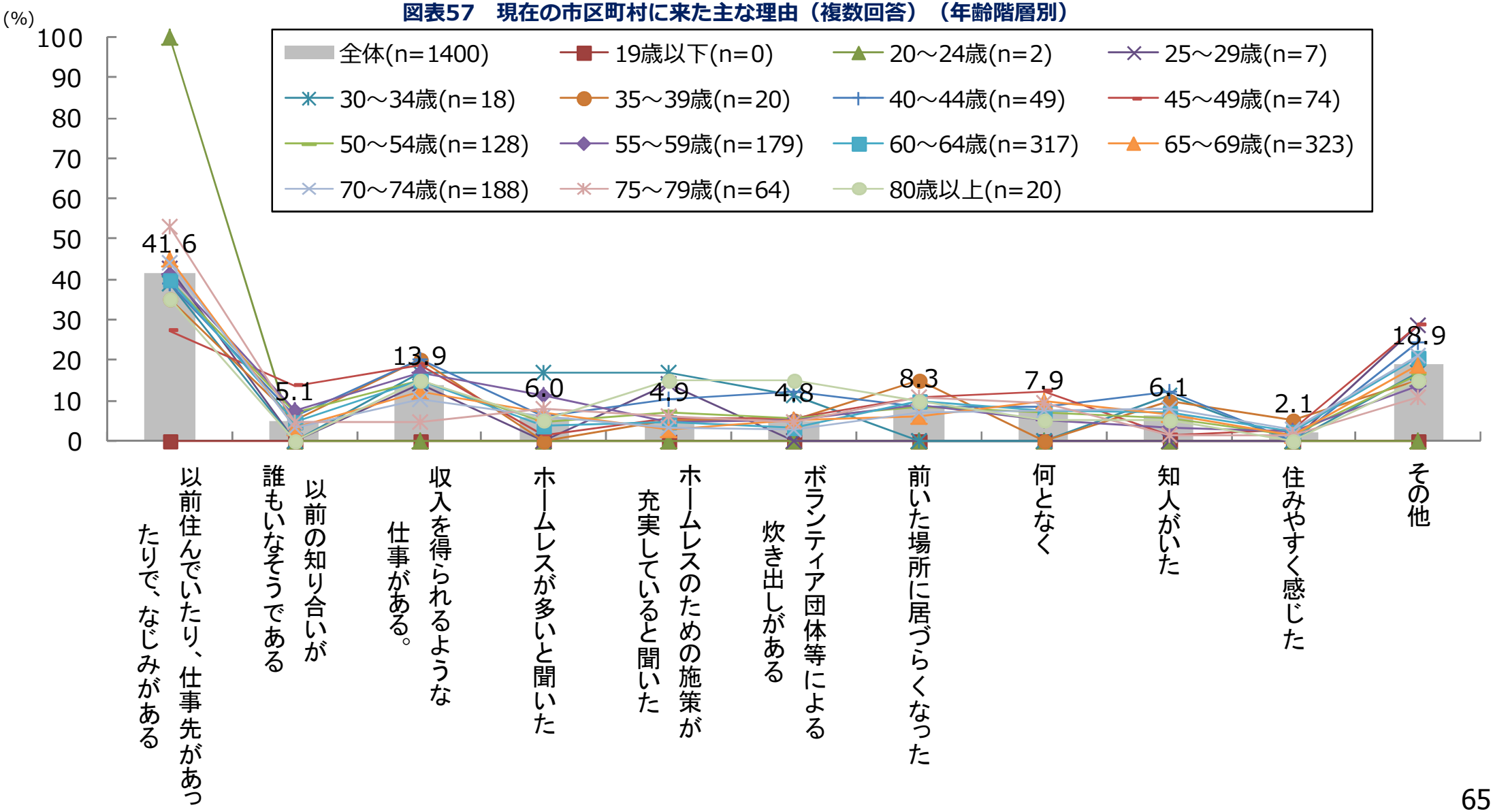
図表56　今回の路上（野宿）生活をするようになった主な理由（複数回答）（年齢階層別）



問１７　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「３５～３９歳以下」の者では「収入を得られるような仕事がある」の割合が高く、「４０～４４歳以下」の者では「知人がいた」の割合が高く、「７０歳以上」の者では「なじみがある」の割合が高い傾向にある。

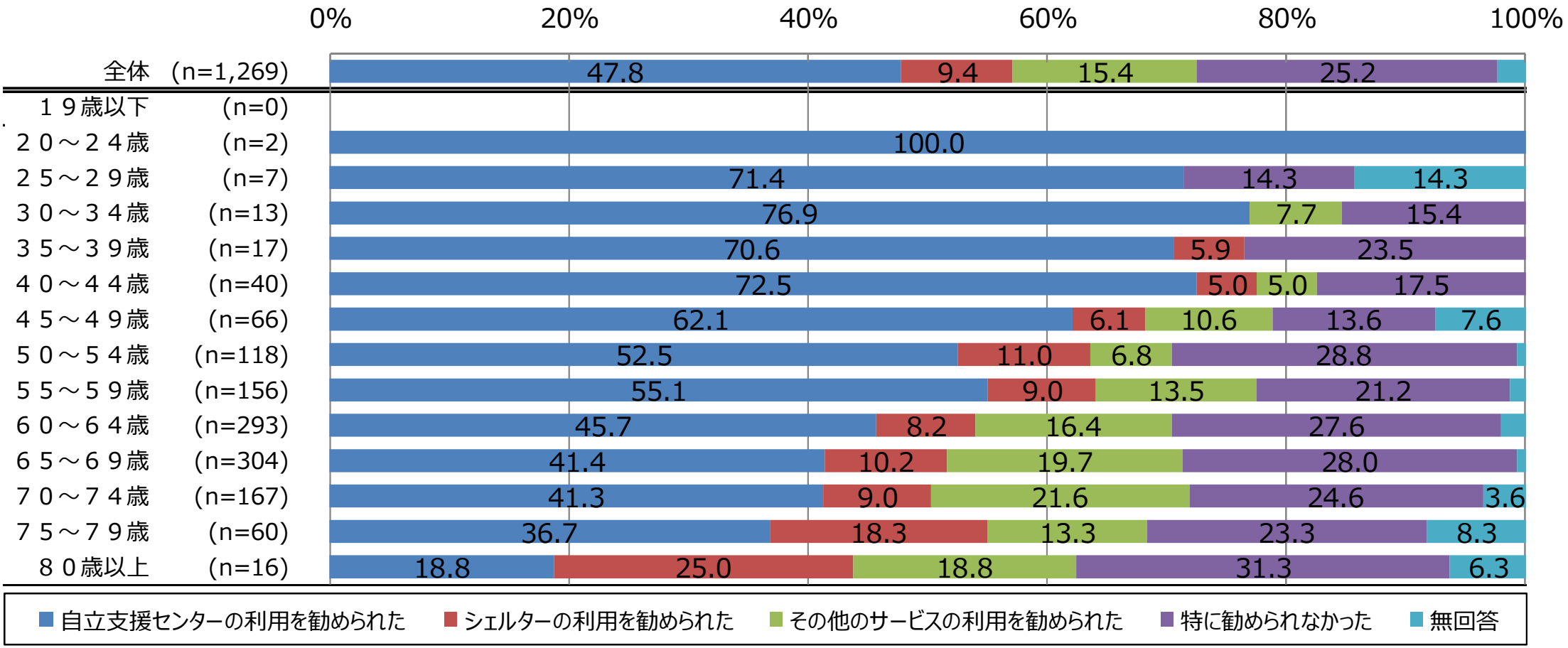
図表57　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）（年齢階層別）



問２５－４　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 自立支援センターやシェルター等の利用の勧めについては、「５９歳以下」の者では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「シェルターの利用を勧められた」、「その他のサービスの利用を勧められた」及び「特に勧められなかった」の割合が高い傾向にある。

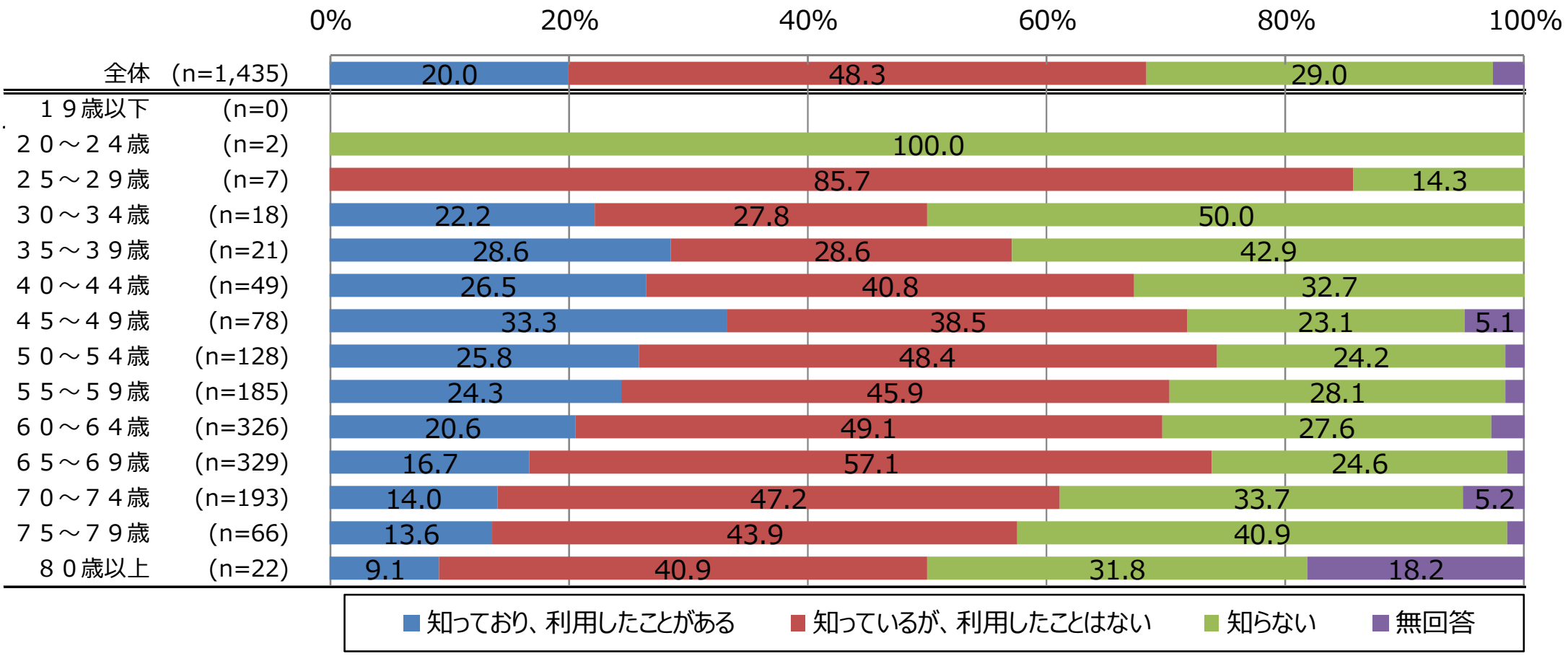
図表58　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（年齢階層別）



問２６　シェルターの内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「４５～６９歳以下」では「知っている」の割合が高く、「３０～４４歳以下」及び「７０歳以上」の者では「知っている」の割合が低く、「３０～６４歳以下」の者では「利用したことがある」の割合が高い傾向にある。

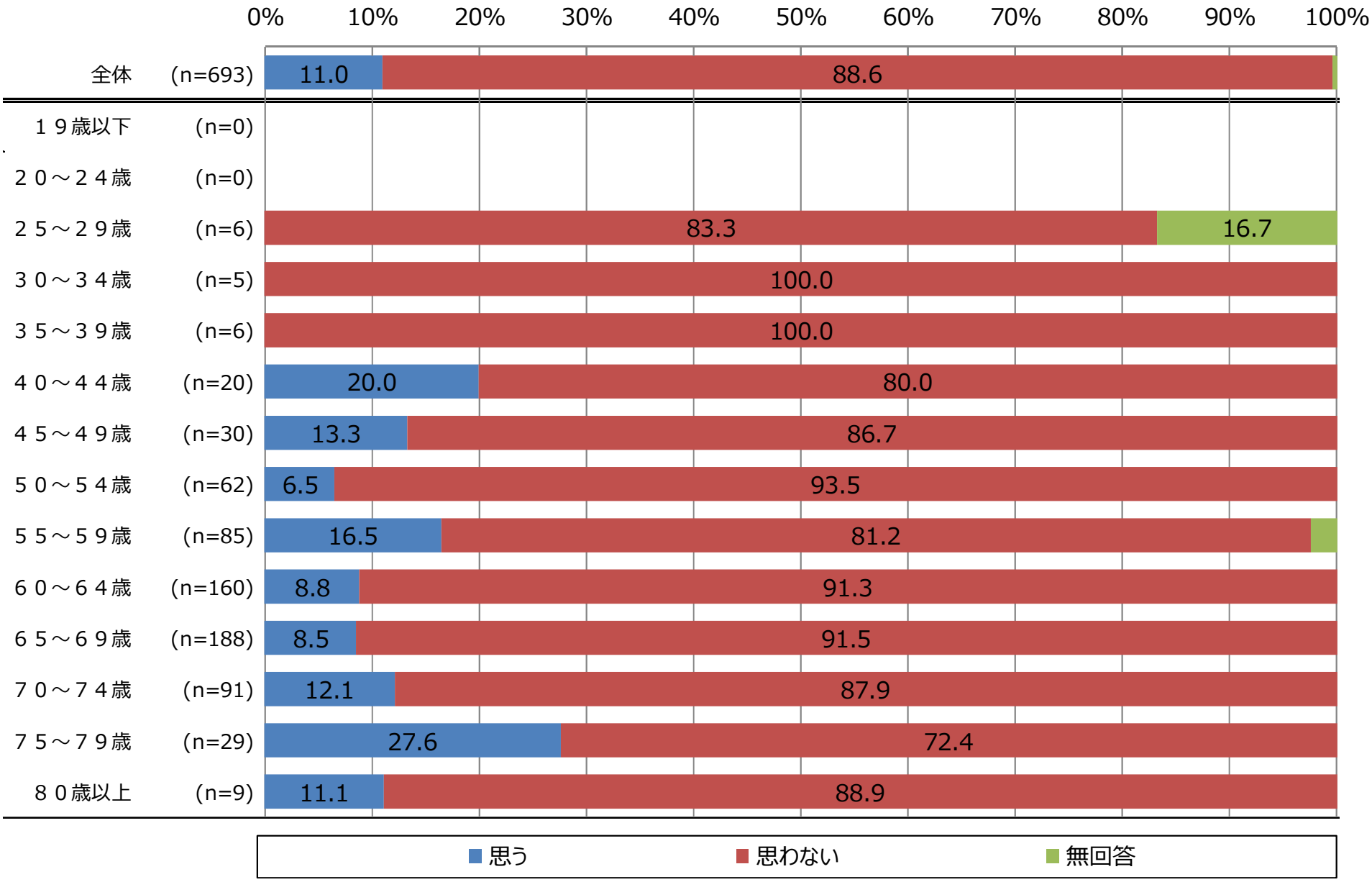
図表59　シェルターの内容の認知度・利用度（年齢階層別）



問２６－１　シェルターの利用意向

- シェルターの利用意向については、「３９歳以下」の者では「思わない」の割合が高く、「４０～４９歳以下」、「５５～５９歳以下」及び「７５～７９歳以下」の者では「思う」の割合が高い。

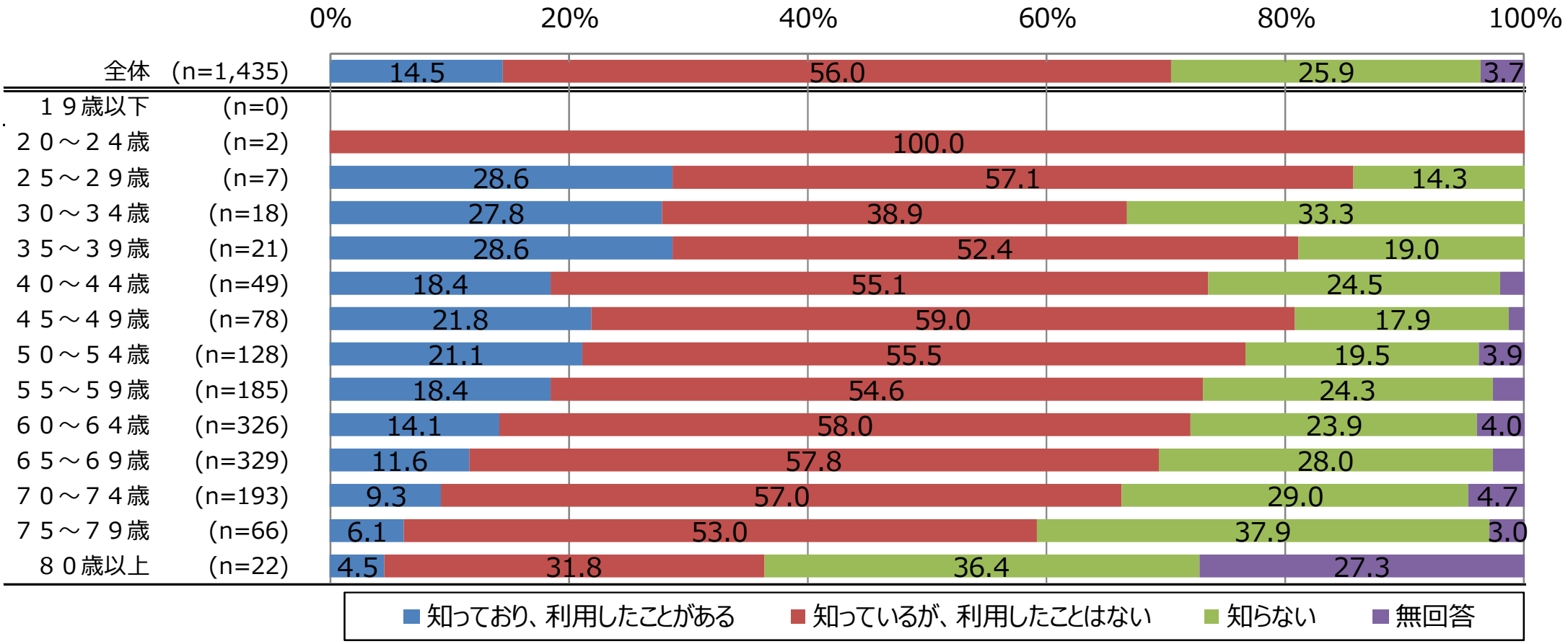
図表60　シェルターの利用意向（年齢階層別）



問２７　自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、年齢が下がることに伴って、「知っており、利用したことがある」の割合が高くなる傾向にあり、「５９歳以下」の者では「知っており、利用したことがある」の割合が高い。
- 「６５歳以上」の者では「知らない」の割合が高くなる傾向にある。

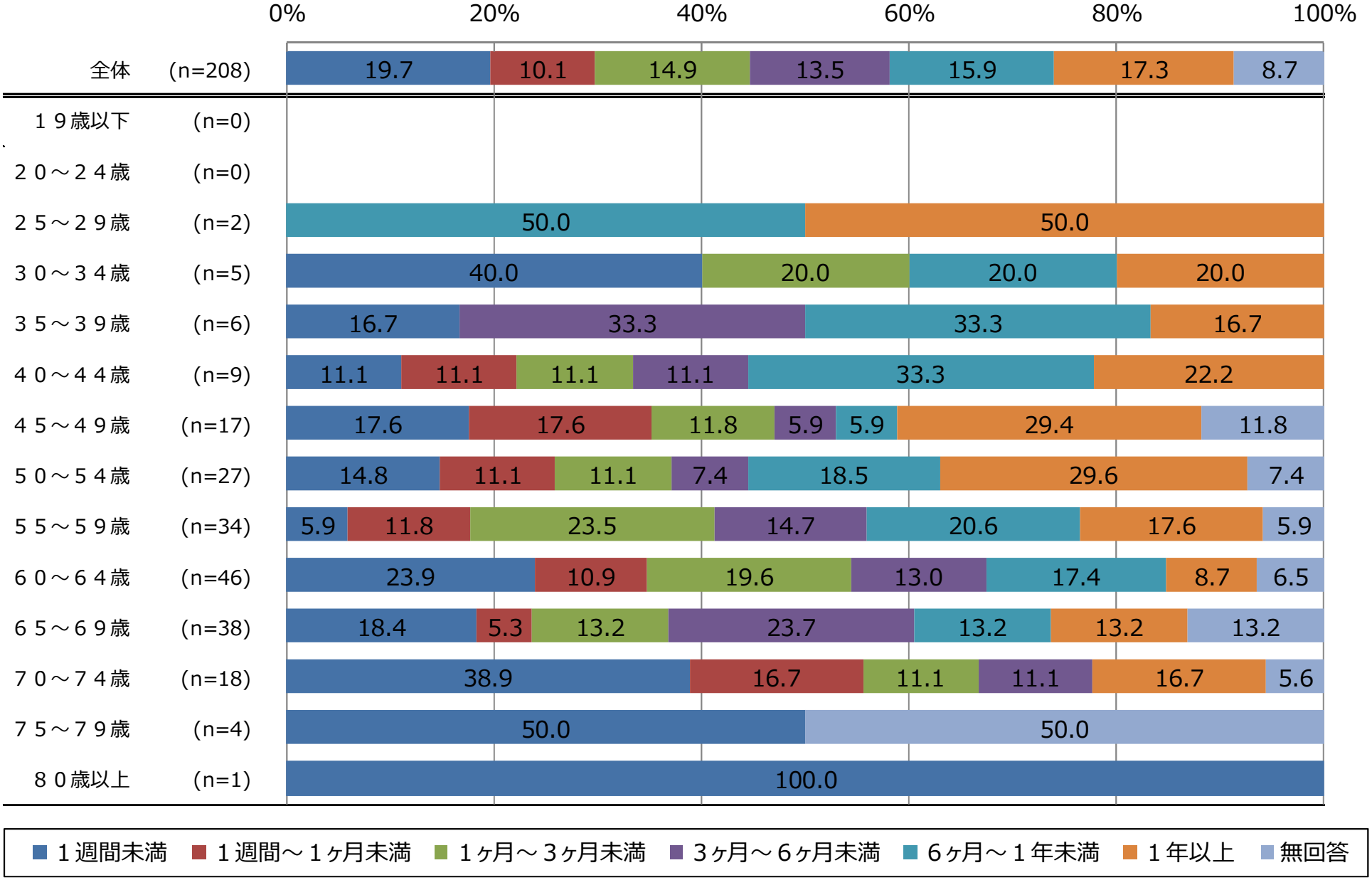
図表61　自立支援センターの内容の認知度・利用度（年齢階層別）



問２７－１　退所から路上生活に戻るまでの期間

- 退所から路上生活に戻るまでの期間については、「４５～５４歳以下」の者では「１年以上」の割合が高く、「５５～６４歳以下」の者では「１～３ヶ月未満」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「１週間未満」の割合が高くなる傾向にある。

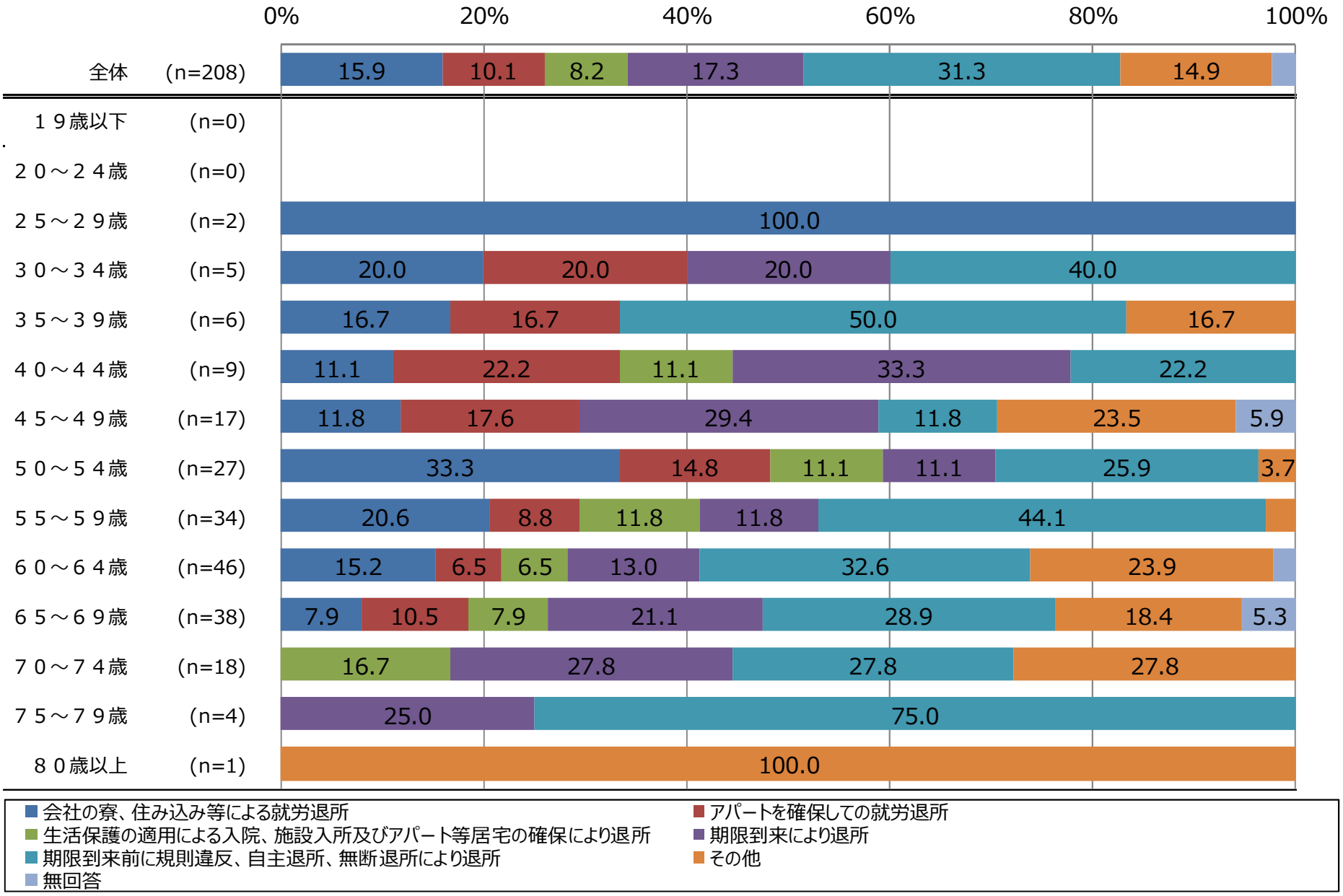
図表62　退所から路上生活に戻るまでの期間（年齢階層別）



問２７－２　退所理由

- 退所理由については、「５９歳以下」の者では「会社の寮、住み込み等による就労退所」及び「アパートを確保しての就労退所」の割合が高く、「３０～３９歳以下」及び「５５歳以上」の者では「無断退所等」の割合が高い傾向にある。

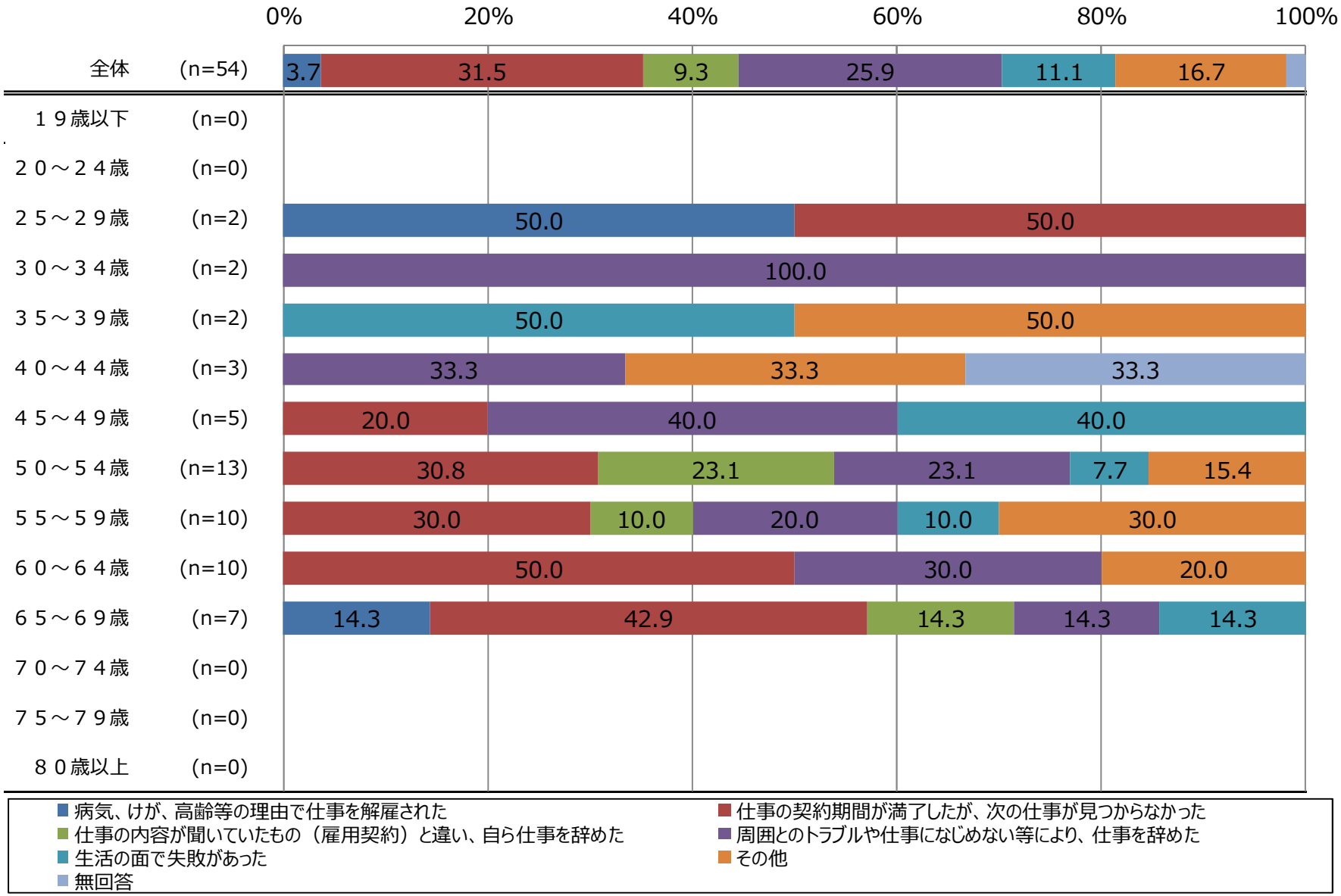
図表63　退所理由（年齢階層別）



問２７－３　路上生活に戻った主な理由

- 路上生活に戻った主な理由については、「４０～４９歳以下」の者では「周囲とのトラブルや仕事になじめない等により、仕事を辞めた」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「仕事の契約期間が満了したが、次の仕事が見つからなかった」の割合が高い傾向にある。

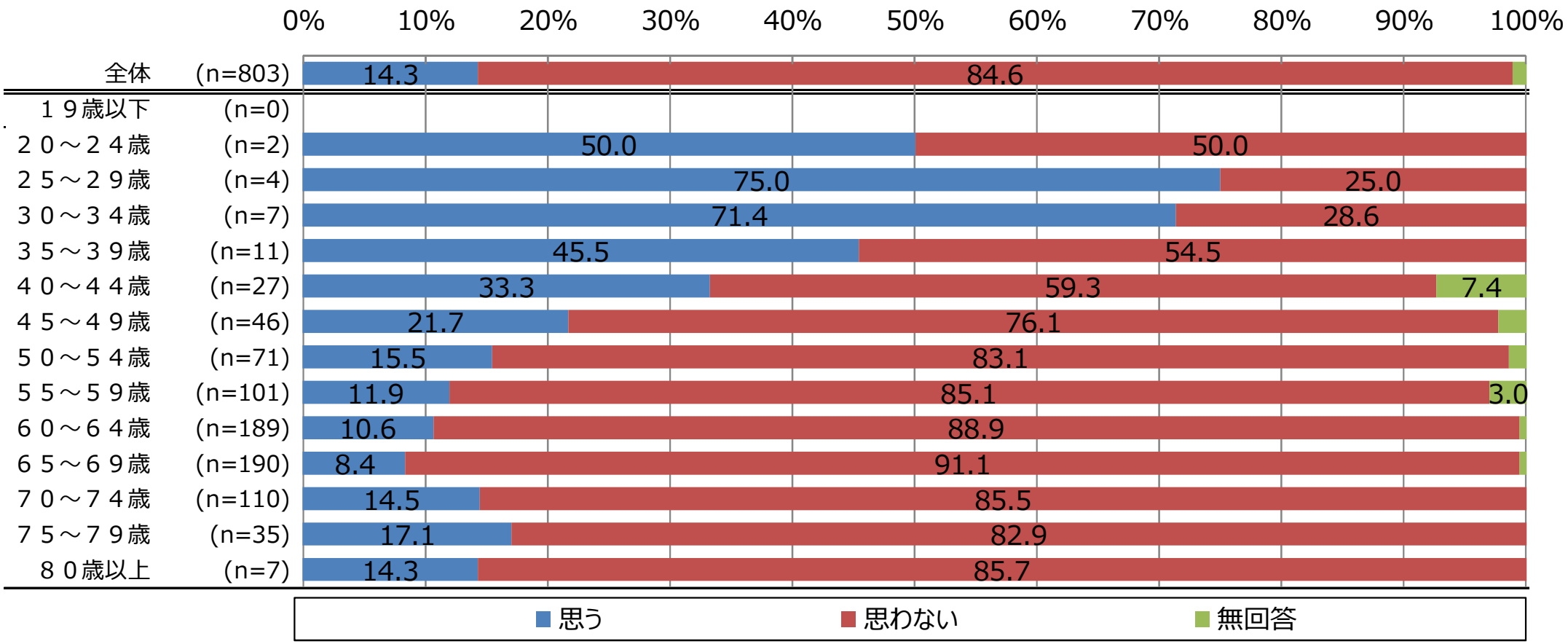
図表64　路上生活に戻った主な理由（年齢階層別）



問２７－４　自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、年齢が下がることに伴って、「思う」の割合が高くなる傾向にあり、「５４歳以下」及び「７０歳以上」の者では「思う」の割合が高い。

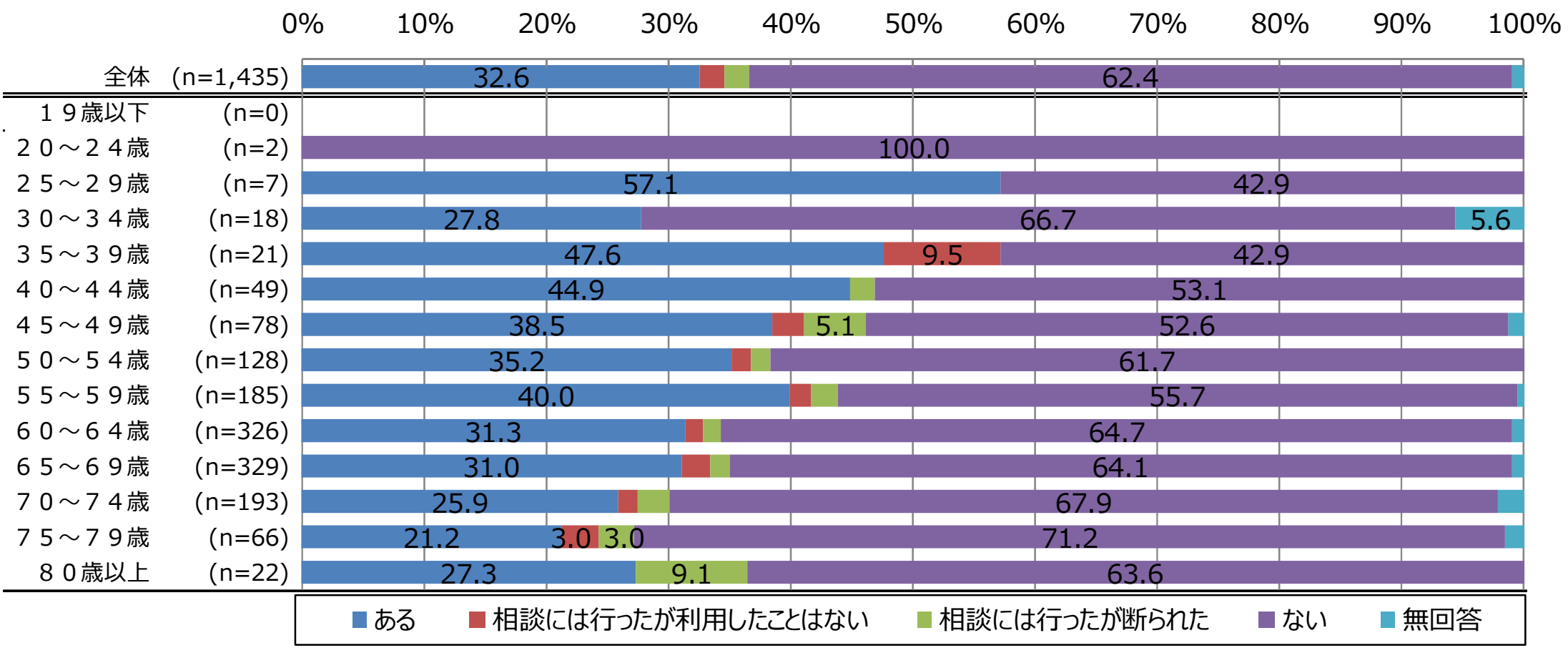
図表65　自立支援センターの利用意向（年齢階層別）



問２９　生活保護制度の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「２５～２９歳以下」及び「３５～５９歳以下」の者では「ある」の割合が高くなる傾向にある。

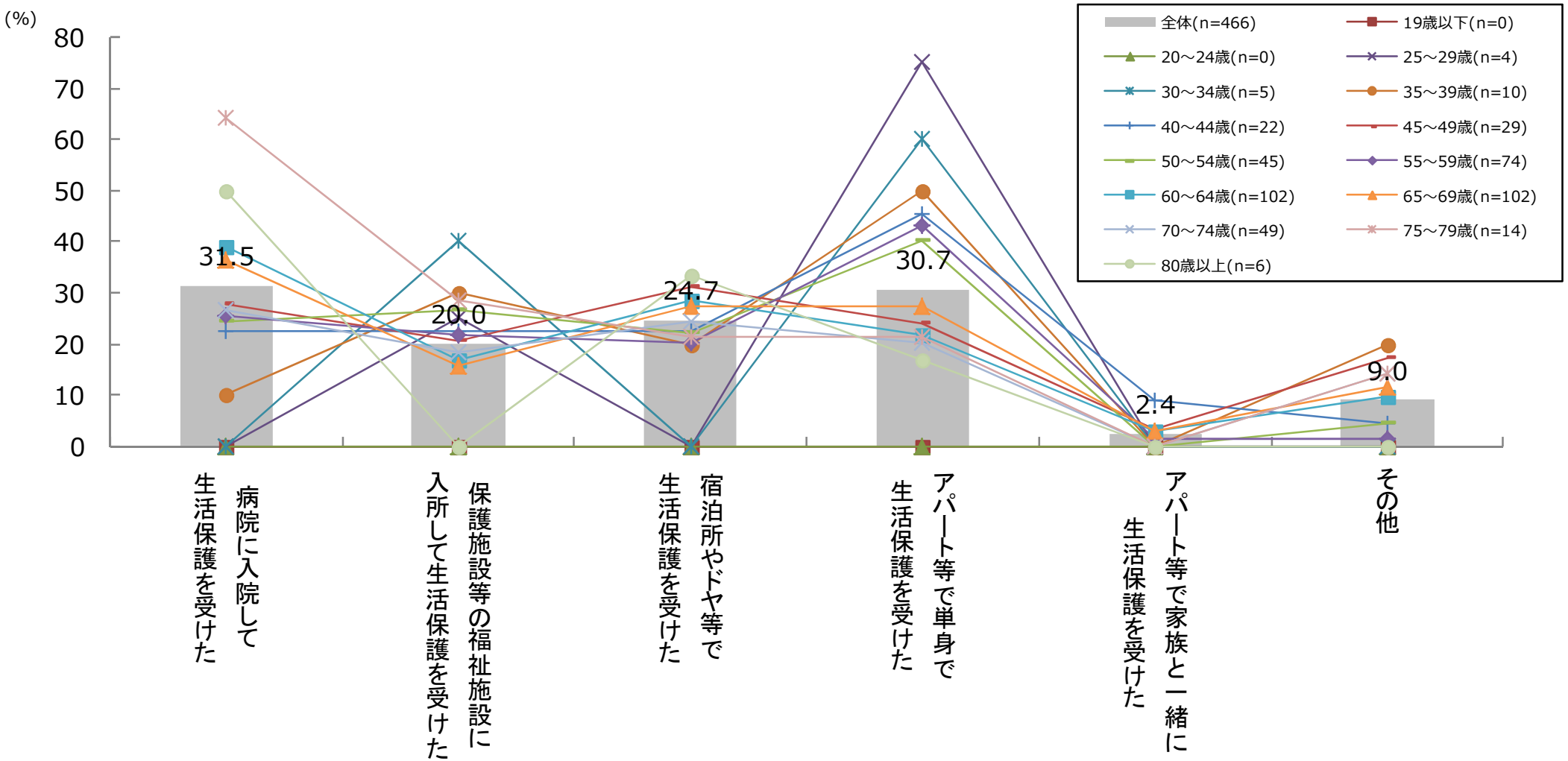
図表66　生活保護制度の利用経験（年齢階層別）



問２９－１　生活保護制度の利用方法（複数回答）

- 生活保護制度の利用方法については、「７５歳以上」の者では「病院に入院して生活保護を受けた」の割合が高く、「３０～３９歳以下」の者では「福祉施設」の割合が高く、「４０～４４歳以下」の者では「アパート等で家族と一緒に」の割合が高く、「４４歳以下」の者では「アパート等で単身で生活保護を受けた」の割合が高い傾向にある。

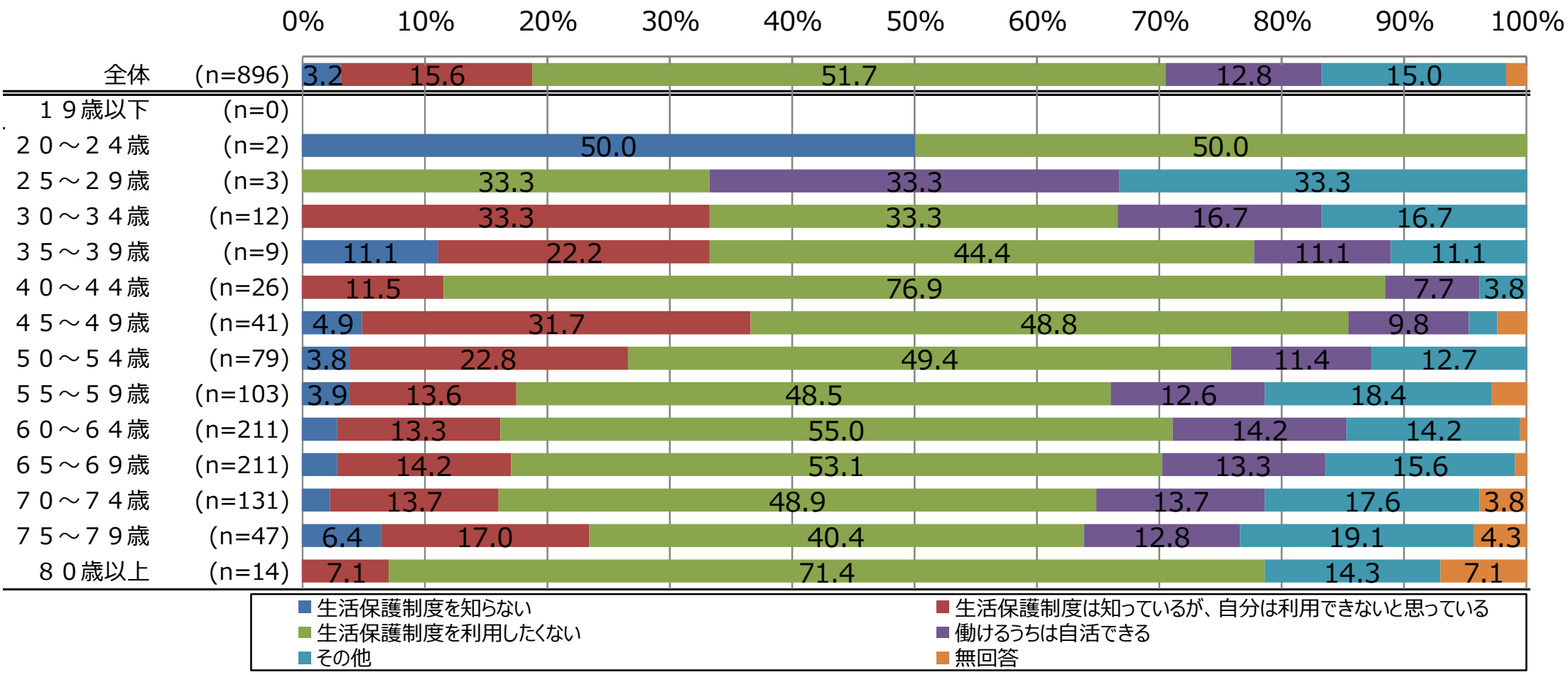
図表67　生活保護制度の利用方法（複数回答）（年齢階層別）



問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「３０～３９歳以下」及び「４５～５４歳以下」の者では「利用できないと思っている」の割合が高く、「４０～４４歳以下」及び「６０～６９歳以下」の者では「利用したくない」の割合が高い傾向にある。

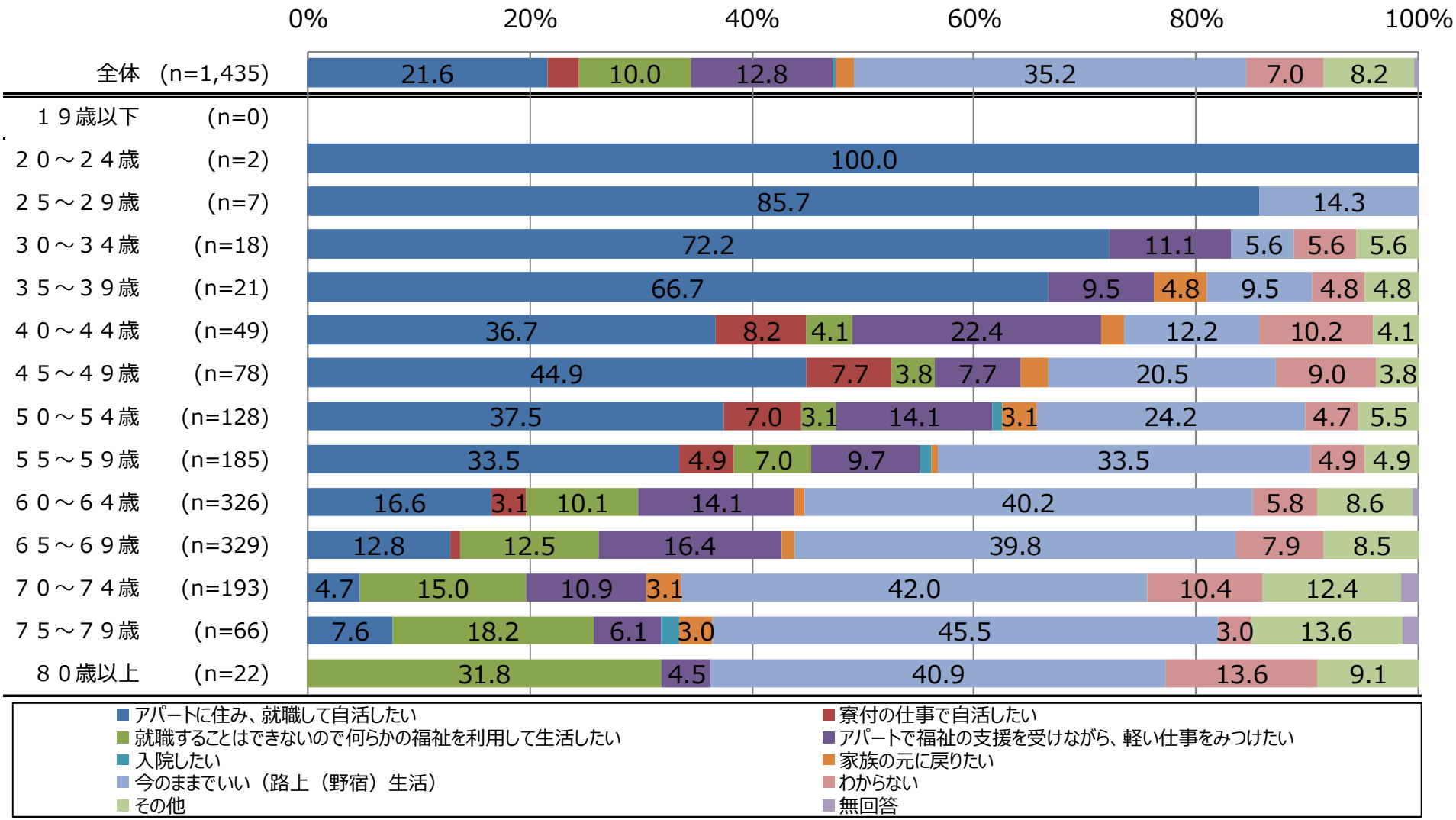
図表68　生活保護制度を利用しなかった理由（年齢階層別）



問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、年齢が下がることに伴って、「アパートに住み、就職して自活したい」の割合が高くなる傾向にあり、「４０～４４歳以下」の者では「アパートで福利利用し、軽い仕事」の割合が高く、「３５～３９歳以下」の者では「家族の元に戻りたい」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「就職することはできないので何らかの福祉を利用して生活したい」及び「今のままでいい」の割合が高い傾向にある。

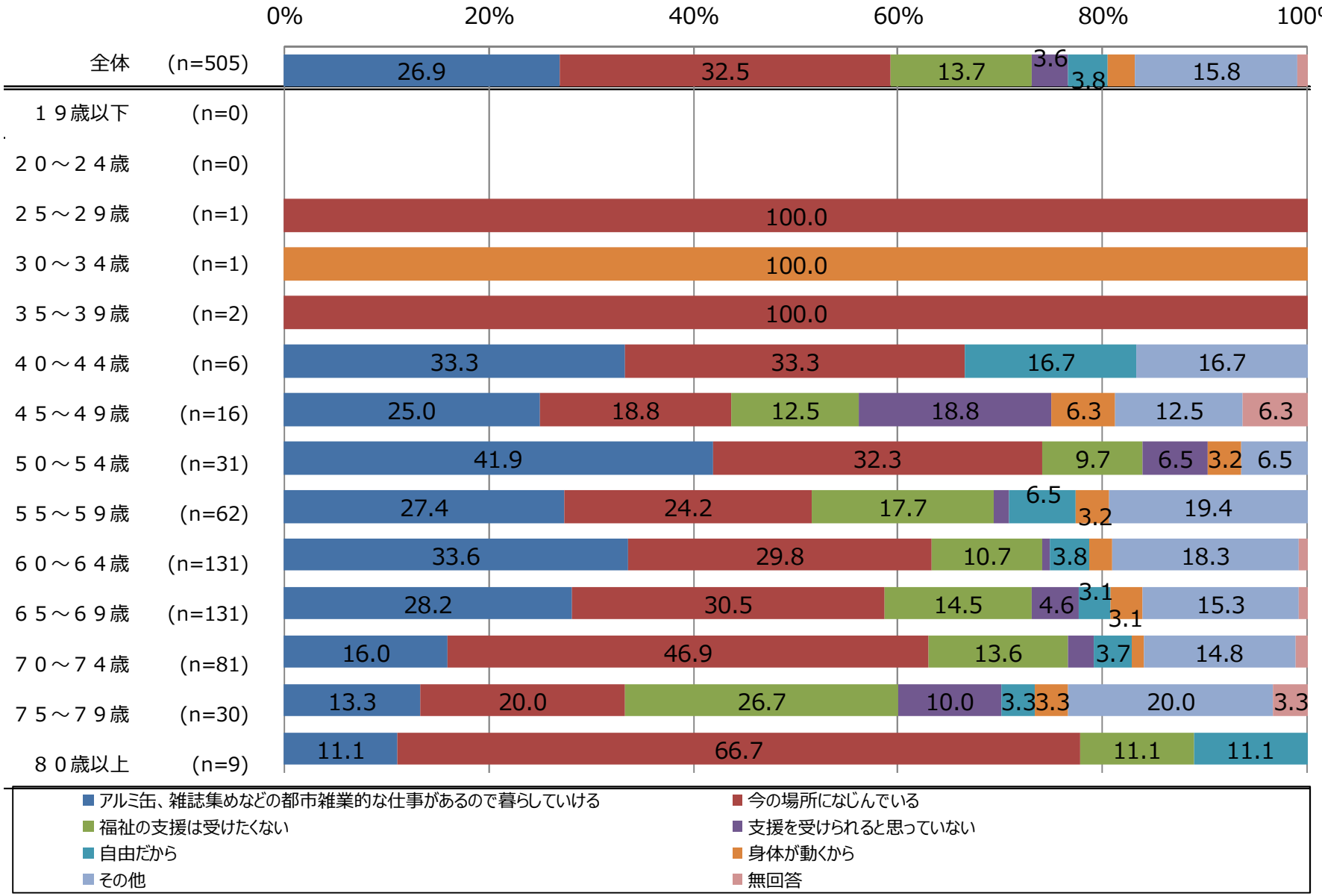
図表69　今後望んでいる生活（年齢階層別）



問３４　今の生活のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「４０～６４歳以下」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く、「７０歳以上」の者では「今の場所になじんでいる」及び「福祉の支援は受けたくない」の割合が高い傾向にある。

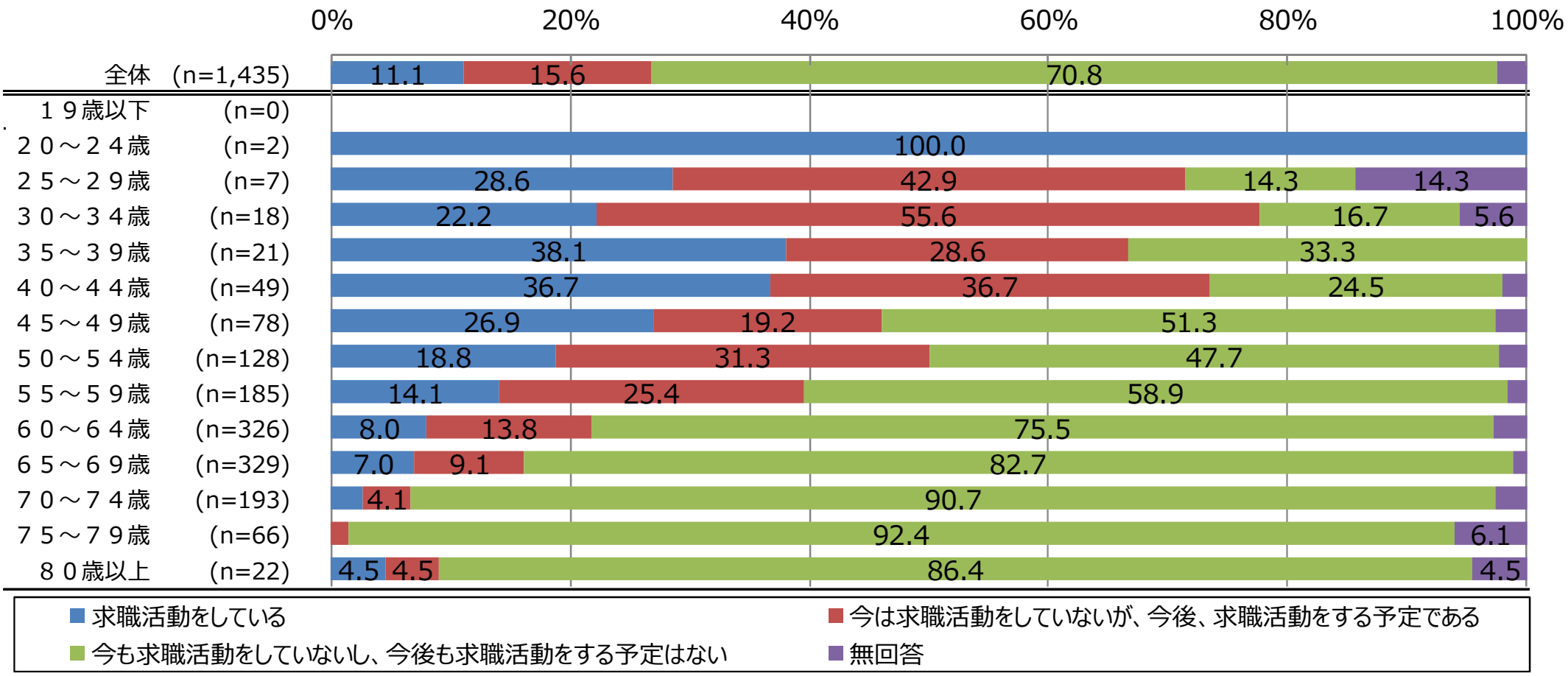
図表70　今の生活のままでいい理由（年齢階層別）



問３４　就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「５９歳以下」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「６０歳以上」の者では「求職活動する予定はない」の割合が高い。

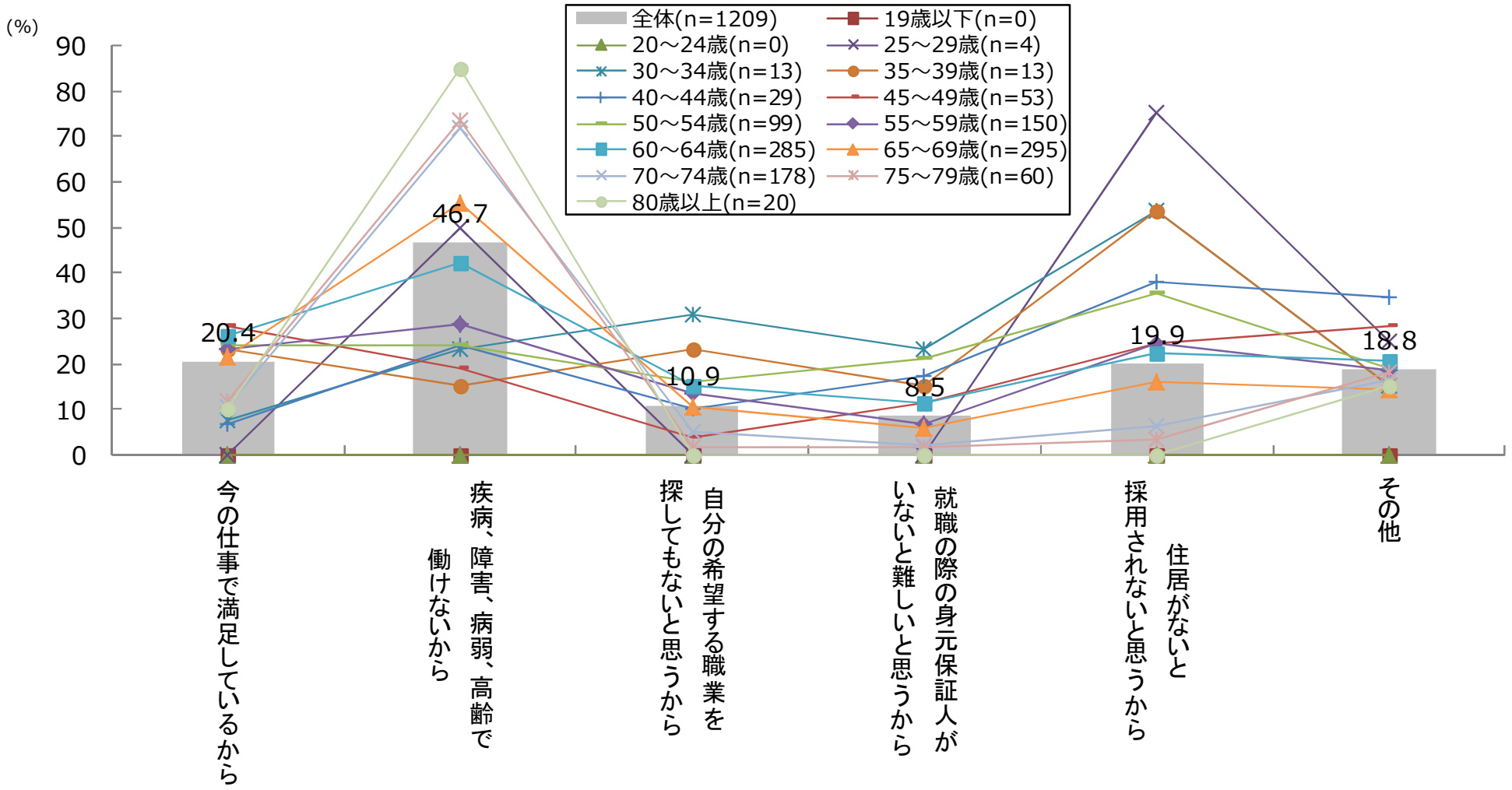
図表71　就職するための求職活動（年齢階層別）



問３４－２　求職活動をしていない理由（複数回答）

- 求職活動をしていない理由については、「３５～６４歳以下」の者では「今の仕事で満足しているから」の割合が高く、「３０～３９歳以下」の者では「自分の希望する職業を探してもないと思うから」及び「就職の際の身元保証人がいないと難しいと思うから」の割合が高く、「４４歳以下」の者では「住居がないと採用されないと思うから」の割合が高く、「６５歳以上」の者では「疾病、障害、病弱、高齢で働けないから」の割合が高い傾向にある。

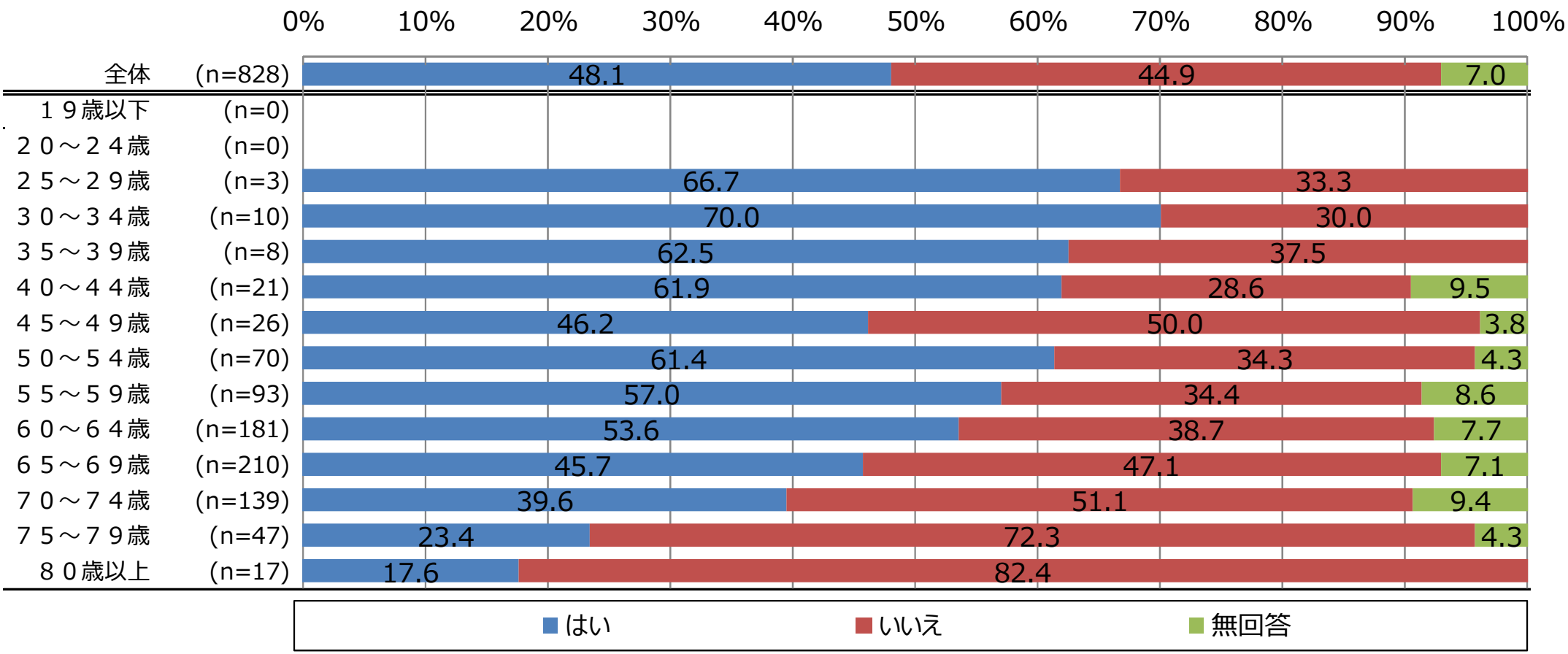
図表72　求職活動をしていない理由（複数回答）（年齢階層別）



問３４－３　軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向について、「４４歳以下」及び「５０～６４歳以下」の者では「はい」の割合が高く、「６５歳以上」の者では「はい」の割合が低い。

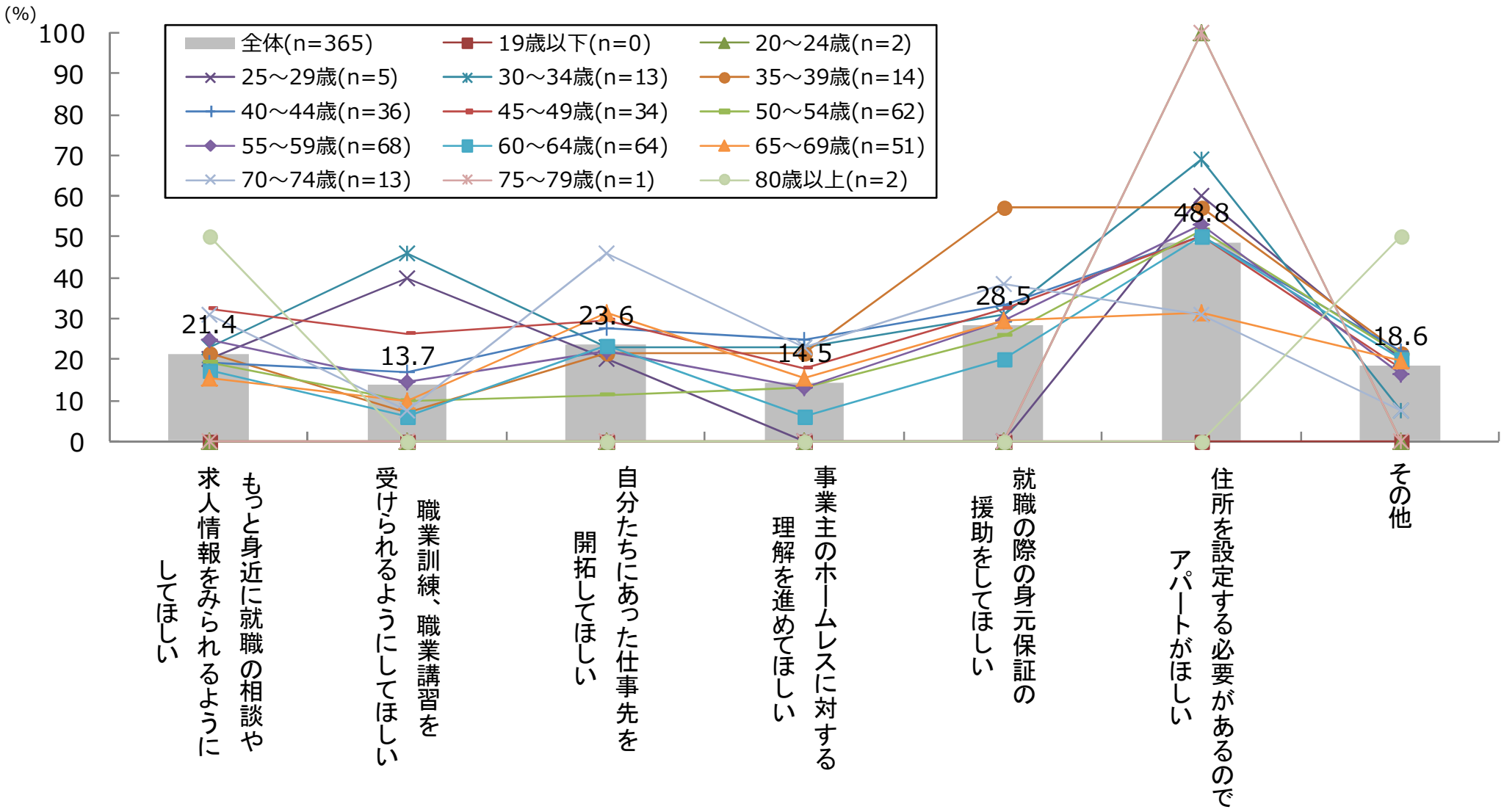
図表73　軽作業への参加意向（年齢階層別）



問３４－５　就職するために望む支援（複数回答）

- 就職するために望む支援については、「２５～３４歳以下」の者では「職業訓練、職業講習を受けられるようにしてほしい」の割合が高く、「３９歳以下」の者では「住所を設定する必要があるのでアパートがほしい」の割合が高く、「３５～３９歳以下」の者では「就職の際の身元保証人」の割合が高く、「６５歳以上」の者では「自分たちにあった仕事先を開拓してほしい」の割合が高い傾向にある。

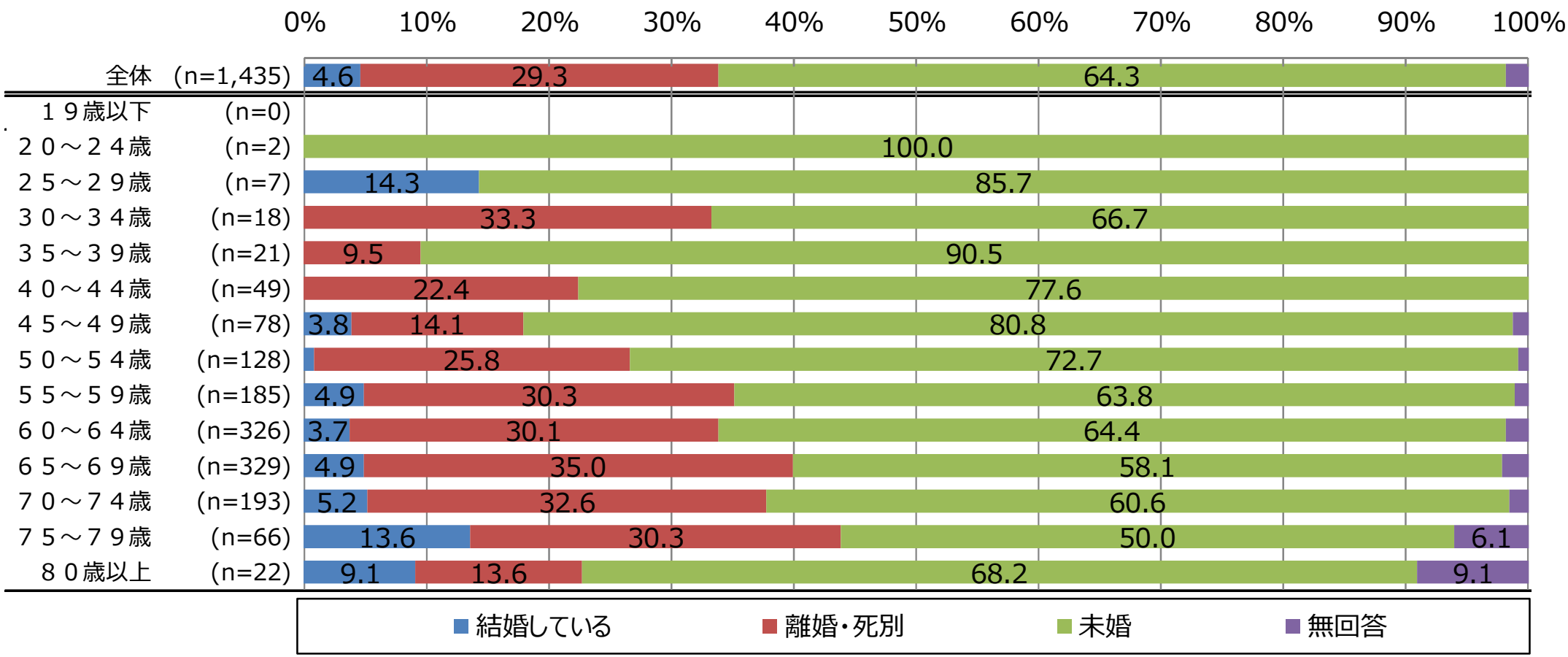
図表74　軽作業への参加意向（年齢階層別）



問３８　結婚

- 結婚については、「３０～３４歳以下」及び「５５歳以上」の者では「結婚歴のある人（「結婚している」＋「離別・死別」）」の割合が高くなる傾向にある。

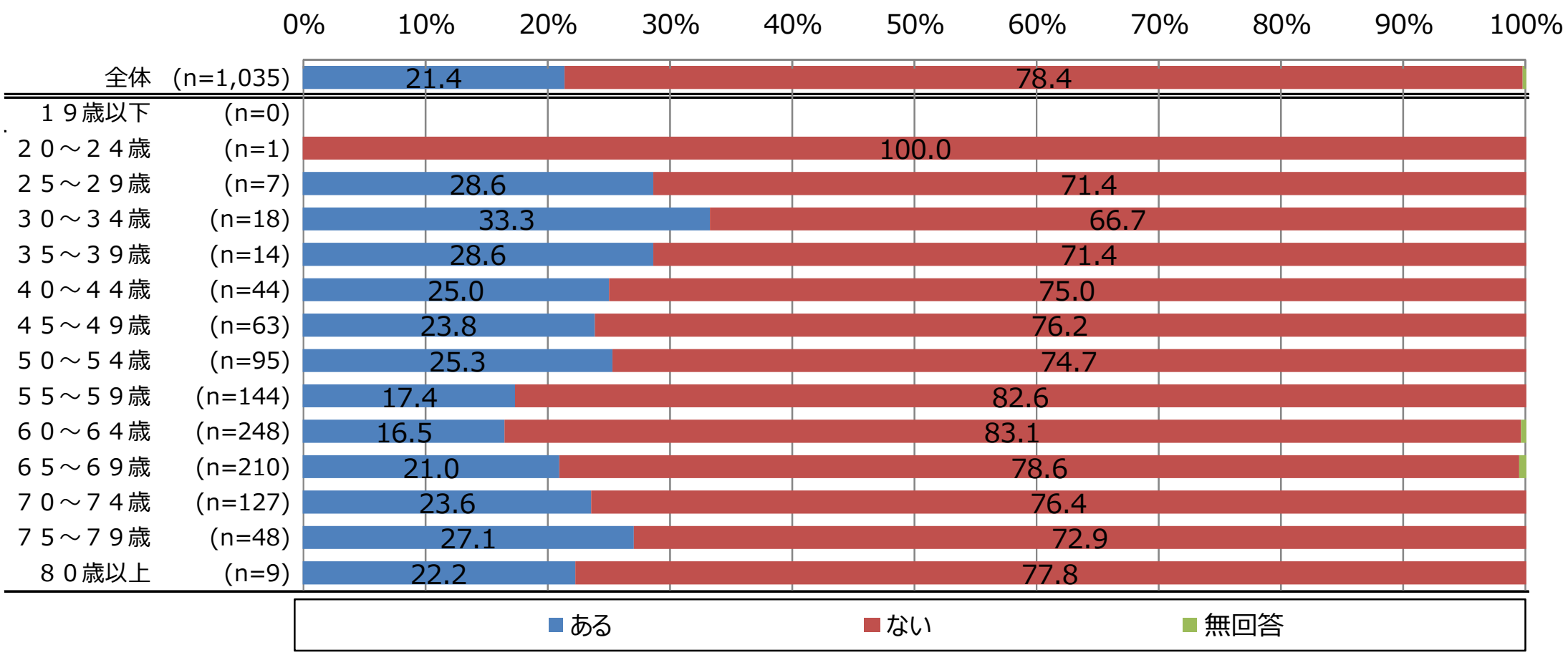
図表75　結婚（年齢階層別）



問３９－１　家族・親族との連絡

- 家族・親族との連絡については、「５４歳以下」及び「７０歳以上」の者では「ある」の割合が高く、「５５～６４歳以下」の者では「ない」の割合が高い傾向にある。

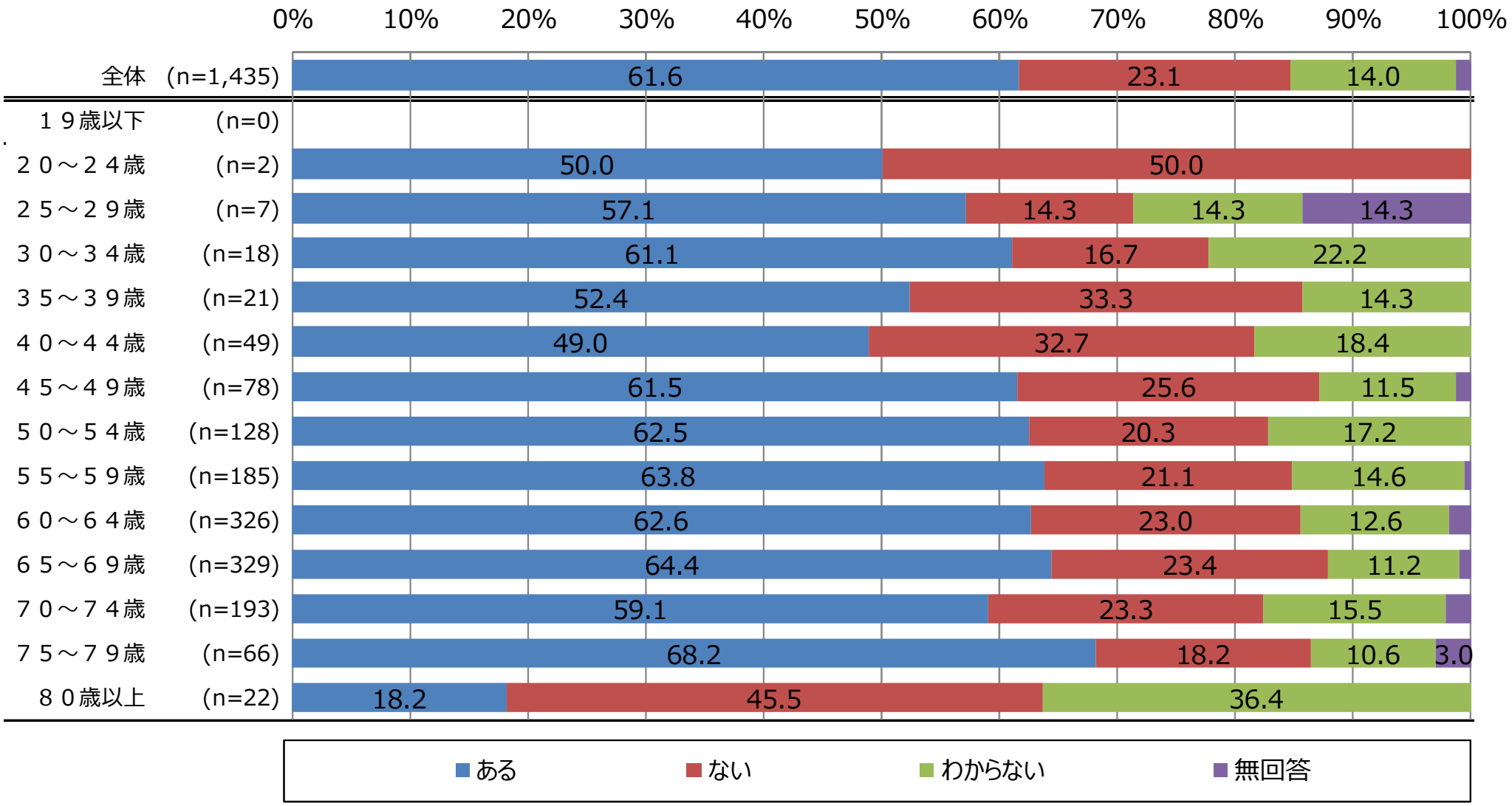
図表76　家族・親族との連絡（年齢階層別）



問４０　公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付について、「５０歳～６９歳以下」及び「７５～７９歳以下」の者では「ある」の割合が高い傾向にある。

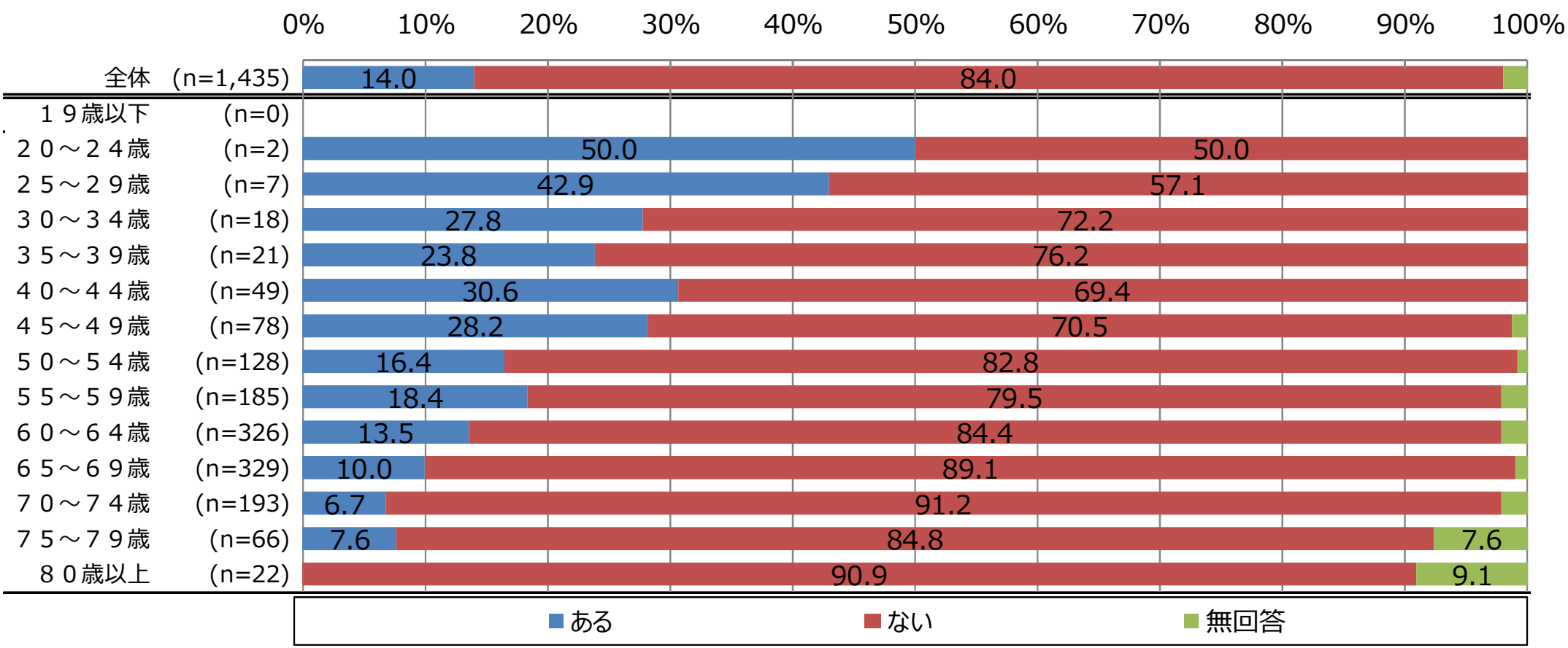
図表77　公的年金の保険料の納付（年齢階層別）



問４１　金融機関や消費者金融などに借金

- 金融機関や消費者金融からの借金については、年齢が下がることに伴って、「ある」の割合が高い傾向にあり、「５９歳以下」の者では「ある」の割合が高い。

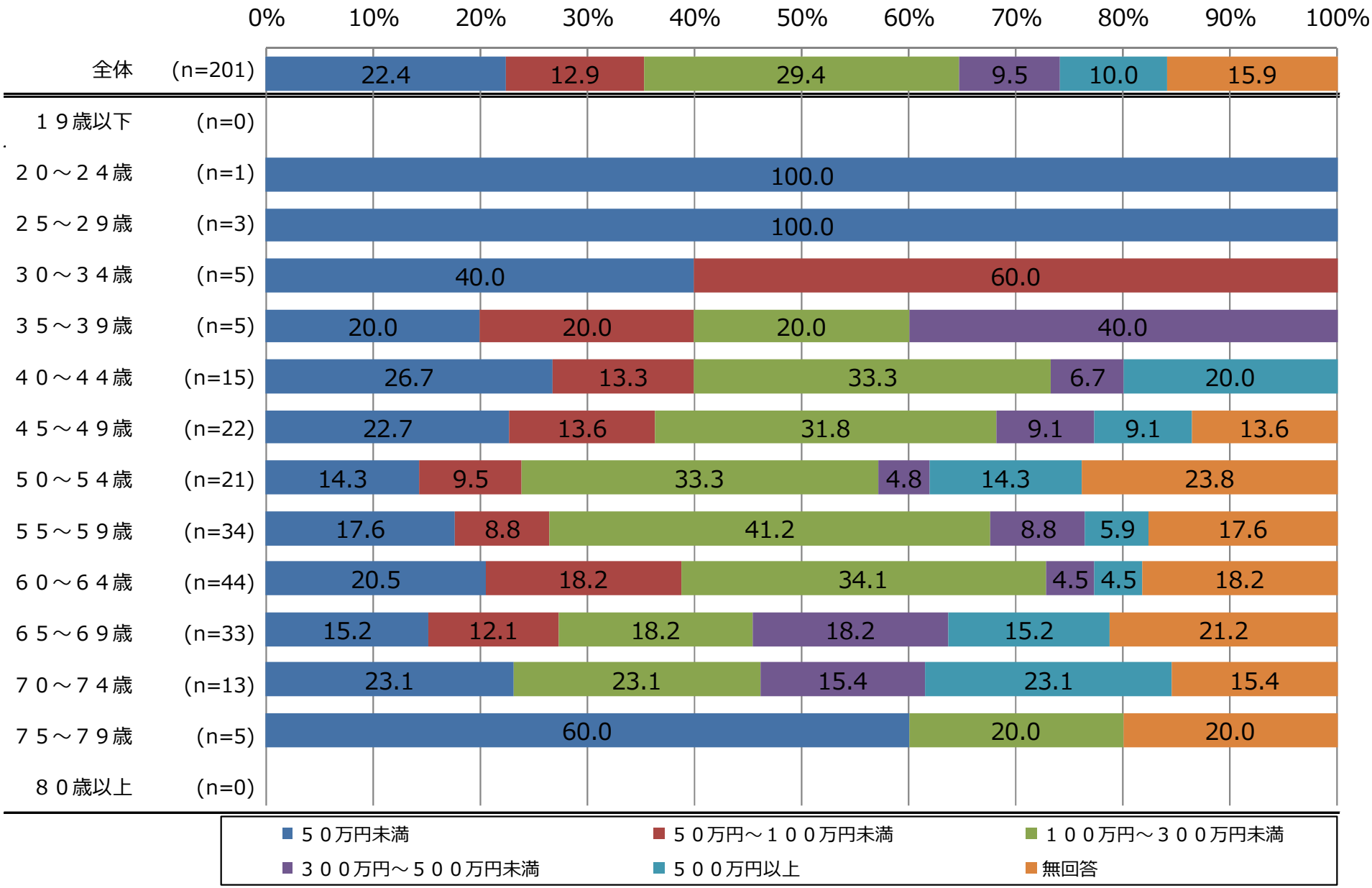
図表78　金融機関や消費者金融などに借金（年齢階層別）



問４１－１　借金の金額（円）

- 借金の金額については、年齢が上がることに伴って、借金の金額が高くなる傾向にある。

図表79　借金の金額（円）（年齢階層別）



（３）今回の路上生活期間別

<今回の路上生活期間別の傾向について>

（１）路上での生活

○　路上生活期間が長くなることに伴って、年齢も上がる傾向にある。

○　寝場所は、路上生活期間が３年を境に期間が長いほど一定の場所に決まっている割合が高い傾向にあり、具体的な寝場所としては、公園が全般に多いが、５年以上の者では河川が多くなる傾向にある。
　また、寝場所をつくる方法としては、路上生活期間が長いほどテント又は小屋を常設する者の割合が高く、路上生活期間が短いほどダンボール、簡易な敷物や寝場所をつくらない者の割合が高い傾向にある。

○　仕事は、３年以上の者で仕事により収入を得ている割合が高く、３年以上１０年未満の者で仕事による収入以外として年金収入の割合が高い傾向にある。

（２）福祉制度の周知・利用状況

○　シェルター、自立支援センターの周知度・利用度は、いずれも路上生活期間が短いほど割合が高く、シェルター、自立支援センターの利用意向は、いずれも路上生活期間が短いほど高い傾向にある。

○　生活保護は、３年未満の者で利用経験者の割合が高い傾向にあり、制度を利用しなかった理由は、路上生活期間が短い６ヶ月未満の者では「自分は利用できないと思っている」、６ヶ月以上の者では「利用したくない」といった生活保護の利用を肯定的に捉えていない割合が高い傾向にある。

（３）今後の生活

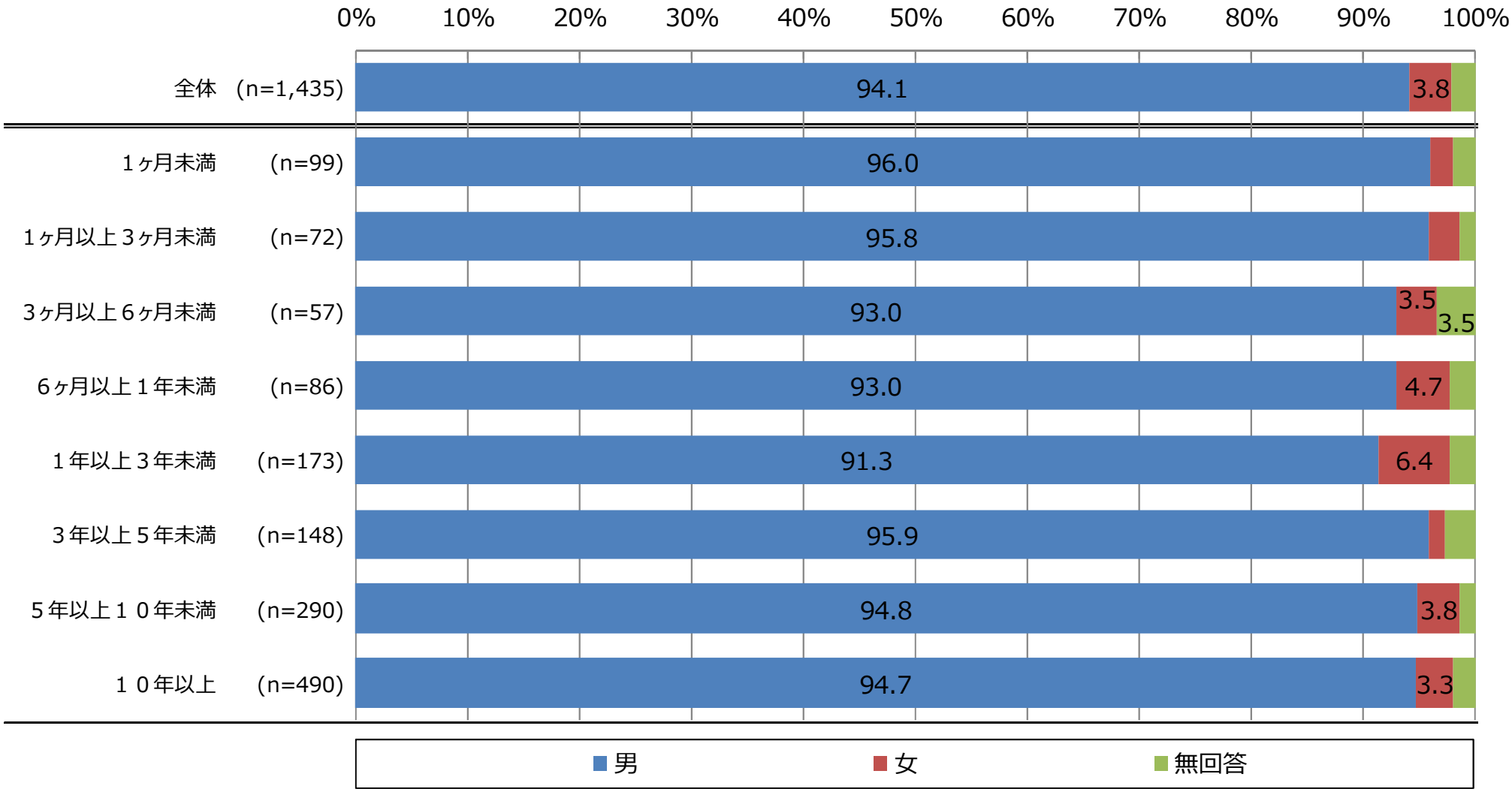
○　今後望んでいる生活は、１年未満の者ではアパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高く、１年以上の者で現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い傾向にある。

○　軽作業への参加意向については、全体では約５割の者が参加の意向を示し、路上生活期間が短いほど参加意欲が高い傾向にある。また、路上生活期間が１０年以上の者でも約４割の者が参加の意向を示している。

性別

- 性別については、「女性」が3.8%である一方で、「６ヶ月以上３年未満」の者では「女性」（全体：3.8%、６ヶ月～１年未満：4.7%、１～３年未満：6.4%）の割合が高い。

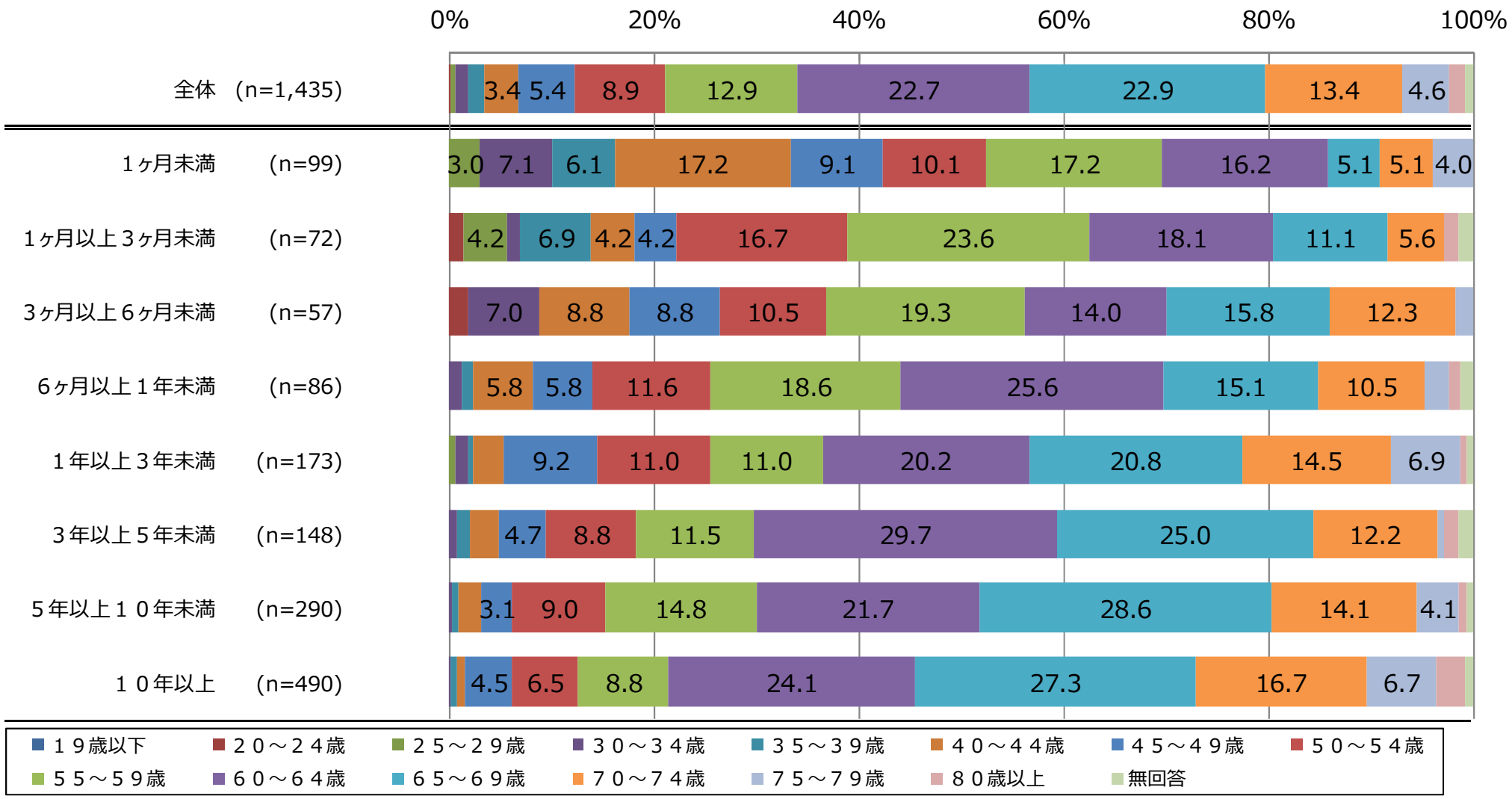
図表80　性別（今回の路上生活期間別）



年齢（歳）

- 年齢については、路上生活期間が長くなることに伴って、年齢も上がる傾向にあり、「１ヶ月未満」の者では「３０歳以上４４歳以下」の割合が高く、「１年未満」の者では「５５歳以上５９歳以下」の割合が高く、「３年以上５年未満」の者では「６０歳以上６４歳以下」の割合が高く、「５年以上」の者では「６５歳以上６９歳以下」の割合が高い。

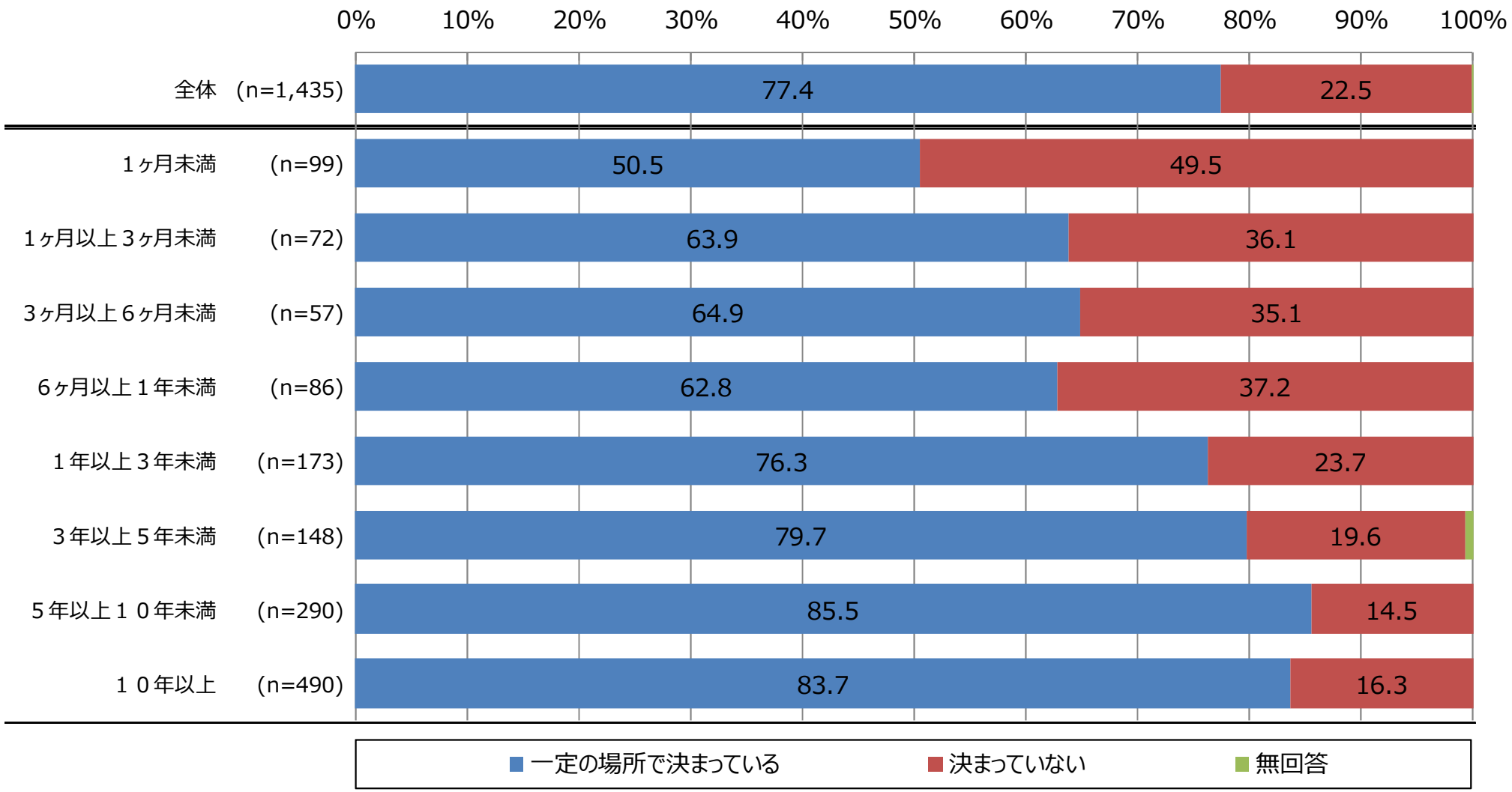
図表81　年齢（歳）（今回の路上生活期間別）



問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「１ヶ月未満」の者では「一定の場所で決まっている」の割合が低くなる傾向にある。

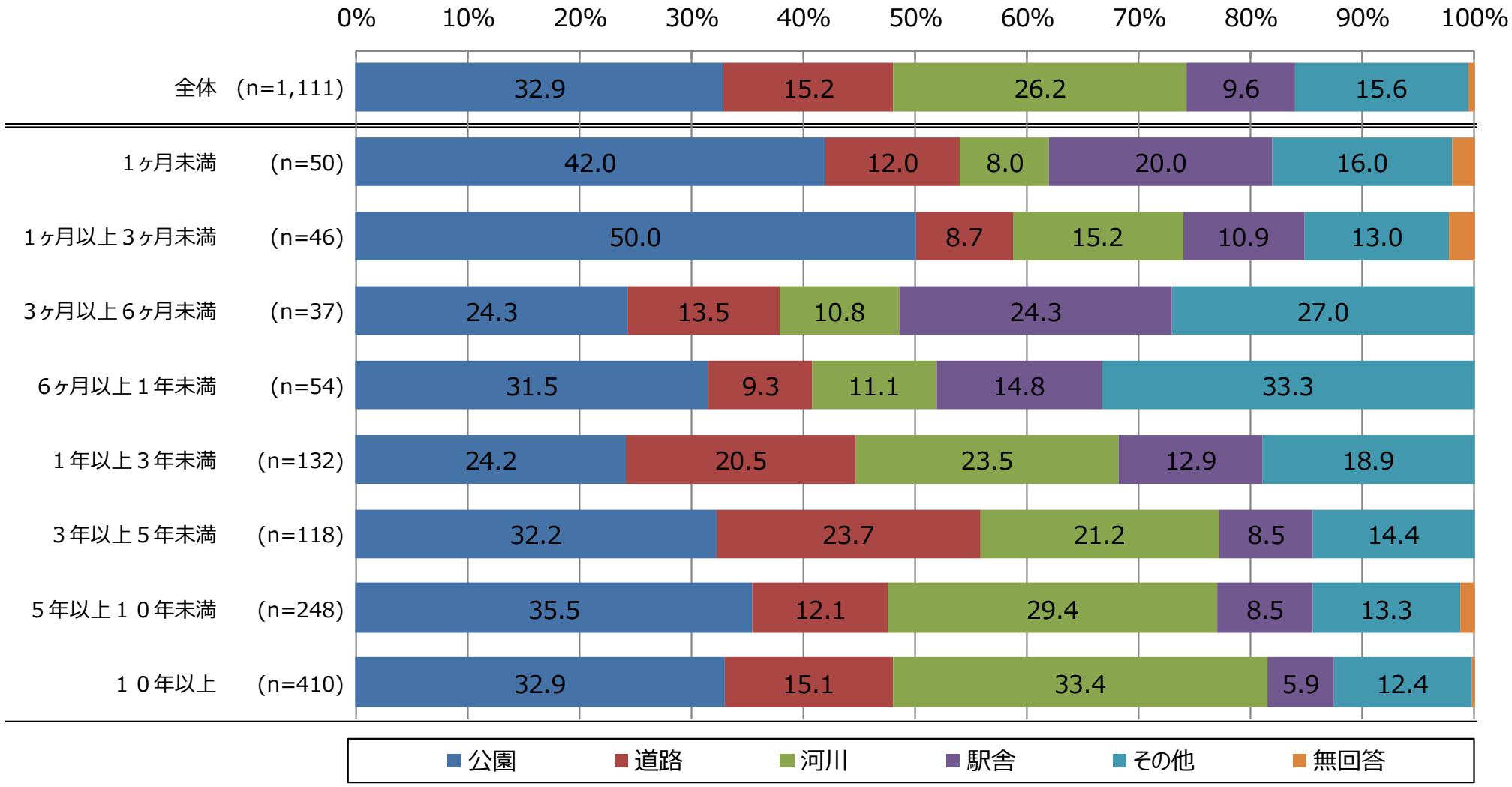
図表82　寝ている場所（今回の路上生活期間別）



問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所（具体的に）については、「３ヶ月未満」の者では「公園」の割合が高く、「３～６ヶ月未満」の者では「駅舎」の割合が高く、「１～５年未満」の者では「道路」の割合が高く、「５年以上」の者では「河川」の割合が高い。

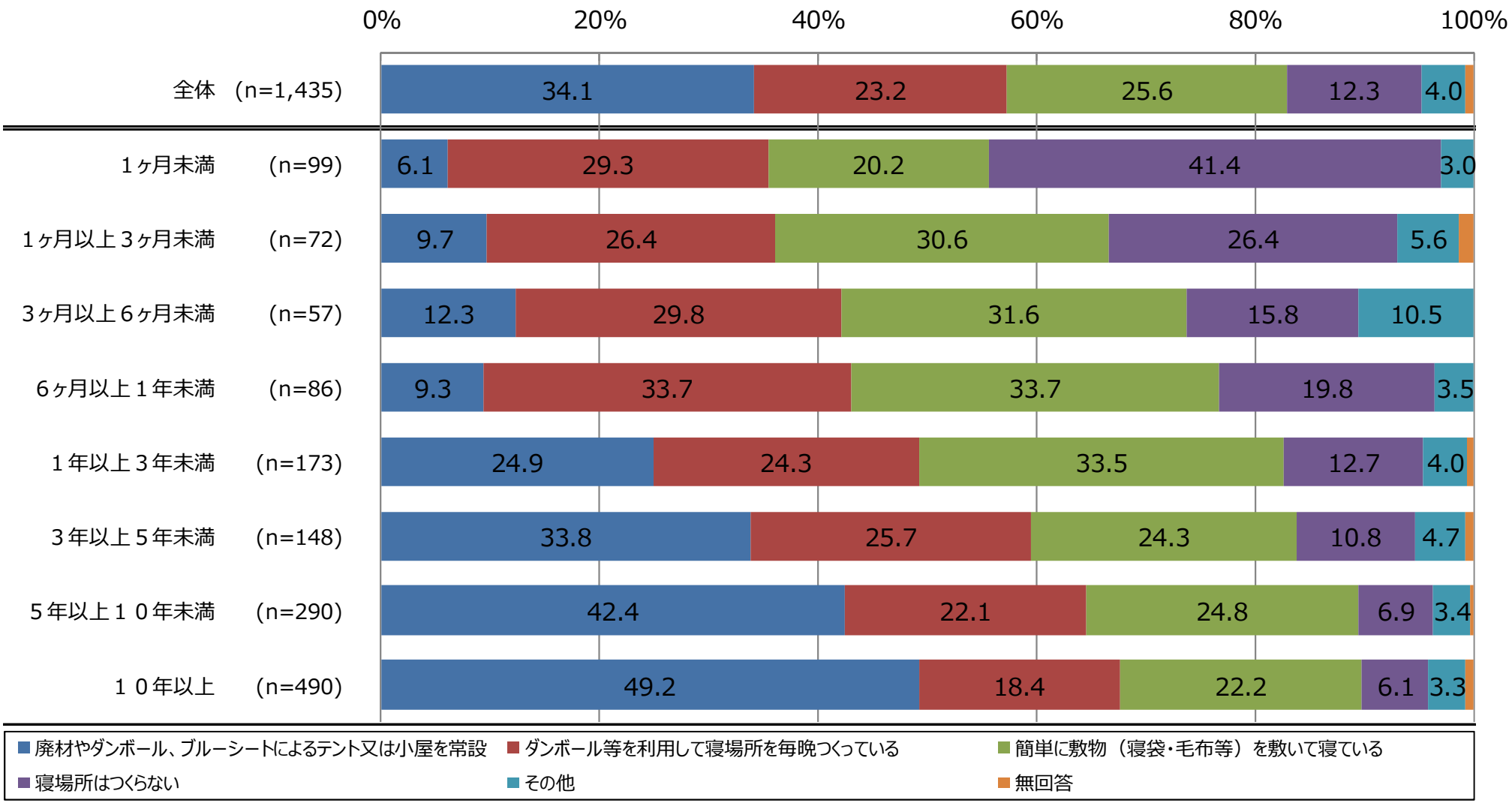
図表83　寝ている場所（具体的に）（今回の路上生活期間別）



問２　寝（野宿）場所をつくる方法

- 寝（野宿）場所をつくる場所については、路上生活期間が長くなることに伴って、「テント又は小屋を常設」の割合が高くなり、「寝場所はつくらない」の割合が低くなる傾向にある。
- 「３ヶ月未満」の者では「寝場所はつくらない」の割合が高く、「３ヶ月～１年未満」の者では「ダンボール等を利用」の割合が高く、「３ヶ月～３年未満」の者では「簡単に敷物を敷いて寝ている」の割合が高く、「５年以上」では「テント又は小屋を常設」の割合が高い。

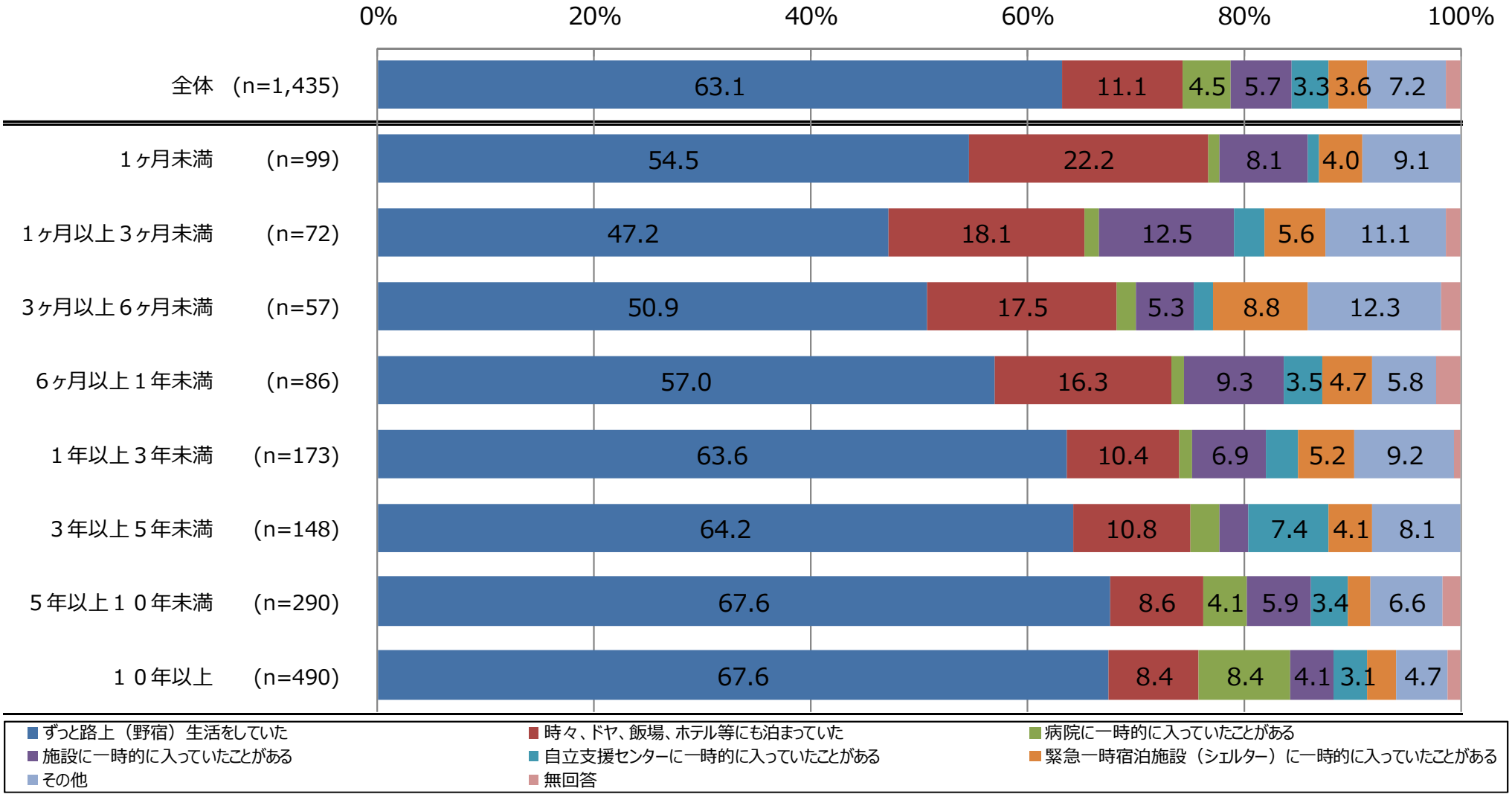
図表84　寝（野宿）場所をつくる方法（今回の路上生活期間別）



問４　今回の路上（野宿）生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、「１年以上」の者では「ずっと路上（野宿）生活をしていた」の割合が高く、「１年未満」の者では「時々、ドヤ、飯場、ホテル等にも泊まっていた」の割合が高くなる傾向にある。

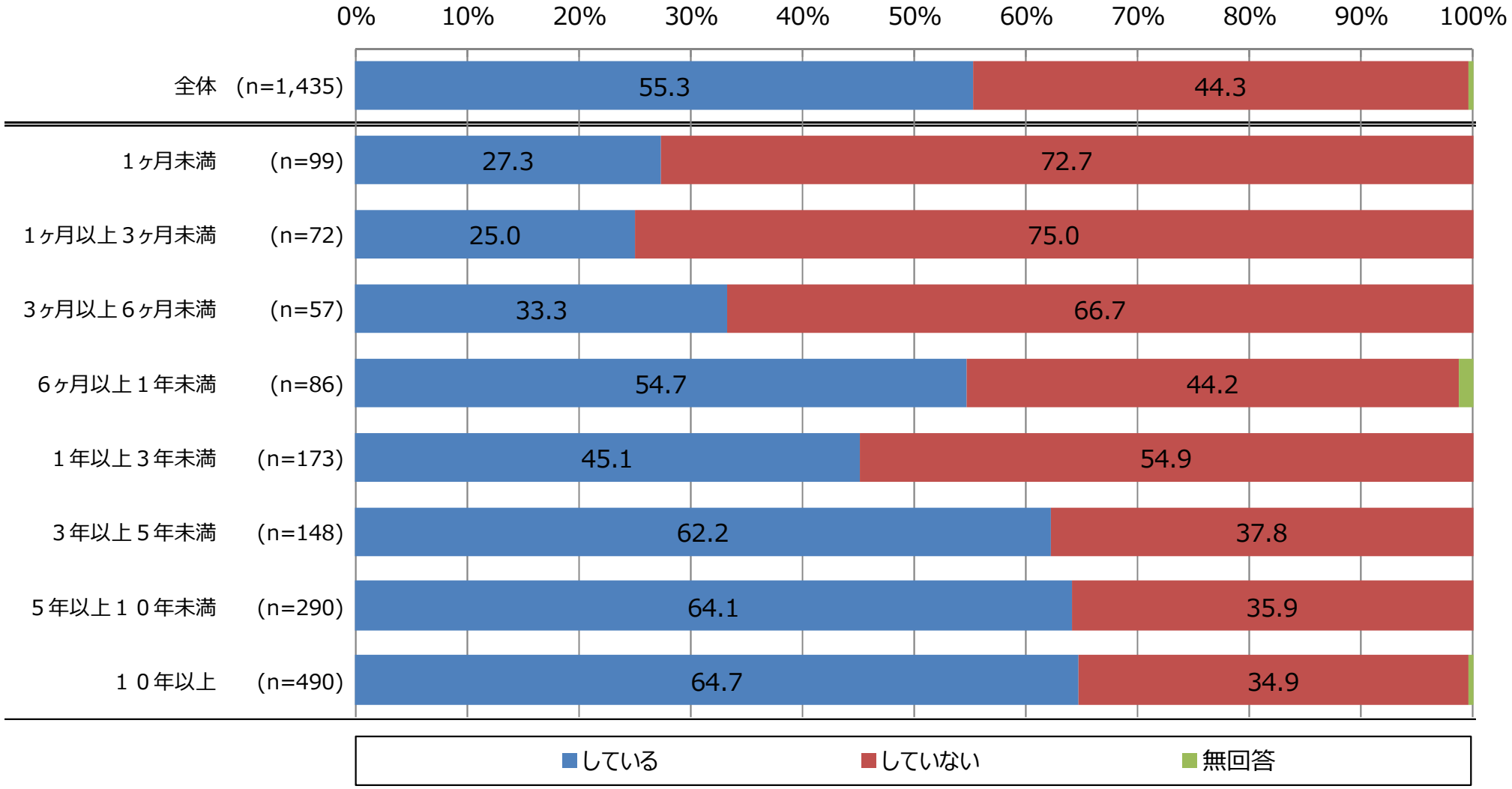
図表85　今回の路上（野宿）生活の継続について（今回の路上生活期間別）



問６　現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事については、「３年以上」の者では「している」の割合が高い。

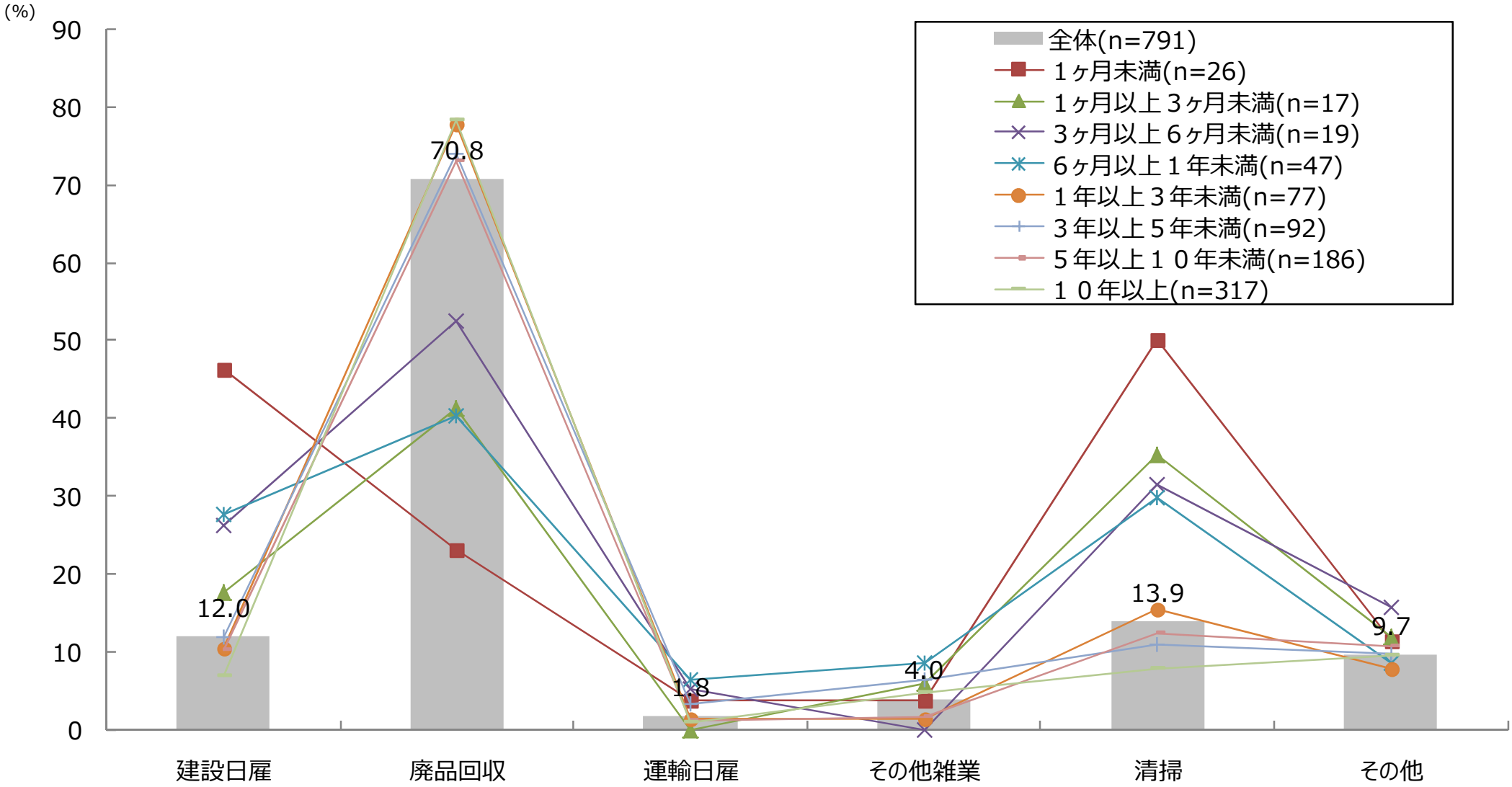
図表86　現在収入のある仕事（今回の路上生活期間別）



問６－１　仕事内容（複数回答）

- 仕事内容については、「１年未満」の者では「建設日雇」及び「清掃」の割合が高く、「１～３年未満」及び「１０年以上」の者では「廃品回収」の割合が高い。

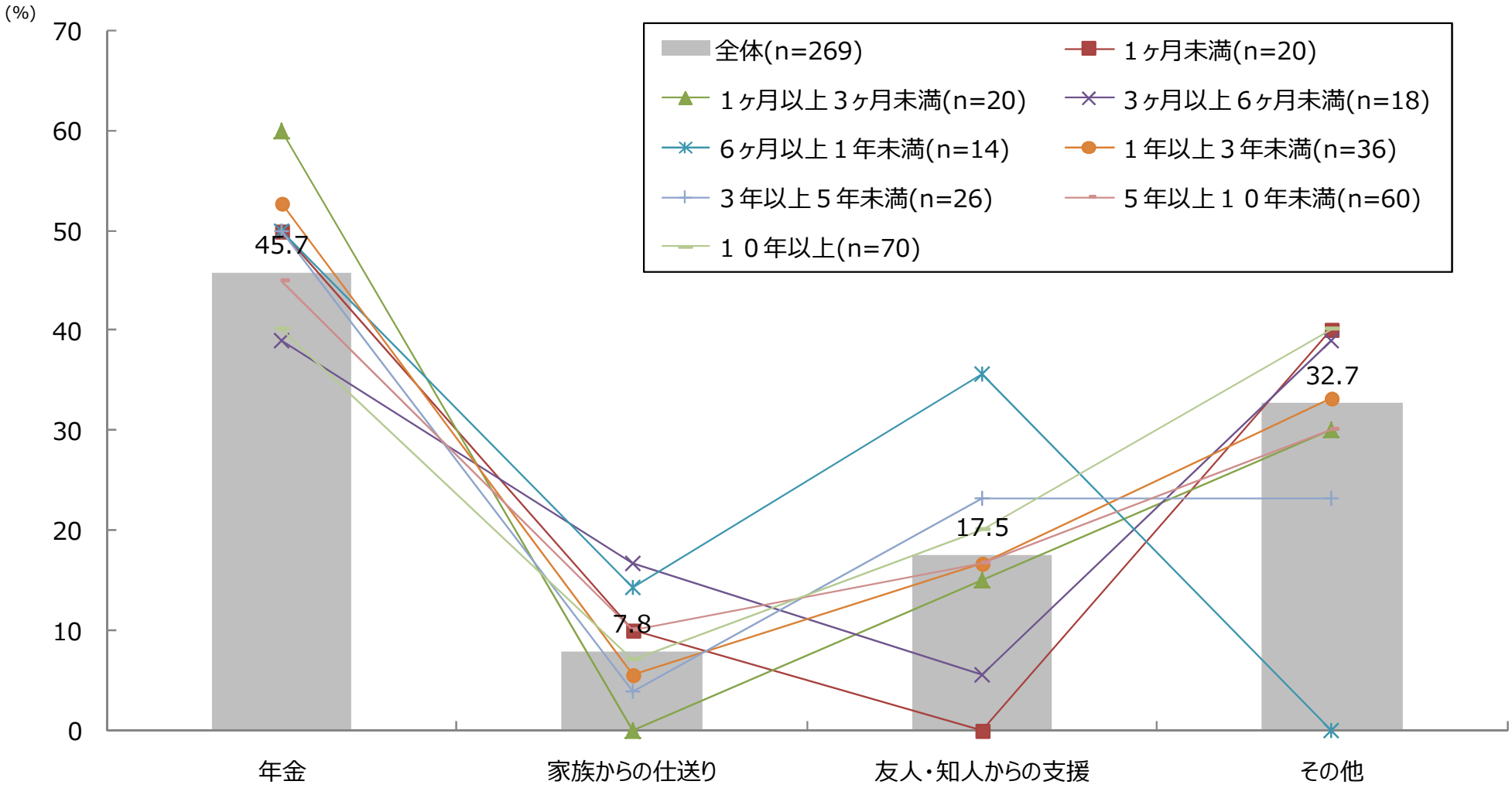
図表87　仕事内容（複数回答）（今回の路上生活期間別）



問７－１　仕事以外の収入の種類（複数回答）

- 仕事以外の収入の種類については、「１～３ヶ月未満」及び「１～３年未満」の者では「年金」の割合が高く、「６ヶ月～１年未満」の者では「友人・知人からの支援」の割合が高く、「３ヶ月～１年未満」の者では「家族からの仕送り」の割合が高い。

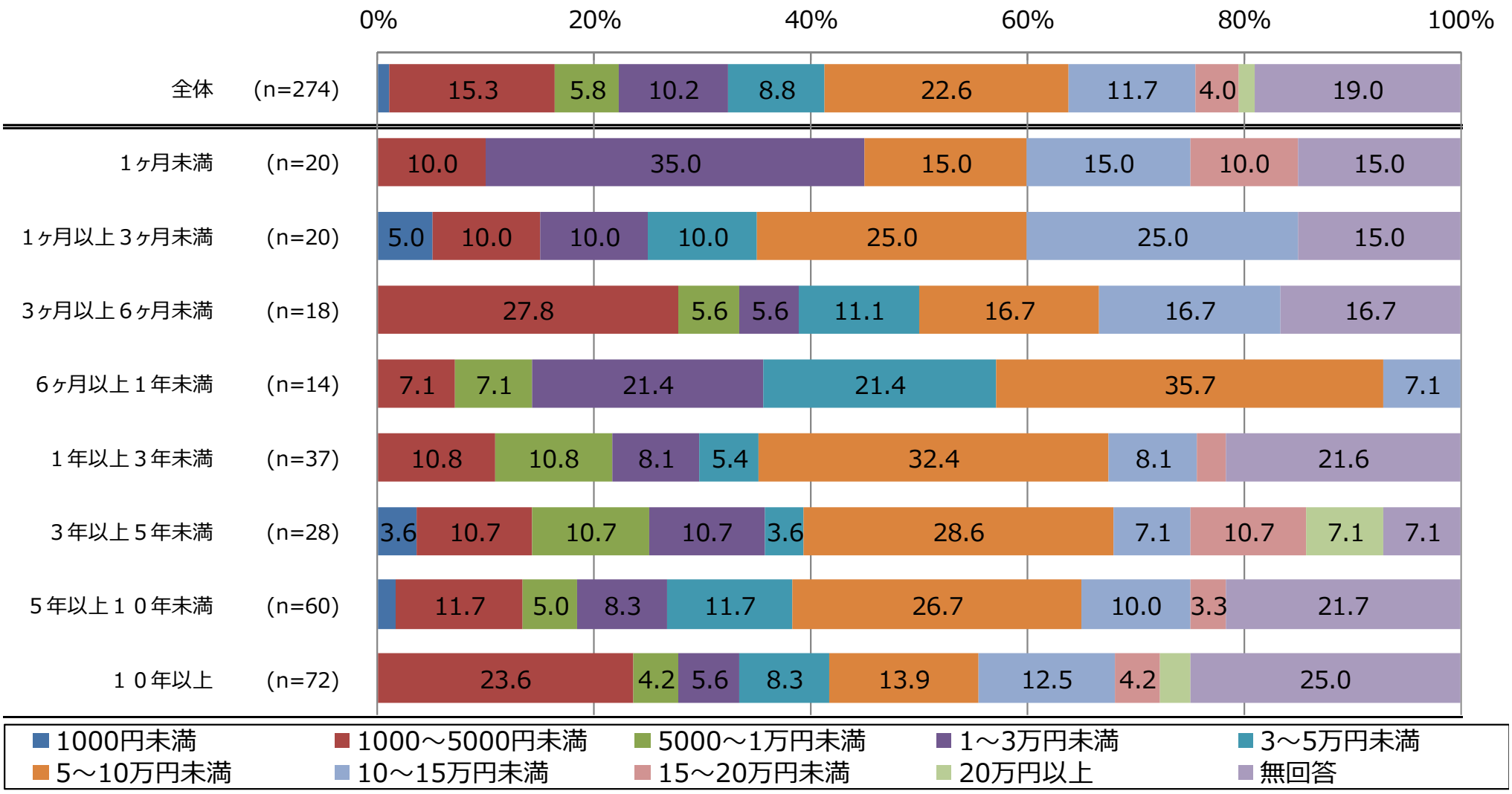
図表88　仕事以外の収入の種類（複数回答）（今回の路上生活期間別）



問７－２　仕事以外の平均収入（月額・円）

- 仕事以外の平均収入（月額）については、「１ヶ月未満」の者では「１～３万円未満」の割合が高く、「１～６ヶ月未満」の者では「１０～１５万円未満」の割合が高く、「６ヶ月～３年未満」の者では「５～１０万円未満」の割合が高く、「１０年以上」の者では、「１，０００～５，０００円未満」の割合が高い傾向にある。

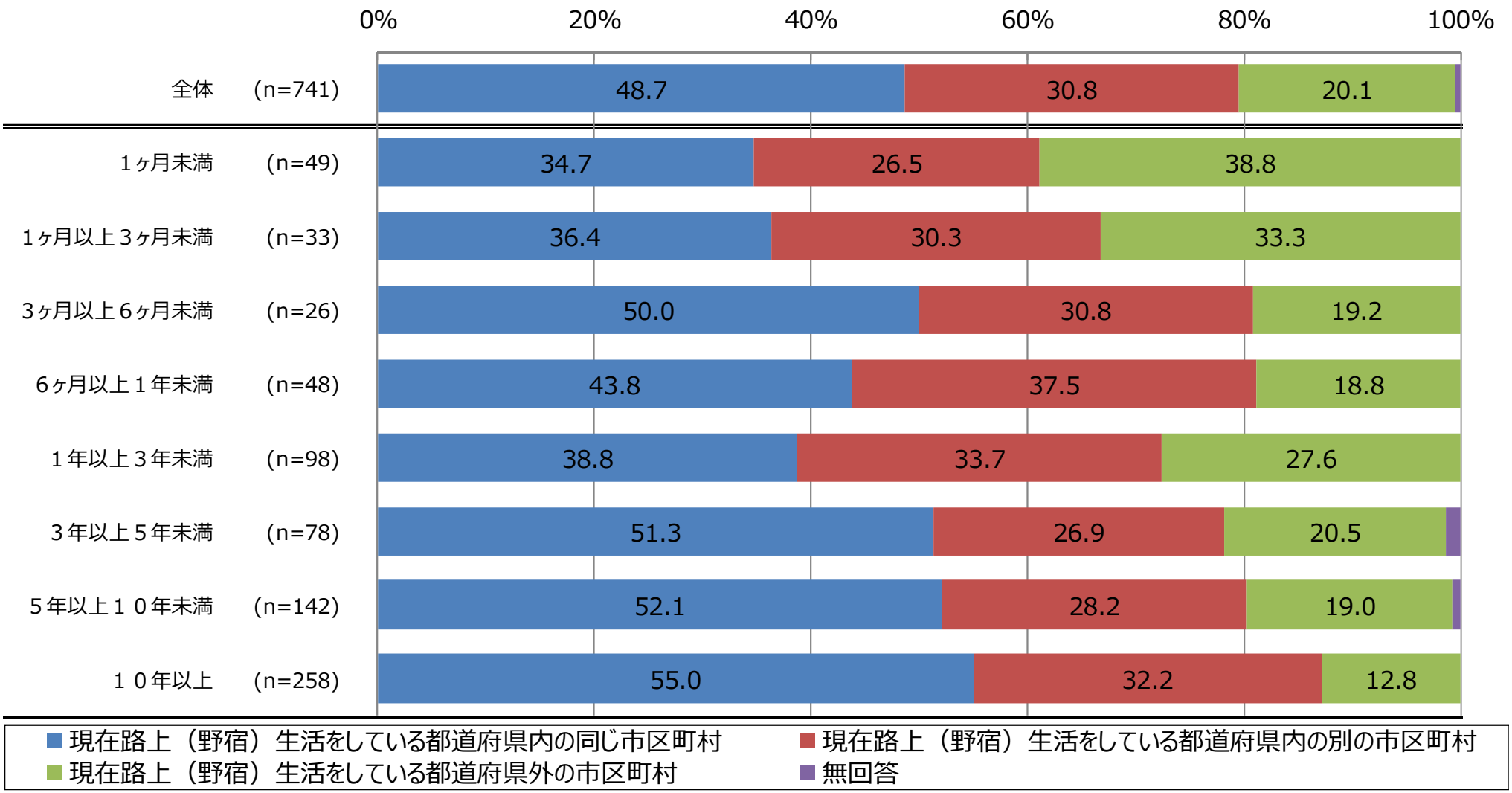
図表89　仕事以外の平均収入（月額・円）（今回の路上生活期間別）



問１６－１　別の路上（野宿）生活場所

- （別の路上（野宿）生活の経験がある人の）別の路上（野宿）生活場所については、「１０年以上」の者では「同じ市区町村」の割合が高く、「６ヶ月～３年未満」の者では「別の市区町村」の割合が高く、「３ヶ月未満」及び「１～３年未満」の者では「都道府県外」の割合が高くなる傾向にある。

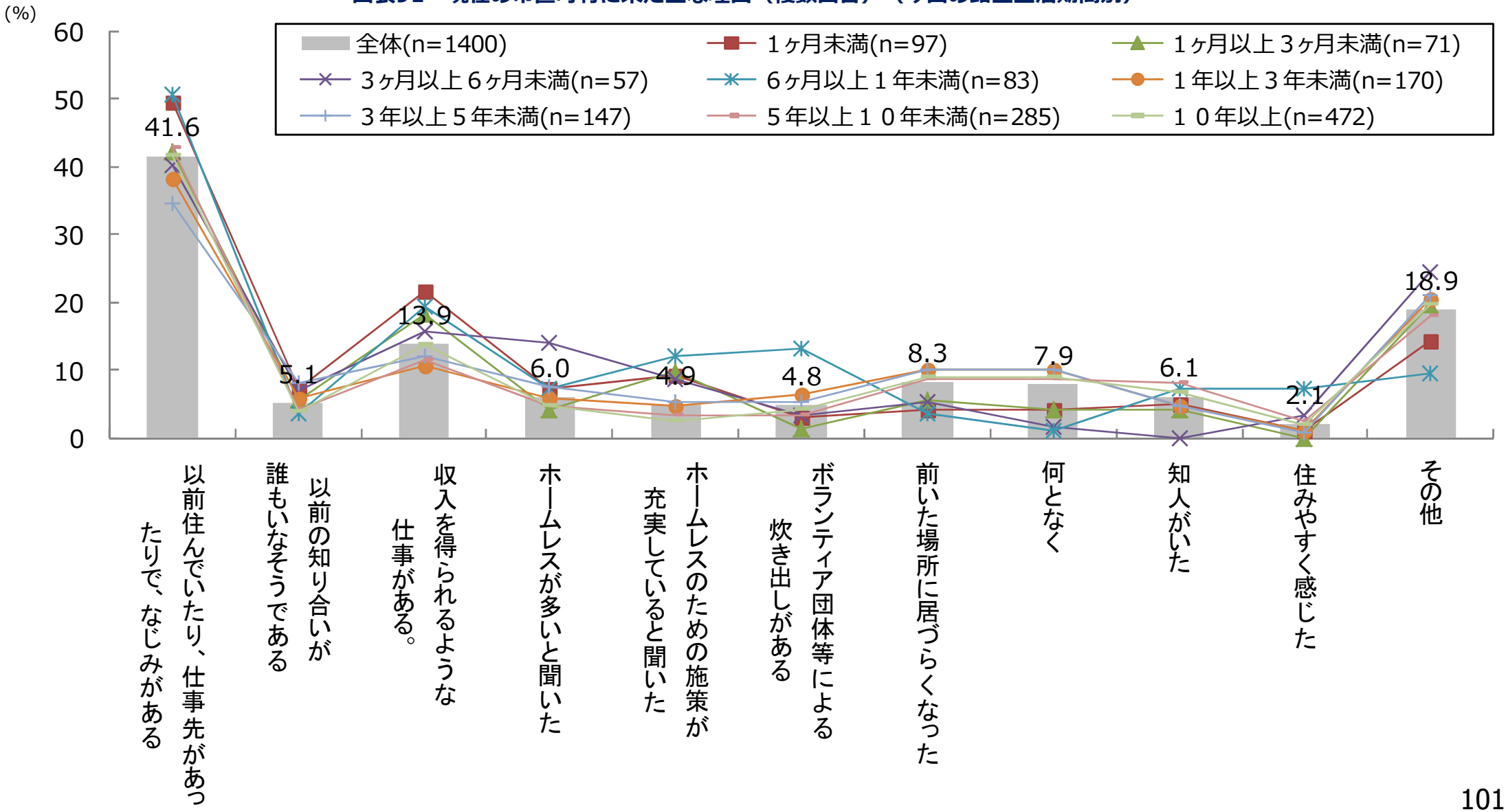
図表90　別の路上（野宿）生活場所（今回の路上生活期間別）



問１７　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「１ヶ月未満」及び「６ヶ月～１年未満」の者では「なじみがある」の割合が高い傾向にある。

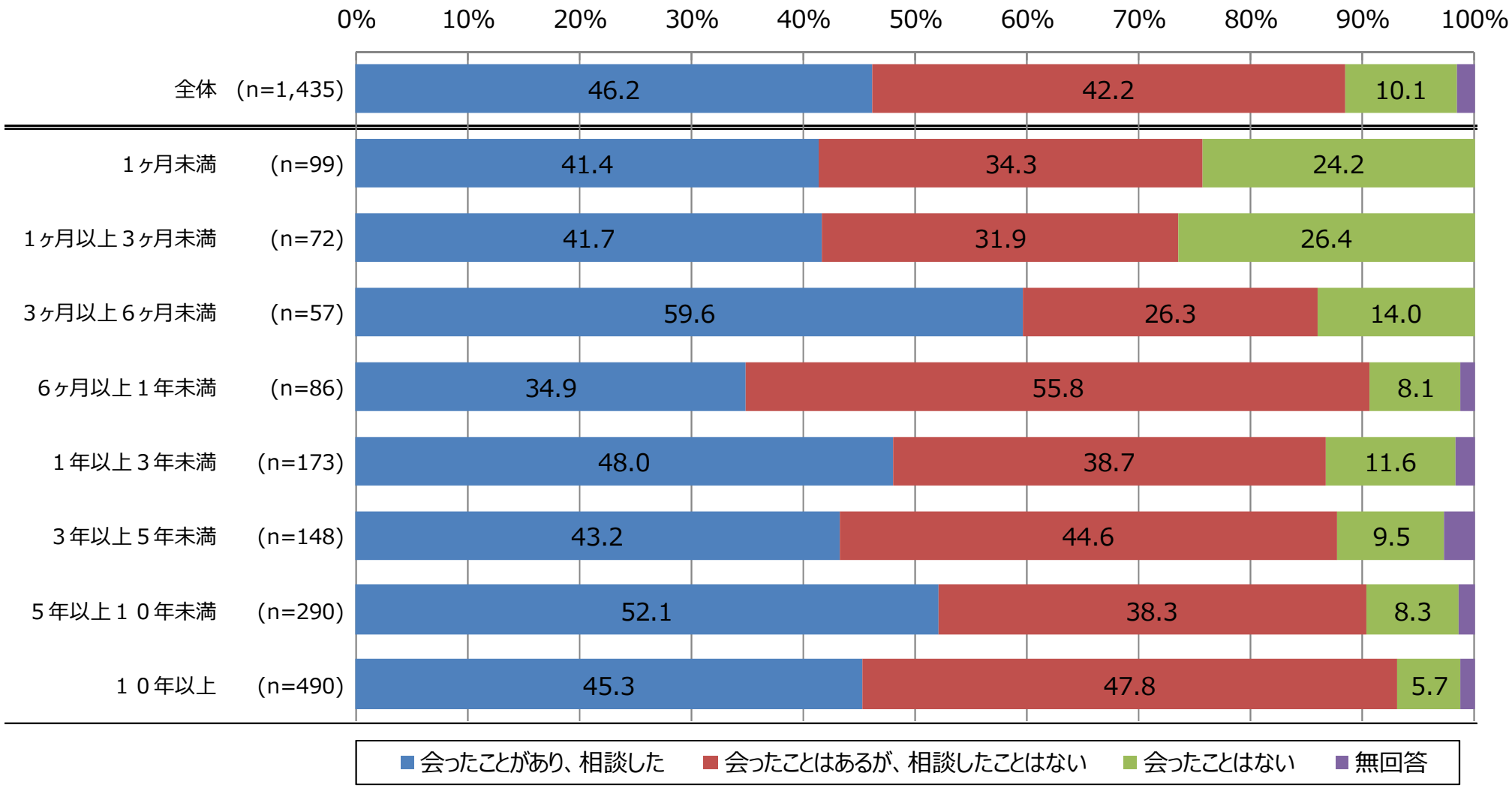
図表91　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）（今回の路上生活期間別）



問２５　巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「６ヶ月以上」の者では「（相談の有無によらず）会ったことがある」の割合が高い傾向にある。

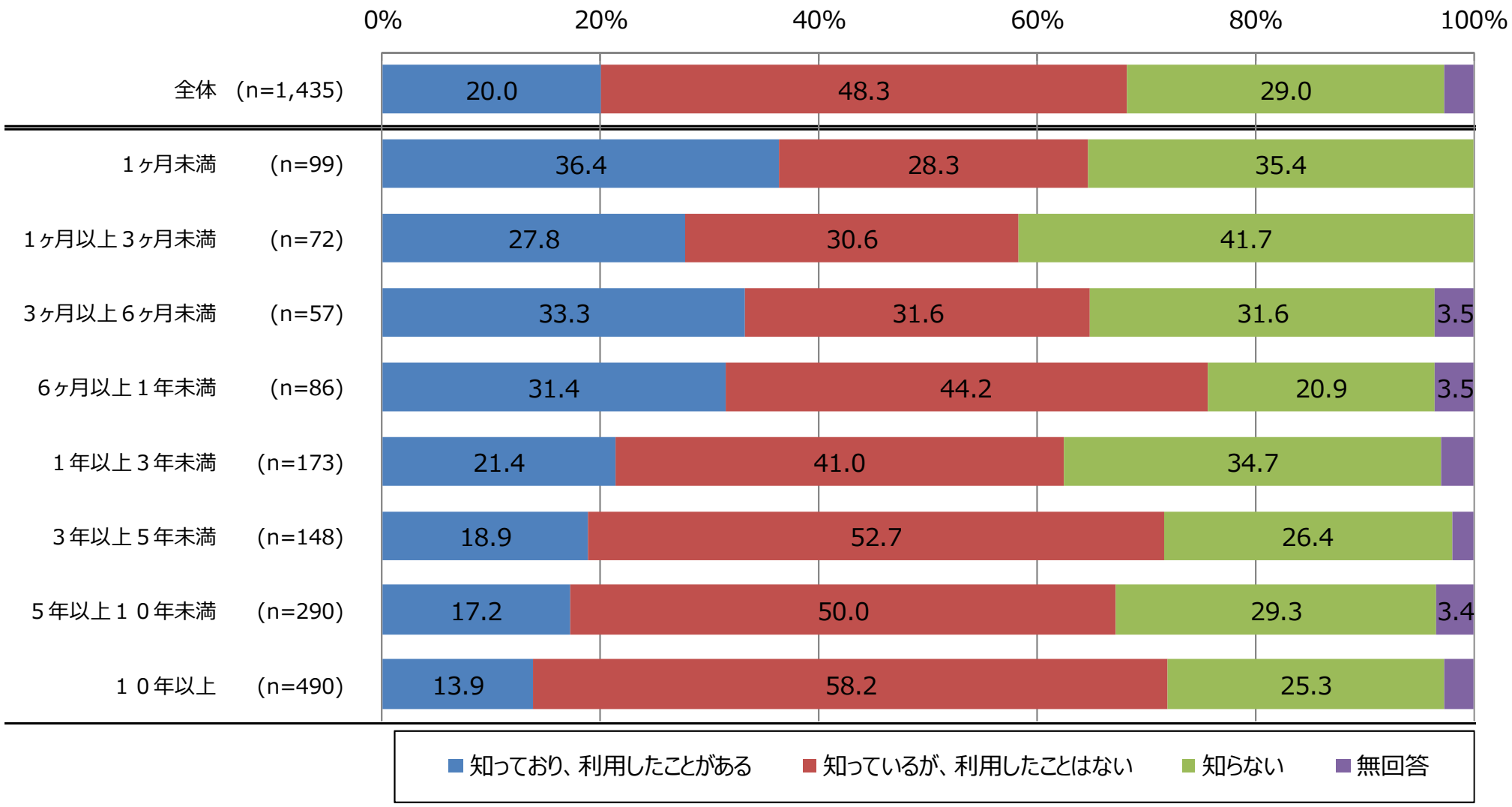
図表92　巡回相談員に会ったこと（今回の路上生活期間別）



問２６　シェルターの内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にあり、「１年未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い。

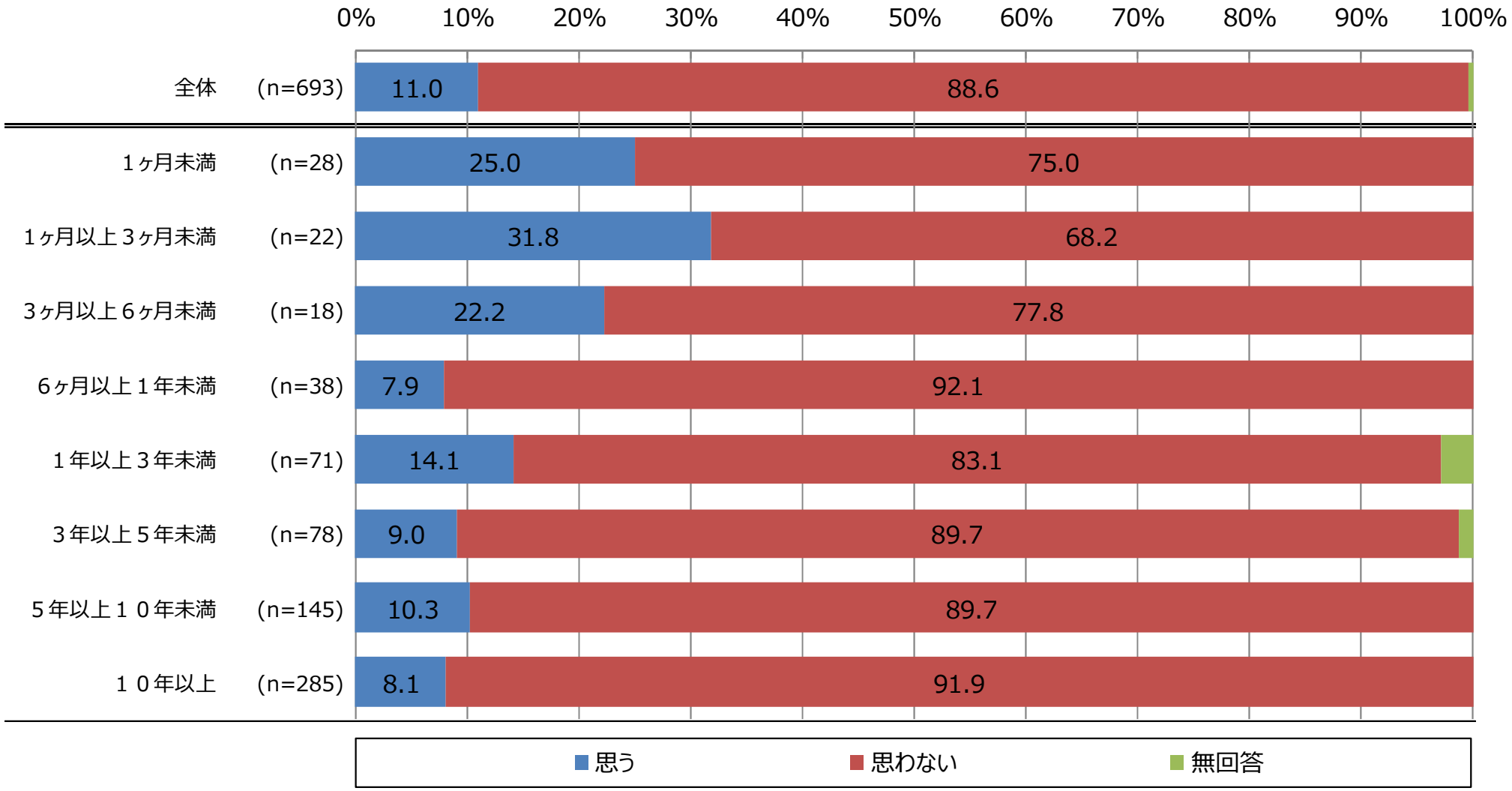
図表93　シェルターの内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問２６－１　シェルターの利用意向

- シェルターの利用意向については、今回の路上生活期間が短いほど、「思う」の割合が高い傾向にあり、「６ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高い。

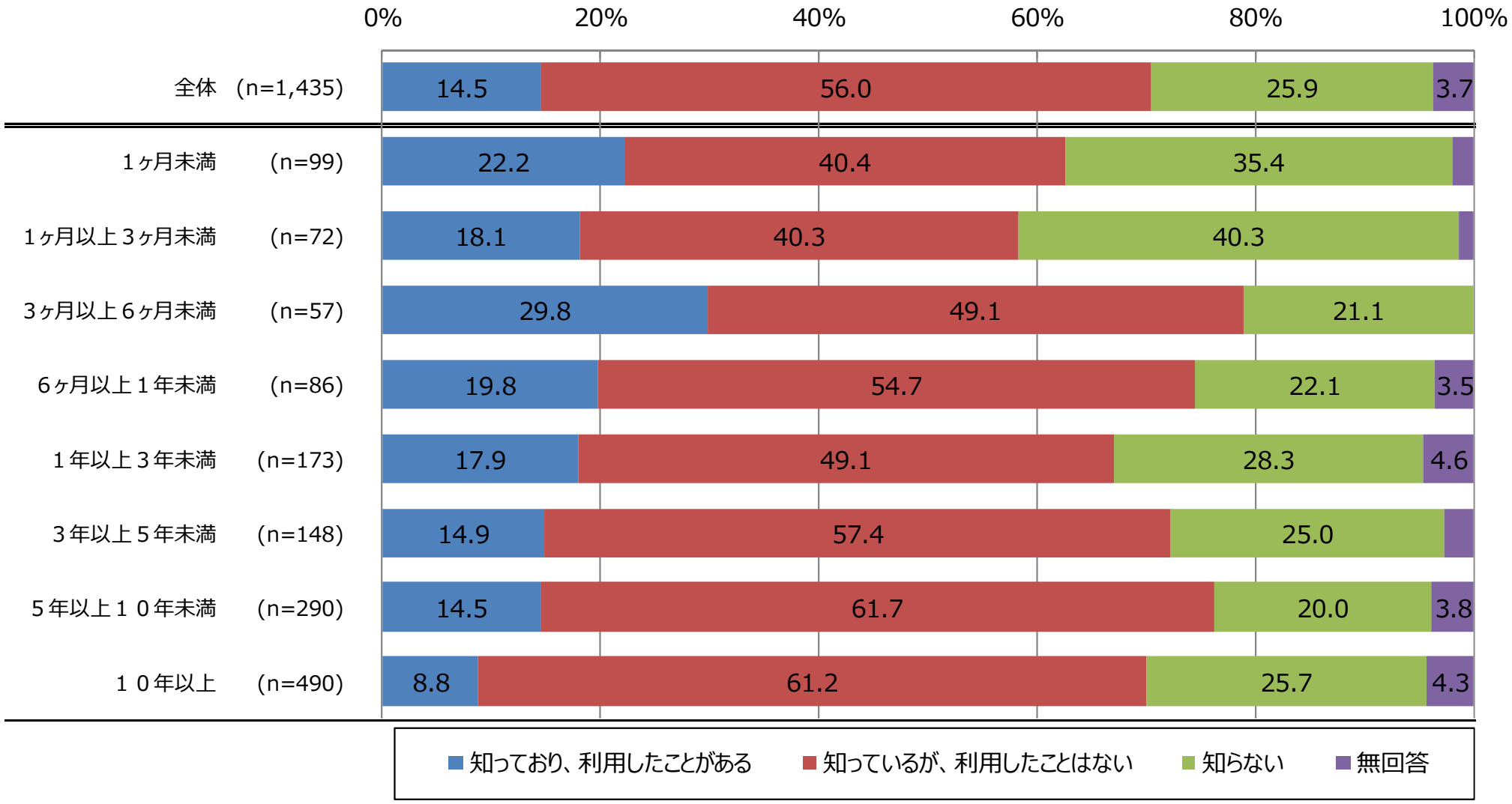
図表94　シェルターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問２７　自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、今回の路上生活期間が短いほど、「知っており、利用したことがある」の割合が高い傾向にあり、「１ヶ月未満」及び「３～６ヶ月未満」の者では「利用したことがある」の割合が高い。

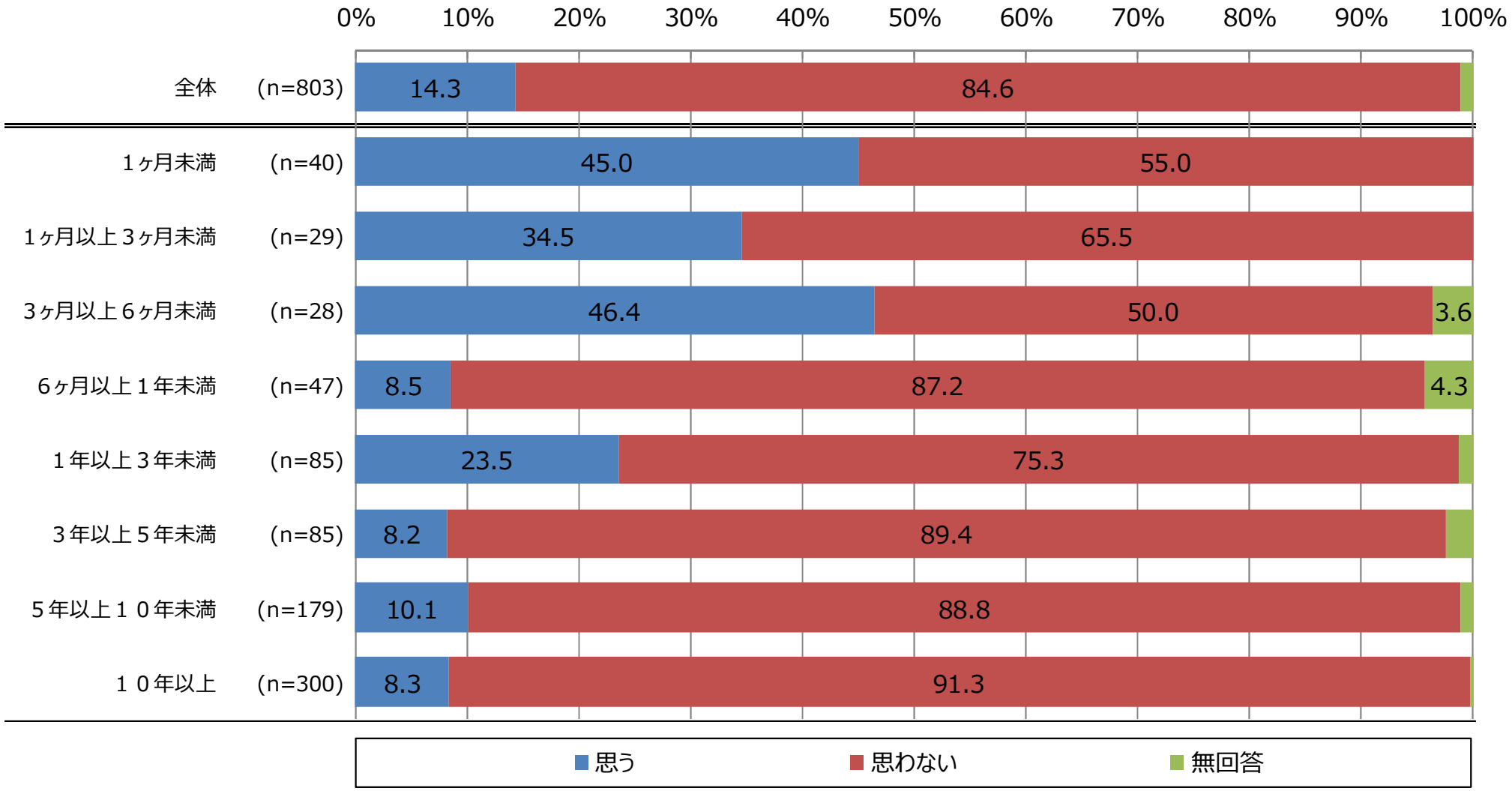
図表95　自立支援センターの内容の認知度・利用度（今回の路上生活期間別）



問２７－４　自立支援センターの利用意向

- 自立支援センターの利用意向については、「６ヶ月未満」の者では「思う」の割合が高く、「３年以上」の者では「思う」の割合が低い。

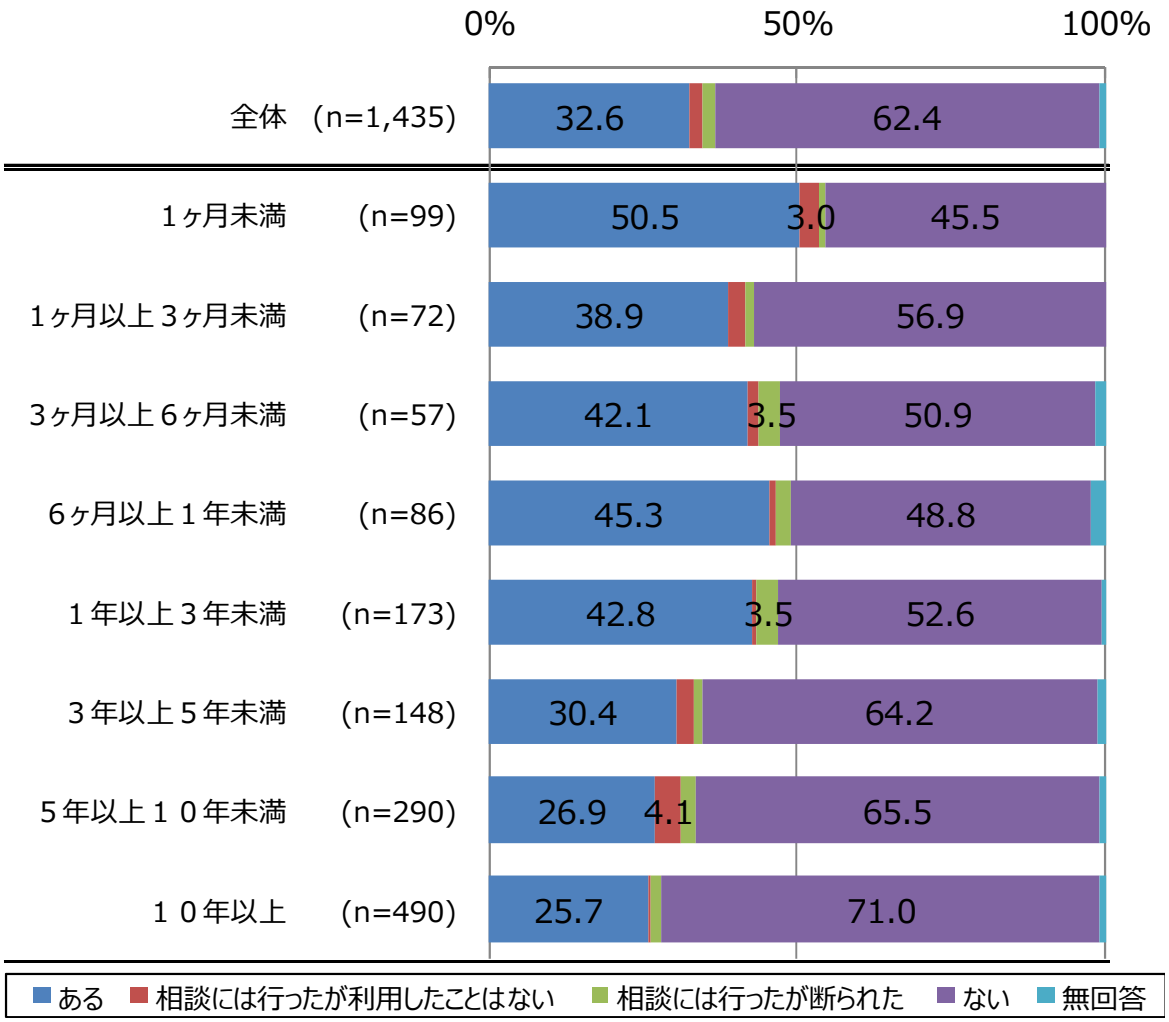
図表96　自立支援センターの利用意向（今回の路上生活期間別）



問２９　生活保護制度の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「３年未満」の者では「ある」の割合が高い傾向にある。

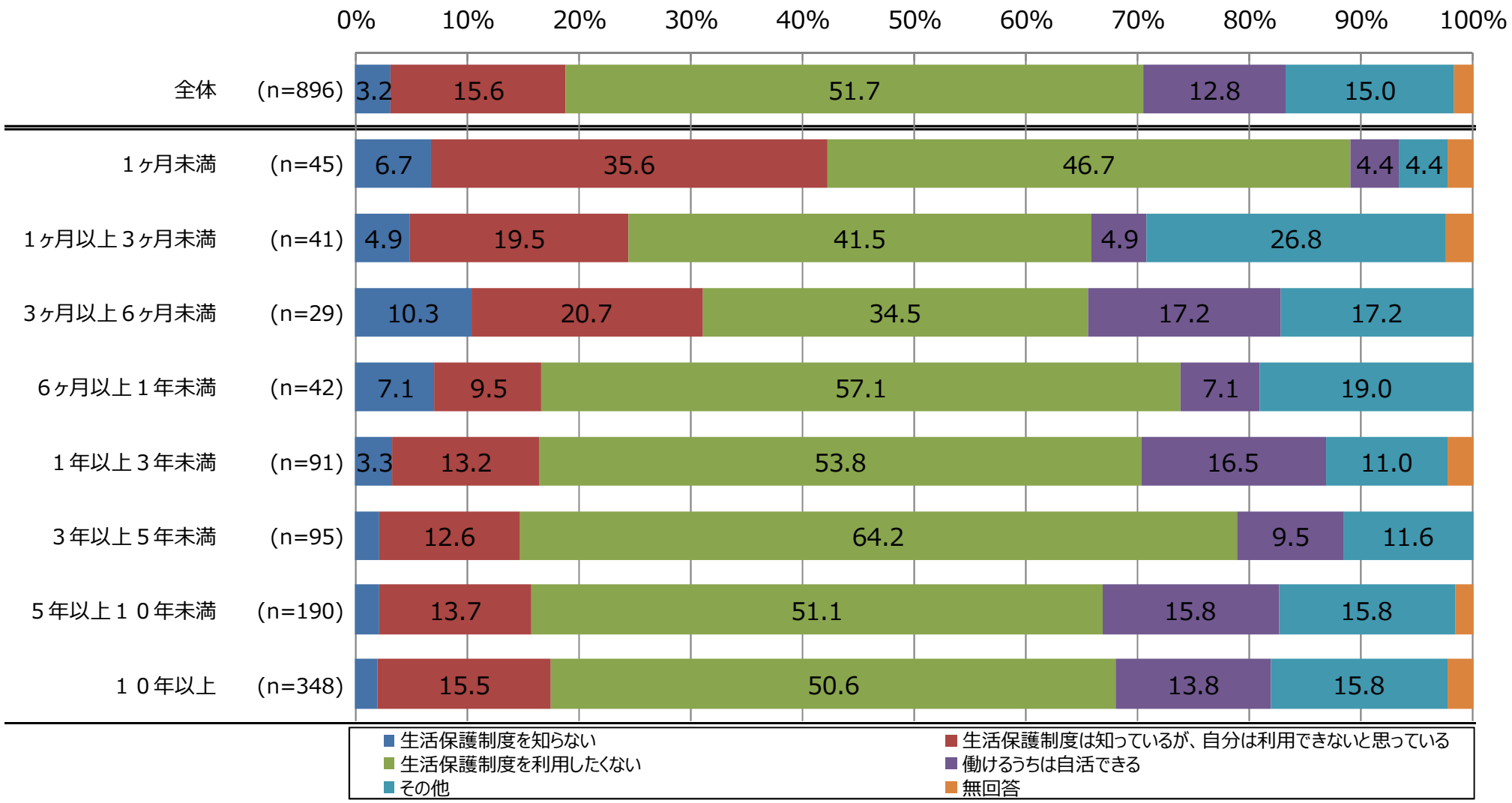
図表97　生活保護制度の利用経験（今回の路上生活期間別）



問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「６ヶ月未満」の者では「自分は利用できないと思っている」の割合が高く、「６ヶ月以上」の者では「生活保護制度を利用したくない」の割合が高い傾向にある。

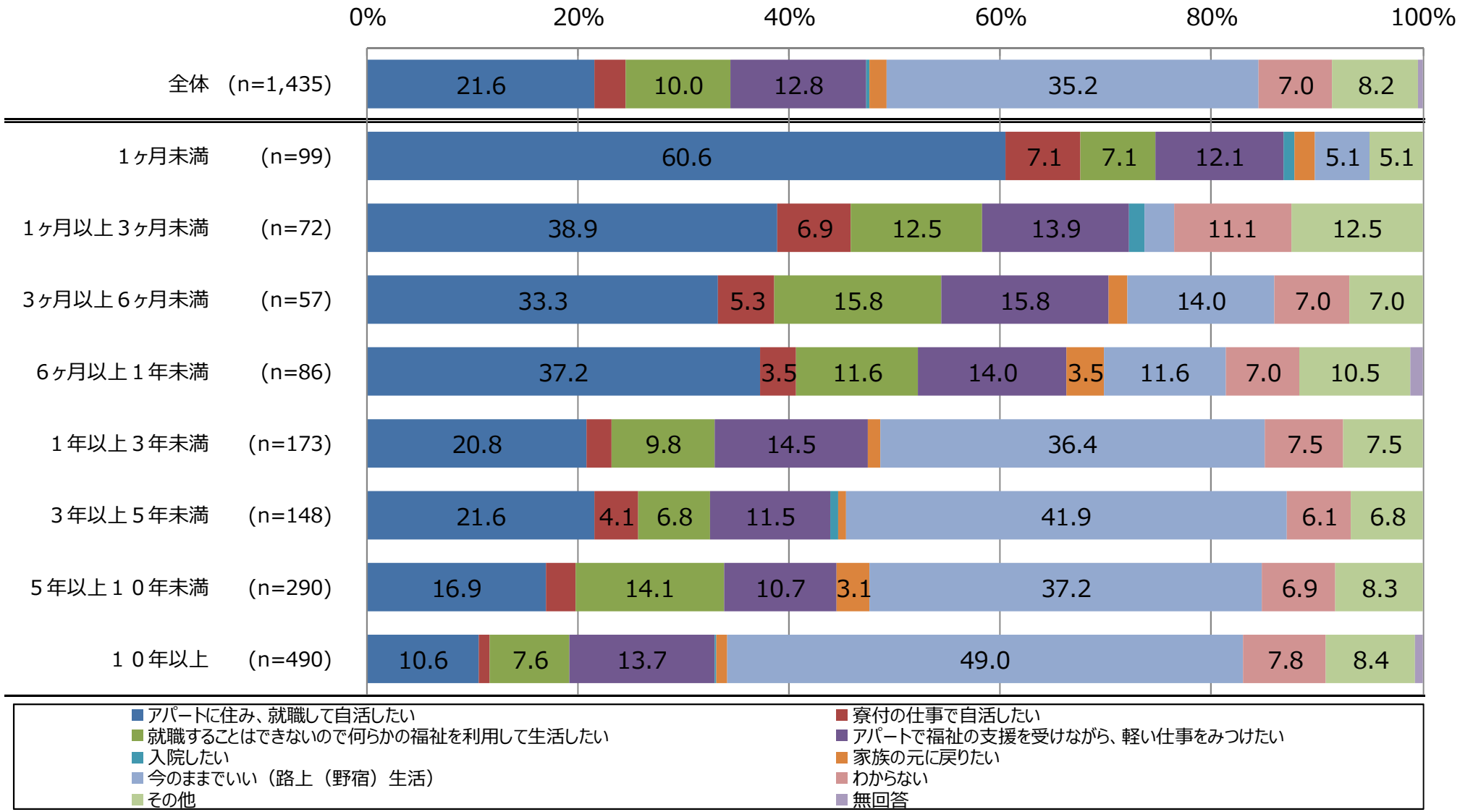
図表98　生活保護制度を利用しなかった理由（今回の路上生活期間別）



問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「１年未満」の者では「（アパートに住み、就職して＋寮付きの仕事で）自活したい」の割合が高く、「１年以上」の者では「今のままでいい」の割合が高くなる傾向にある。

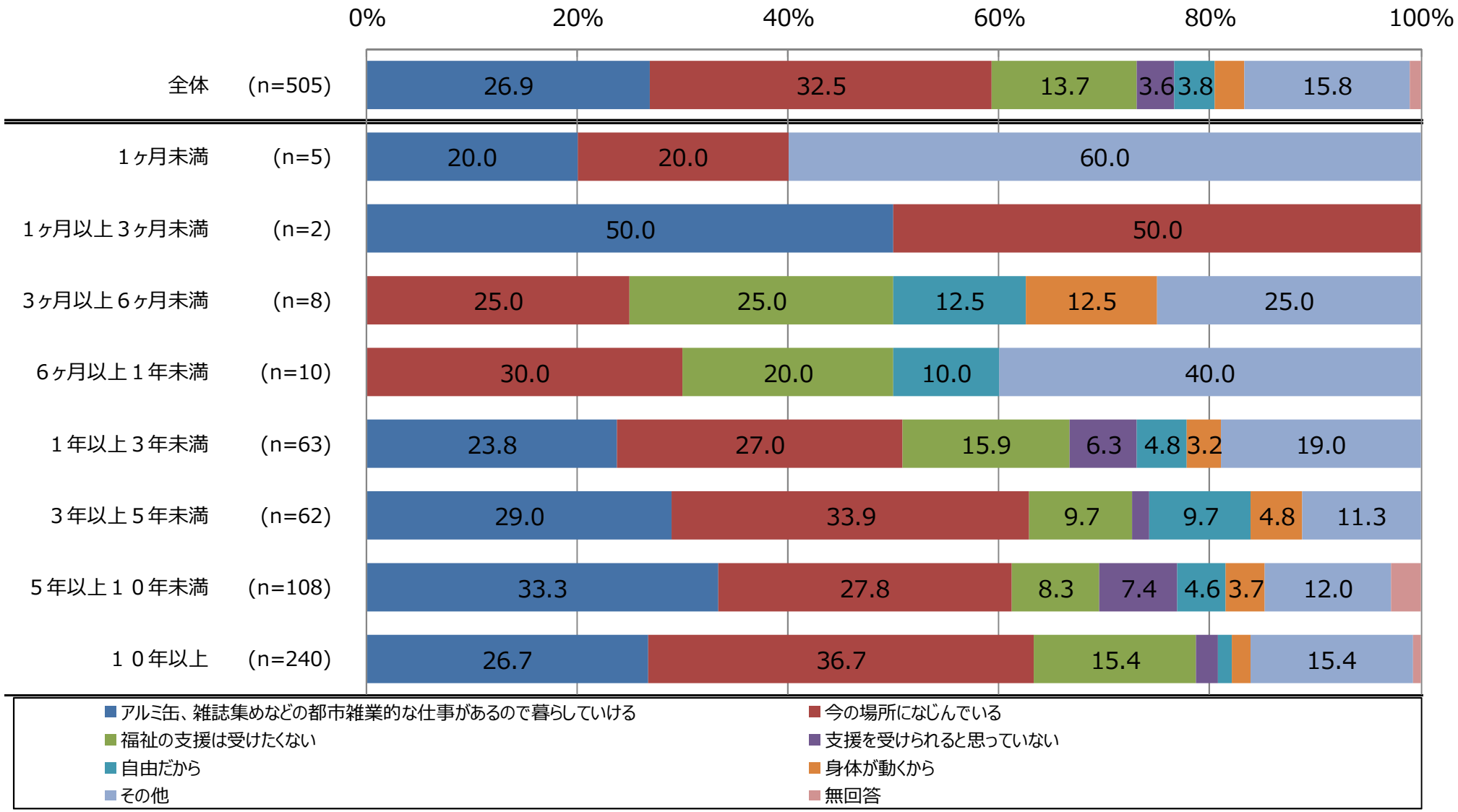
図表99　今後望んでいる生活（今回の路上生活期間別）



問３３－１　今の生活のままでいい理由

- 今のままでいい理由については、「３年以上」の者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く、「３ヶ月～１年未満」の者では「福祉の支援は受けたくない」及び「自由だから」の割合が高い傾向にある。

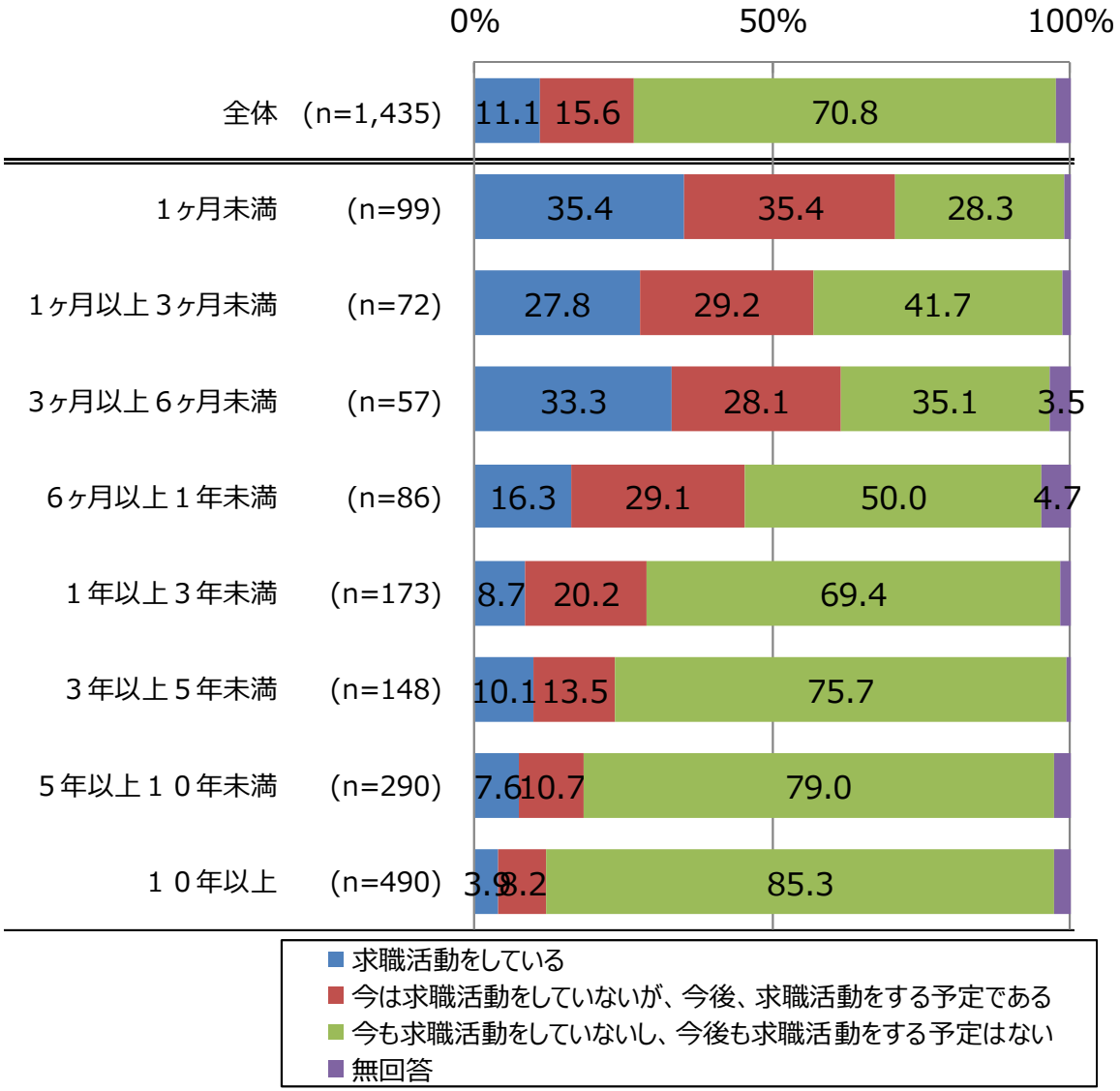
図表100　今の生活のままでいい理由（今回の路上生活期間別）



問３４　就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「１年未満」の者では「求職活動をしている」及び「今後、求職活動する予定である」の割合が高く、「３年以上」の者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

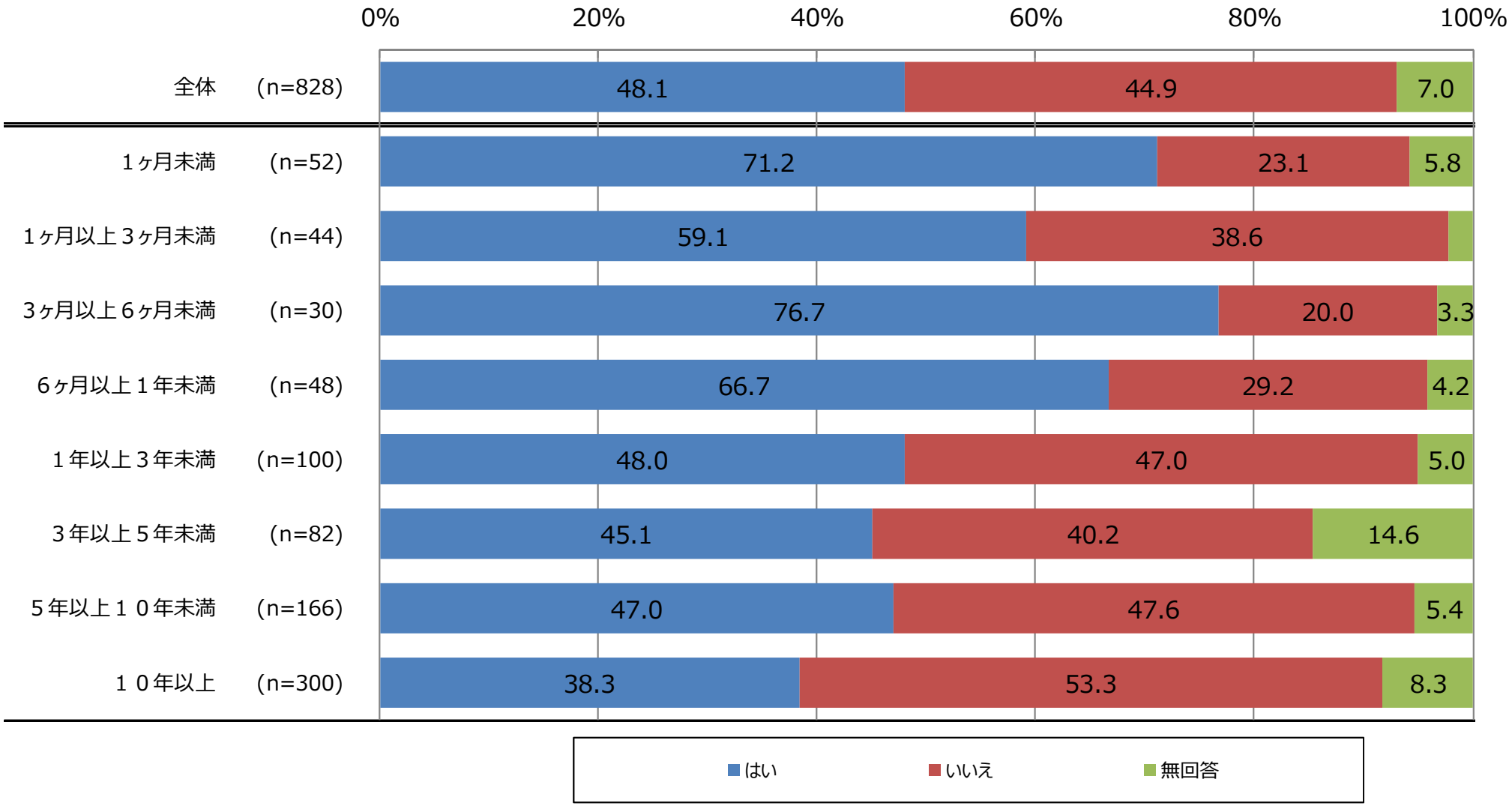
図表101　就職するための求職活動（今回の路上生活期間別）



問３４－３　軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向については、「１年未満」の者では「はい」の割合が高い傾向にある。

図表102　軽作業への参加意向（今回の路上生活期間別）



（４）支援制度利用タイプ別

<支援制度利用タイプ別の傾向について>

（１）今後の生活

○　今後望んでいる生活は、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では、アパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高いのに対し、制度利用無しの者では現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

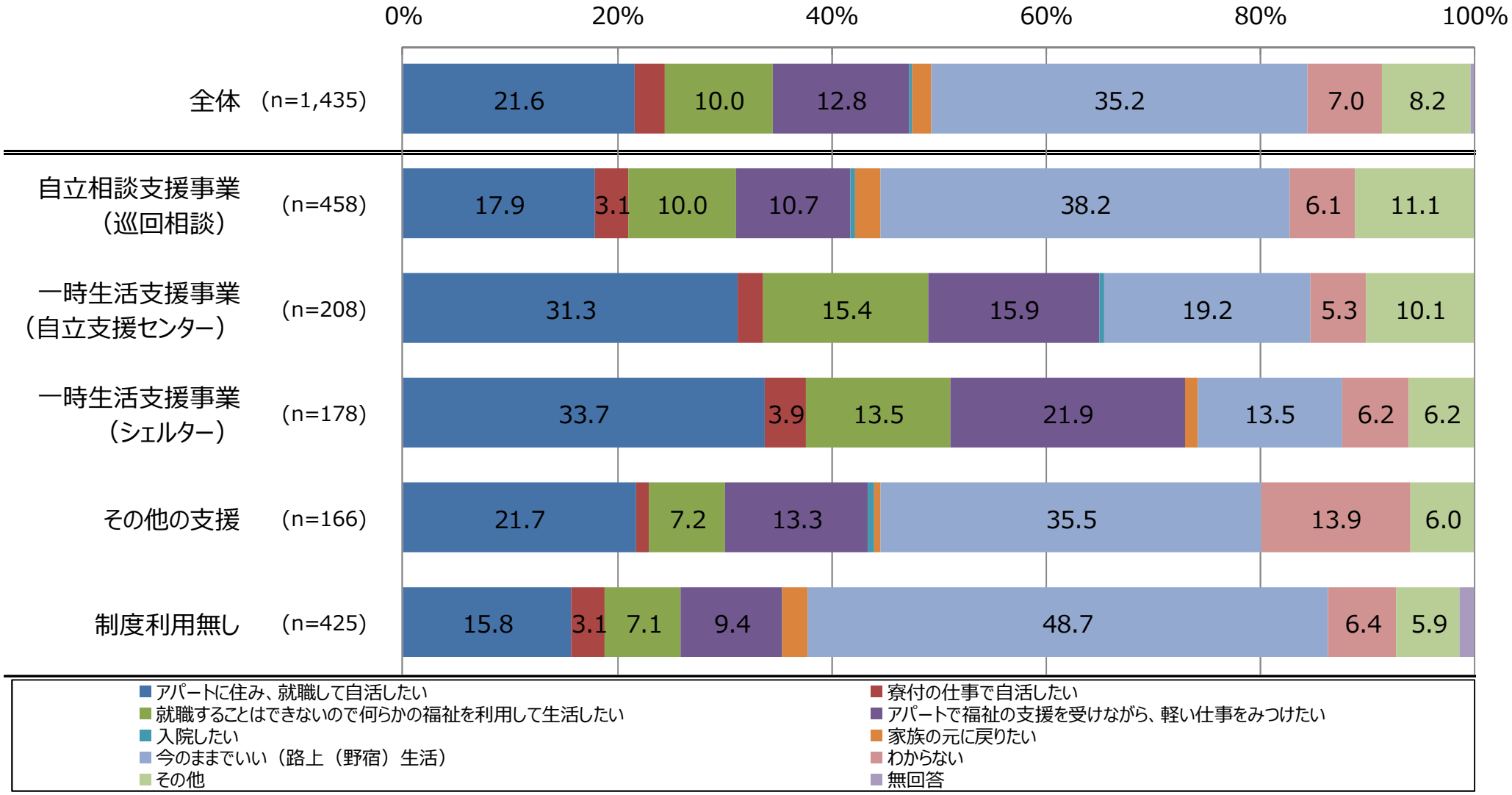
（２）求職活動の状況

○　「自立支援センター」「シェルター」利用経験者では、「求職活動をしている(予定を含む)」の割合が高いが、求職活動をしていない者の理由としては、就職に際し住居が必要となることを理由とする割合が高い。

問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：21.6%、自立支援センター：31.3%、シェルター：33.7%）の割合が高く、「制度利用無し」者では「今のままでいい」（全体：35.2%、制度利用無し：48.7%）の割合が高く、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では割合が低い。

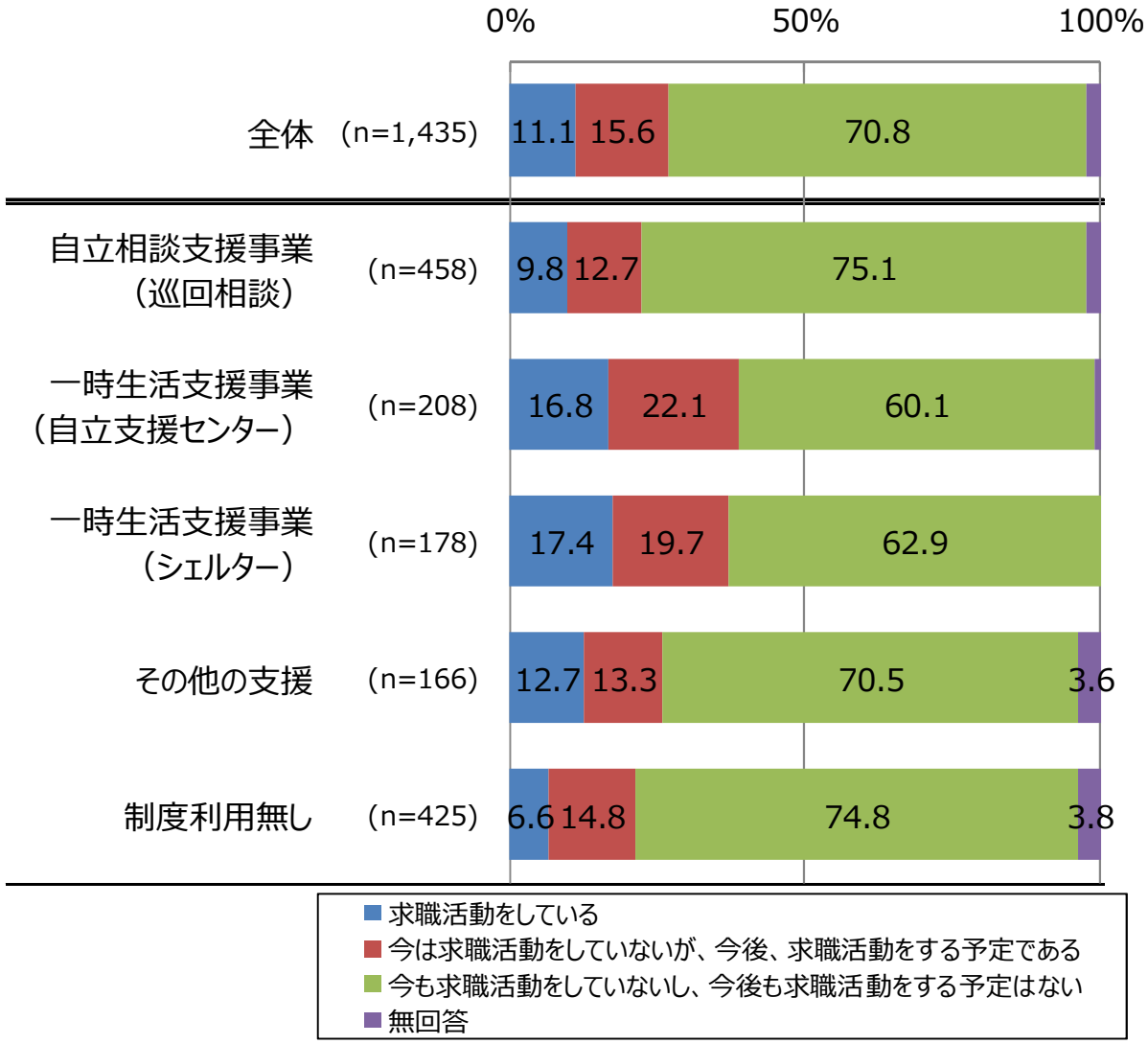
図表103　今後望んでいる生活（支援制度利用タイプ別）



問３４　就職するための求職活動

- 就職するための求職活動については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「求職活動をしている＋求職活動する予定である」（全体：26.7%、自立支援センター：38.9%、シェルター：37.1%）の割合が高く、「巡回相談」経験者及び「制度利用無し」者では「求職活動をする予定はない」の割合が高い。

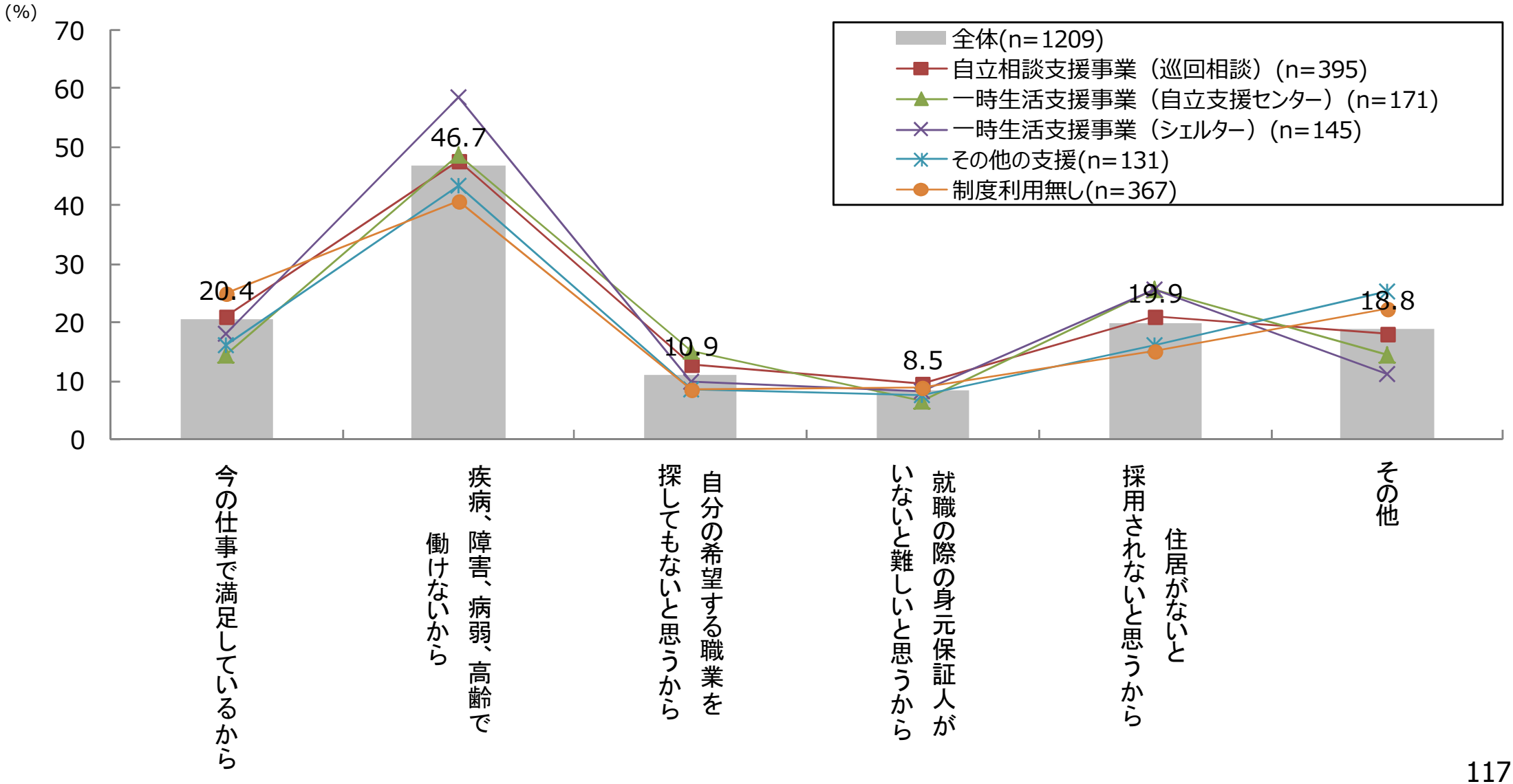
図表104　就職するための求職活動（支援制度利用タイプ別）



問３４－２　求職活動をしていない理由（複数回答）

- 求職活動をしていない理由については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「住居がないと採用されないと思うから」（全体：19.9%、自立支援センター：25.7%、シェルター：25.5%）の割合が高く、「制度利用無し」者では「今の仕事で満足しているから」（全体：20.4%、自立支援センター：14.6%、シェルター：17.9%）の割合が低い。

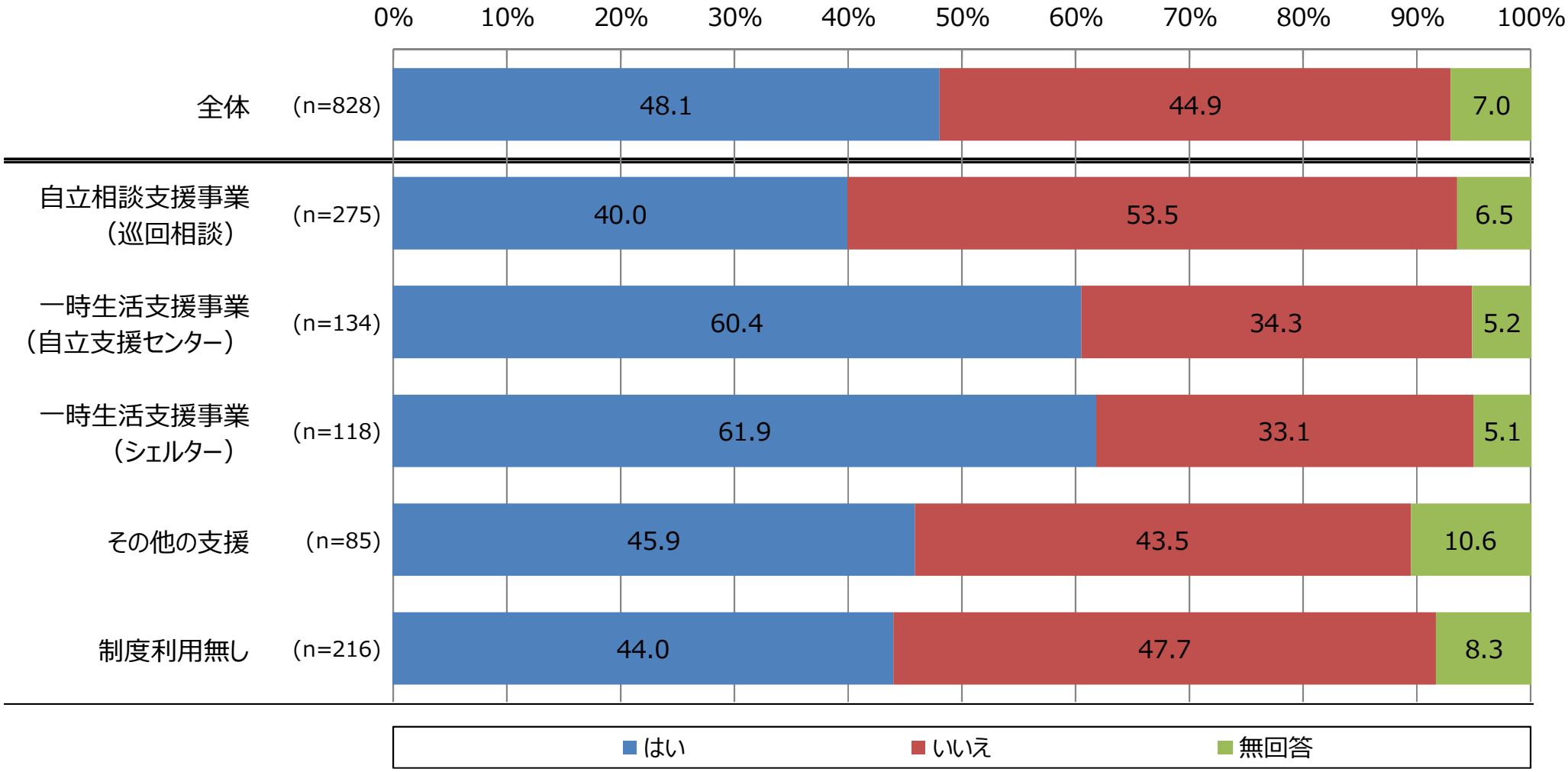
図表105　求職活動をしていない理由（複数回答）（支援制度利用タイプ別）



問３４－３　軽作業への参加意向

- 軽作業への参加意向については、「自立支援センター」及び「シェルター」利用経験者では「はい」（全体：48.1%、自立支援センター：60.4%、シェルター：61.9%）の割合が高く、「制度利用無し」者では「はい」の割合が低い。

図表106　軽作業への参加意向（支援制度利用タイプ別）



（５）地域別（事業実施別）

<地域別（事業実施別）の傾向について> ※事業実施別自治体についてはＰ４「(５)地域別(事業実施別)」のとおり。

（１）路上での生活

○　寝場所は、「シェルターのみ」実施自治体や「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者で一定の場所で決まっている割合が高く、具体的な寝場所としては、「自立支援センター」及び「シェルターと自立支援センターの双方」実施自治体に起居する者では公園と道路の割合が高く、「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者で河川が多い傾向にある。
　また、寝場所をつくる方法としては、「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者ではテント又は小屋を常設する割合が高い。

○　仕事は、「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者で仕事により収入を得ている割合が高く、「シェルターのみ」実施自治体に起居する者で仕事による収入がない割合が高い。

（２）路上生活までのいきさつ

○　初めて路上生活する前に住んでいた地域との関係では、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者では同一県内の別の市区町村から移動している傾向が見られる。

（３）福祉制度の周知・利用状況

○　シェルター、自立支援センターの周知度・利用度は、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」実施自治体に起居する者で、周知度・利用度ともに高い傾向にある。

○　生活保護は、「自立支援センター」実施自治体及び「シェルター、自立支援センターの双方」実施自治体に起居する者で利用経験の割合が高い一方、制度を利用しなかった理由は、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者では、「自分は利用できないと思っている」や「利用したくない」といった制度の利用を肯定的に捉えていない割合が高い。

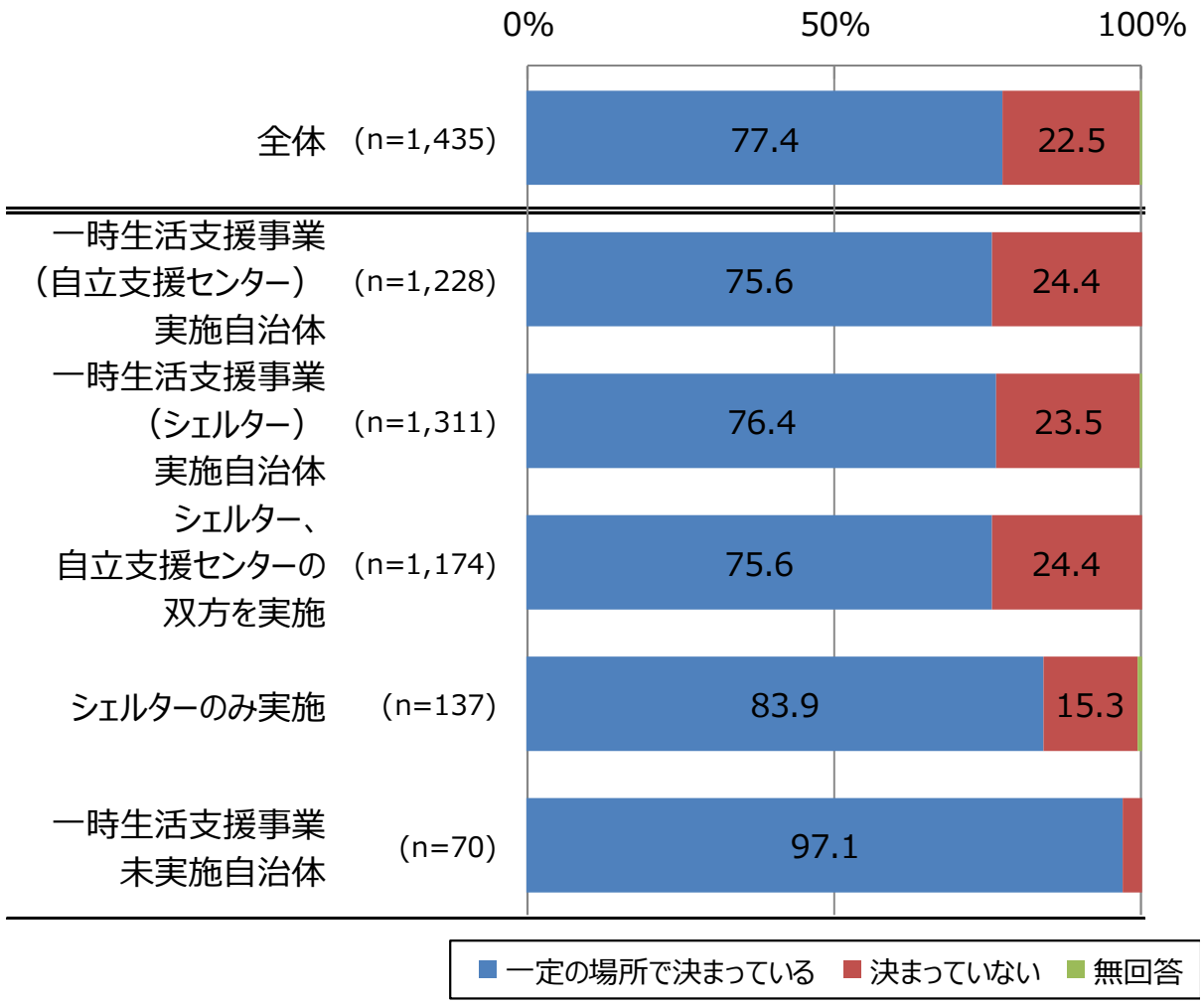
（４）今後の生活

○　今後望んでいる生活は、「一時生活支援事業未実施自治体」に起居する者では、アパート又は寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が低い一方、「一時生活支援事業実施自治体」に起居する者は、現在の路上生活を維持することを希望する割合が低い。

問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「一定の場所で決まっている」（全体：77.4%、シェルターのみ：83.9%、一時生活未実施：97.1%）の割合が高く、「自立支援センター」及び「シェルターと自立支援センターの双方」実施自治体では「決まっていない」の割合が高い。

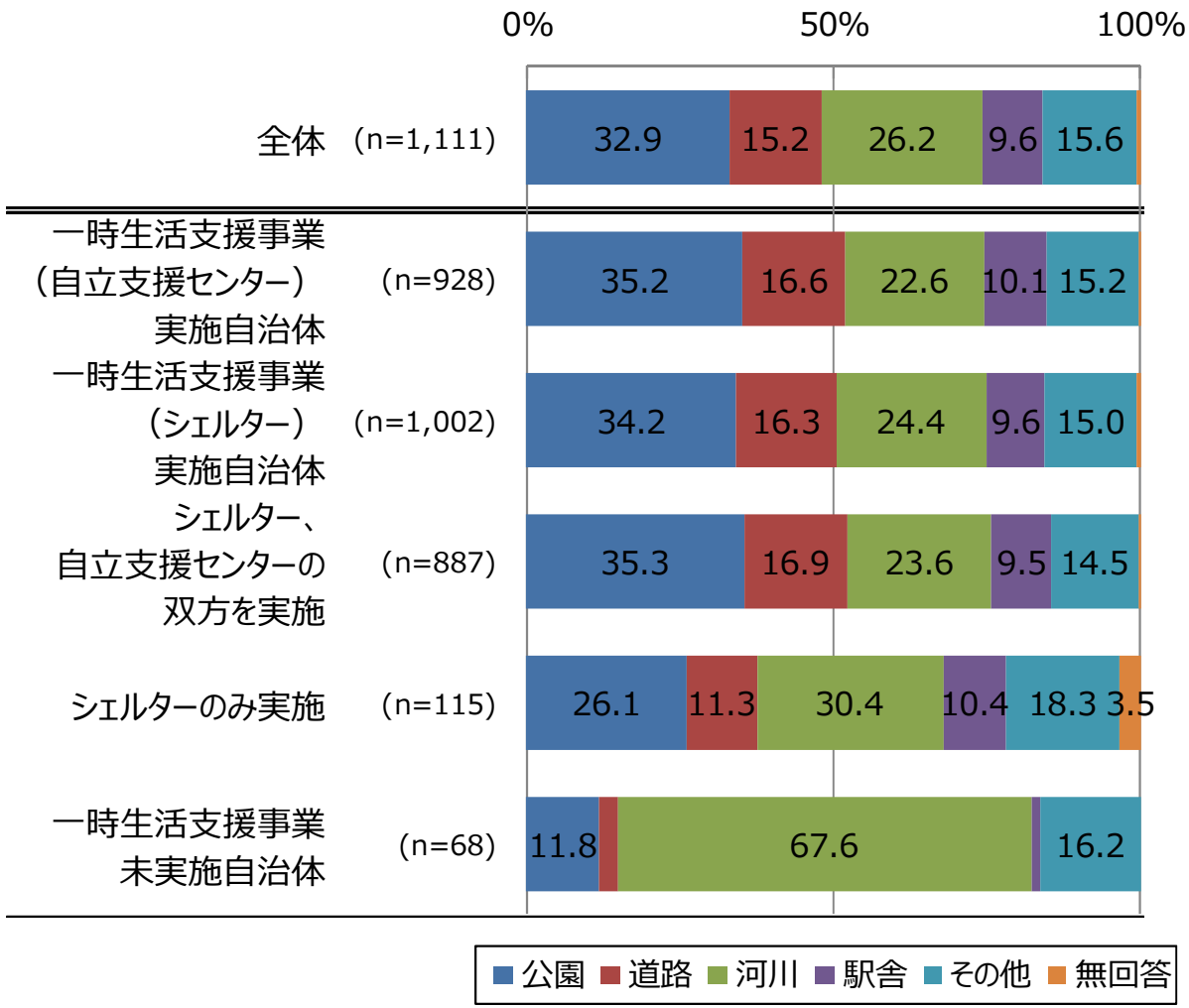
図表107　寝ている場所（地域別（事業実施別））



問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「自立支援センター」及び「シェルターと自立支援センターの双方」実施自治体では「公園」及び「道路」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「河川」（67.6%）の割合が高い。

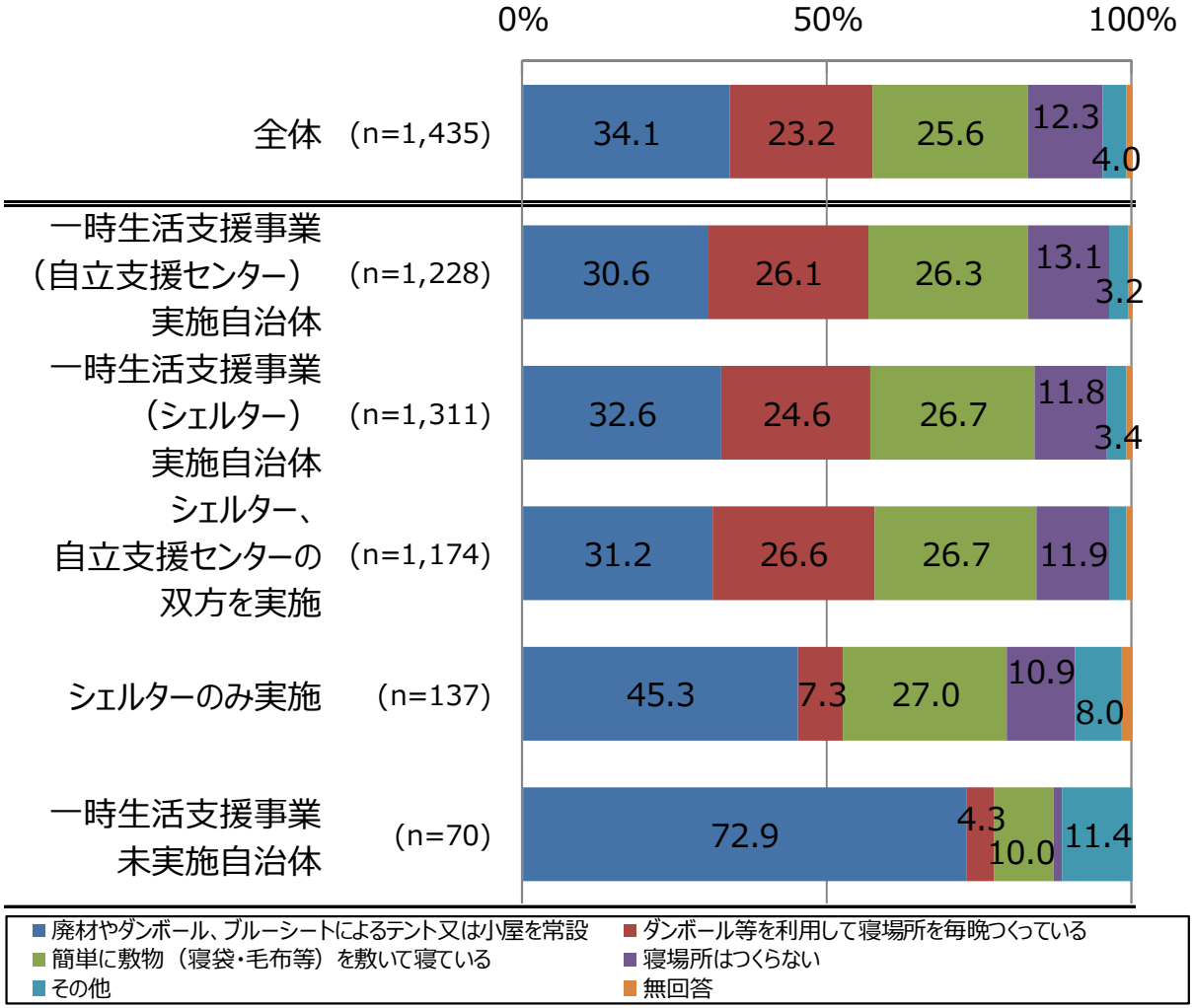
図表108　寝ている場所（具体的に）（地域別（事業実施別））



問２　寝（野宿）場所をつくる方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「テント又は小屋を常設」（全体：34.1%、シェルターのみ：45.3%、一時生活支援事業未実施：72.9%）の割合が高い。

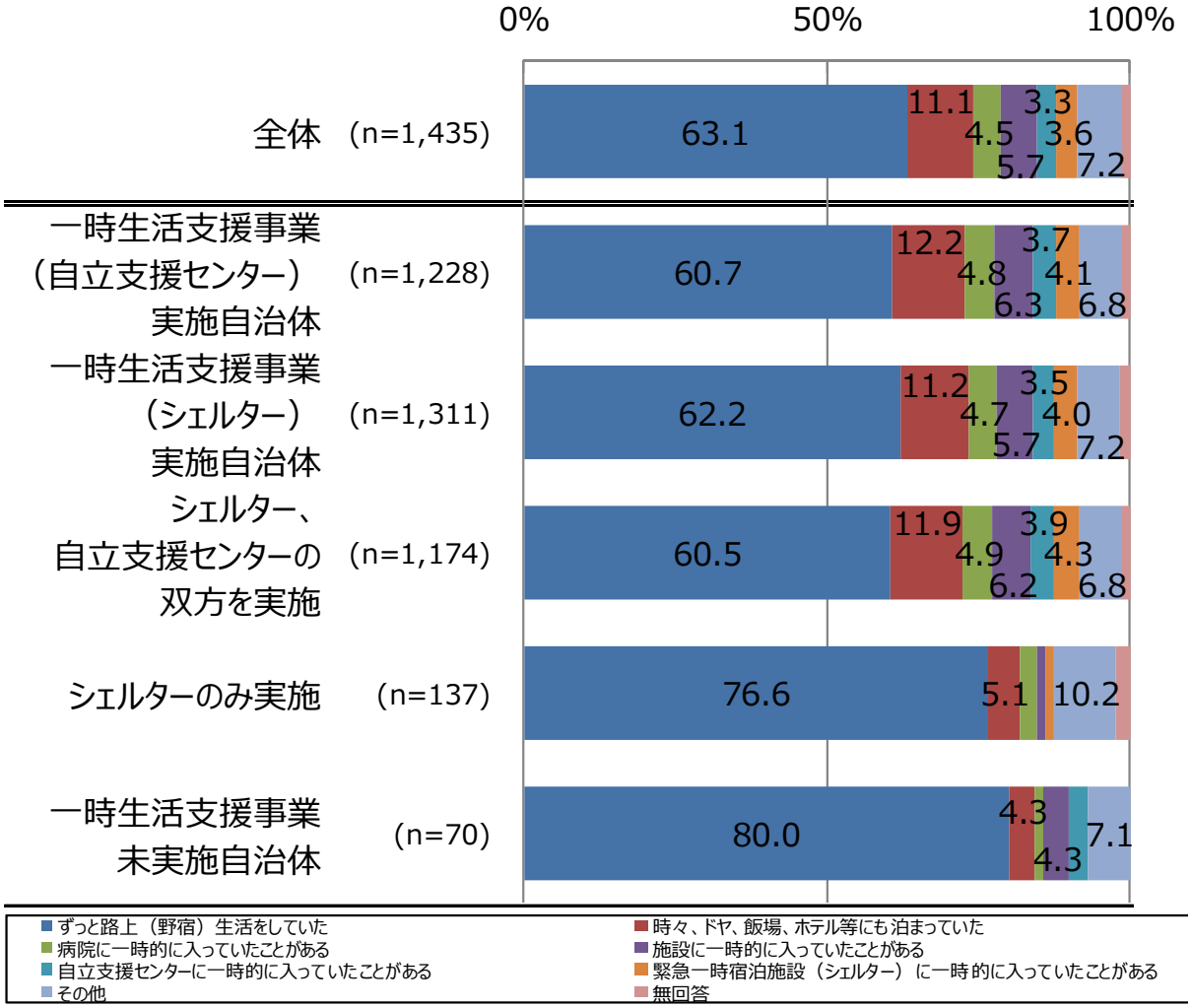
図表109　寝（野宿）場所をつくる方法（地域別（事業実施別））



問４　今回の路上（野宿）生活の継続について

- 今回の路上（野宿）生活の継続については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ずっと路上（野宿）生活をしていた」（全体：63.1%、シェルターのみ：76.6%、一時生活未実施：80.0%）の割合が高い。

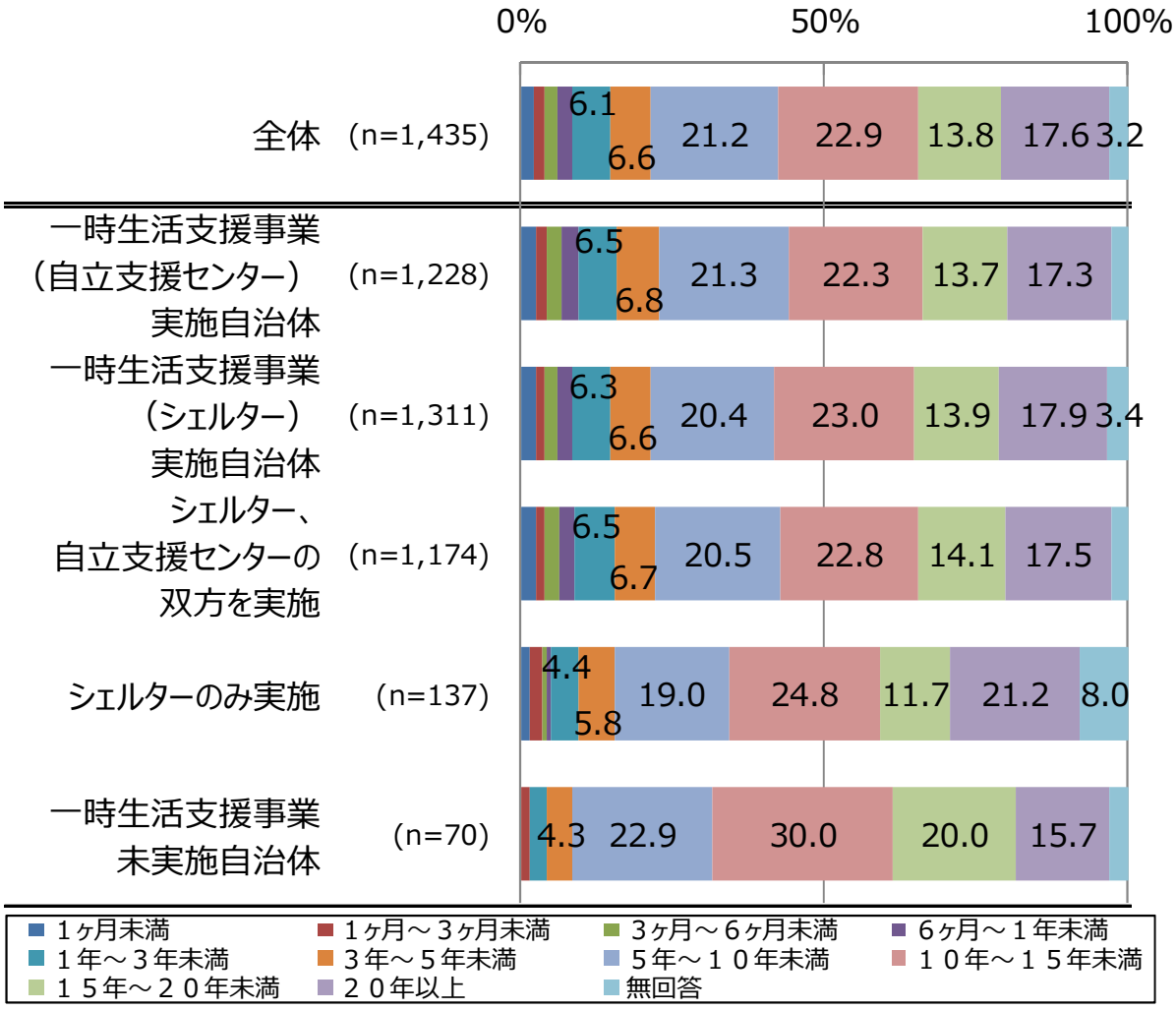
図表110　今回の路上（野宿）生活の継続について（地域別（事業実施別））



問５　初めての路上（野宿）生活

- 初めての路上（野宿）生活については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「１０年以上」の割合が高い傾向にある。

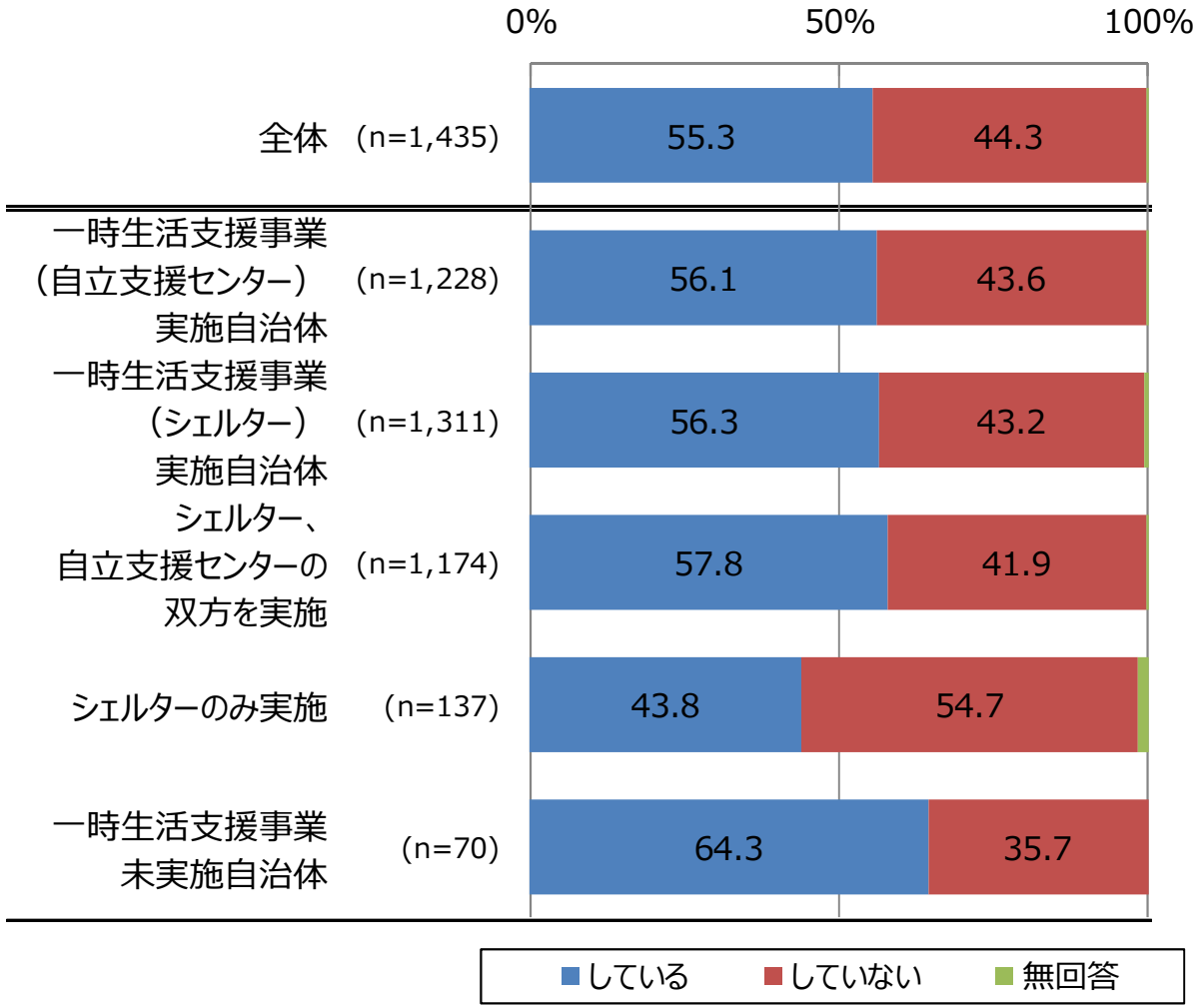
図表111　初めての路上（野宿）生活（地域別（事業実施別））



問６　現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「している」（全体：55.3%、一時生活未実施：64.3%）の割合が高く、「シェルターのみ」実施自治体では「していない」の割合が高い。

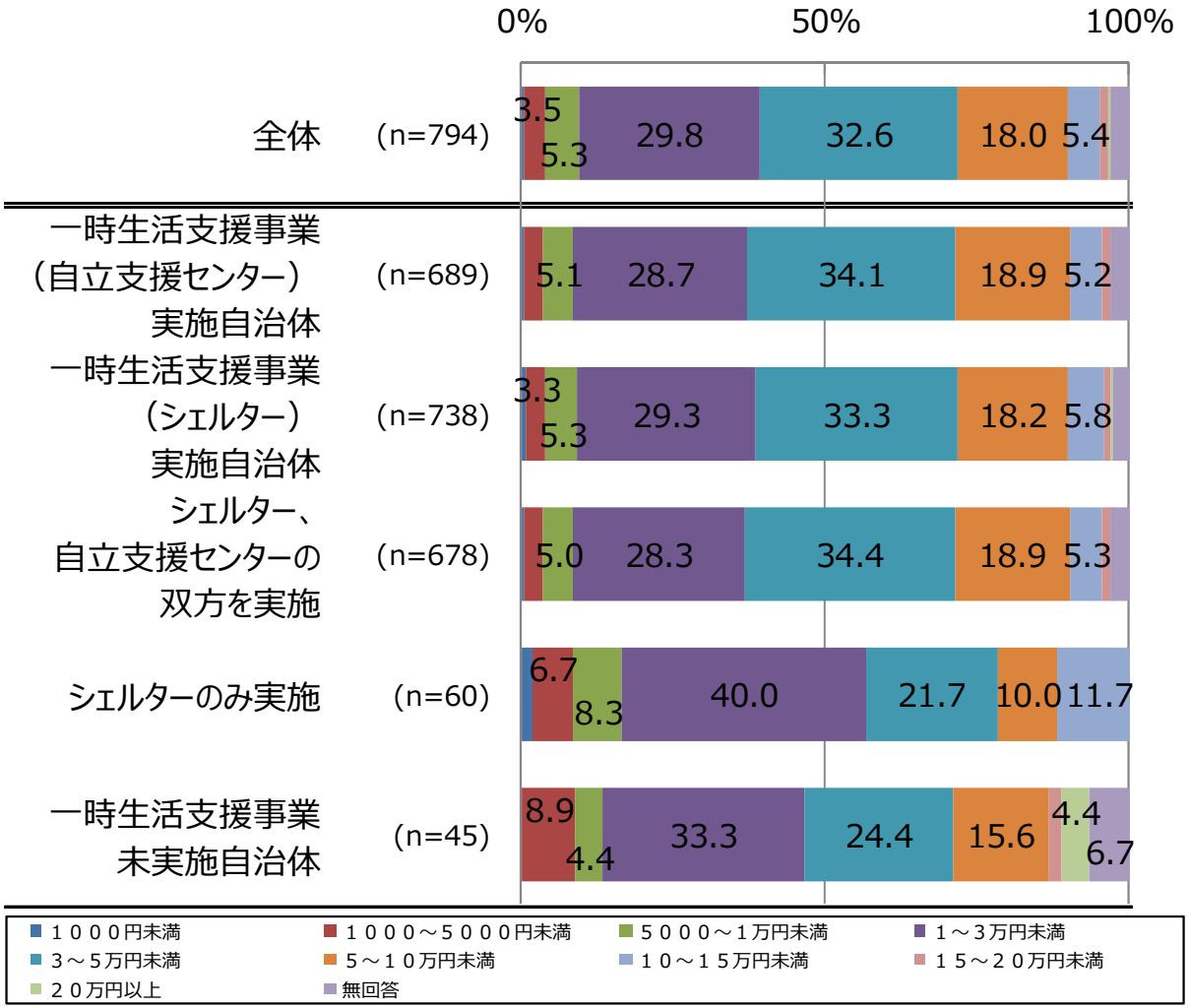
図表112　現在収入のある仕事（地域別（事業実施別））



問６－２　仕事による収入（月額・円）

- 仕事による収入（月額）については、「シェルターのみ」実施自治体では「１～３万円未満」と「１０～１５万円未満」（全体：5.4%、シェルターのみ：11.7%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「1,000～5,000円未満」（全体：3.5%、一時生活未実施：8.9%）の割合が高い。

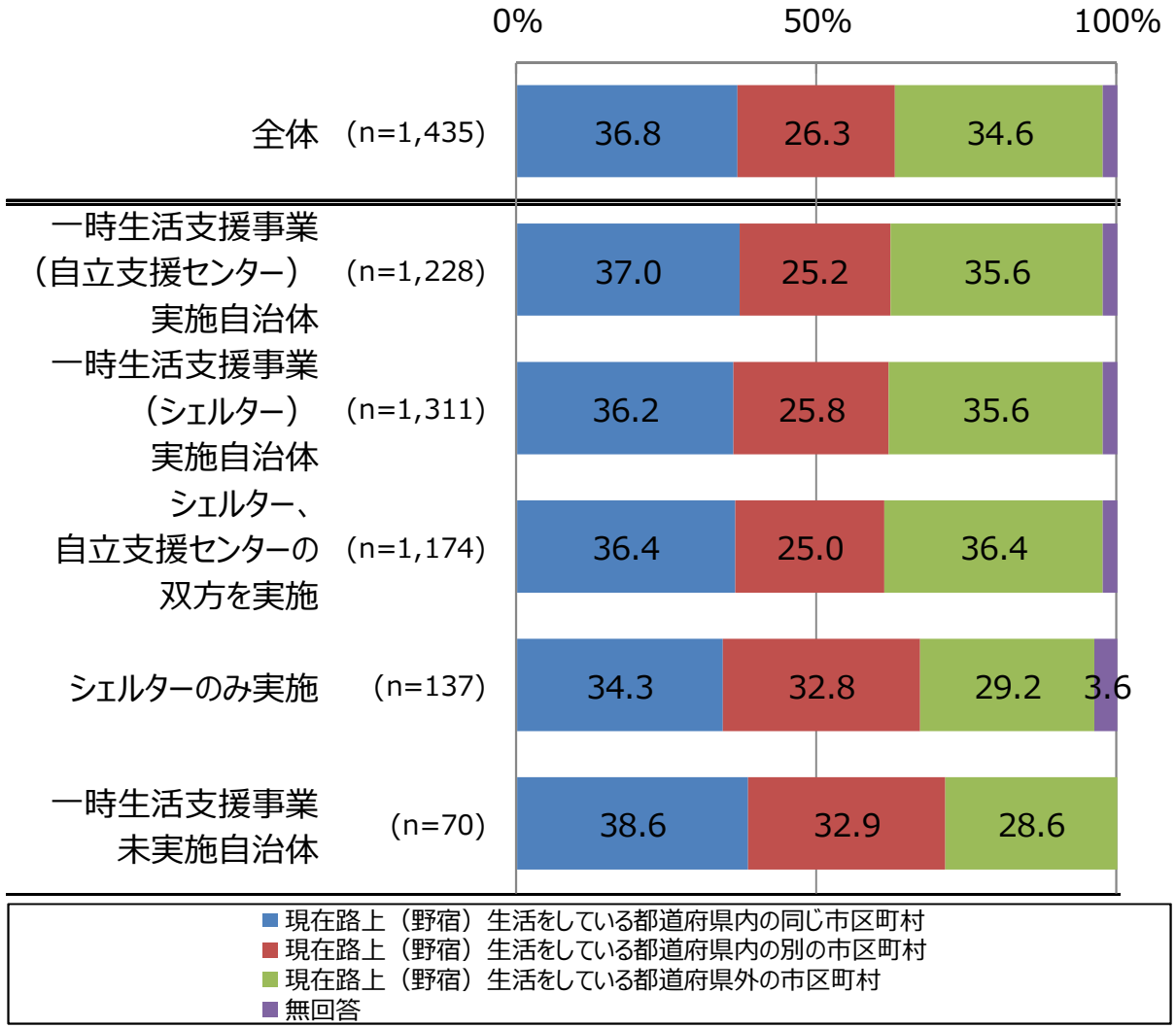
図表113　仕事による収入（月額・円）（地域別（事業実施別））



問１１　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」の割合が高く、「現在路上生活をしている都道府県外の市区町村」の割合が低い。

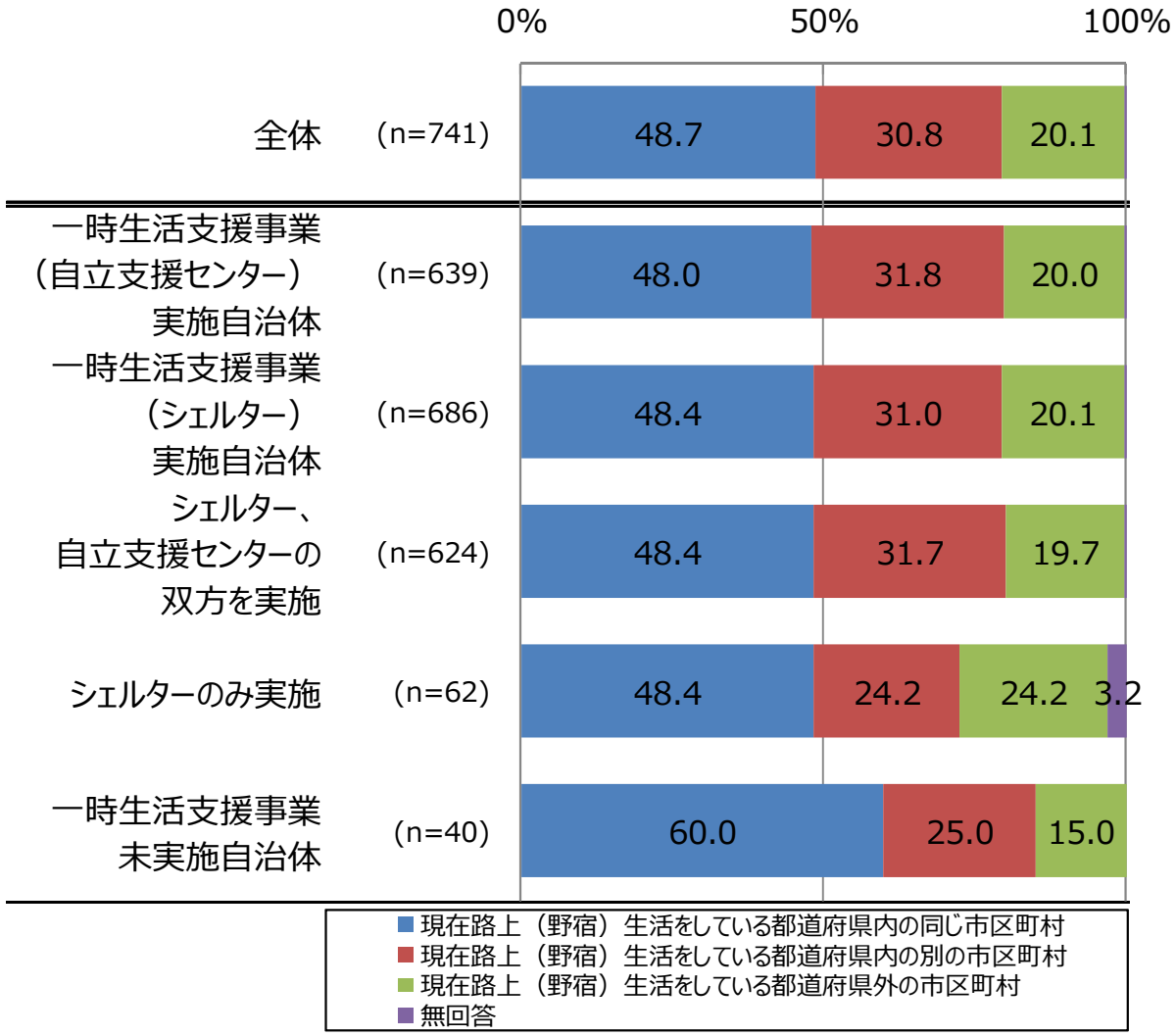
図表114　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域（地域別（事業実施別））



問１６－１　別の路上（野宿）生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「一時生活支援事業未実施」自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高い。

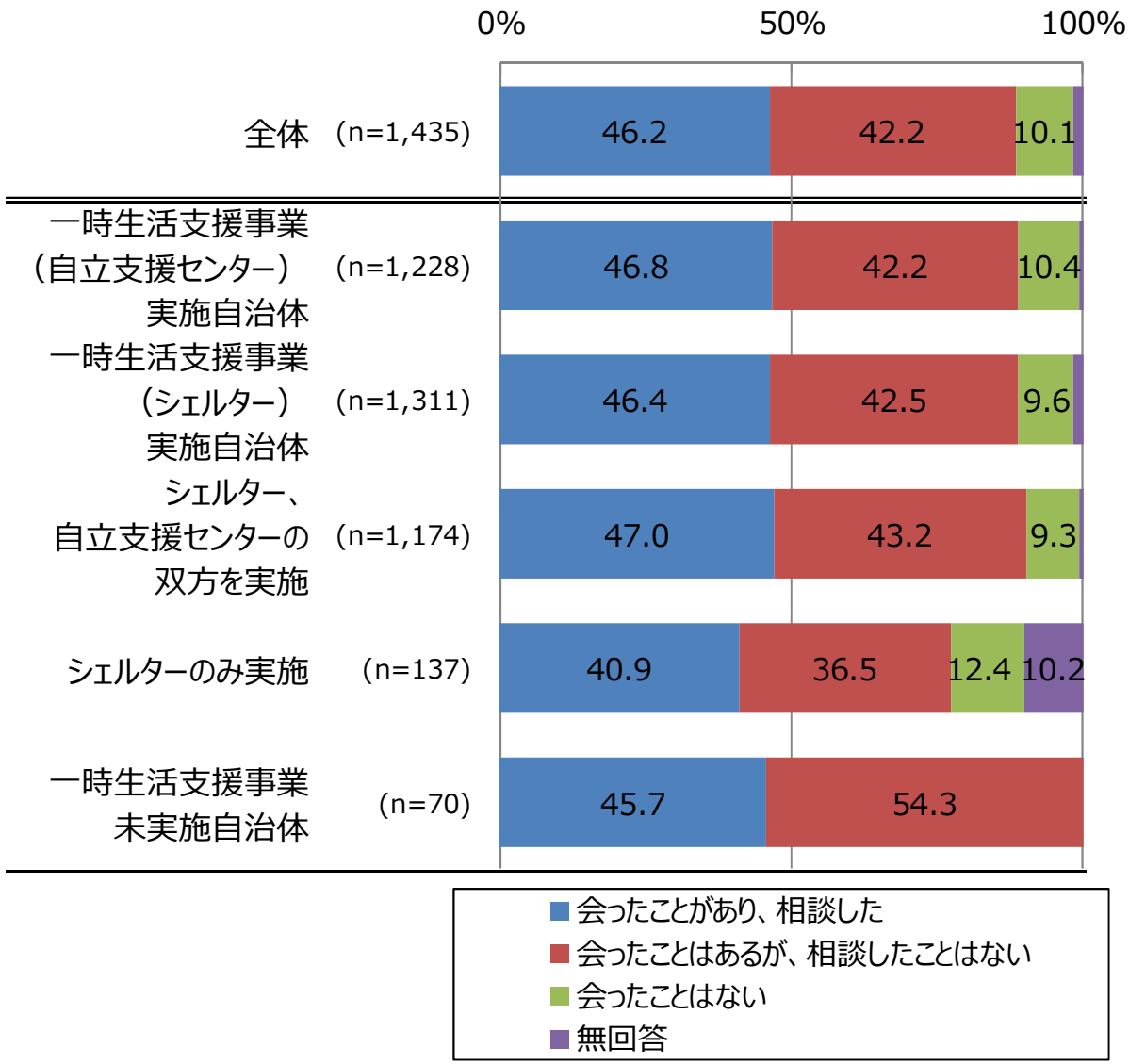
図表115　別の路上（野宿）生活場所（地域別（事業実施別））



問２５　巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「一時生活支援事業未実施」自治体では「会ったことはあるが、相談したことはない」（全体：42.2%、一時生活未実施：54.3%）の割合が高い。

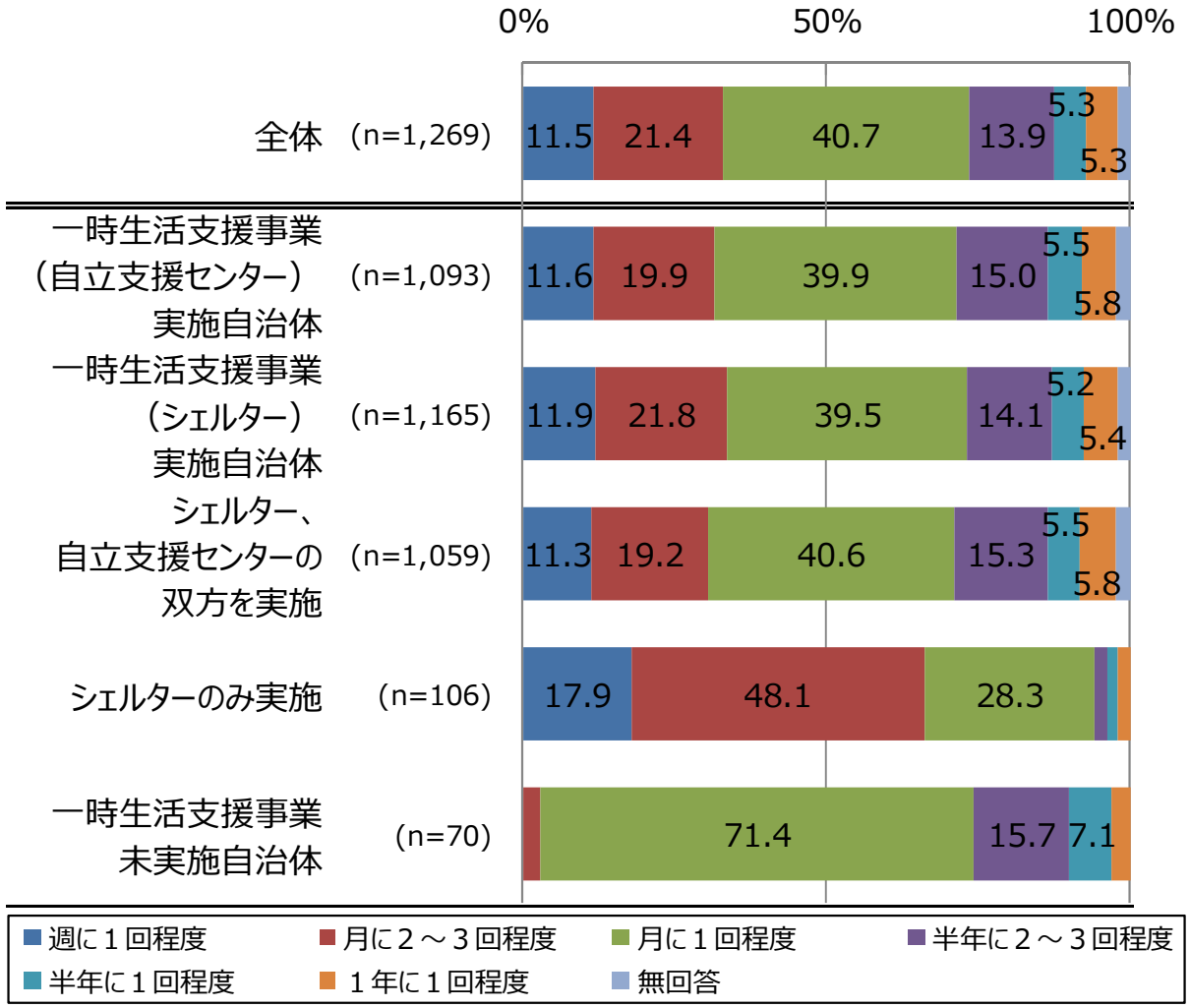
図表116　巡回相談員に会ったこと（地域別（事業実施別））



問２５－１　巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「シェルターのみ」実施自治体では「週に１回程度」（全体：11.5%、シェルターのみ：17.9%）及び「月に２～３回程度」（全体：21.4%、シェルターのみ：48.1%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「月に１回程度」（全体：40.7%、一時生活未実施：71.4%）の割合が高い。

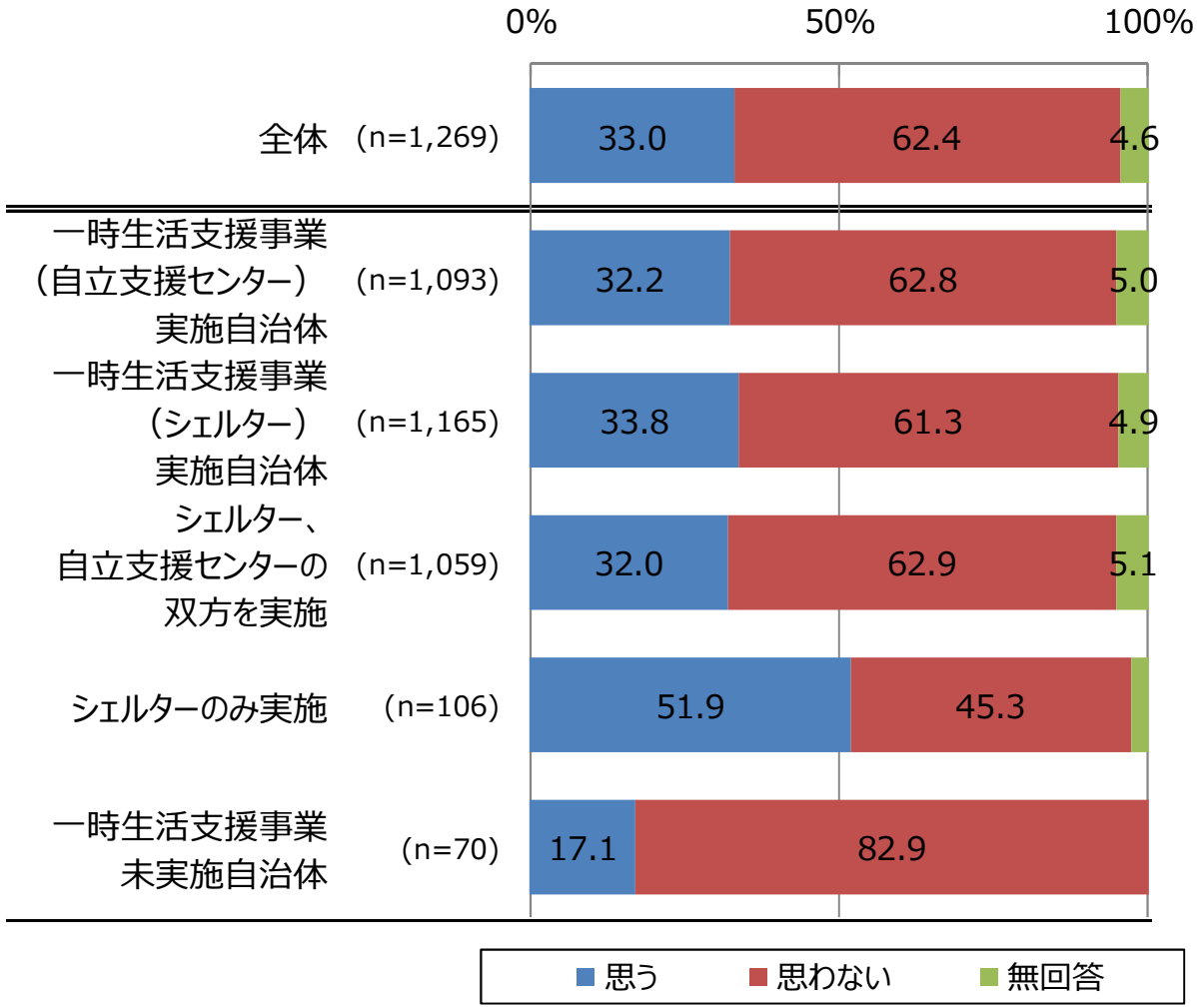
図表117　巡回の頻度（地域別（事業実施別））



問２５－２　頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「シェルターのみ」実施自治体では「思う」（全体：33.0%、シェルターのみ：51.9%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「思う」の割合が17.1%と低い。

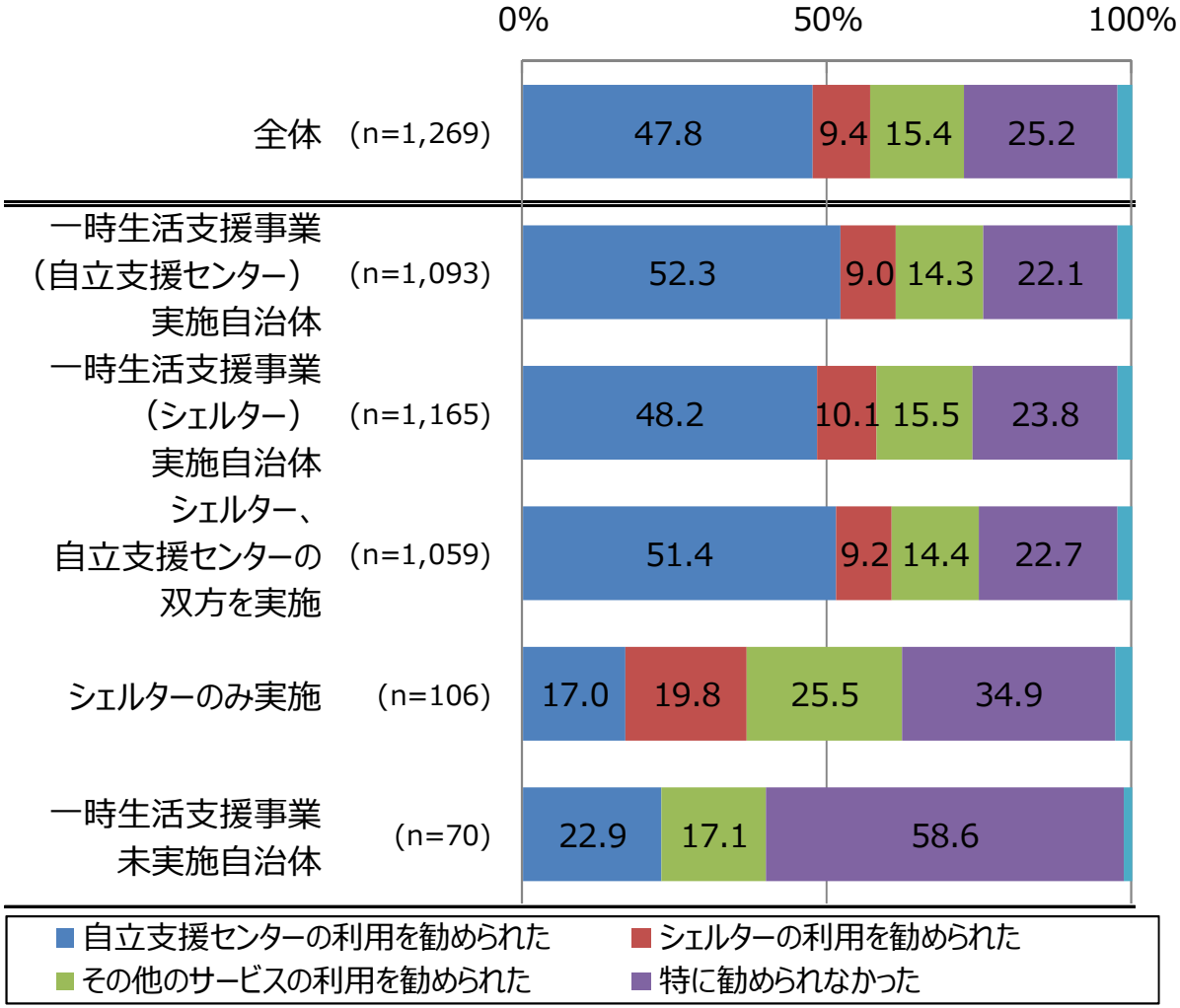
図表118　頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（事業実施別））



問２５－４　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」（全体：47.8%、シェルターのみ：17.0%、一時生活未実施：22.9%）の割合が低く、「特に勧められなかった」（全体：25.2%、シェルターのみ：34.9%、一時生活未実施：58.6%）の割合が高い。

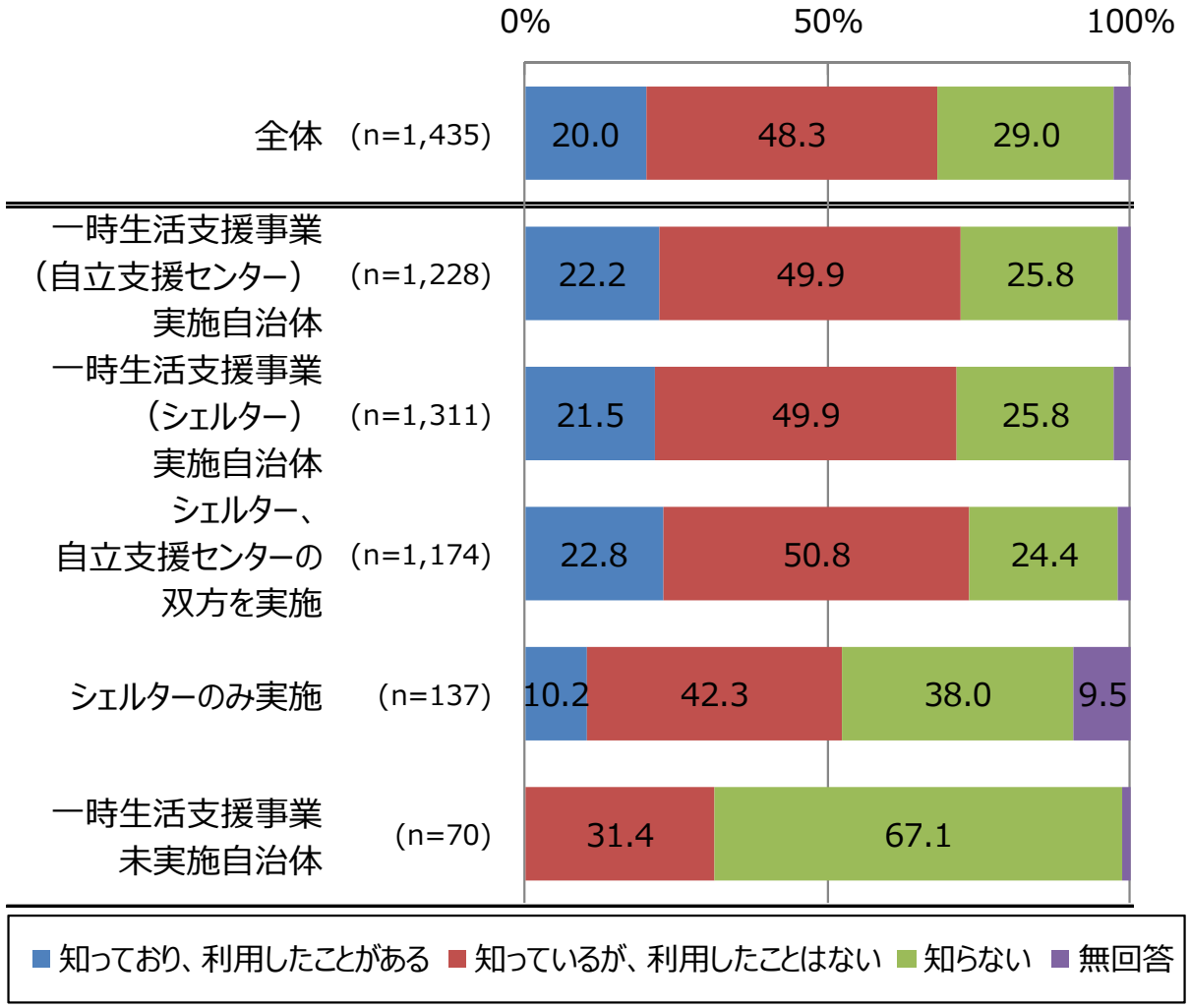
図表119　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（事業実施別））



問２６　シェルターの内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「知っており、利用したことがある」の割合が低く、「知らない」の割合が高い。

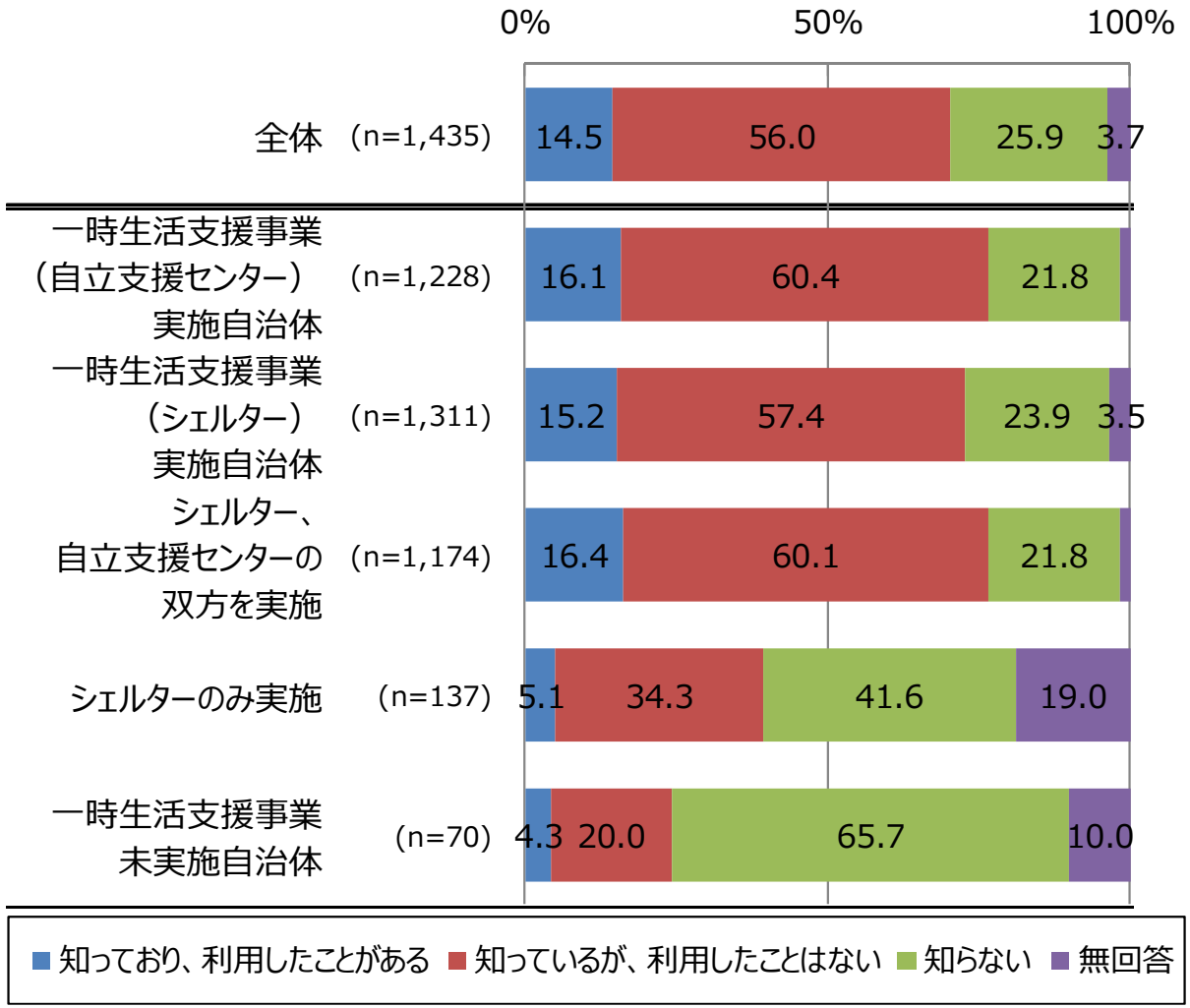
図表120　シェルターの内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問２７　自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「知っており、利用したことがある」の割合が低く、「知らない」の割合が高い。

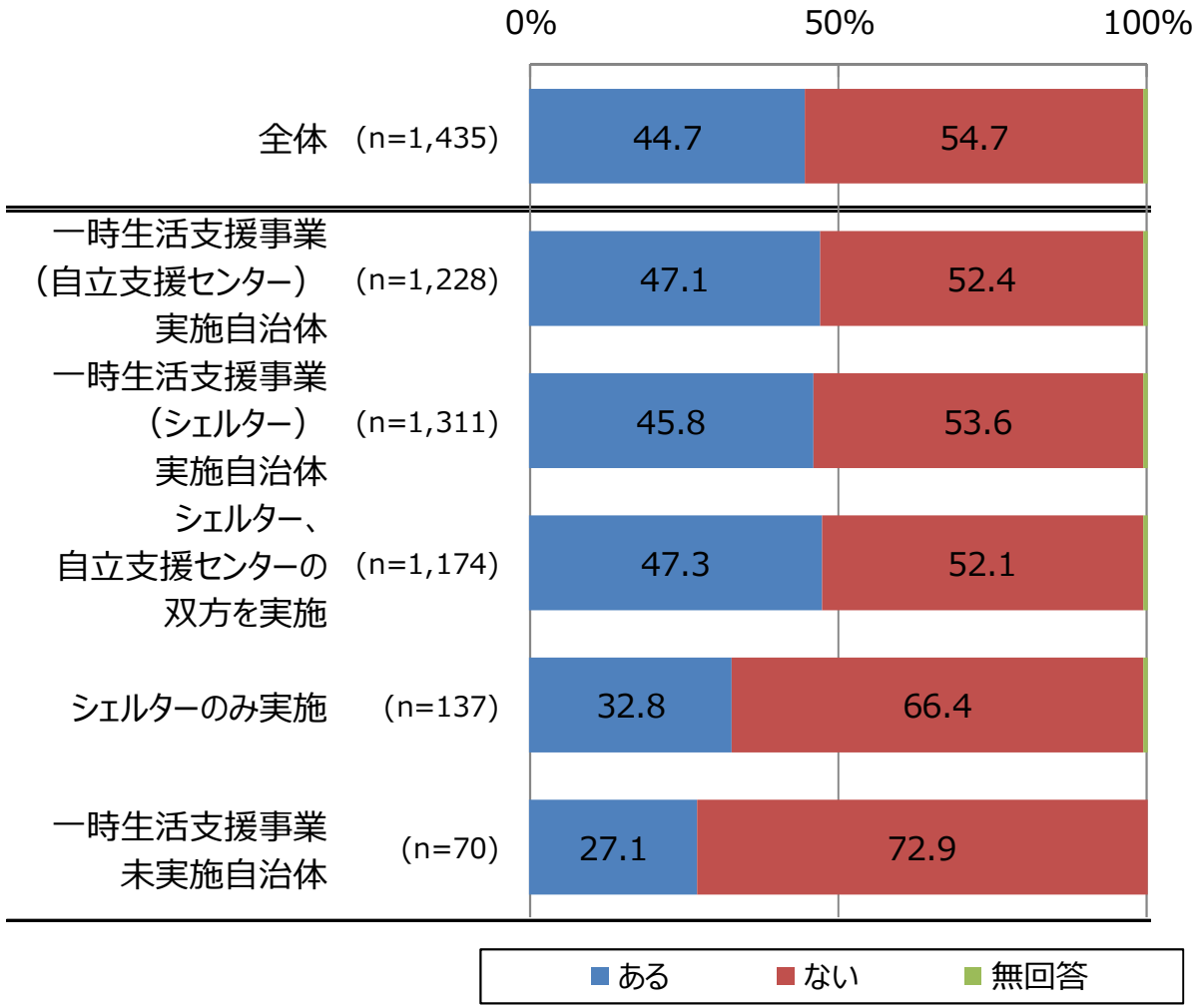
図表121　自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（事業実施別））



問２８　公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：44.7%、シェルターのみ：32.8%、一時生活未実施：27.1%）の割合が低い。

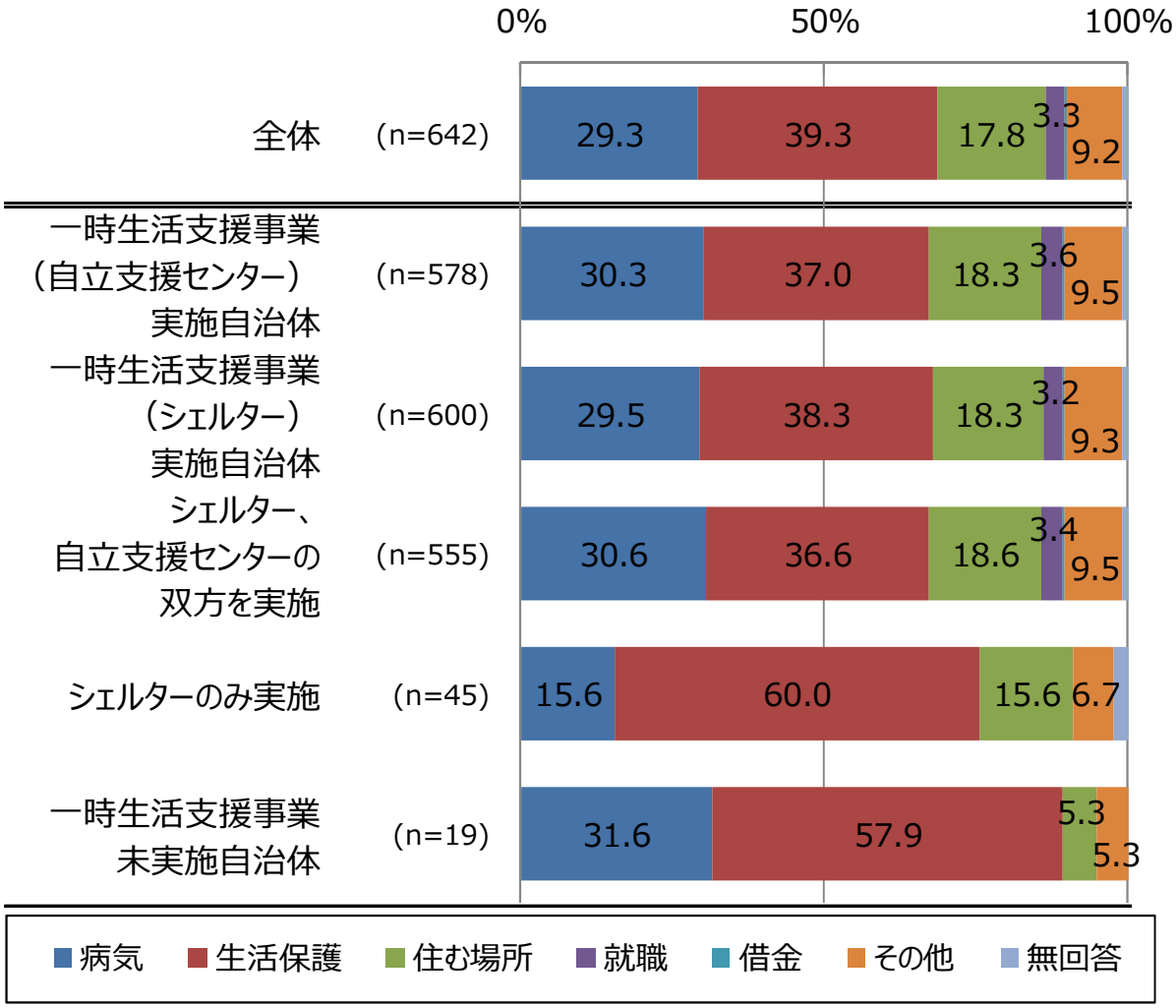
図表122　公的機関への相談（地域別（事業実施別））



問２８－１　公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護」（全体：39.3%、シェルターのみ：60.0%、一時生活未実施：57.9%）の割合が高く、「住む場所」（全体：17.8%、シェルターのみ：15.6%、一時生活未実施：5.3%）の割合が低い。

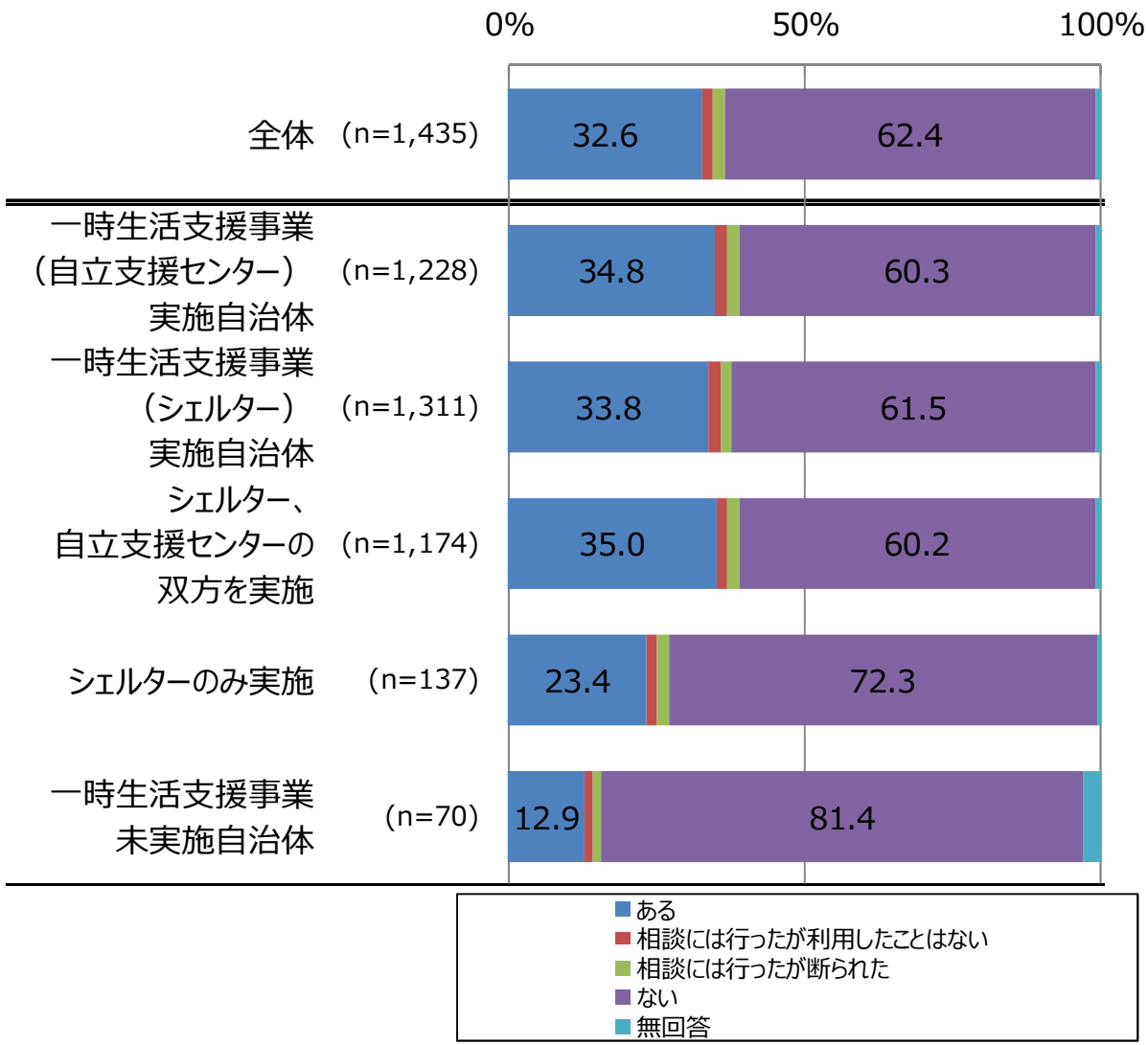
図表123　公的機関への相談内容（地域別（事業実施別））



問２９　生活保護制度の利用

- 生活保護制度の利用経験については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「ある」（全体：32.6%、シェルターのみ：23.4%、一時生活未実施：12.9%）の割合が低い。

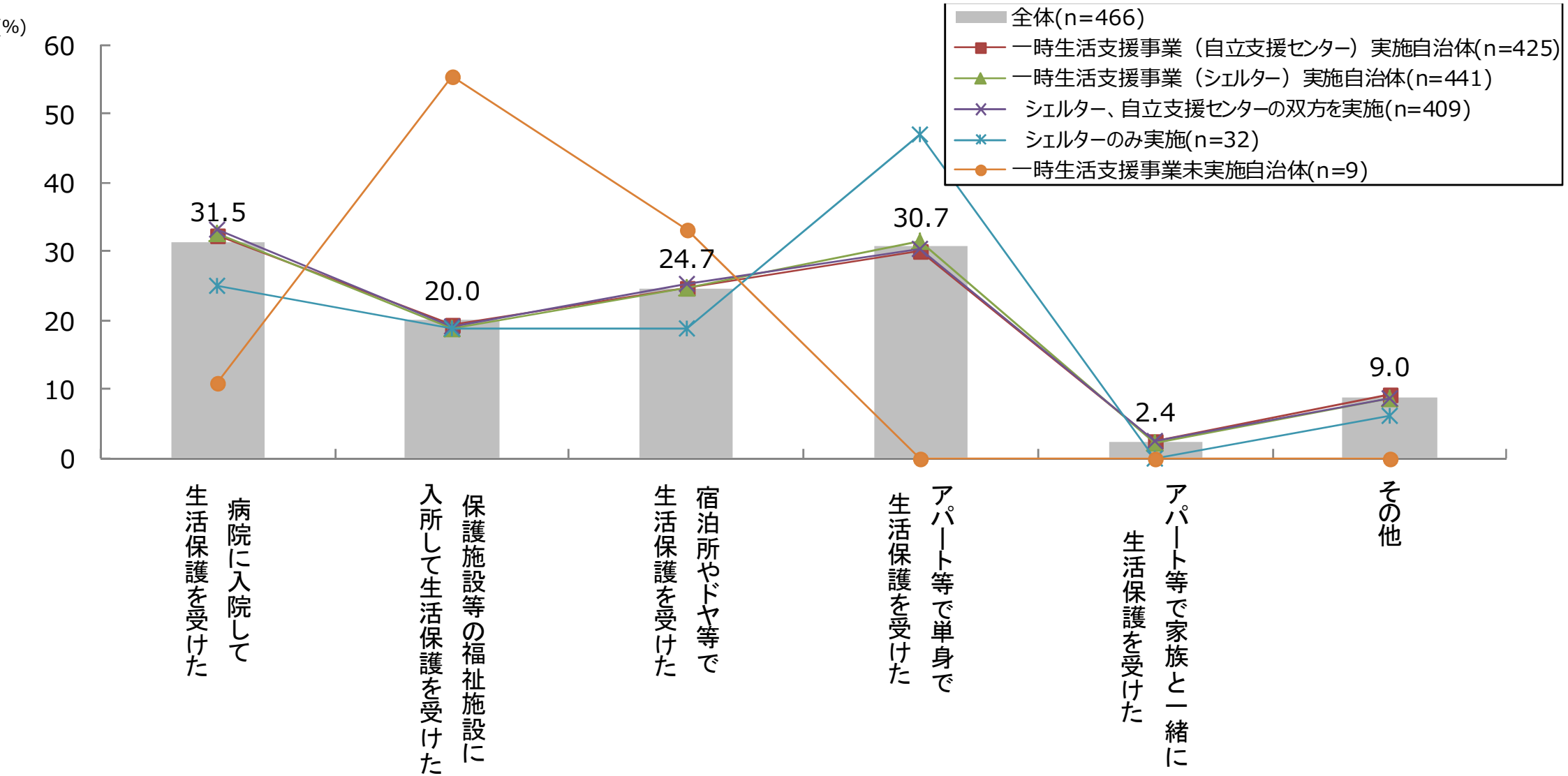
図表124　生活保護の利用（地域別（事業実施別））



問２９－１　生活保護制度の利用方法（複数回答）

- 生活保護制度の利用方法については、「シェルターのみ」実施自治体では「アパート等で単身で生活保護を受けた」（46.9%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」（55.6%）の割合が高い。

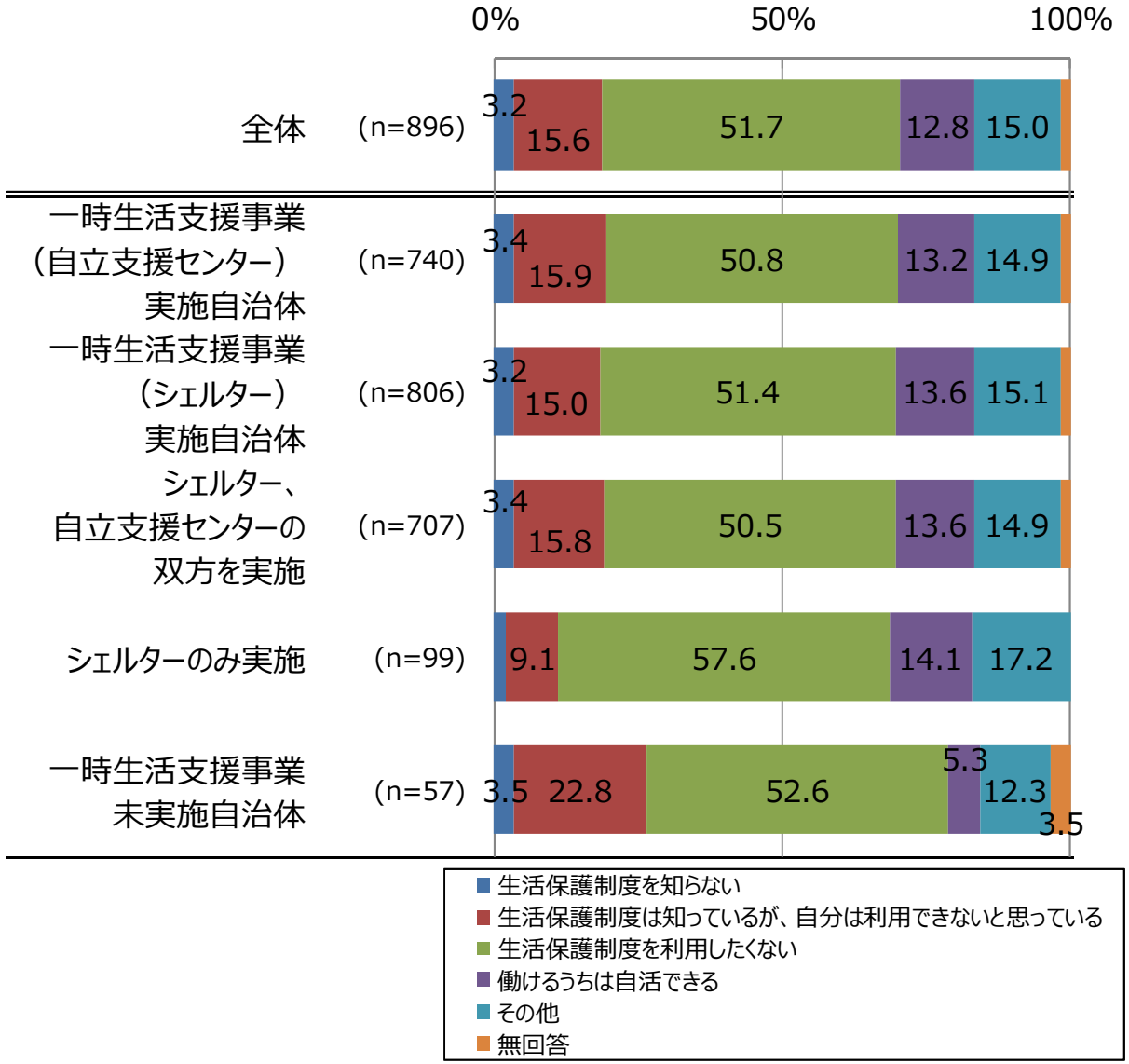
図表125　生活保護制度の利用方法（複数回答）（地域別（事業実施別））



問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「生活保護制度を利用したくない」（全体：51.7%、シェルターのみ：57.6%）の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（全体：15.6%、一時生活未実施：22.8%）が高い。

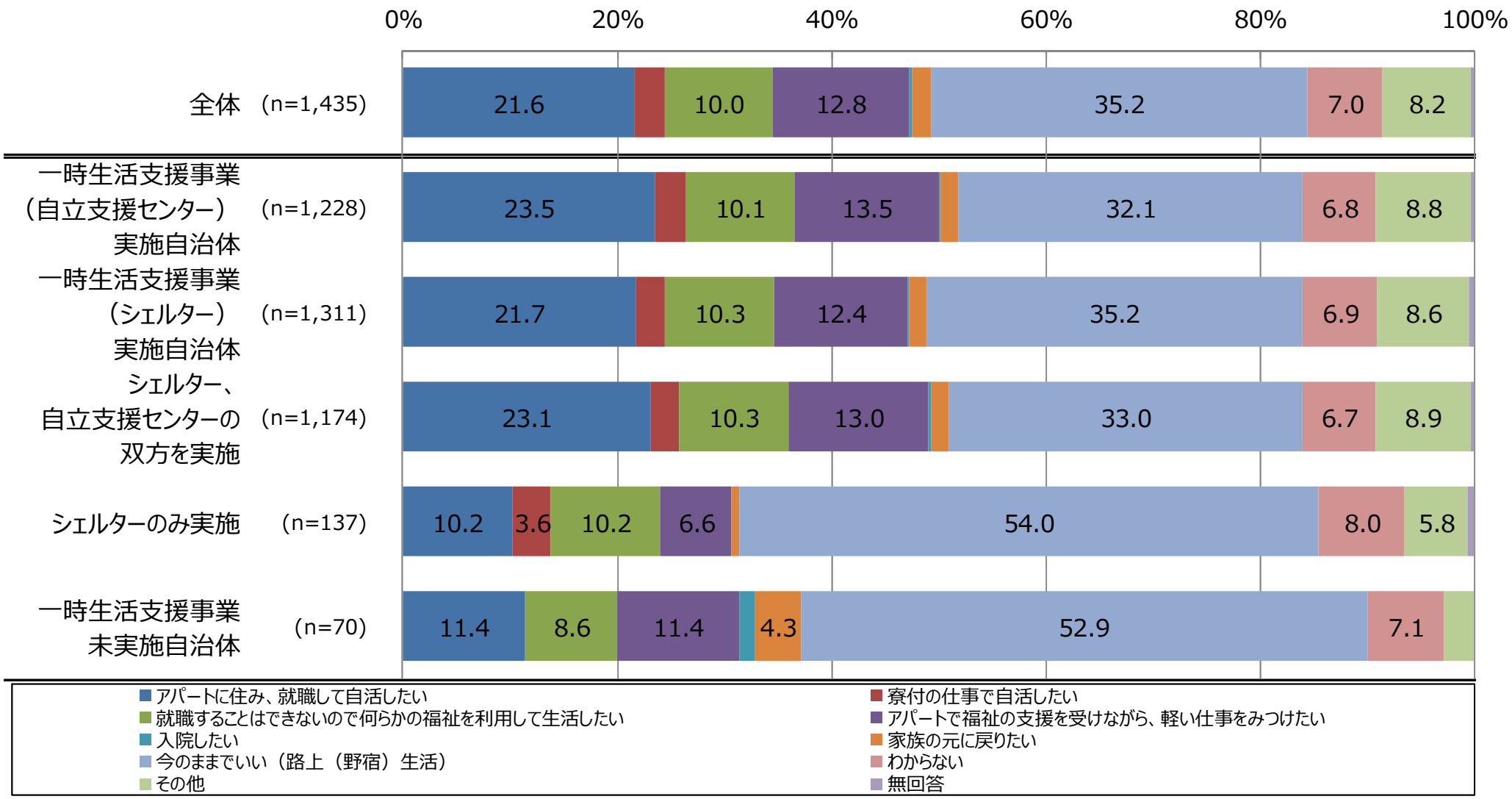
図表126　生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（事業実施別））



問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「シェルターのみ」実施自治体及び「一時生活支援事業未実施」自治体では「アパートに住み、就職して自活したい」（全体：21.6%、シェルターのみ10.2%、一時生活未実施：11.4%）の割合が低く、「今のままでいい」（全体：35.2%、シェルターのみ：54.0%、一時生活未実施：52.9%）の割合が高い。

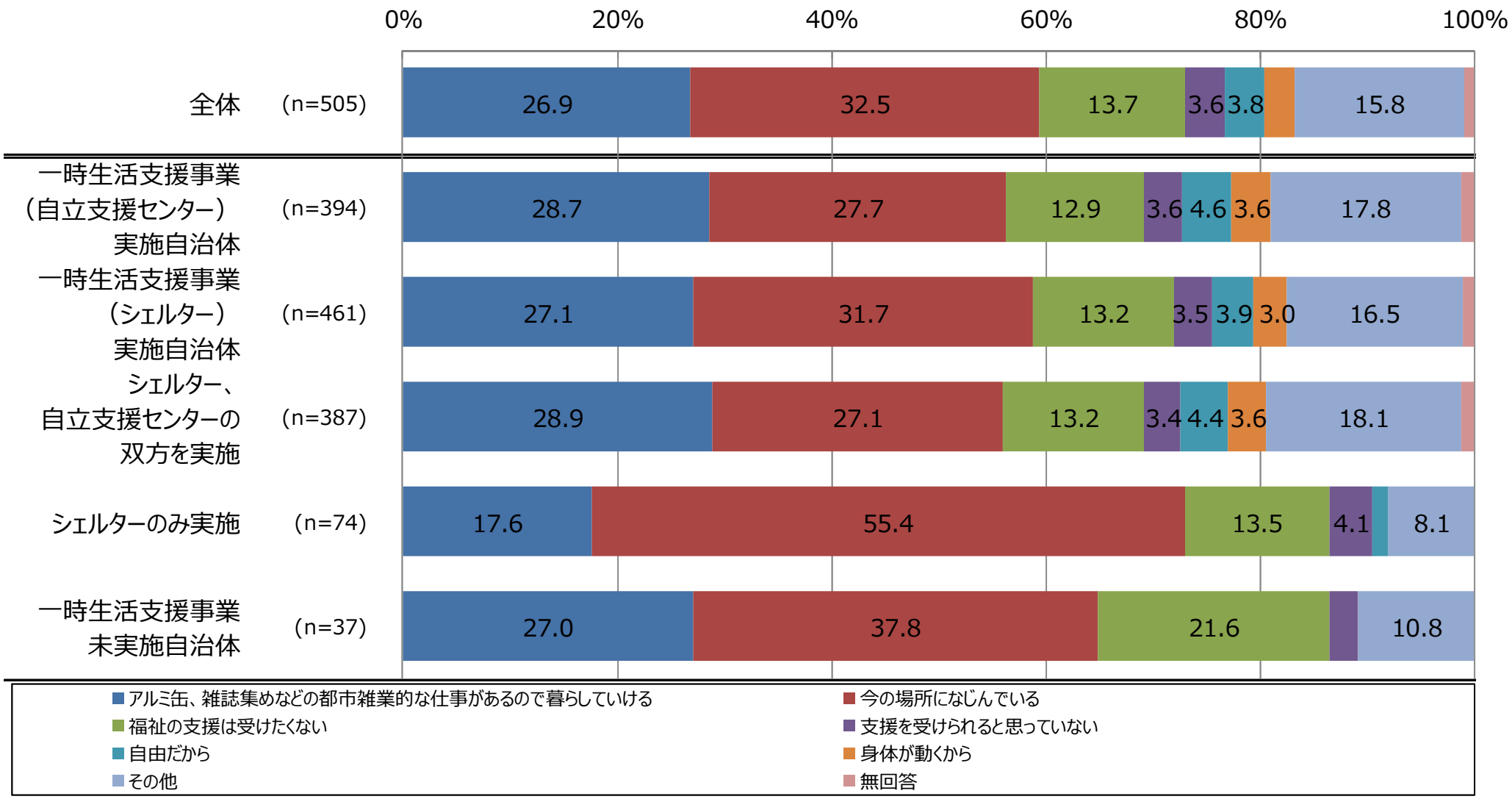
図表127　今後望んでいる生活（地域別（事業実施別））



問３３－１　今の生活のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「シェルターのみ」実施自治体では「今の場所になじんでいる」の割合が高く、「一時生活支援事業未実施」自治体では「今の場所になじんでいる」及び「福祉の支援は受けたくない」の割合が高い。

図表128　今の生活のままでいい理由（地域別（事業実施別））



（６）地域別（人口別）

<地域別（人口別）の傾向について>

（１）路上での生活

○　寝場所は、人口規模が小さい自治体に起居する者ほど一定の場所で決まっている割合が高く、具体的な寝場所としては、人口２００万人以上の自治体に起居する者で公園と道路が多く、人口１００万人未満の自治体に起居する者で河川が多い。
　また、寝場所をつくる方法としては、人口１００万人未満の自治体に起居する者でテント又は小屋を常設する割合が高い。

○　仕事は、人口５０万人未満の自治体に起居する者で仕事により収入を得ている割合が高く、人口５０～１００万人未満の自治体に起居する者で仕事による収入がない割合が高い。

（２）路上生活までのいきさつ

○　初めて路上生活する前に住んでいた地域との関係では、人口５０万人未満の自治体に起居する者では同一県内の別の市区町村から移動している傾向が見られる。

（３）福祉制度の周知・利用状況

○　シェルター、自立支援センターの周知度・利用度は、いずれも人口１００万人以上の自治体に起居する者では割合が高い。

○　生活保護は、人口５０万人未満の自治体に起居する者で利用経験がない割合が高く、制度を利用しなかった理由は、人口規模の小さい人口３０万人未満や人口５０～１００万人未満の自治体に起居する者では「自分は利用できないと思っている」といった制度の利用を肯定的に捉えていない割合が高い。

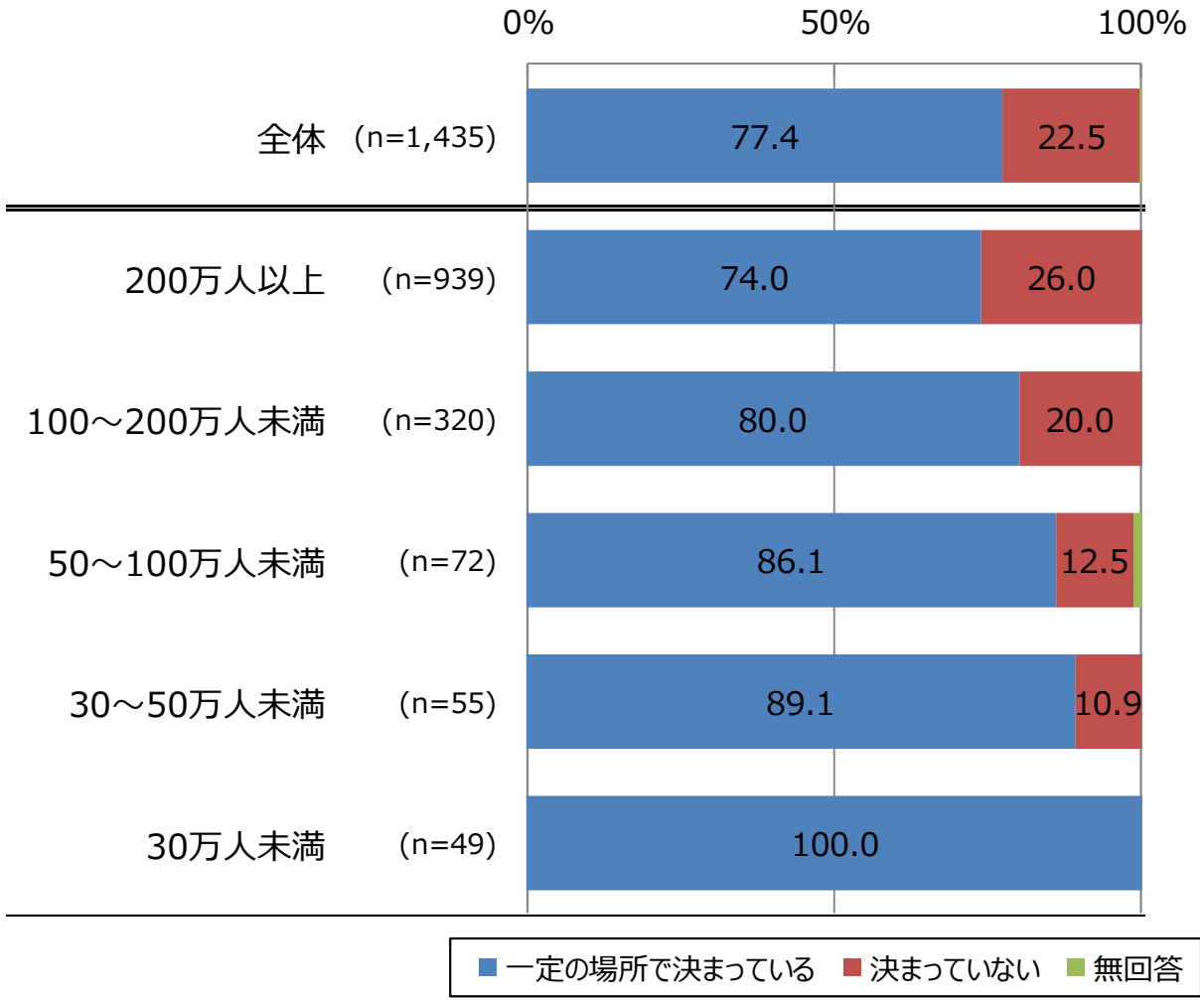
（４）今後の生活

○　今後望んでいる生活は、人口２００万人以上、人口５０～１００万人未満の自治体に起居する者ではアパートや寮といった住居と仕事を確保して自活を希望する割合が高く、人口５０万人未満の自治体に起居する者では現在の路上生活を維持することを希望する割合が高い。

問１　寝ている場所

- 寝ている場所については、「一定の場所で決まっている」と回答した人は全体では77.4%であるが、人口規模が小さい自治体ほど、一定の場所で決まっている人の割合が高い傾向にあり、「人口１００万人以上」の自治体では「決まっていない」割合が高い。

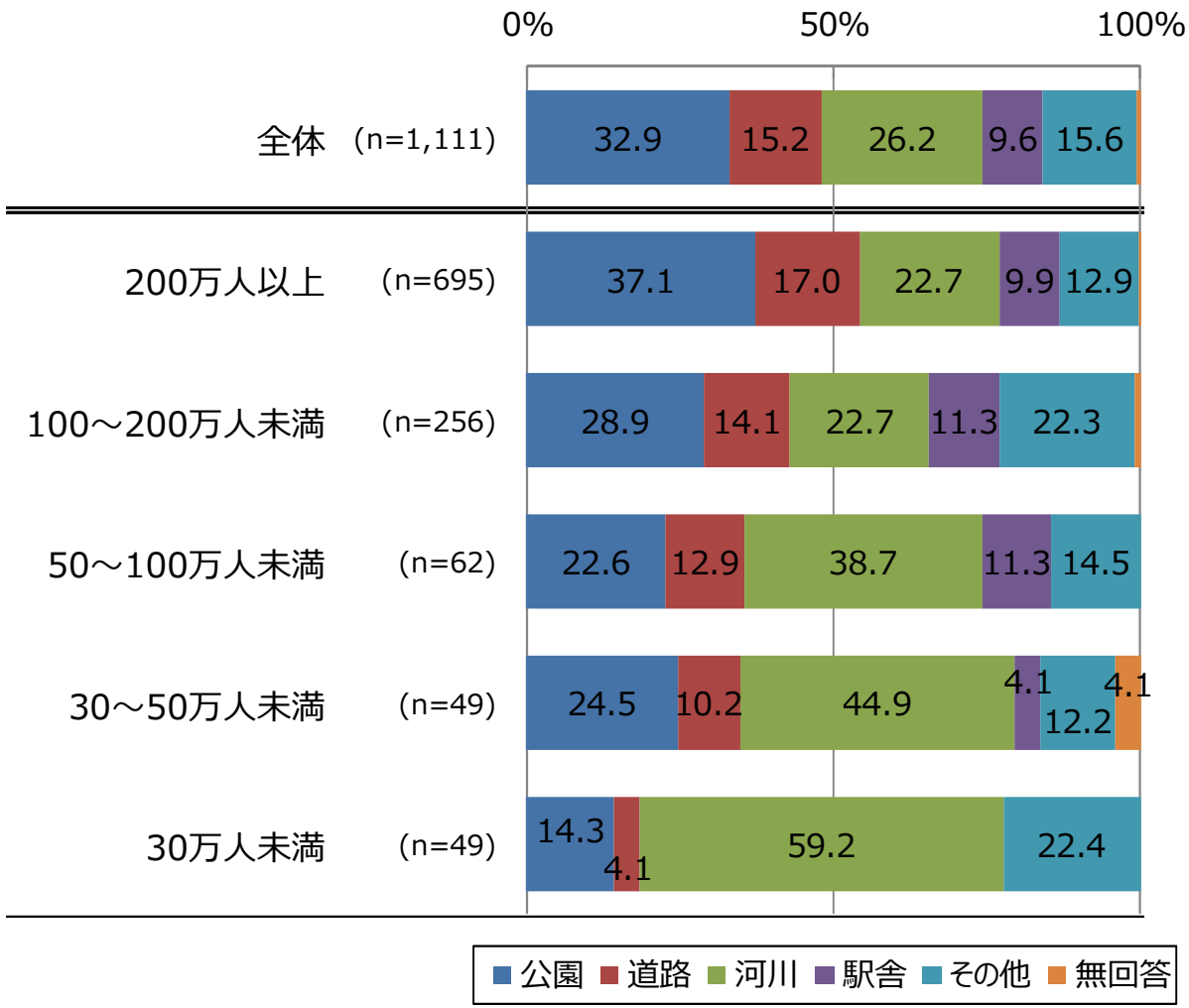
図表129　寝ている場所（地域別（人口別））



問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 具体的な寝場所については、「人口２００万人以上」の自治体では「公園」及び「道路」の割合が高く、「人口１００万人未満」の自治体では「河川」の割合が高い傾向にある。

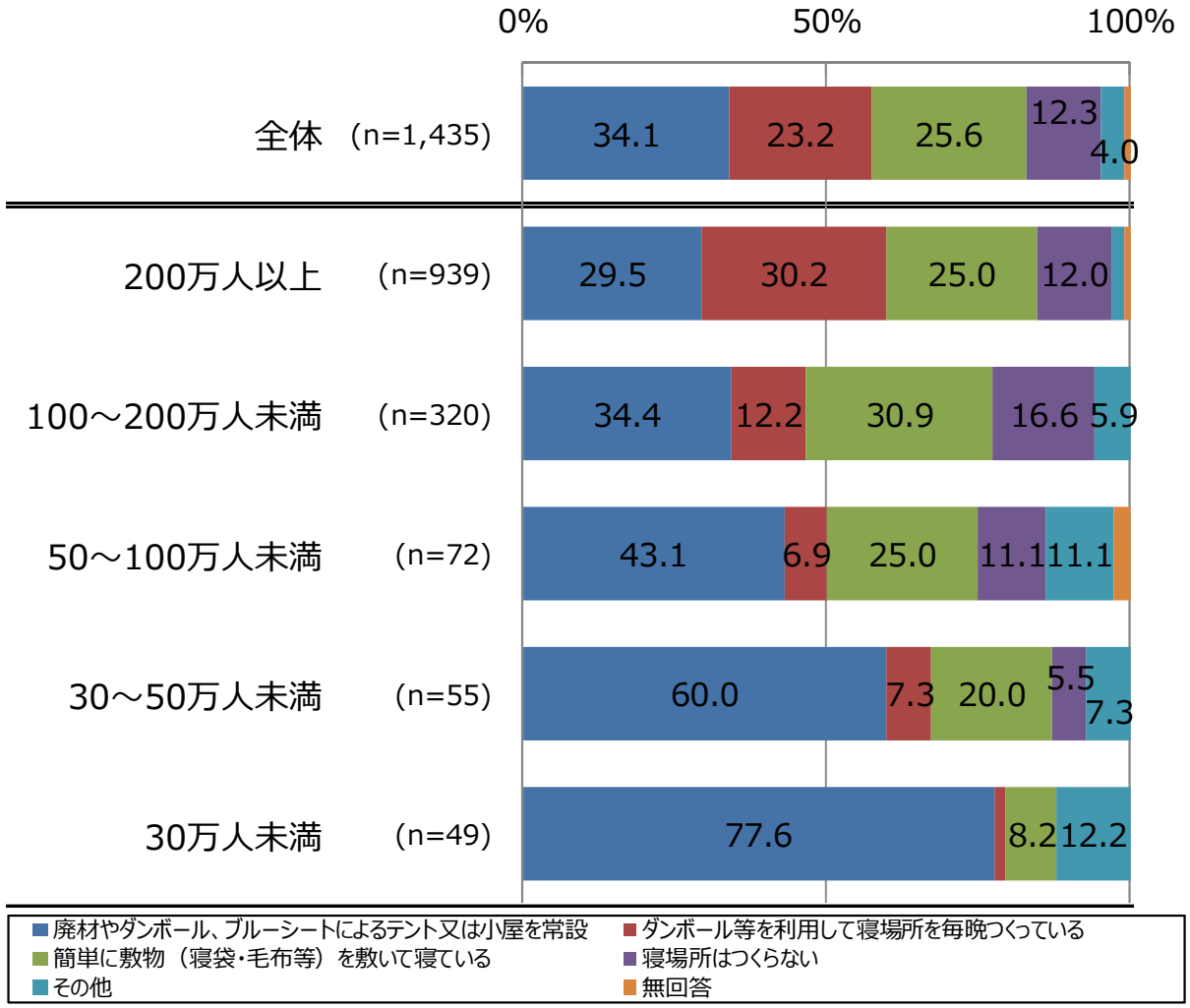
図表130　寝ている場所（具体的に）（地域別（人口別））



問２　寝（野宿）場所をつくる方法

- 寝（野宿）場所をつくる方法については、「人口１００万人未満」の自治体では「テント又は小屋を常設」の割合が高く、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「簡単に敷物を敷いて寝ている」の割合が高く、「人口２００万人以上」の自治体では「ダンボール等を利用」の割合が高い。

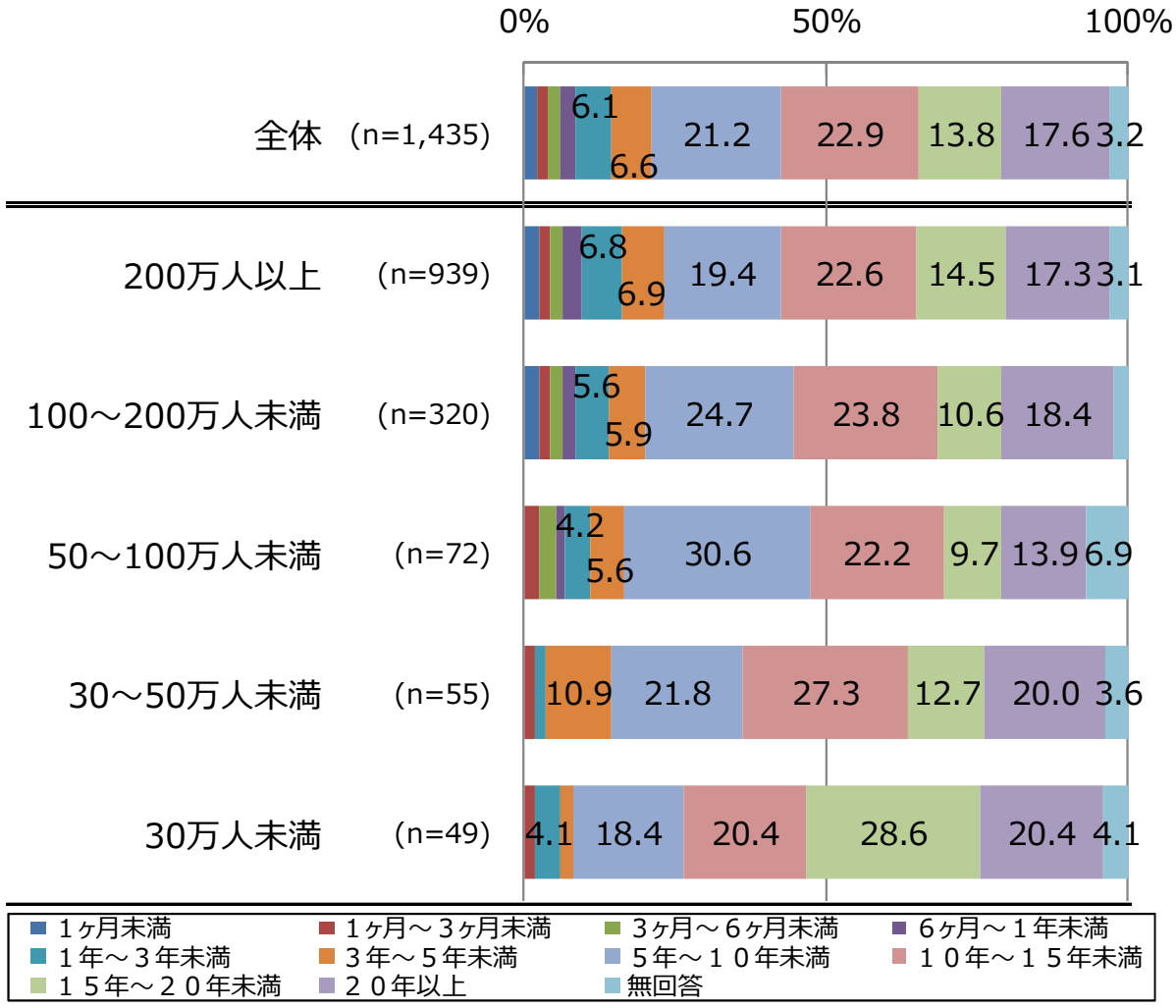
図表131　　寝（野宿）場所をつくる方法（地域別（人口別））



問５　初めての路上（野宿）生活

- 初めての路上（野宿）生活については、「人口５０万人未満」の自治体では「１０年以上」の割合が高い傾向にある。

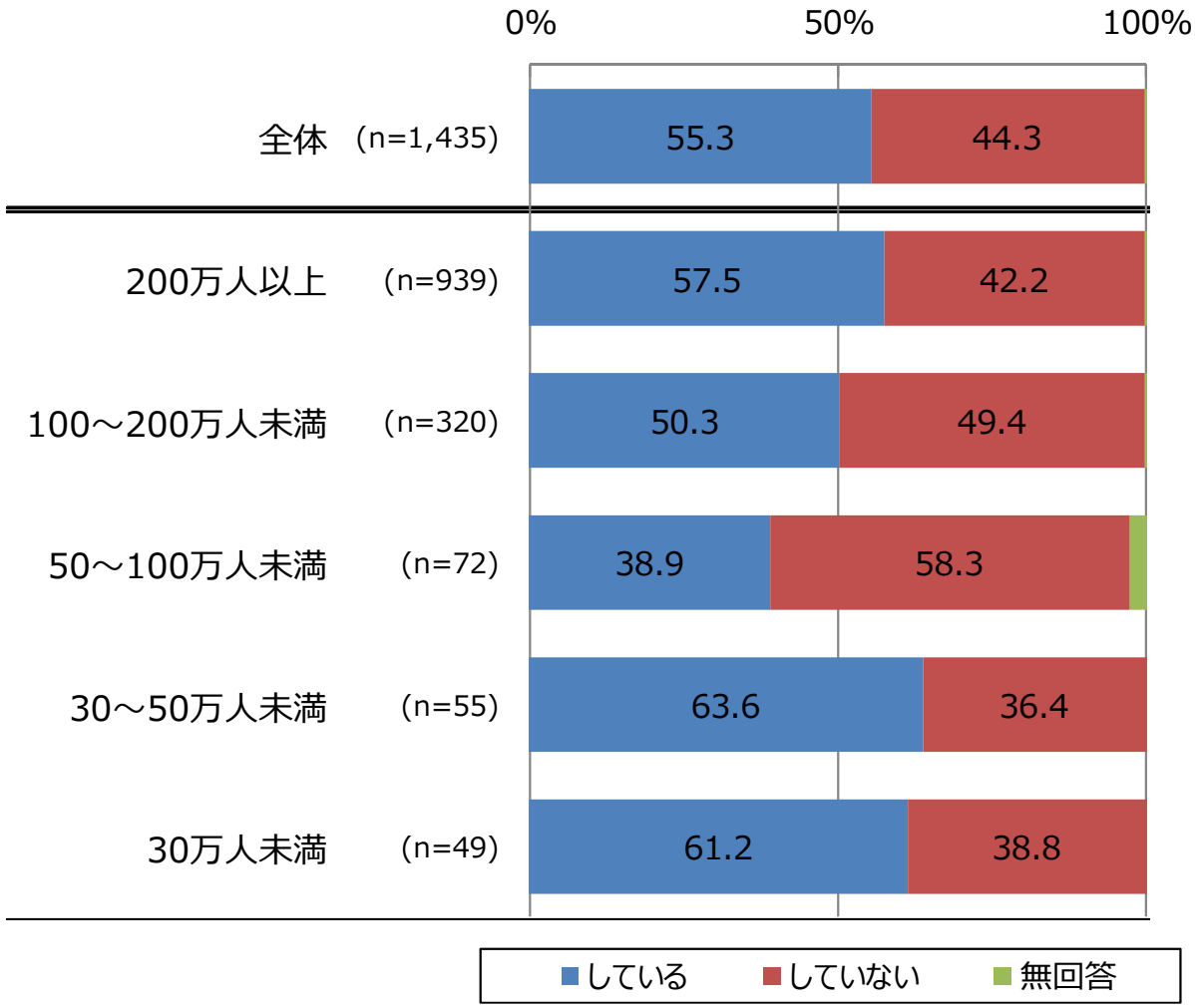
図表132　初めての路上（野宿）生活（地域別（人口別））



問６　現在収入のある仕事

- 現在収入のある仕事をしているかについては、「人口５０万人未満」の自治体では「している」（全体：55.3%、３０～５０万人未満：63.6%、３０万人未満：61.2%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「していない」の割合が高い。

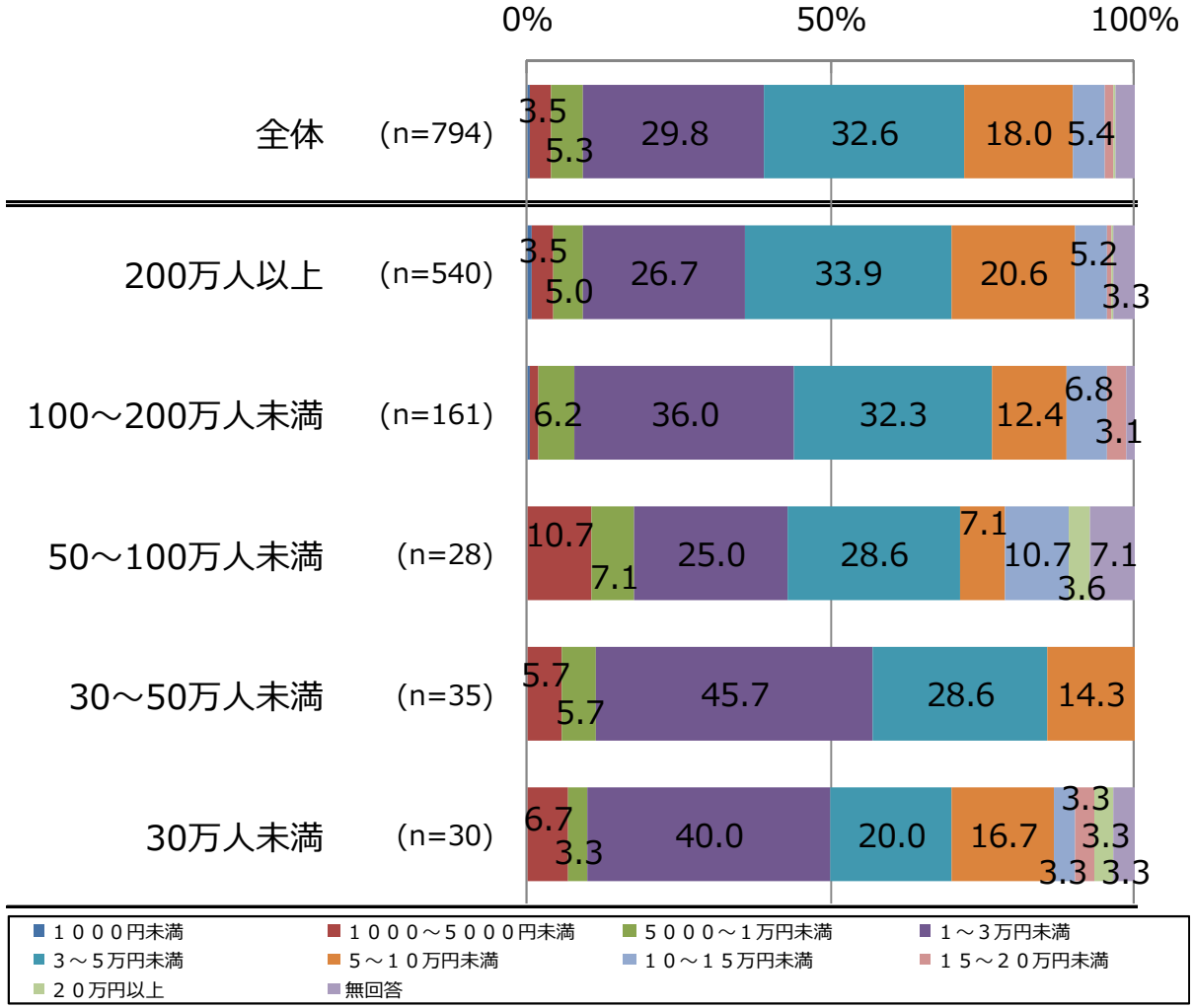
図表133　現在収入のある仕事（地域別（人口別））



問６－２　仕事による収入（月額・円）

- 仕事による収入（月額）については、「人口５０万人未満」及び「人口１００～２００万人未満」の自治体では「１～３万円未満」（全体：29.8%、３０～５０万人未満の自治体：45.7%、３０万人未満：40.0%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」の自治体では「1,000～5,000円未満」（全体：3.5%、５０～１００万人未満：10.7%）及び「１０～１５万円未満」（全体：5.4%、５０～１００万人未満：10.7%）の割合が高い。

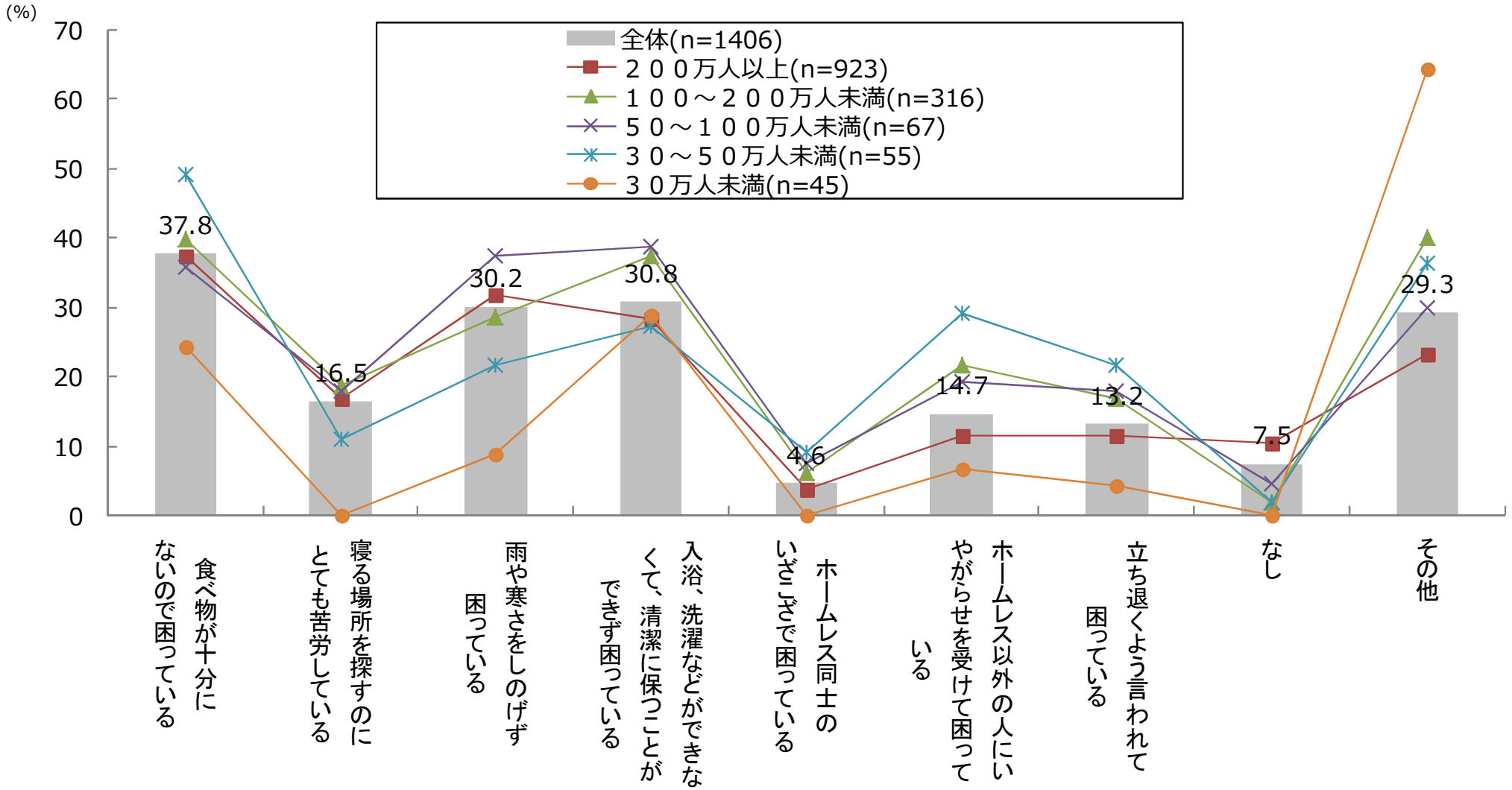
図表134　仕事による収入・月額（円）（地域別（人口別））



問８　路上（野宿）生活の中で、困っていること（複数回答）

- 路上（野宿）生活の中で、困っていることについては、「人口３０万人未満」の自治体では「食べ物が十分にないので困っている」、「寝る場所を探すのにとても苦労している」「雨や寒さをしのげずに困っている」の割合が低い。

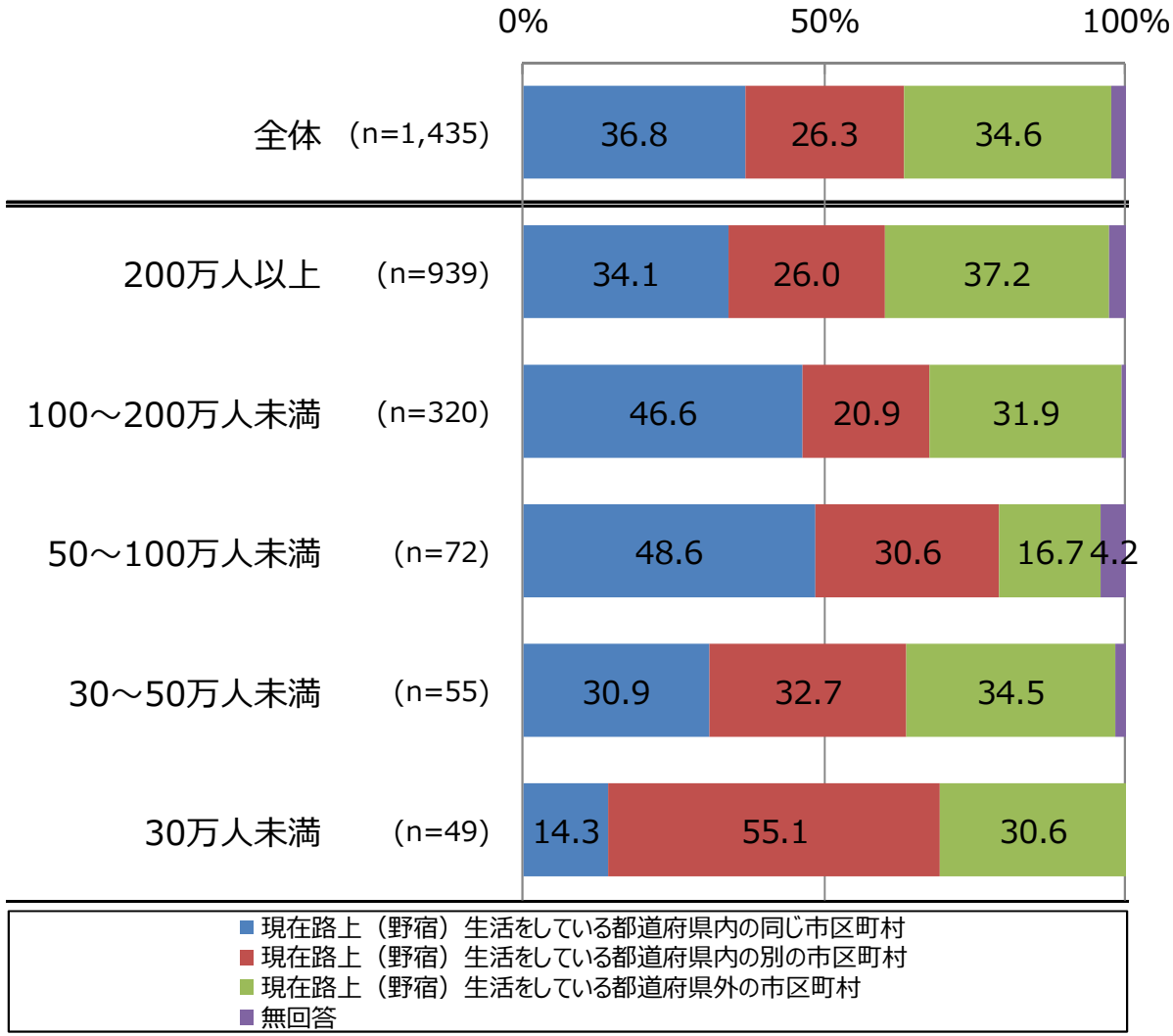
図表135　路上（野宿）生活の中で、困っていること（複数回答）（地域別（人口別））



問１１　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域

- 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域については、「人口５０～２００万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村（全体：36.8%、５０～１００万人未満：48.6%、１００～２００万人未満：46.6%）」の割合が高く、「人口５０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」（全体：26.3%、３０万人未満：55.1%、３０～５０万人未満：32.7%）の割合が高い。

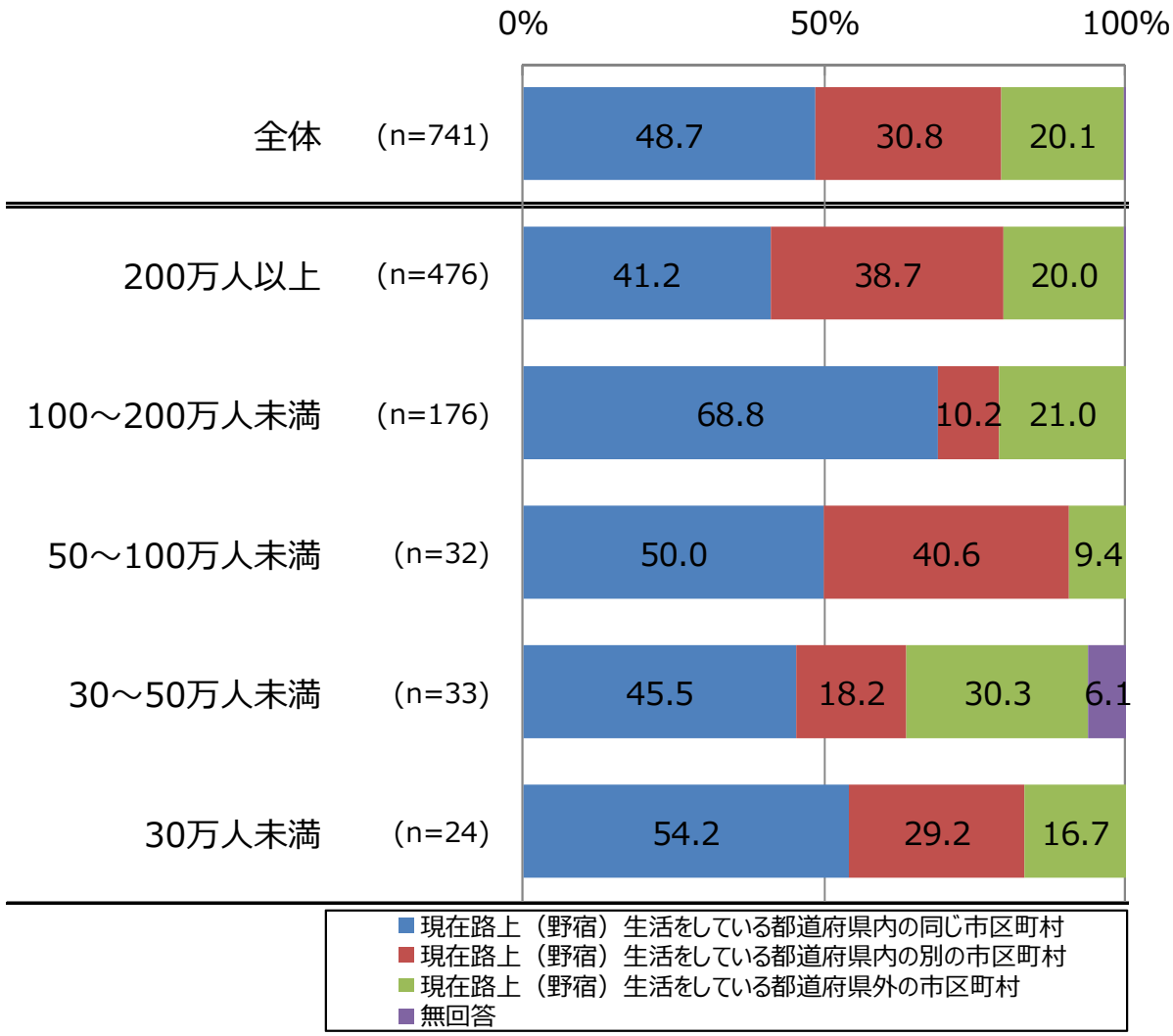
図表136　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域（地域別（人口別））



問１６－１　別の路上（野宿）生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所での経験については、「人口３０万人未満」及び「人口１００～２００万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」及び「人口２００万人以上」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県内の別の市区町村」の割合が高く、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「現在路上生活をしている都道府県外の市区町村」の割合が高い。

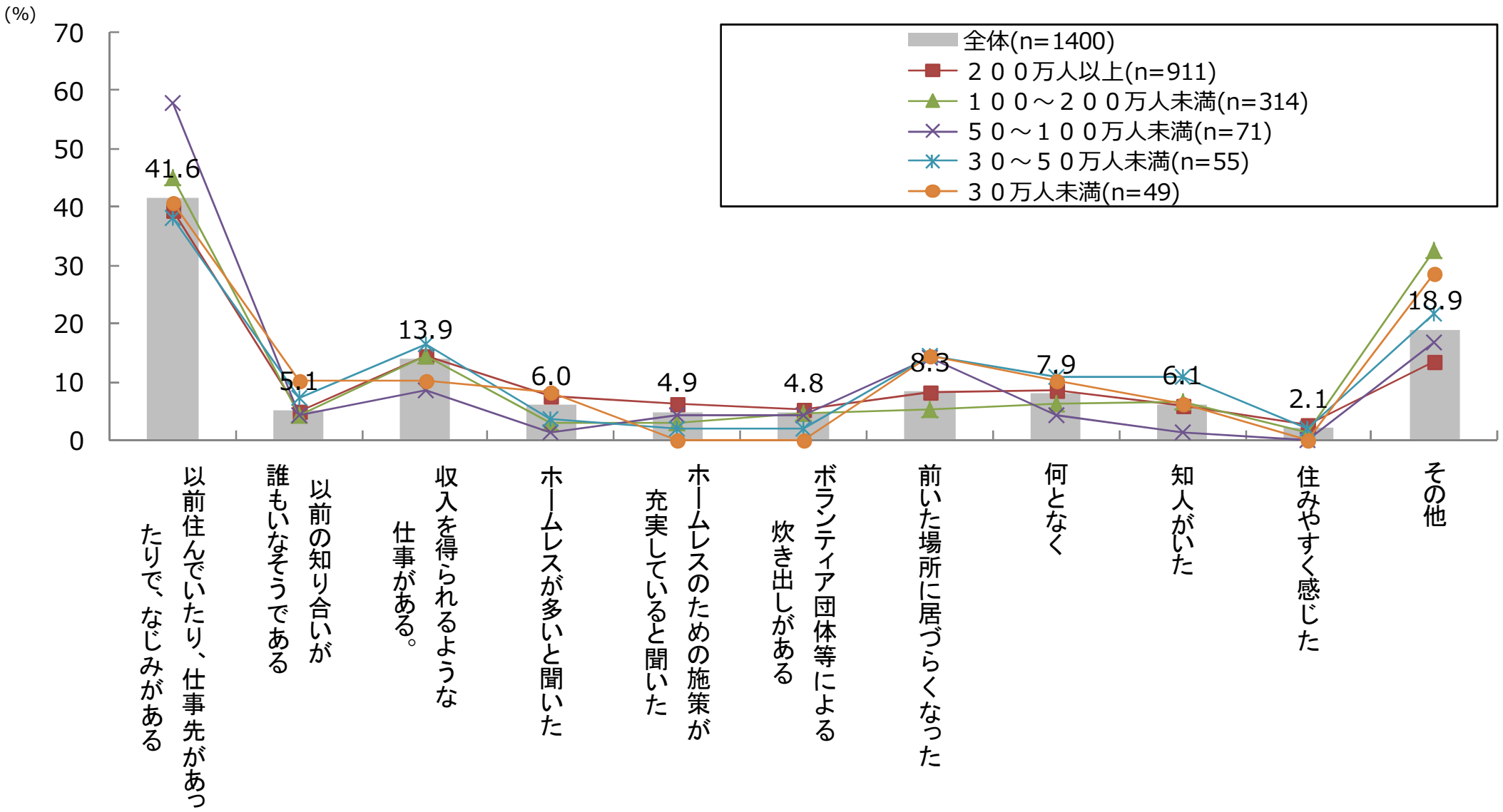
図表137　別の路上（野宿）生活場所（地域別（人口別））



問１７　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）

- 現在の市区町村に来た主な理由については、「人口３０万人未満」の自治体では「以前の知り合いが誰もいなそうである」の割合が高く、「人口１００万人未満」の自治体では「前いた場所に居づらくなった」（全体：8.3%、３０万人未満：14.3%、３０～５０人未満：14.5%、５０～１００万人未満：14.1%）の割合が高く、「人口５０～２００万人未満」の自治体では「なじみがある」（全体：41.6%、５０～１００万人未満：57.7%、１００～２００万人未満：44.9%）の割合が高い。

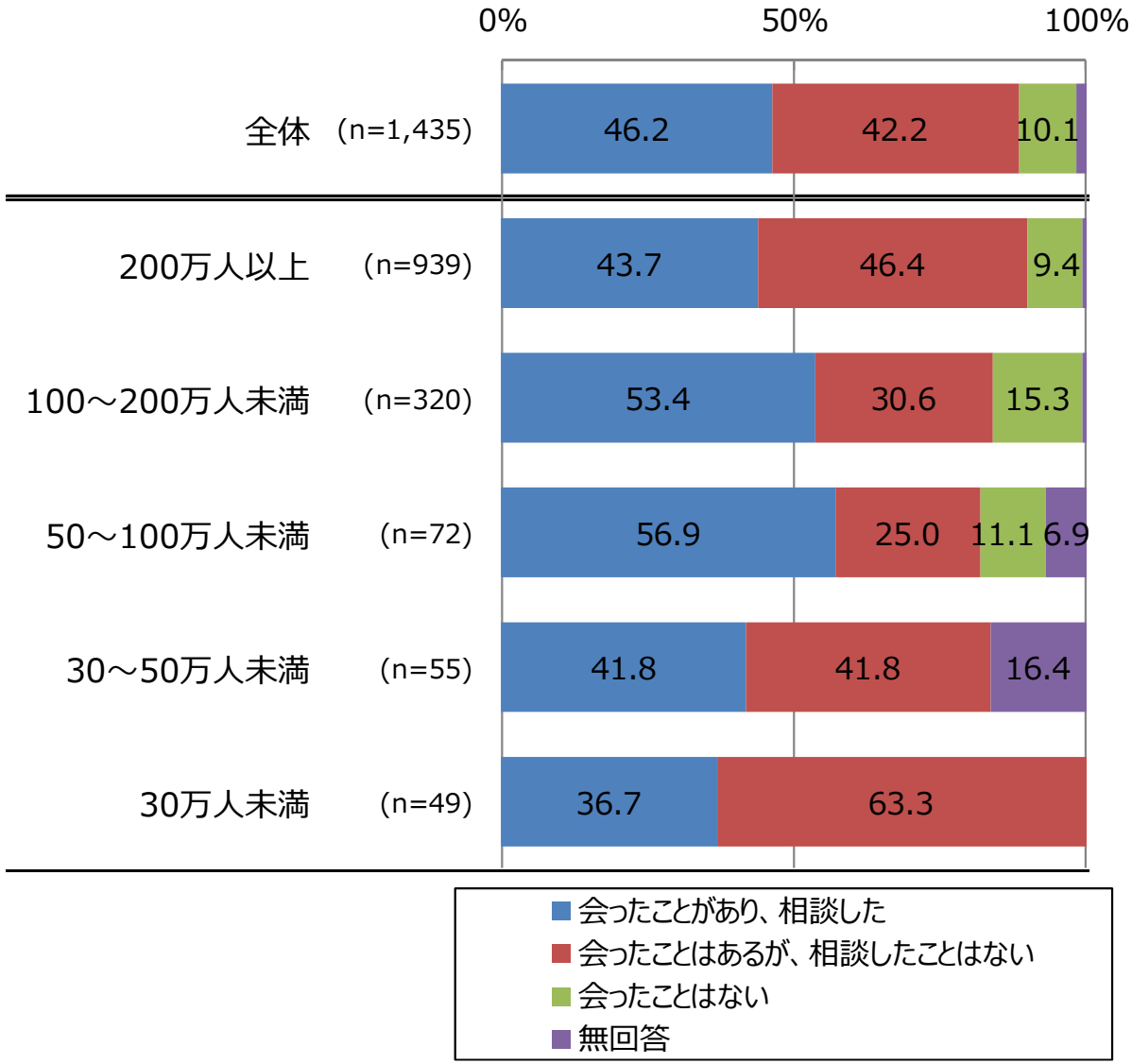
図表138　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）（地域別（人口別））



問２５　巡回相談員に会ったこと

- 巡回相談員に会ったことがあるかについては、「人口３０万人未満」及び「人口２００万人以上」の自治体では「（相談の有無によらず）会ったことがある」（全体：88.4%、３０万人未満：100%、２００万人以上：90.1%）の割合が高い。また、相談の有無については、「人口５０～２００万人未満」の自治体では「相談した」（全体：46.2%、５０～１００万人未満：56.9%、１００～２００万人未満：53.4%）の割合が高い。

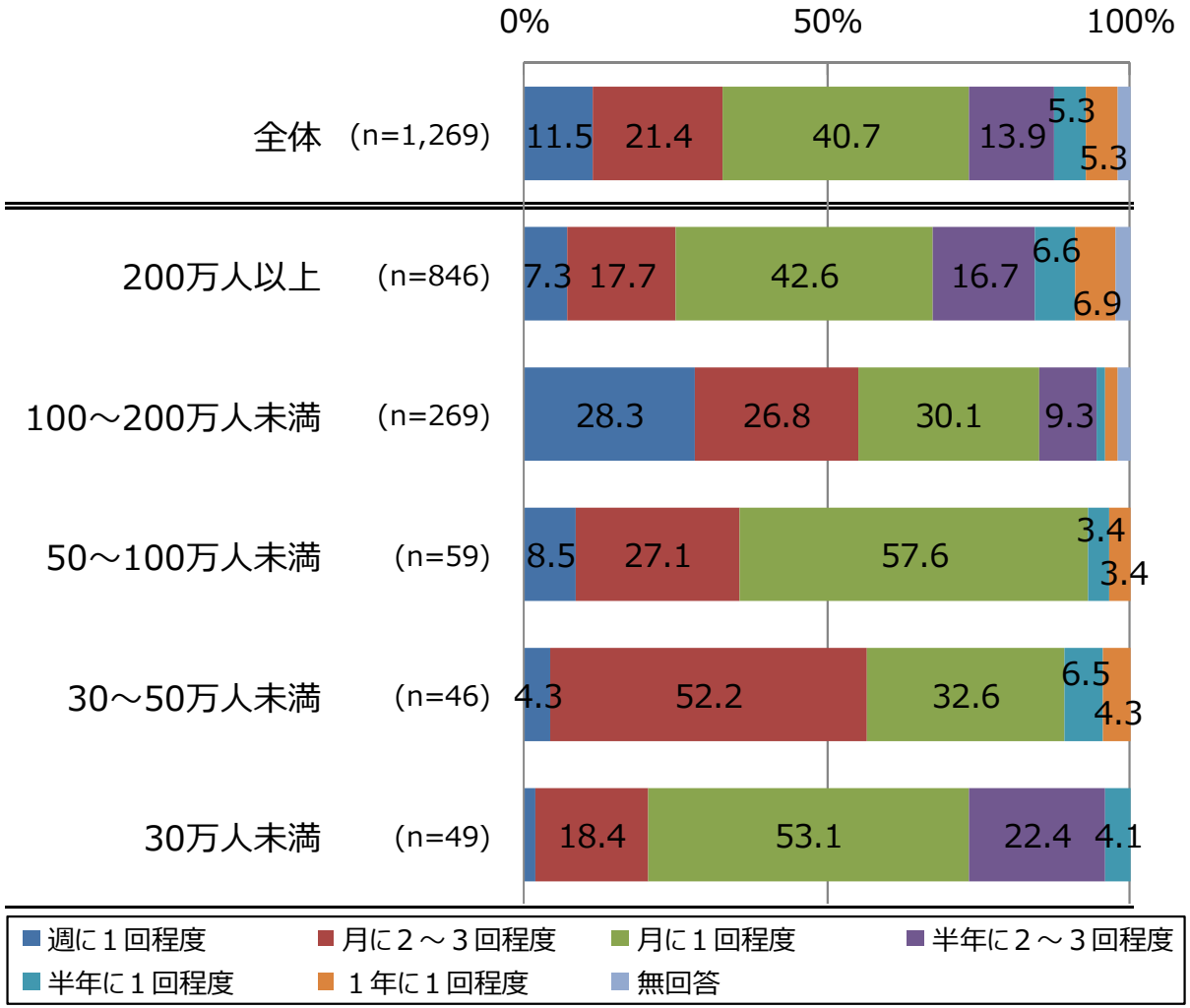
図表139　巡回相談員に会ったこと（地域別（人口別））



問２５－１　巡回の頻度

- 巡回の頻度については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「週に１回程度」（28.3%）及び「月に２～３回程度」（26.8%）の割合が高く、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「月に２～３回程度」（52.2%）の割合が高く、「人口５０～１００万人未満」及び「人口３０万人未満」の自治体では「月に１回程度」（全体：40.7%、５０～１００万人未満：57.6%、３０万人未満：53.1%）の割合が高い。

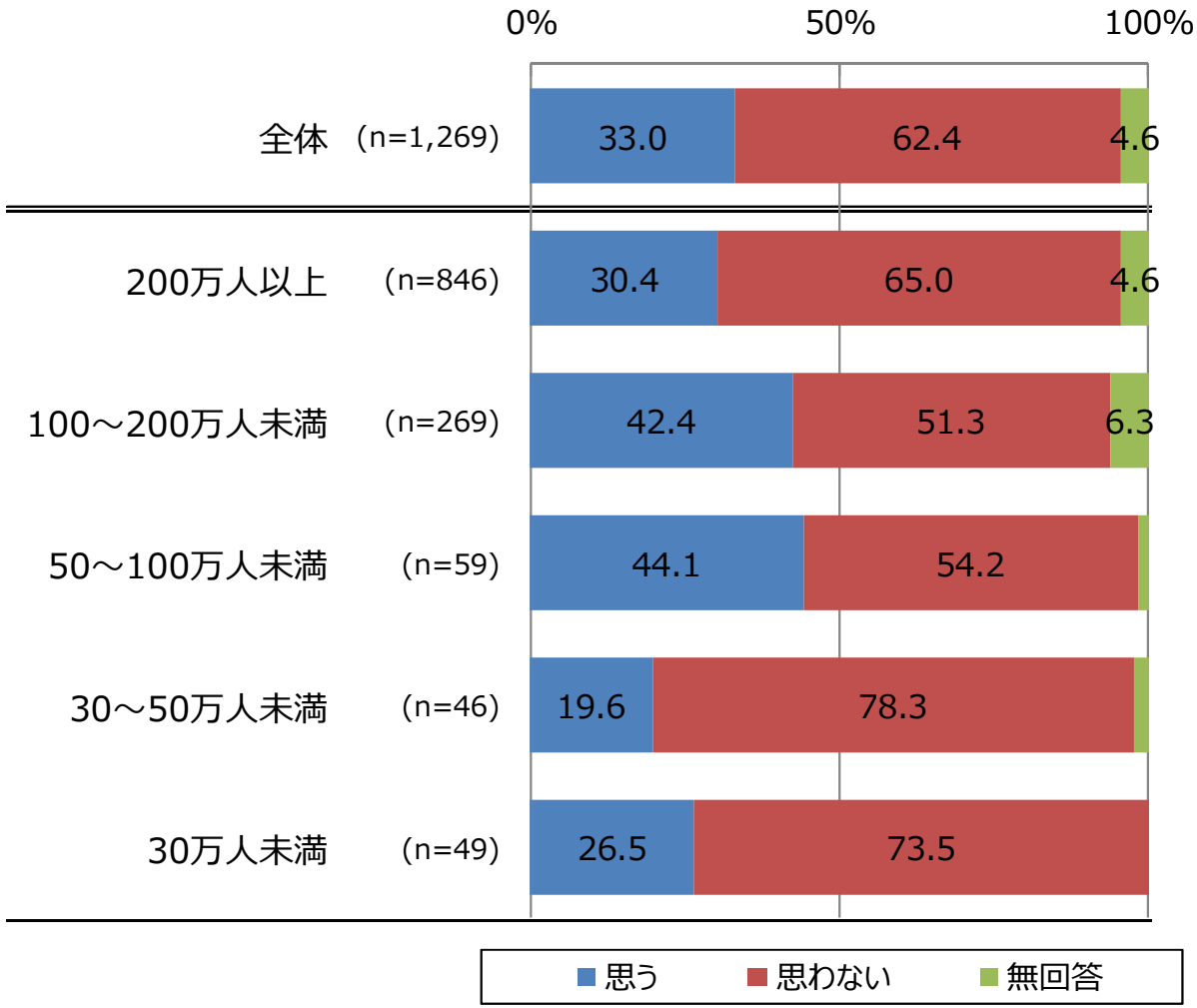
図表140　巡回の頻度（地域別（人口別））



問２５－２　頻繁に巡回するようになったと思うか

- 巡回相談員が頻繁に巡回するようになったと思うかについては、「人口５０～２００万人未満」の自治体では「思う」（全体：33.0%、５０～１００万人未満：44.1%、１００～２００万人未満：42.4%）の割合が高い。

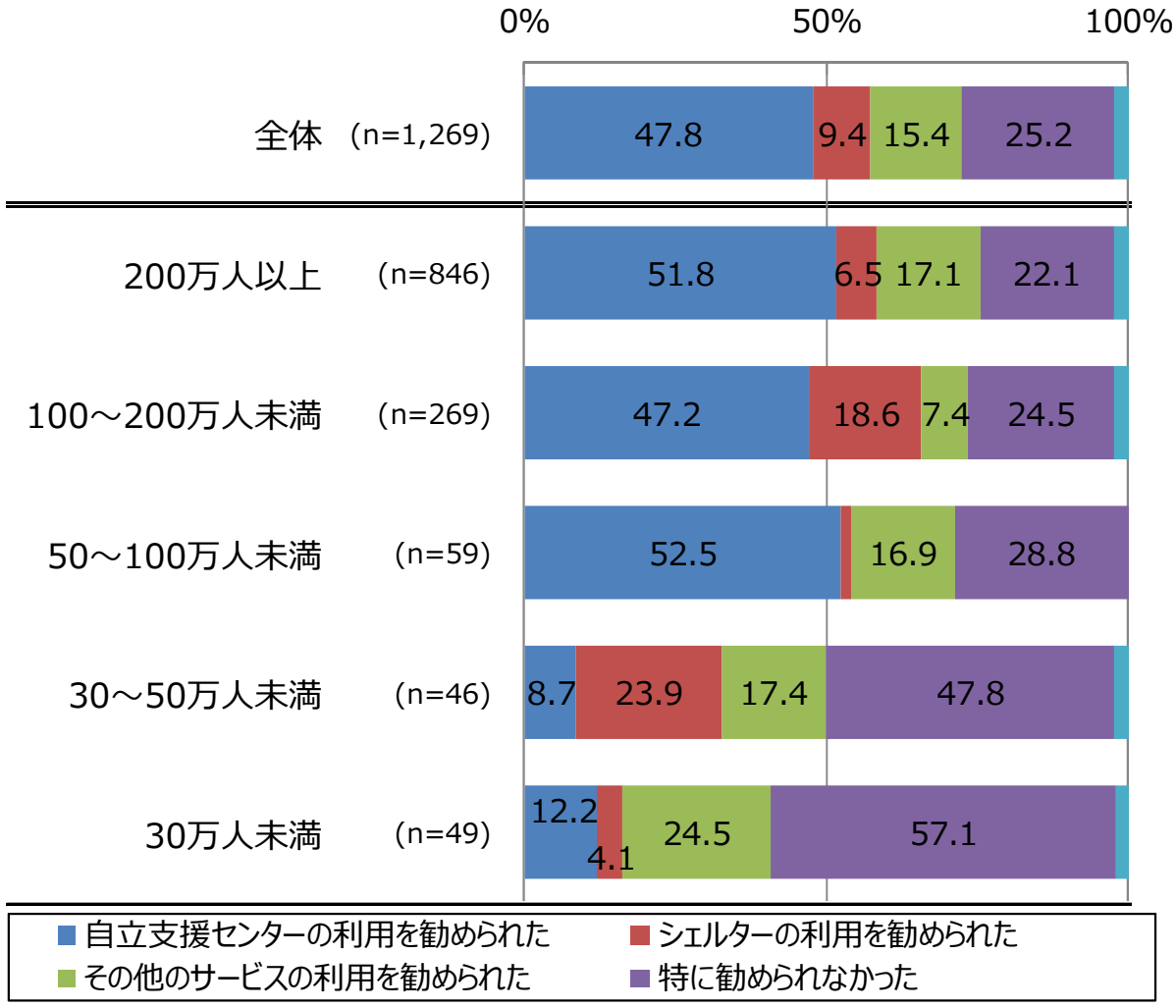
図表141　頻繁に巡回するようになったと思うか（地域別（人口別））



問２５－４　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め

- 巡回相談員に自立支援センターやシェルター等の利用を勧められたかについては、「人口５０万人以上」の自治体では「自立支援センターの利用を勧められた」の割合が高く、「人口３０～５０万人未満」の自治体では「シェルターの利用を勧められた」の割合が高く、「人口３０万人未満」の自治体では「その他のサービスを勧められた」の割合が高いが、一方、「人口５０万人未満」の自治体では「特に勧められなかった」の割合も高い。

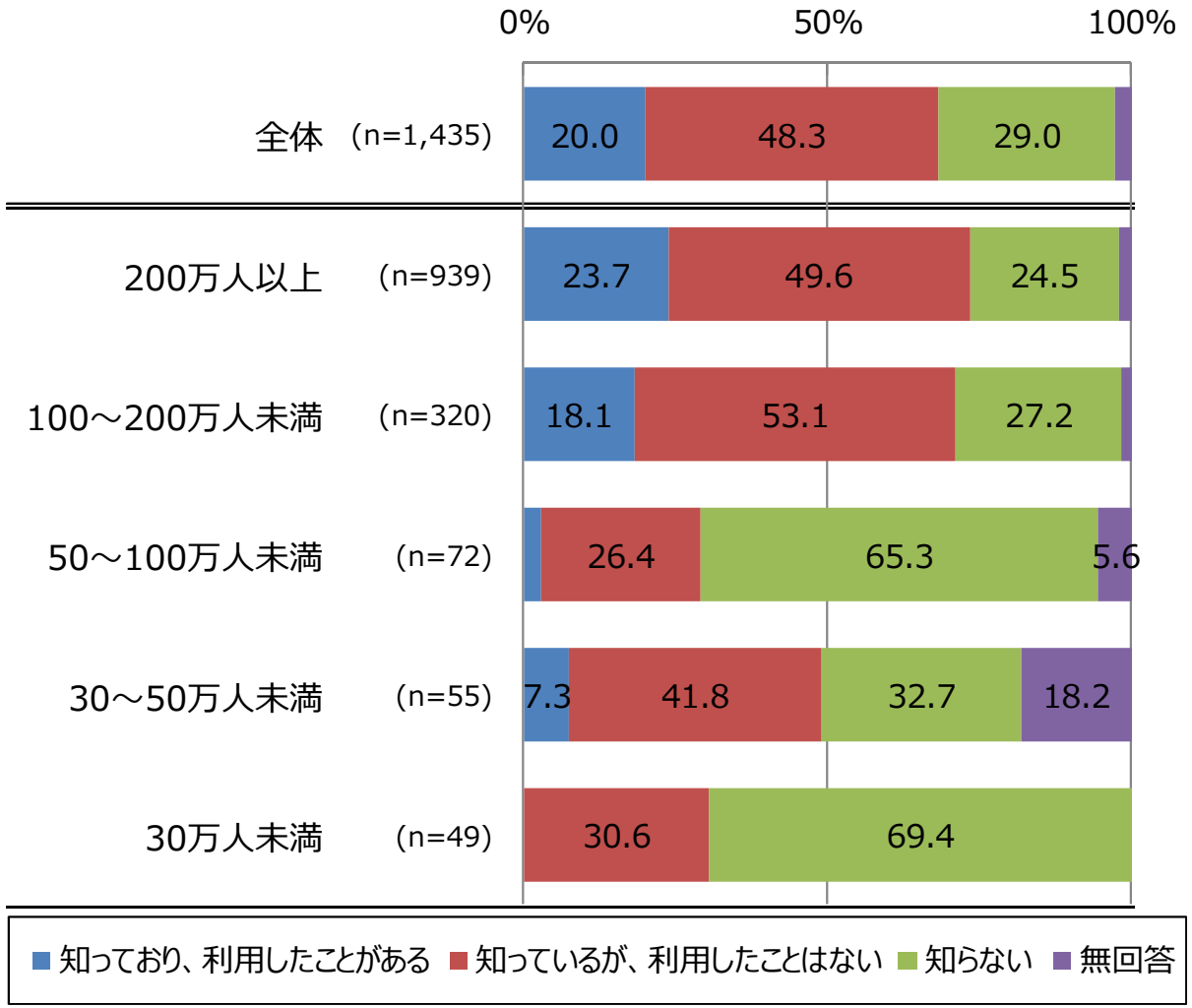
図表142　自立支援センターやシェルター等の利用の勧め（地域別（人口別））



問２６　シェルターの内容の認知度・利用度

- シェルターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口100万人以上」の自治体では割合が高い。

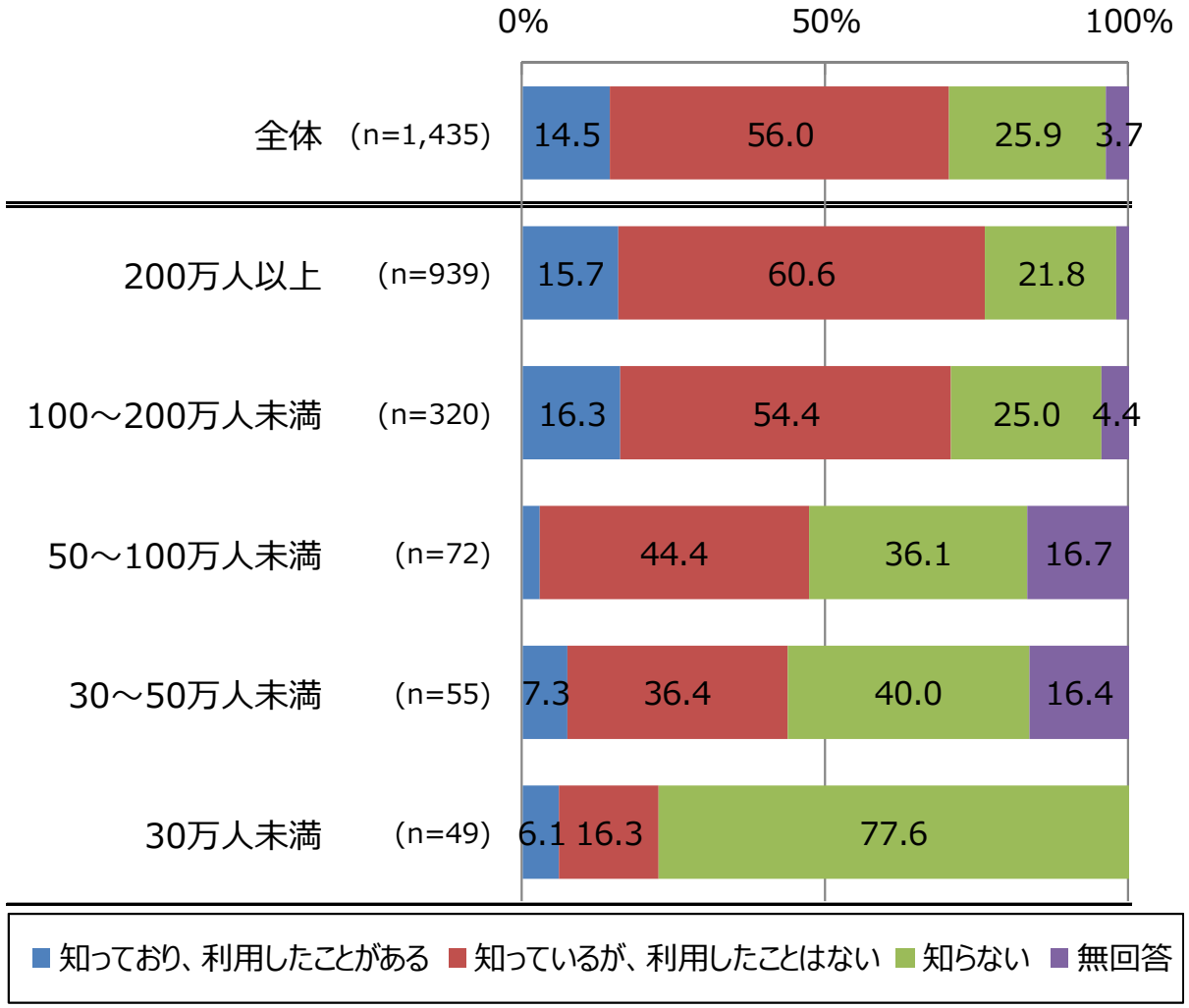
図表143　シェルターの内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



問２７　自立支援センターの内容の認知度・利用度

- 自立支援センターの内容の認知度・利用度については、認知度・利用度ともに「人口100万人以上」の自治体では割合が高い。

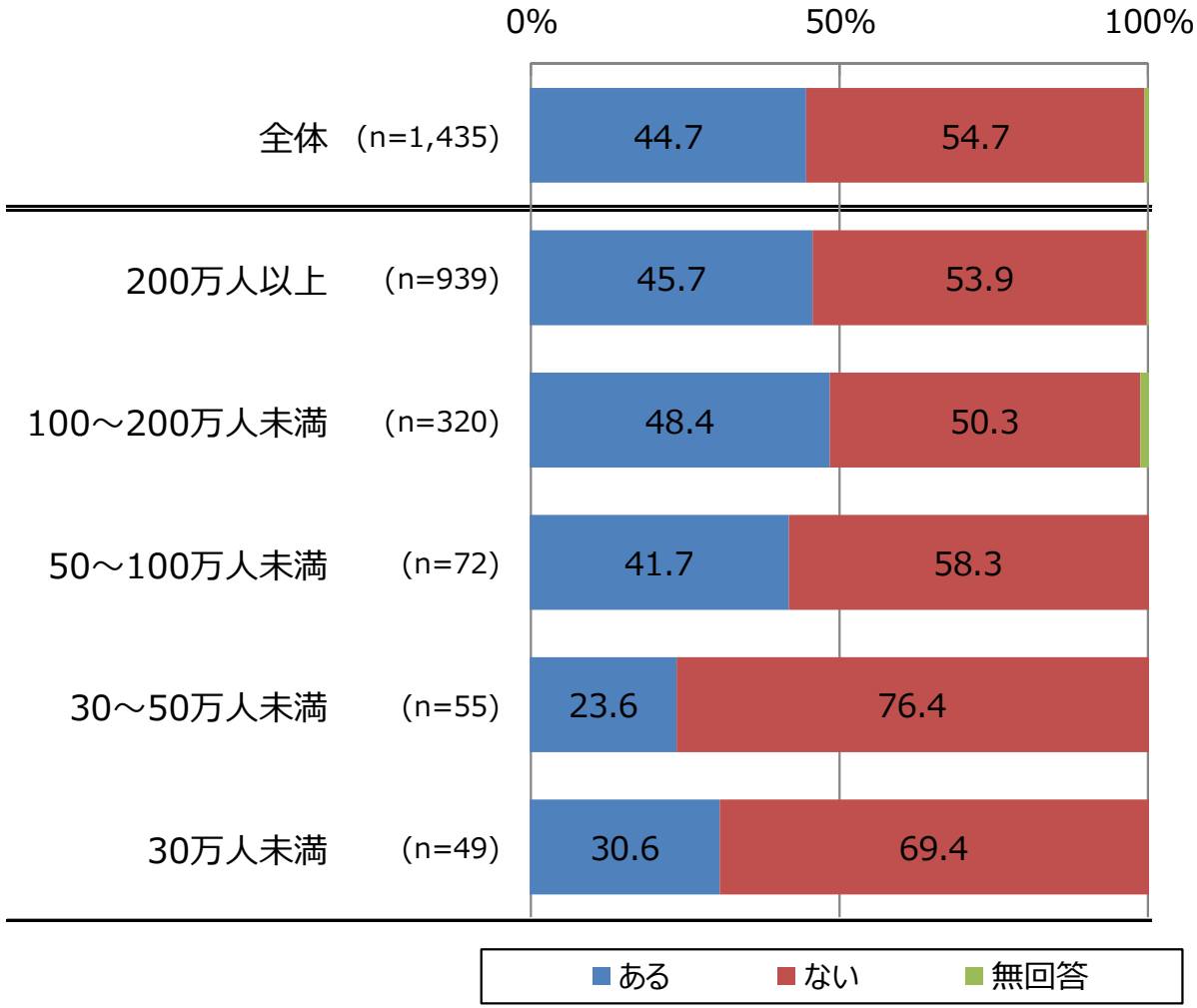
図表144　自立支援センターの内容の認知度・利用度（地域別（人口別））



問２８　公的機関への相談

- 公的機関への相談については、「人口５０万人未満」の自治体では「ある」（全体：44.7%、３０万人未満：30.6%、３０～５０人未満：23.6%）の割合が低い。

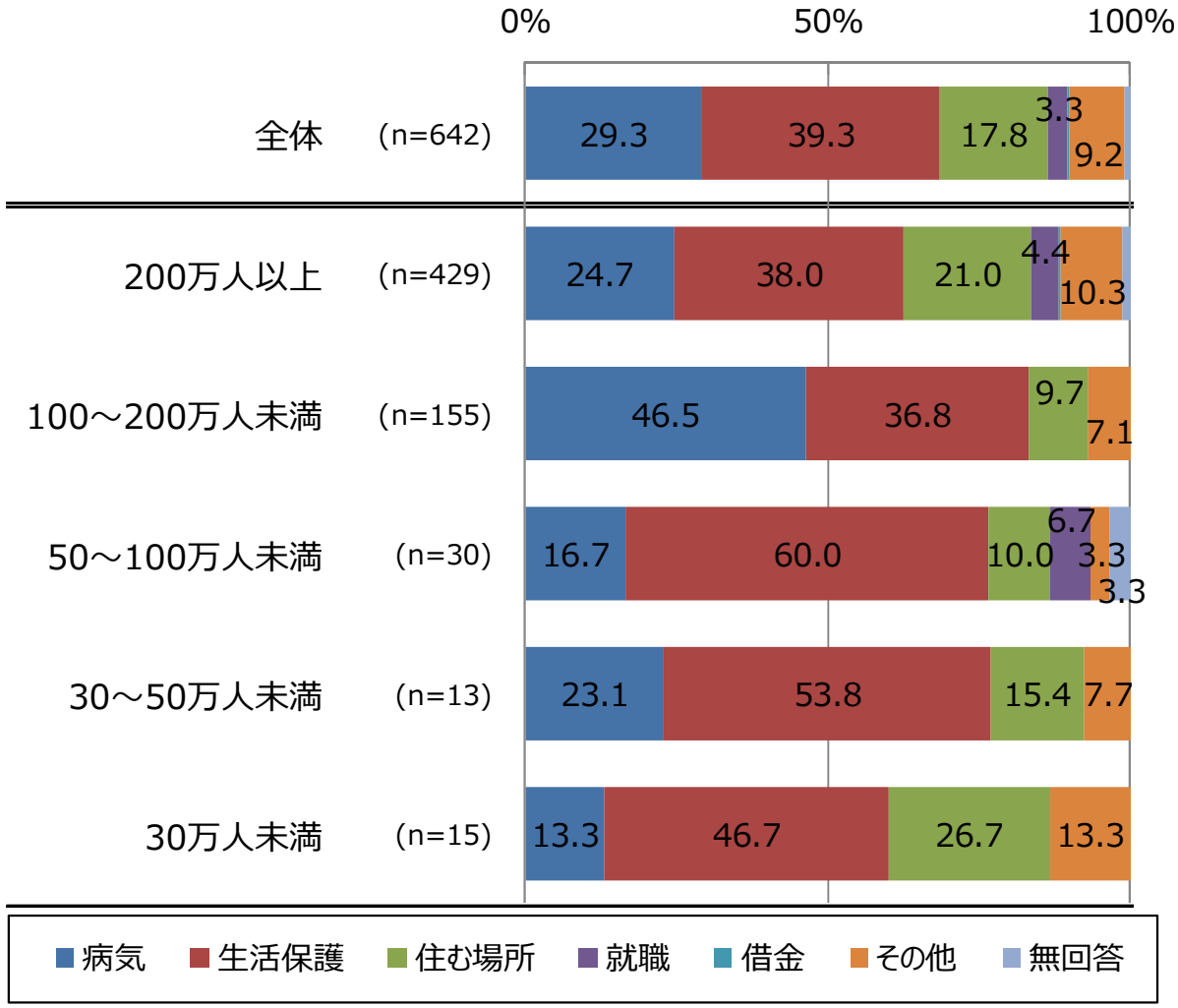
図表145　公的機関への相談（地域別（人口別））



問２８－１　公的機関への相談内容

- 公的機関への相談内容については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「病気」（46.5%）の割合が高く、「人口１００万人未満」の自治体では「生活保護」の割合が高いほか、「人口３０万人未満」及び「人口２００万人以上」の自治体では「住む場所」の割合も高い。

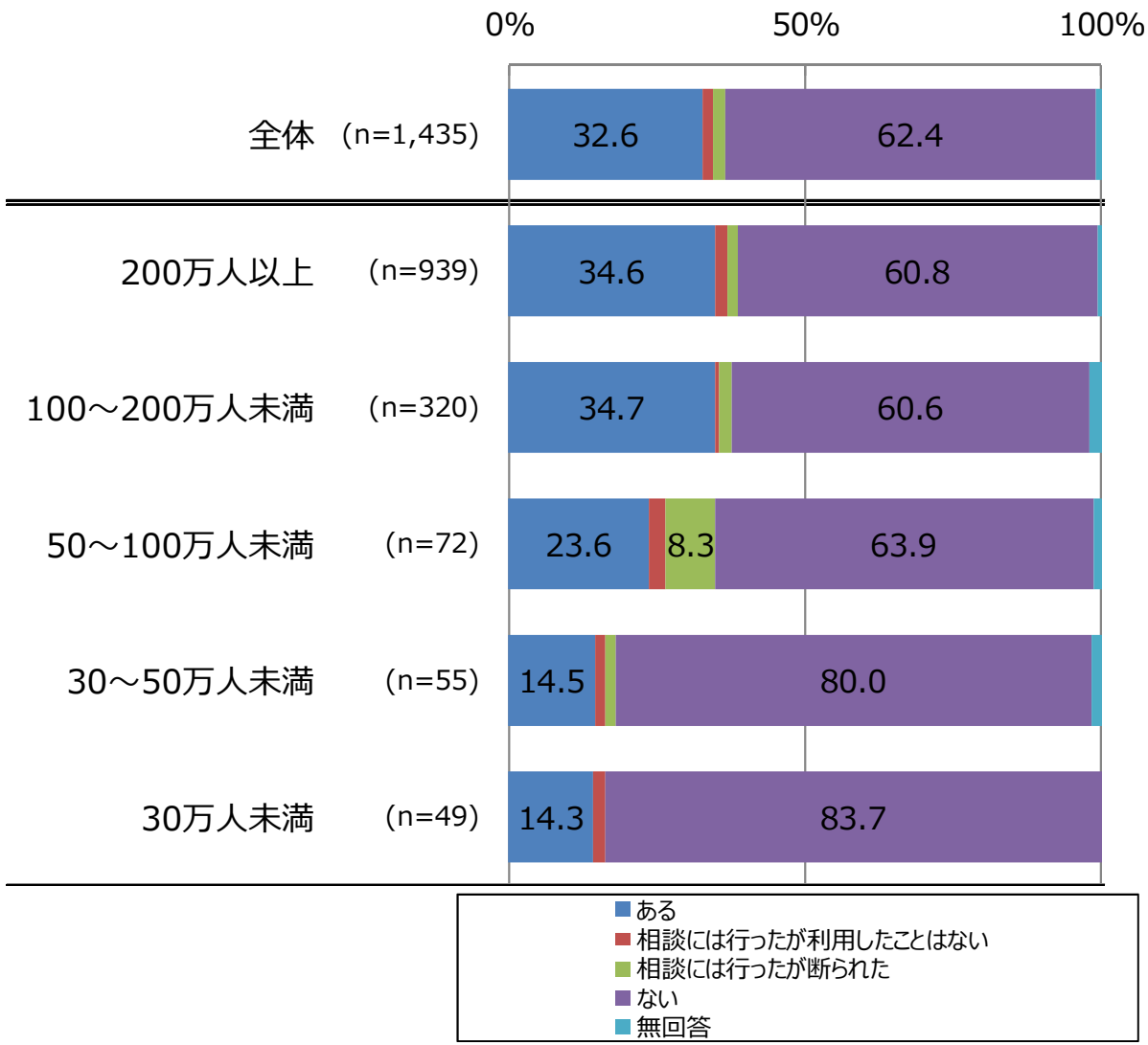
図表146　公的機関への相談内容（地域別（人口別））



問２９　生活保護制度の利用経験

- 生活保護制度の利用経験については、「人口５０万人未満」の自治体では「ある」（全体：32.6%、３０万人以上：14.3%、３０～５０万人未満：14.5%）の割合が低い。

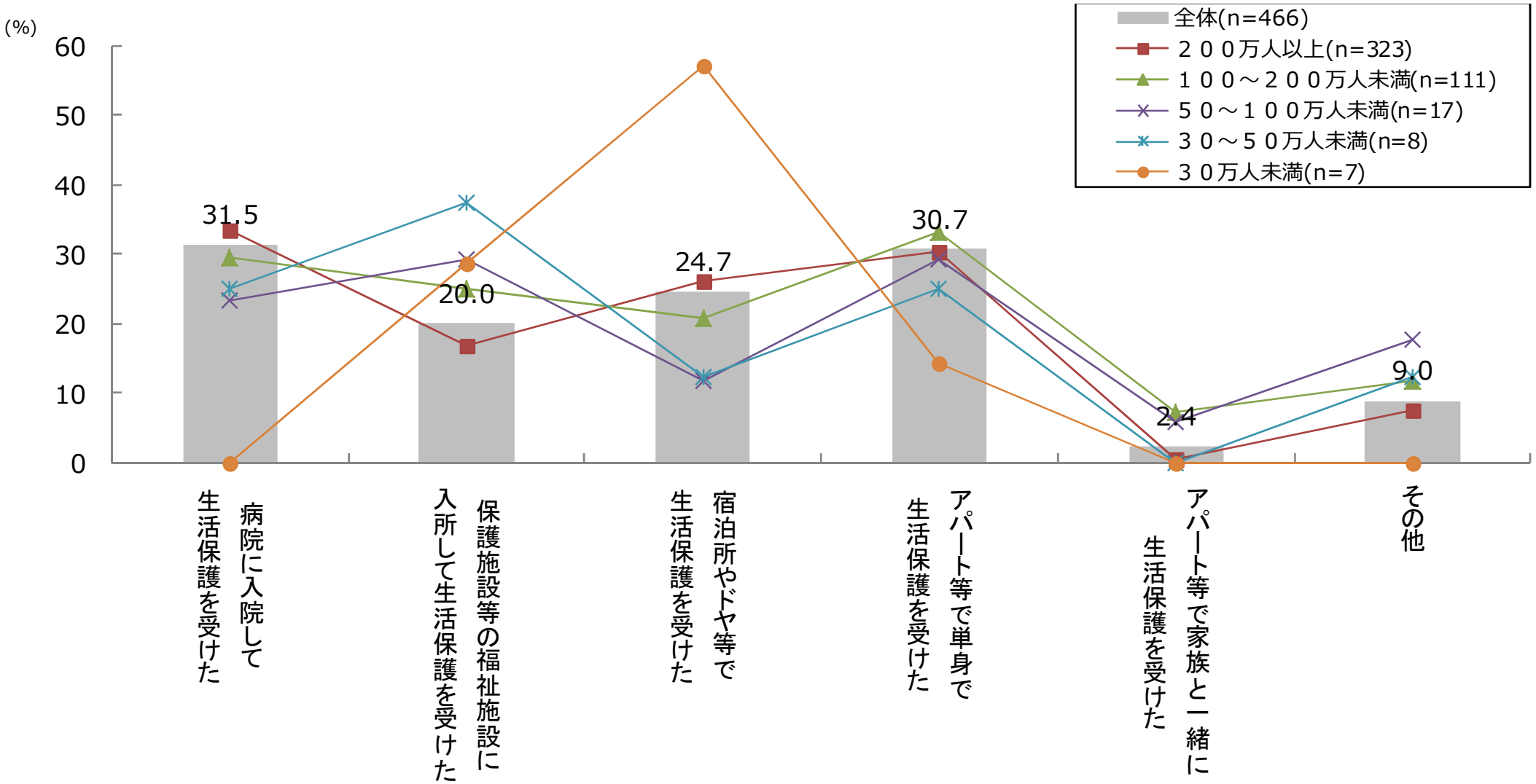
図表147　生活保護制度の利用経験（地域別（人口別））



問２９－１　生活保護制度の利用方法（複数回答）

- 生活保護制度の利用方法については、「人口２００万人以上」の自治体では「病院に入院して生活保護を受けた」（33.4%）が高く、「人口２００万人未満」の自治体では「保護施設等の福祉施設に入所して生活保護を受けた」の割合が高く、「人口３０万人未満」の自治体では「宿泊所やドヤ等で生活保護を受けた」の割合が高い。

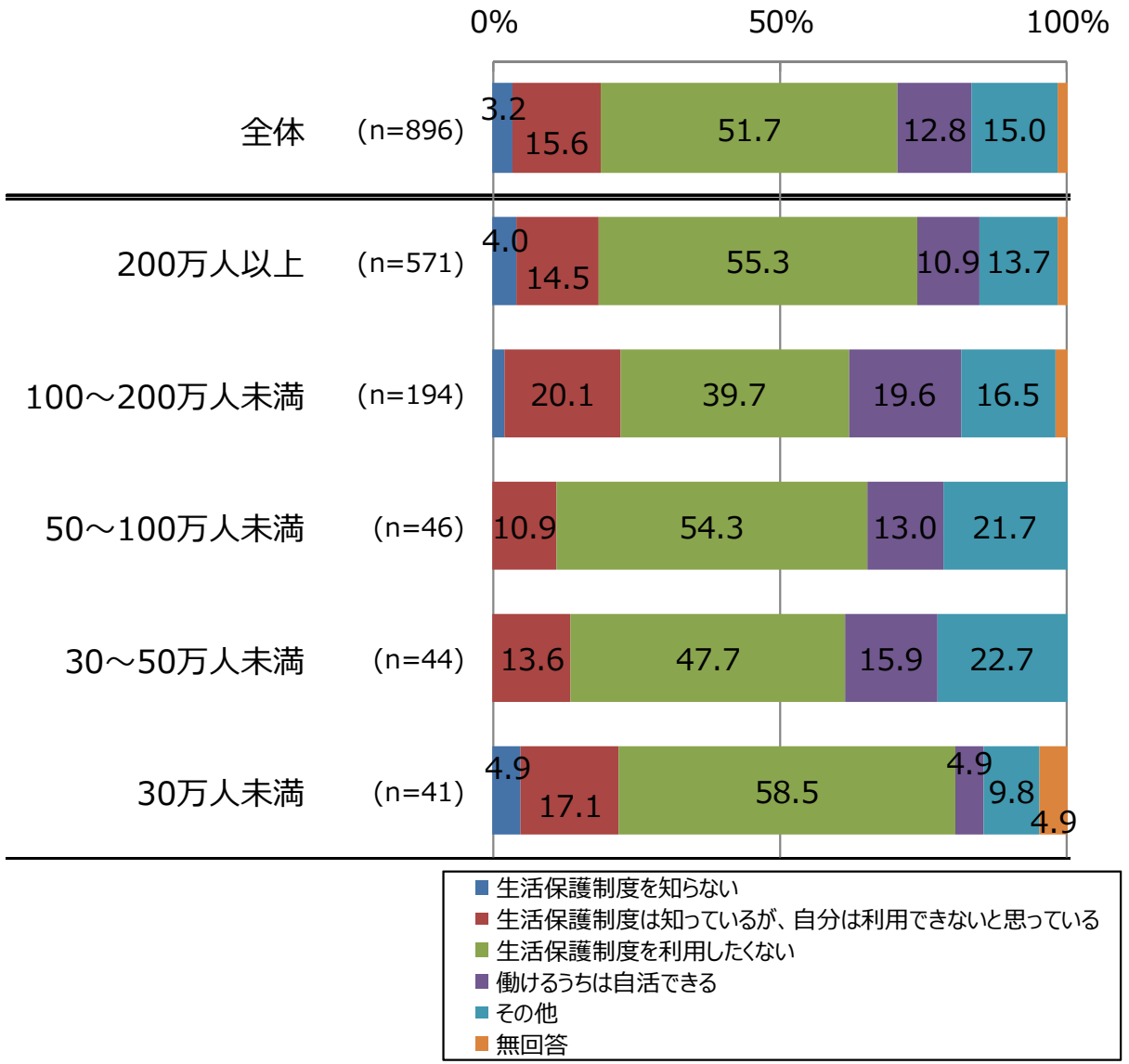
図表148　生活保護制度の利用方法（複数回答）（地域別（人口別））



問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 生活保護制度を利用しなかった理由については、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「生活保護制度は知っているが、自分は利用できないと思っている」（20.1%）及び「働けるうちは自活できる」（19.6%）の割合が高く、「人口３０万人未満」の自治体では「生活保護を利用したくない」（58.5%）の割合が高い。

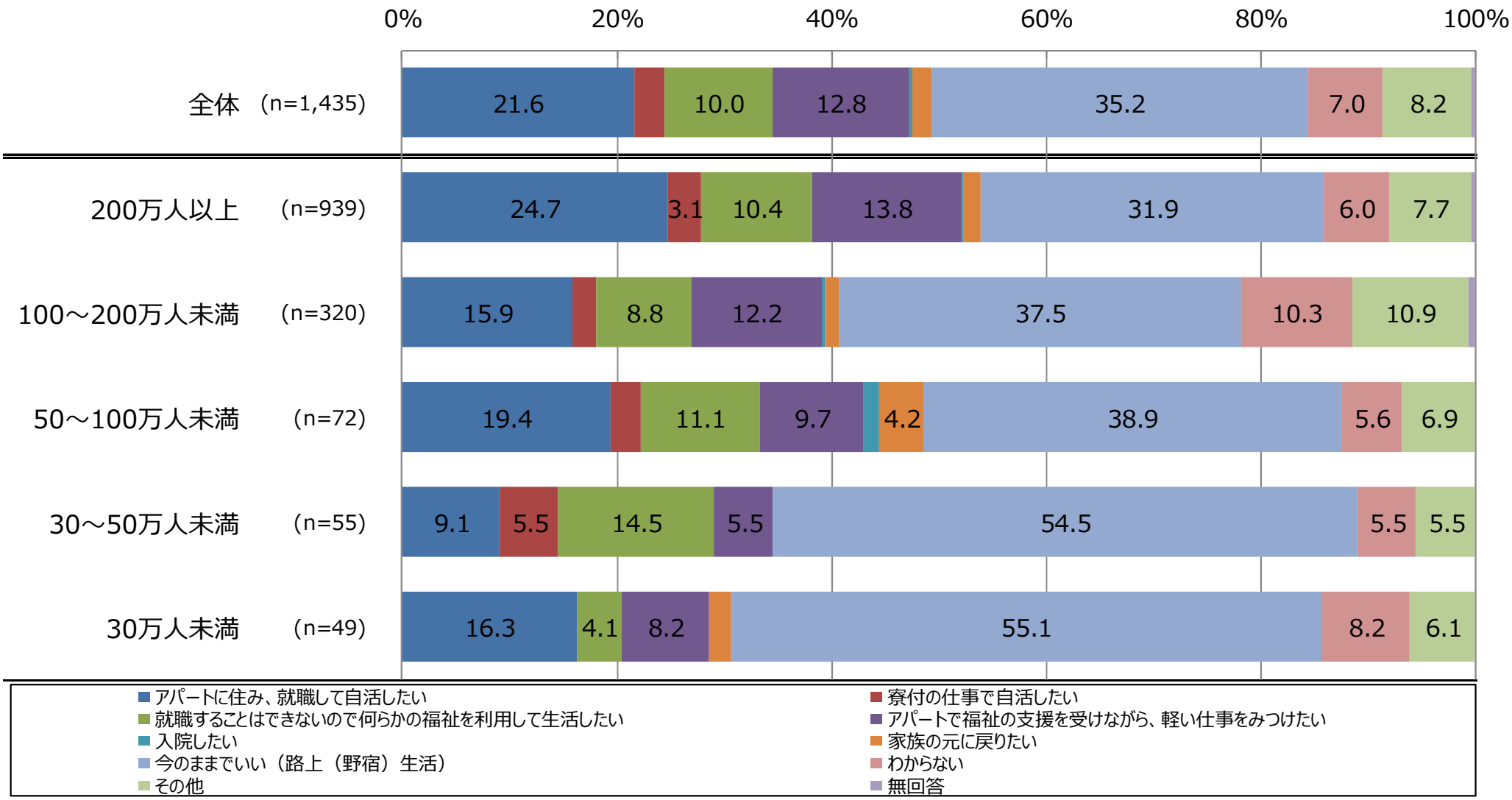
図表149　生活保護制度を利用しなかった理由（地域別（人口別））



問３３　今後望んでいる生活

- 今後望んでいる生活については、「人口５０～１００万人未満」及び「人口２００万人以上」の自治体では「何らかの仕事と住居（アパートや寮付）」（全体：24.5%、５０～１００万人未満：22.2%、２００万人以上：27.8%）の割合が高く、人口規模が小さくなるほど「今のままでいい」の割合が高い傾向にあり、「人口５０万人未満」では割合が高い。

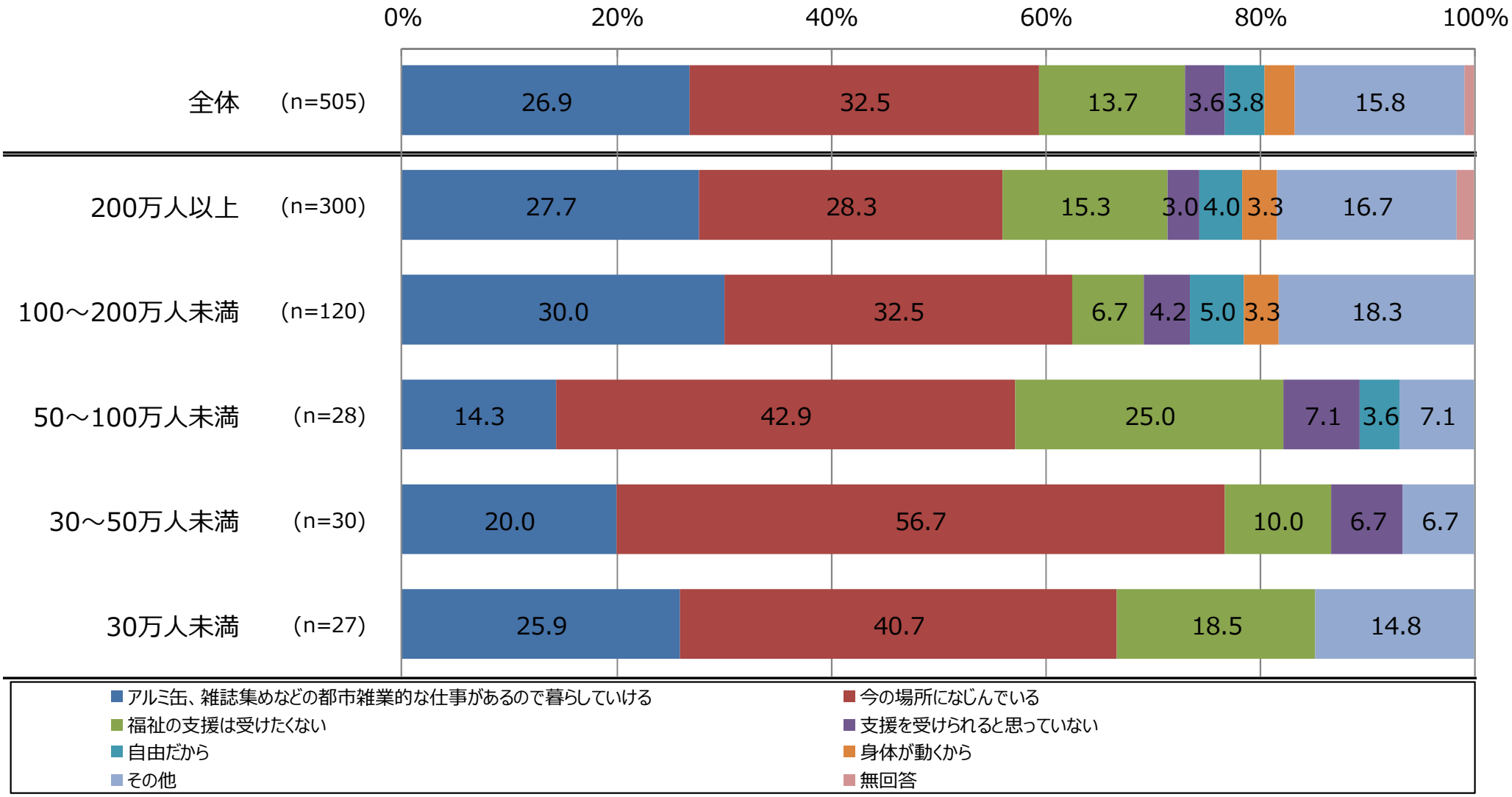
図表150　今後望んでいる生活（地域別（人口別））



問３３－１　今の生活のままでいい理由

- 今の生活のままでいい理由については、「人口１００万人以上」の自治体では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」の割合が高く、「人口１００万人未満」の自治体では「今の場所になじんでいる」の割合が高い傾向にある。

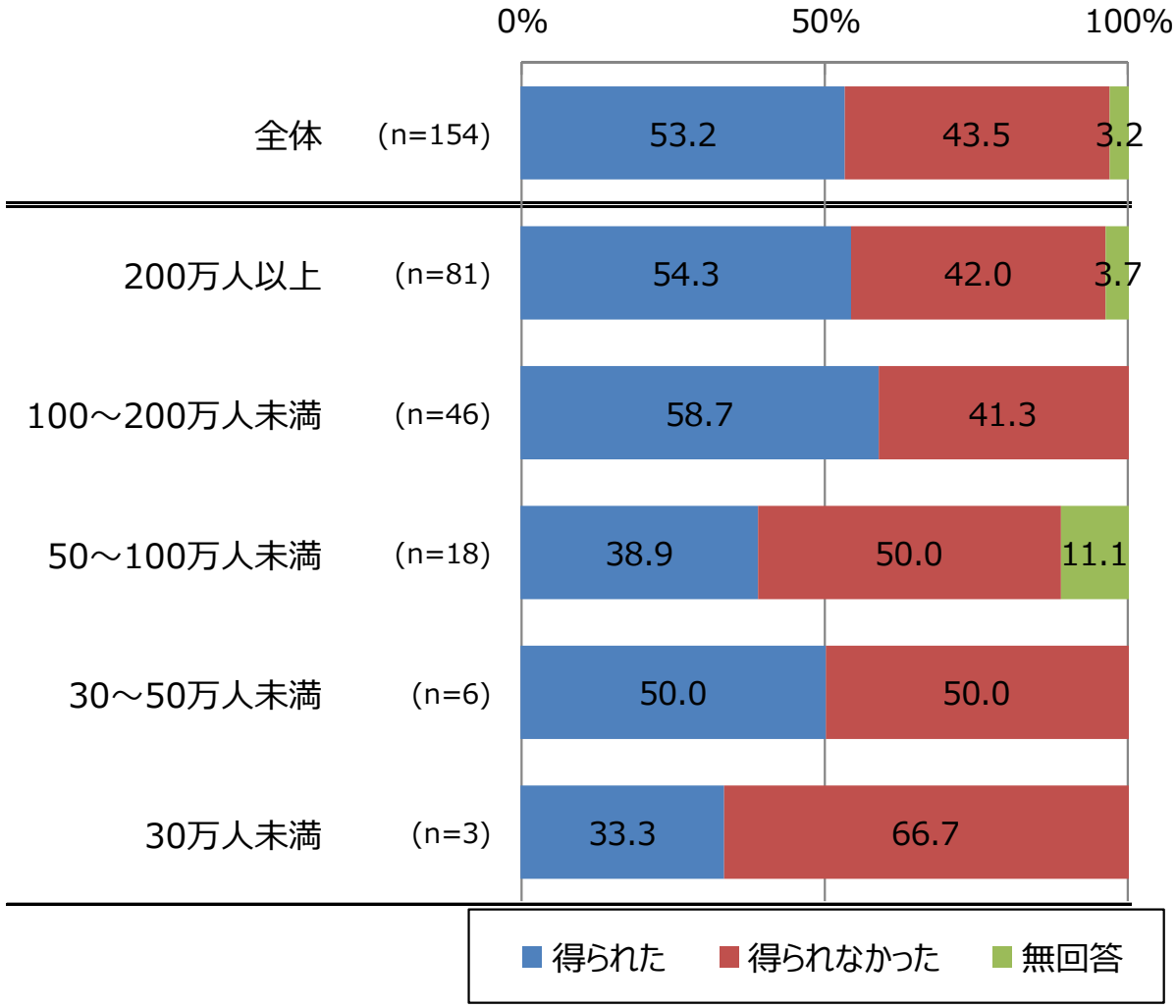
図表151　今の生活のままでいい理由（地域別（人口別））



問３６－２　安い家賃の情報

- 安い家賃の民間賃貸住宅に関する情報が得られたかについては、「人口５０～１００万人未満」の自治体及び「人口３０万人未満」の自治体では「得られた」（全体：53.2%、３０万人未満：33.3%、５０～１００万人未満：38.9%）の割合が低い。

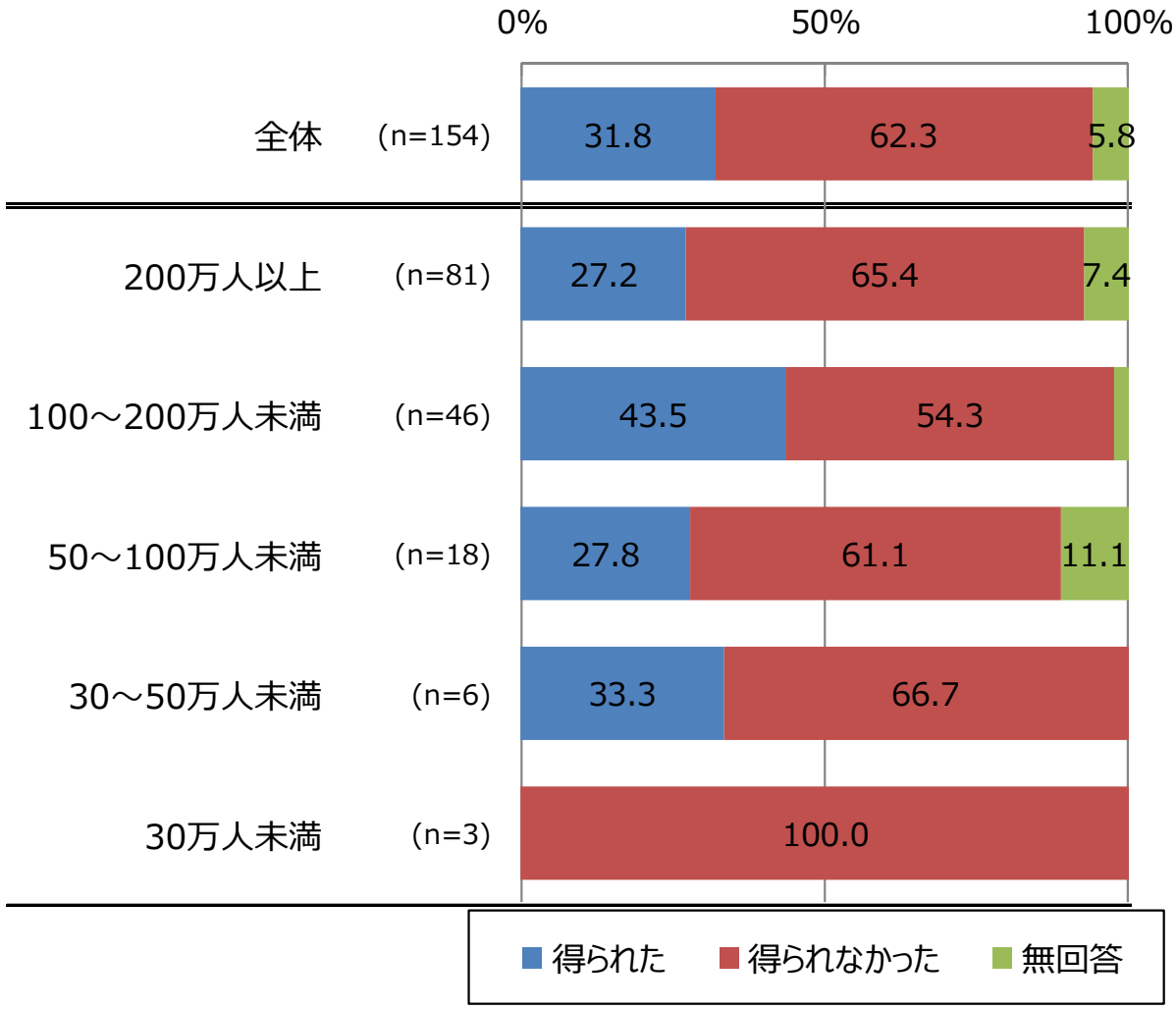
図表152　安い家賃の情報（地域別（人口別））



問３６－３　民間保証会社の情報

- 民間保証会社の情報が得られたかについては、「人口１００～２００万人未満」の自治体（43.5%）以外では割合が低い。

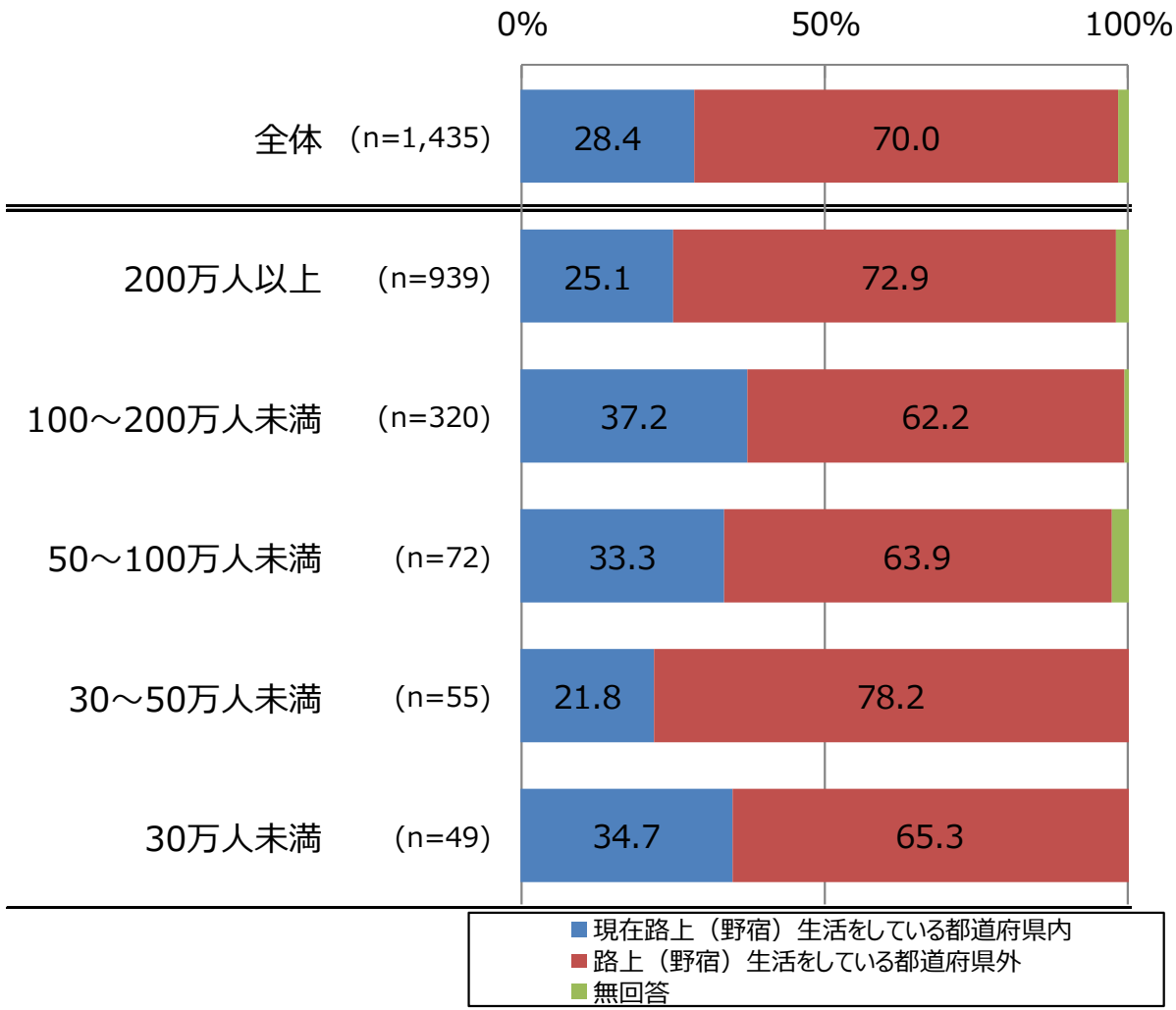
図表153　民間保証会社の情報（地域別（人口別））



問３７　出身地

- 出身地については、「人口３０万人未満」及び「人口５０～２００万人未満」の自治体では「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内」（全体：28.4%、３０万人未満：34.7%、５０～１００万人未満：33.3%、１００～２００万人未満：37.2%）の割合が高い。

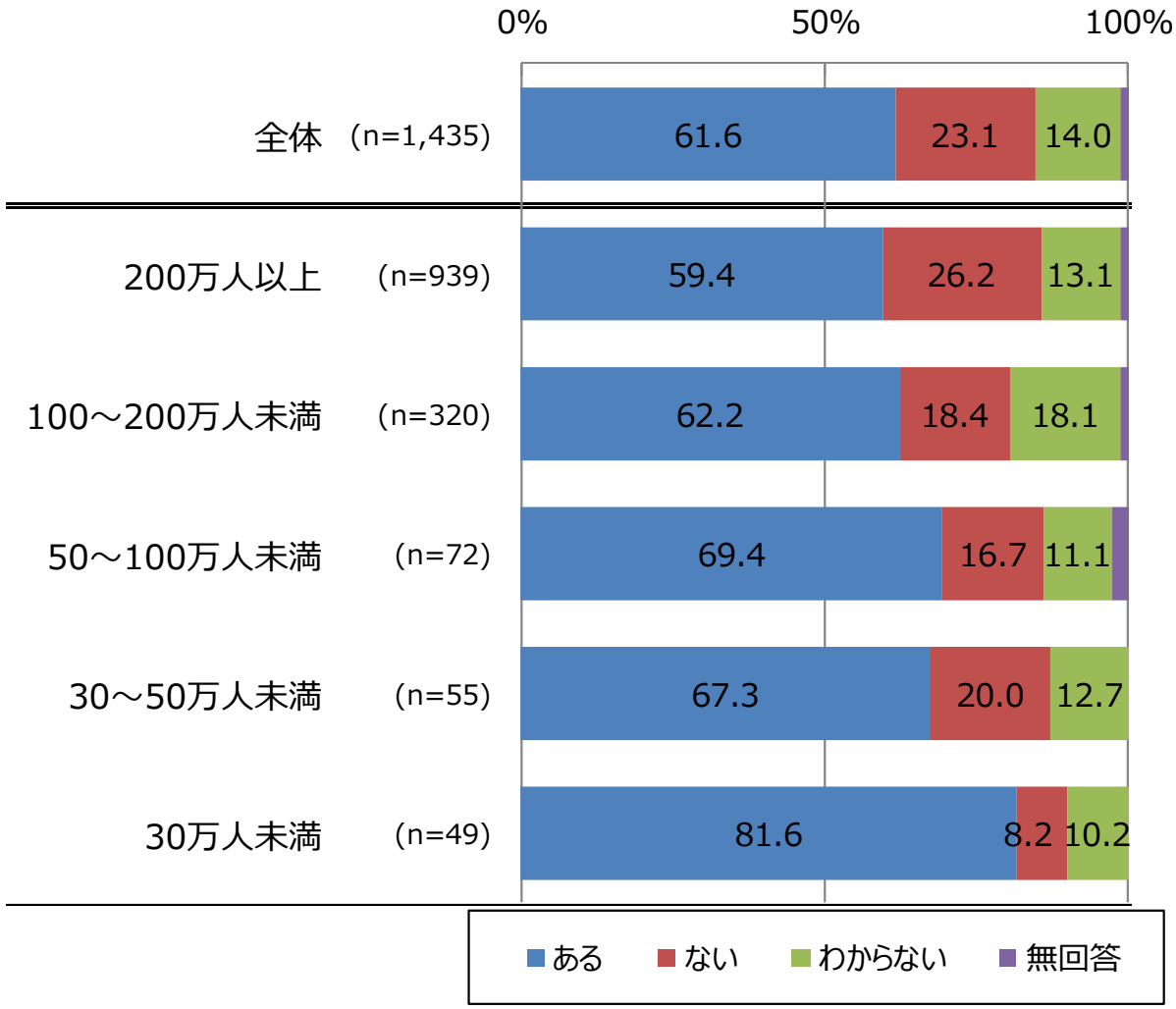
図表154　出身地（地域別（人口別））



問４０　公的年金の保険料の納付

- 公的年金の保険料の納付状況については、「人口３０万人未満」の自治体では「ある」（全体：61.6%、３０万人未満：81.6%）の割合が高い。

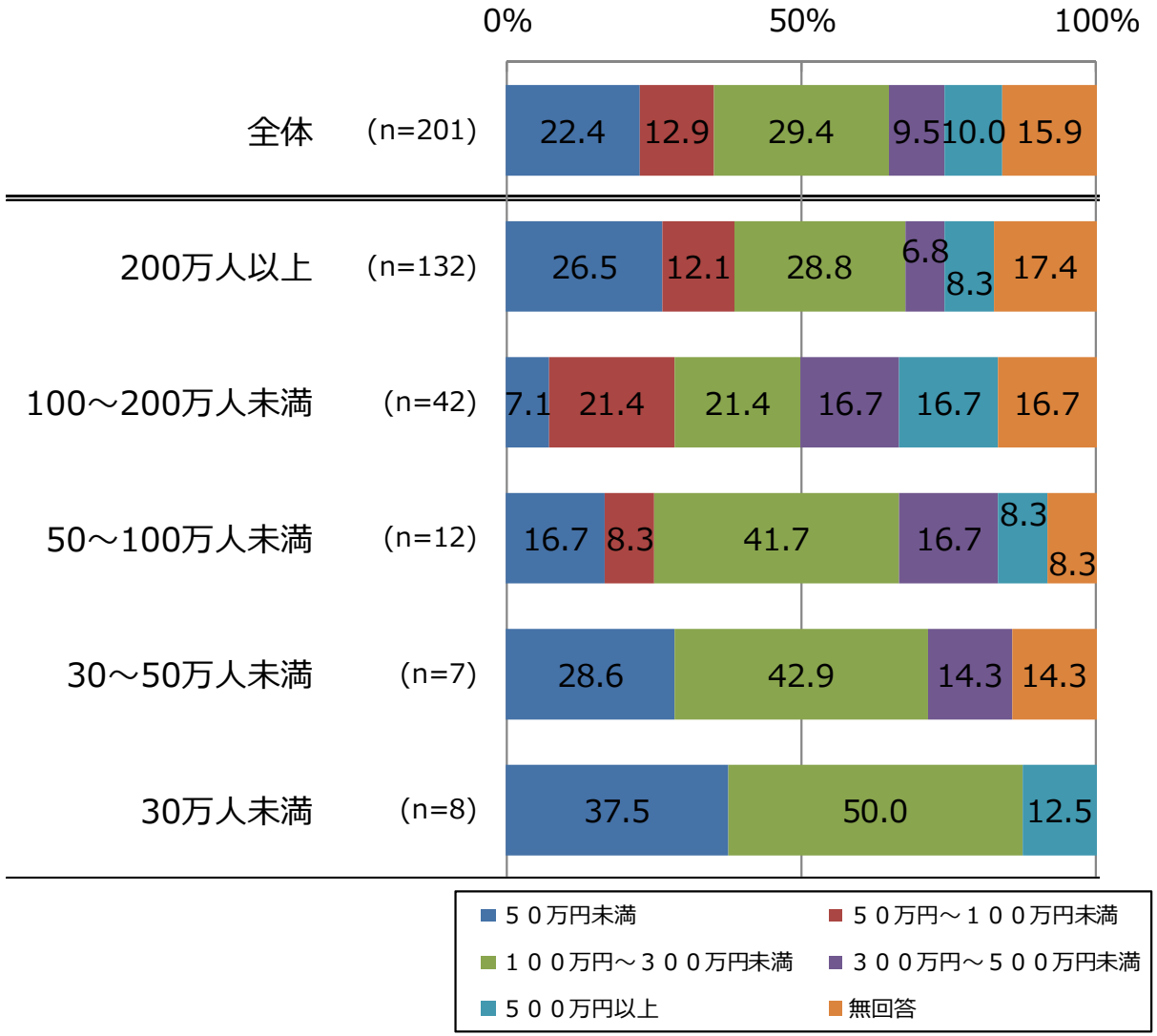
図表155　公的年金の保険料の納付（地域別（人口別））



問４１－１　借金の金額（円）

- 借金の金額については、「人口１００万人未満」の自治体では「１００～３００万円未満」の割合が高く、「人口５０万人未満」では「５０万円未満」、「人口５０～２００万人未満」では「３００万円～５００万円未満」、「人口１００～２００万人未満」の自治体では「５００万円以上」の割合も高い。

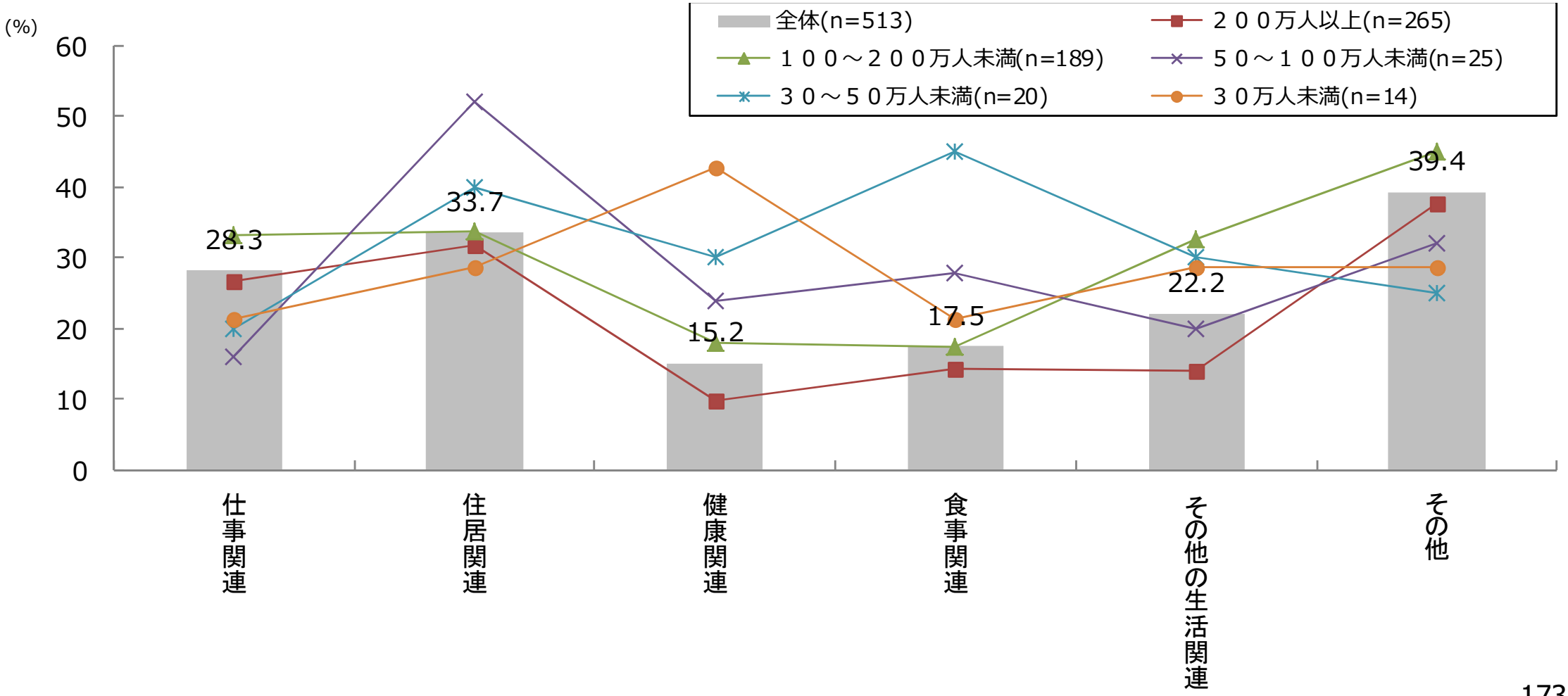
図表156　借金の金額（円）（地域別（人口別））



問４４　行政への要望・意見（複数回答）

- 行政への要望・意見については、人口規模が小さくなることに伴って「健康関連」の割合が高くなる傾向にあり、人口「１００～２００万人未満」の自治体では「仕事関連」の割合が高く、人口「１００万人未満」の自治体では「食事関連」の割合が高く、人口「３０～１００万人未満」の自治体では「住居関連」の割合が高い。

図表157　行政への要望・意見（複数回答）（地域別（人口別））

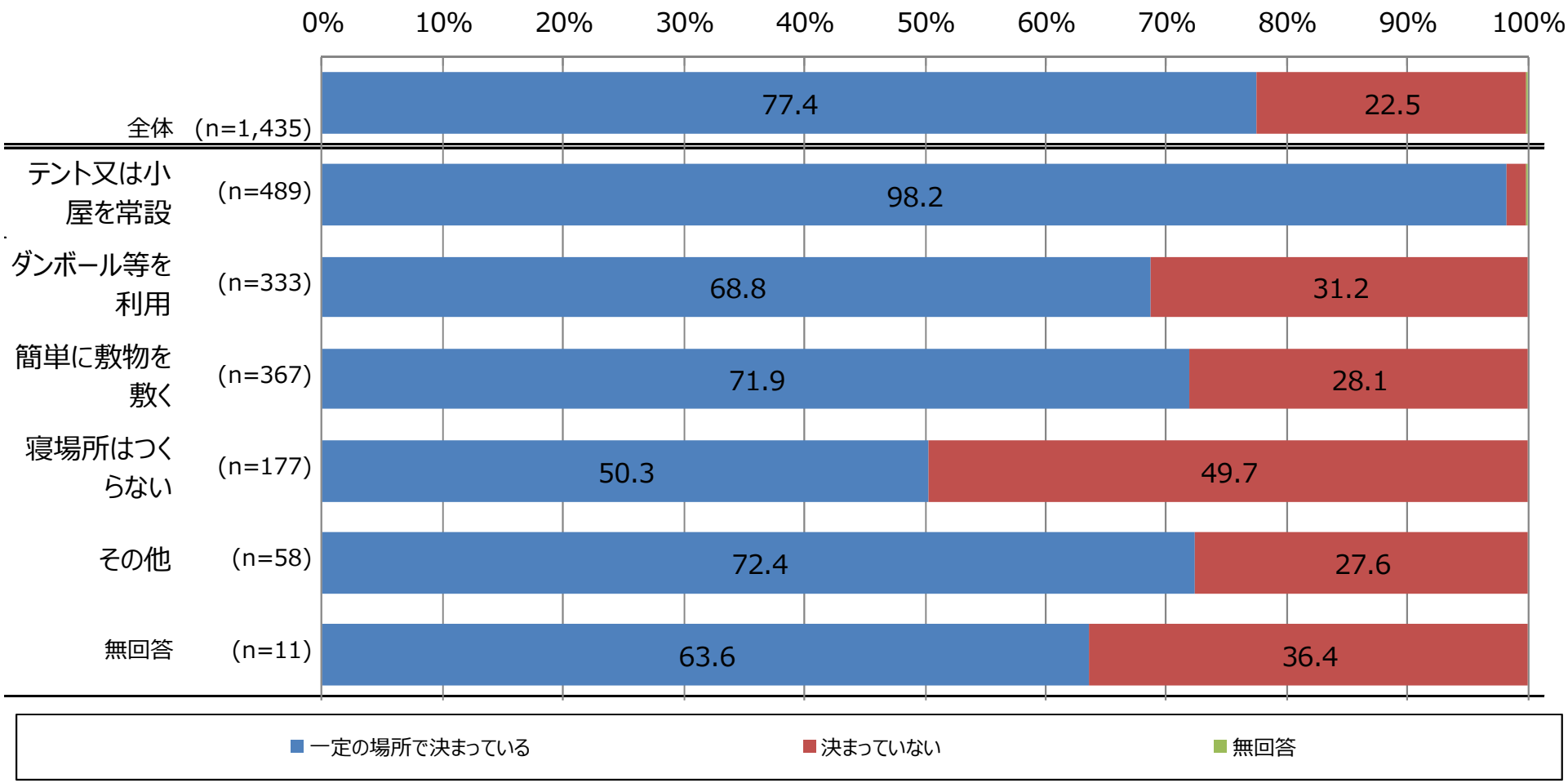


（７）設問間クロス集計

問１　寝ている場所 × 問２　寝場所の作り方

- 寝ている場所と寝場所の作り方の関係については、「テント又は小屋を常設」では「一定の場所で決まっている」の割合が高く、「寝場所はつくらない」では「決まっていない」の割合が高い。

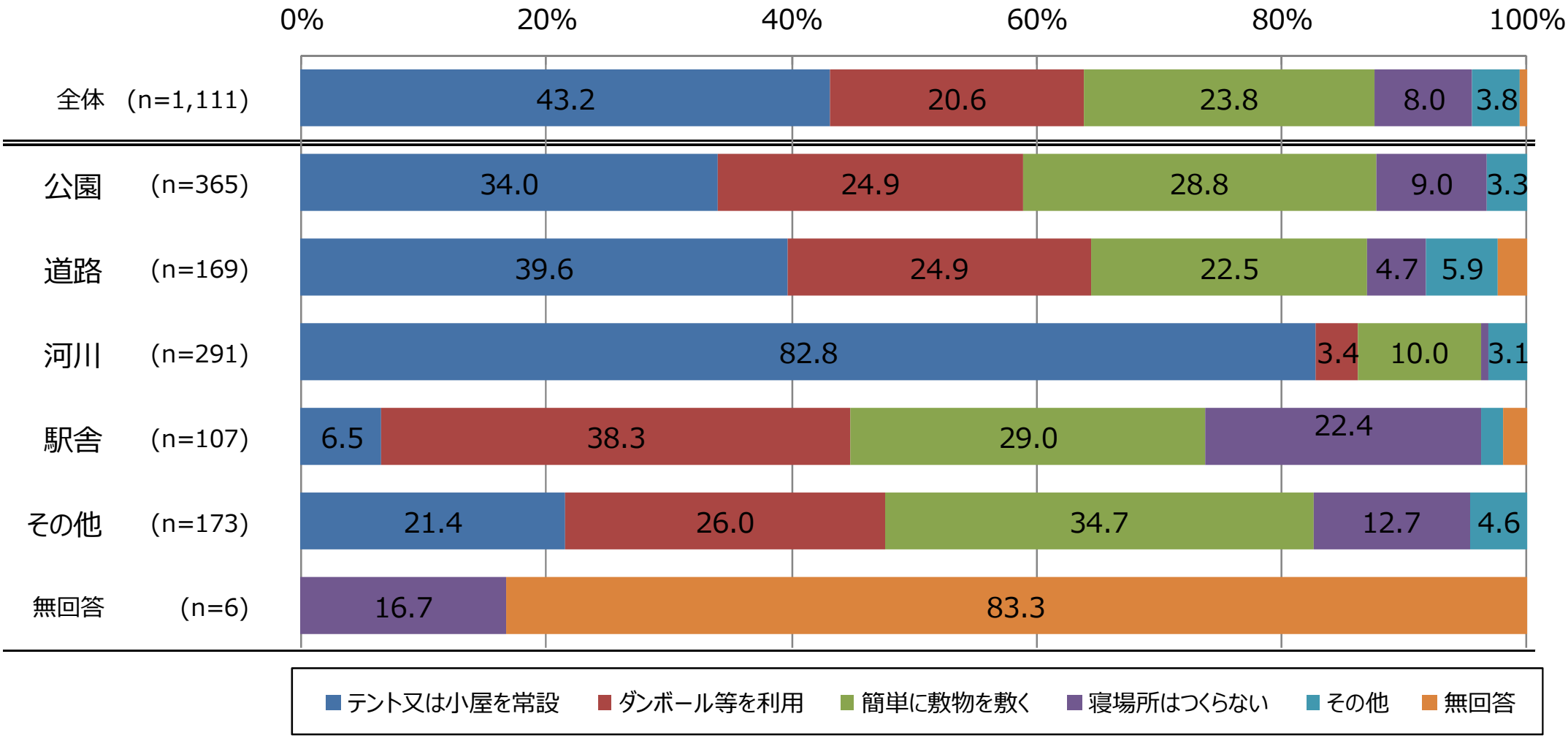
図表158　問１　寝ている場所 × 問２　寝場所の作り方



問２　寝場所の作り方 × 問１－１　具体的な寝ている場所

- 寝場所の作り方と具体的な寝ている場所との関係については、「河川」では「テント又は小屋を常設」の割合が高く、「駅舎」では「ダンボール等を利用」及び「寝場所はつくらない」の割合が高い。

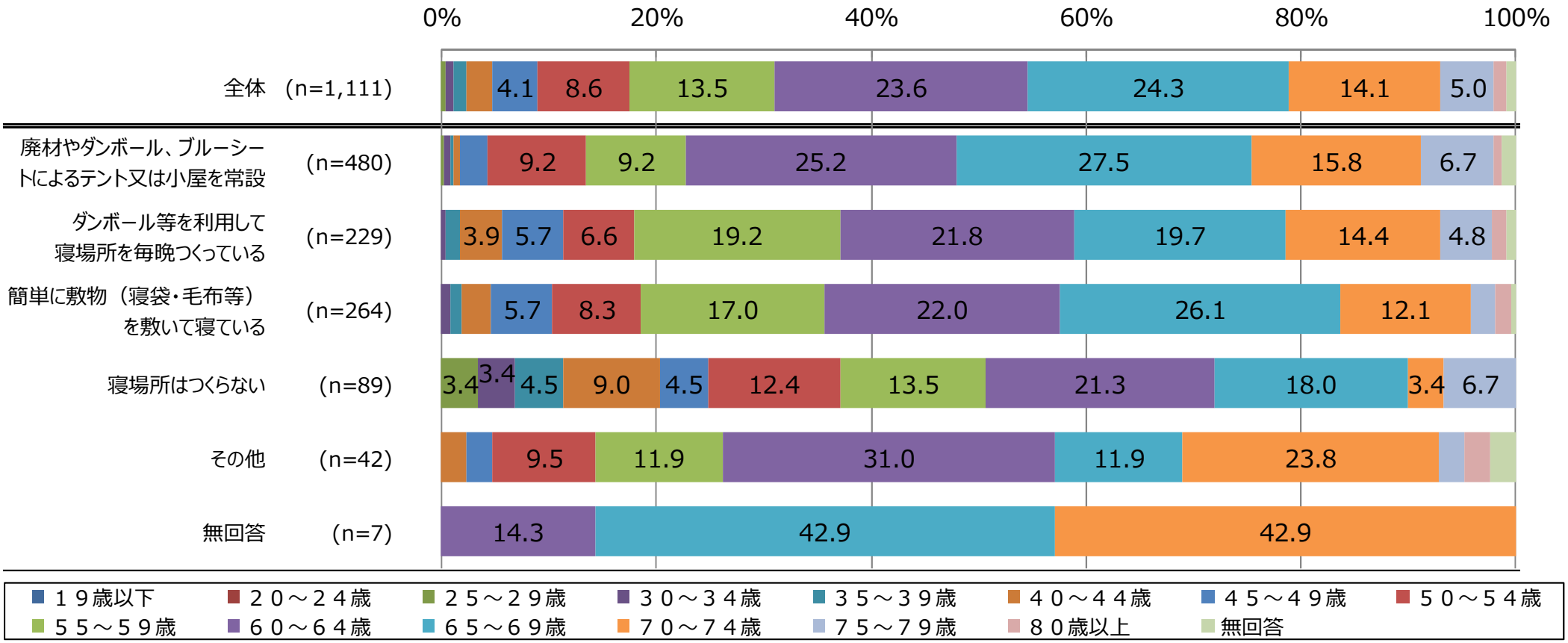
図表159　問２　寝場所の作り方 × 問１－１　具体的な寝ている場所



問２　寝場所の作り方（※寝場所が決まっている人のみ）　× 年齢

- 寝場所が決まっている者の寝場所の作り方と年齢別の関係については、「テント又は小屋を常設」する者では「６０歳以上７４歳以下」の割合が高く、「寝場所はつくらない」者では「４４歳以下」及び「５０歳以上５４歳以下」の割合が高く、「ダンボール等を利用」及び「簡単な敷物」では「５５歳以上５９歳以下」の割合が高い。

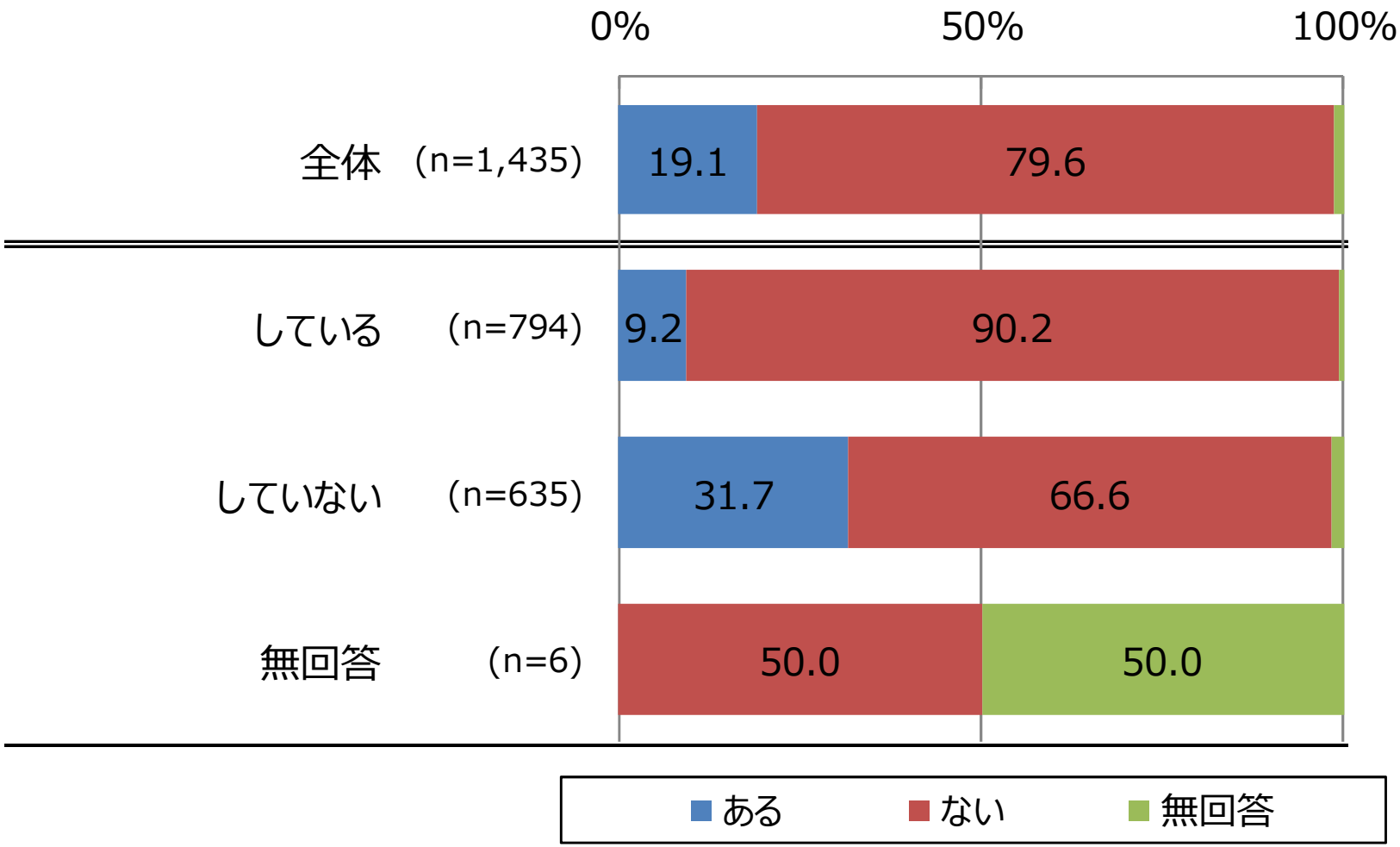
図表160　寝場所の作り方（※寝場所が決まっている人のみ）　× 年齢



問６　現在収入のある仕事 × 問７　ここ３ヶ月間の仕事以外の収入

- 収入のある仕事と仕事以外の収入の有無との関係については、「（現在収入のある仕事を）していない」者の方が、仕事以外の収入が「ある」と回答した割合が高い。

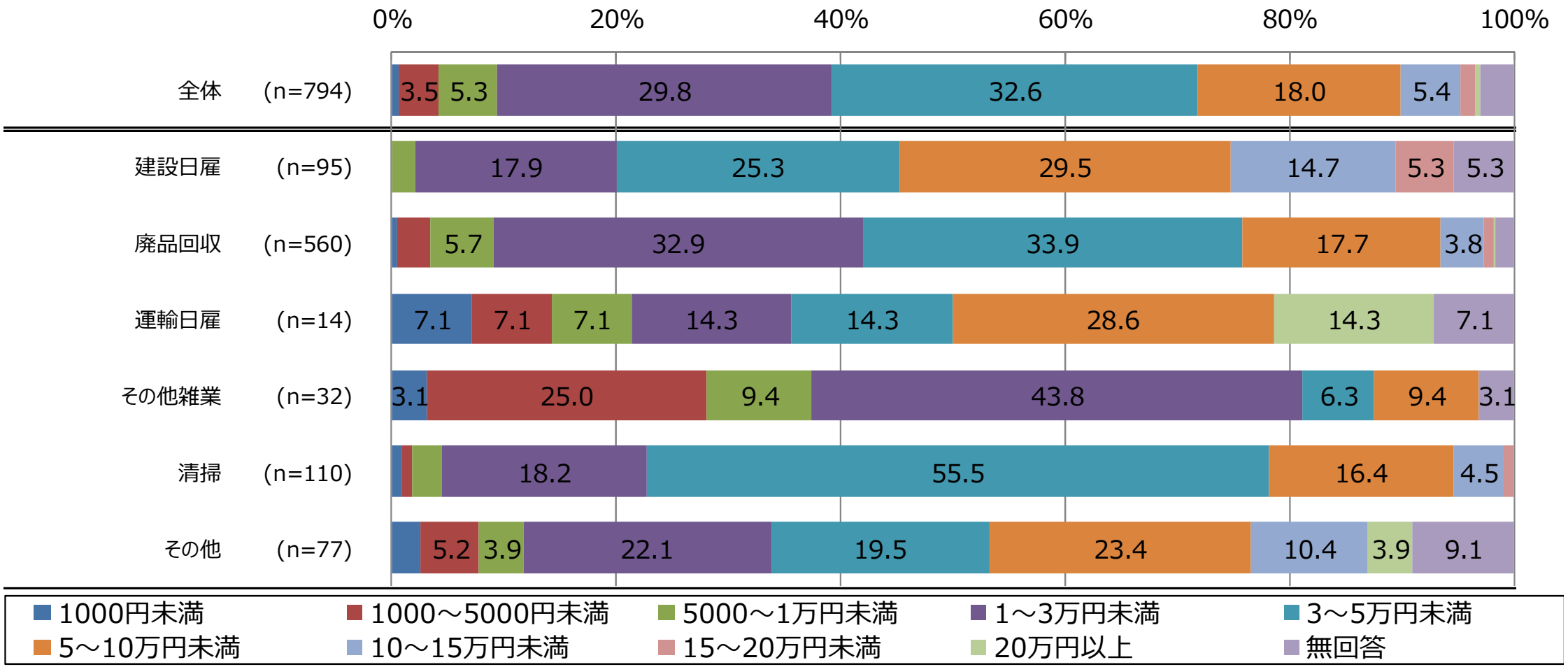
図表161　現在収入のある仕事 × ここ３ヶ月間の仕事以外の収入



問６－１　仕事（具体的に）（複数回答）× 問６－２　仕事による平均収入（月額・円）

- 仕事による収入と平均収入（月額）との関係については、「建設日雇」では「５～１５万円未満」の割合が高い。
- 「廃品回収」では「１～５万円未満」の割合が高い。
- 「運輸日雇」では「５～１０万円未満」の割合が高い。
- 「清掃」では「３～５万円未満」の割合が高い。

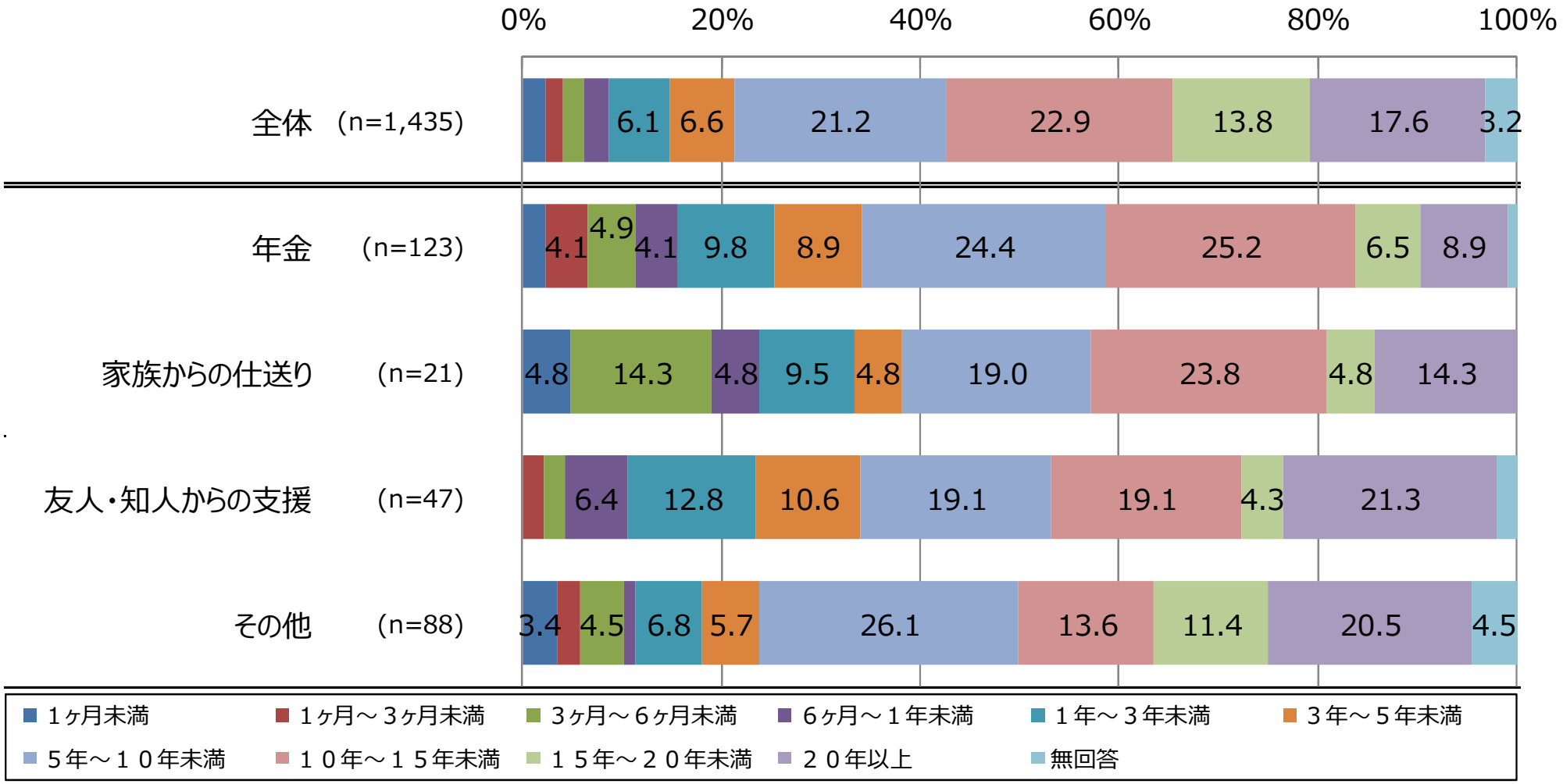
図表162　仕事（具体的に）（複数回答）× 仕事による収入・月額（円）



問７－１　仕事以外の収入の種類（複数回答）× 問５　初めての路上（野宿）生活

- 初めて路上生活をしてからの期間と仕事以外の収入の種類との関係については、「５～１５年未満」と回答した者では「年金」の割合が高い。
- 「２０年以上」と回答した者では「友人・知人からの支援」の割合が高い。
- 「３～６ヶ月未満」と回答した者では「家族からの仕送り」の割合が高い。

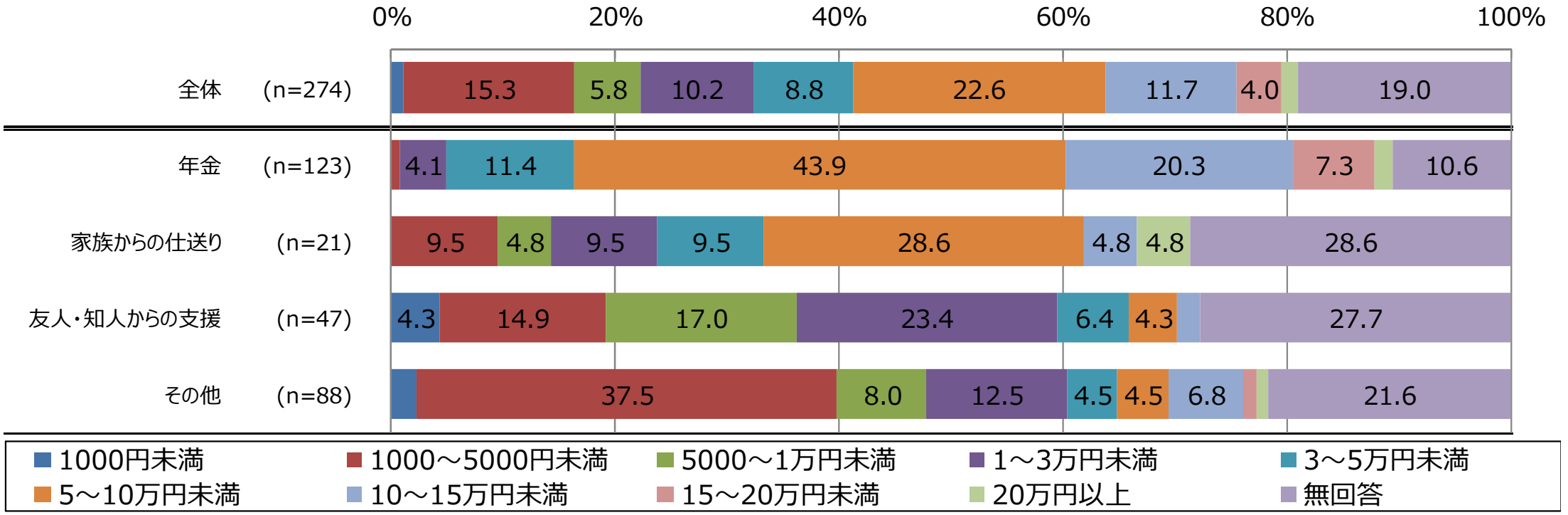
図表163　仕事以外の収入の種類（複数回答）× 初めての路上（野宿）生活



問７－１　仕事以外の収入の種類（複数回答）× 問７－２　仕事以外の平均収入（月額・円）

- 仕事以外の収入の種類と仕事以外の平均収入（月額）との関係については、「年金」を受給している者では「５～１５万円未満」の割合が高い。
- 「家族からの仕送り」を受けている者では「５～１０万円未満」の割合が高い。
- 「友人・知人からの支援」を受けている者では「５，０００円～３万円未満」の割合が高い。

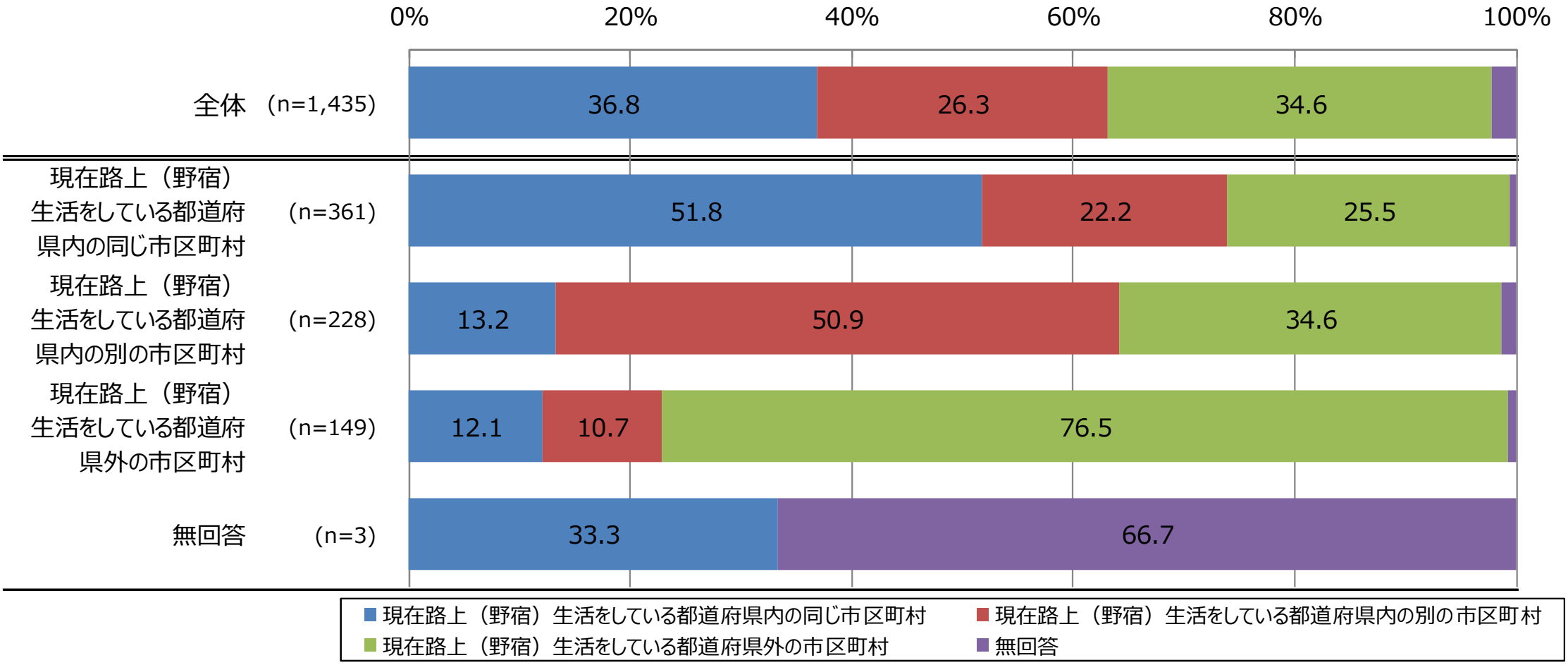
図表164　仕事以外の収入源（複数回答）× 仕事以外の収入額／１ヶ月およそ（円）



問１６－１　別の路上（野宿）生活場所 × 問１１　初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域

- 路上（野宿）生活後に別の場所に移動経験のある者の移動パターンは、初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域からの移動パターンと同様である傾向にある。

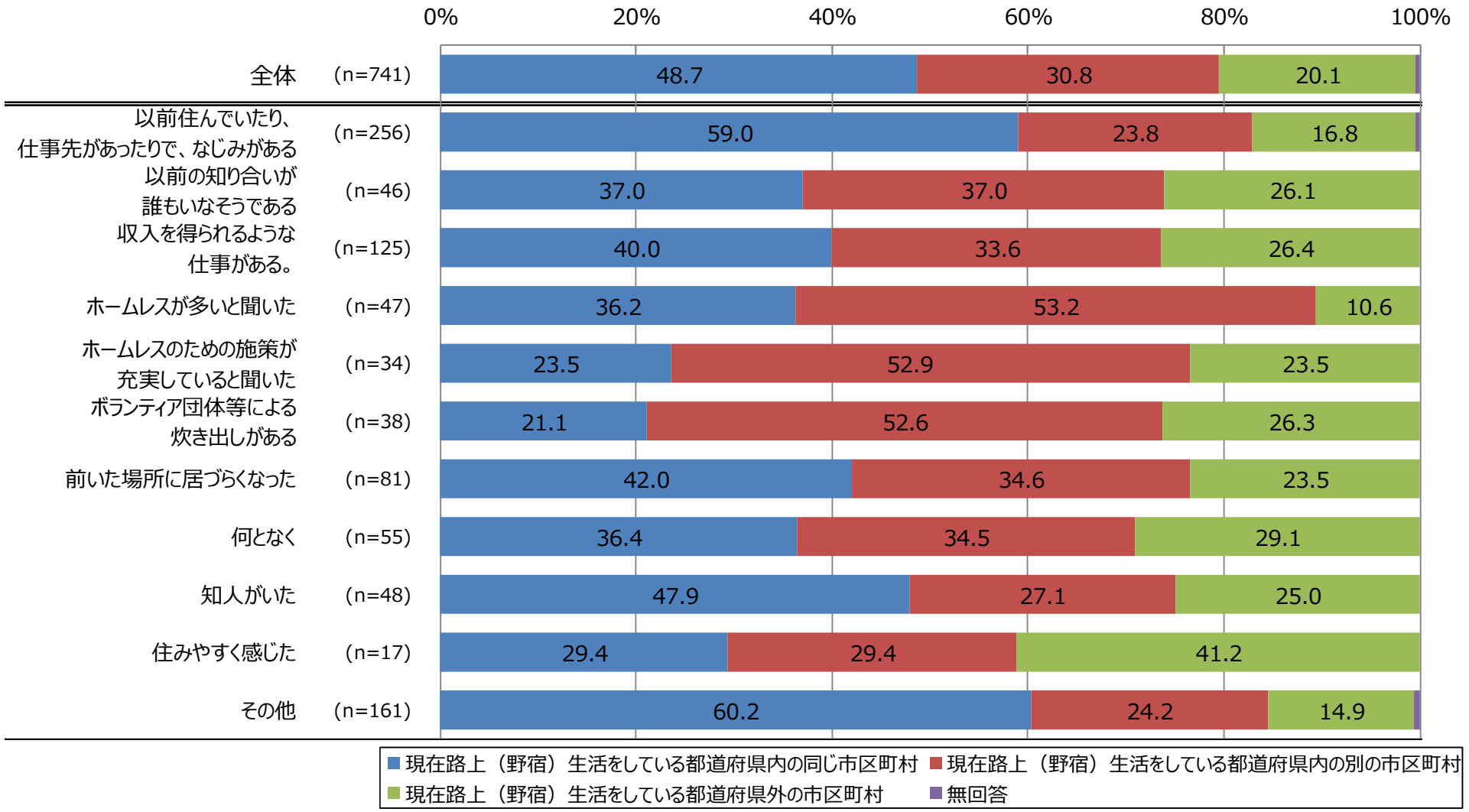
図表165　別の路上（野宿）生活場所 × 初めて路上（野宿）生活をする前に住んでいた地域



問１７　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）× 問１６－１　別の路上（野宿）生活場所

- 別の路上（野宿）生活場所については、「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の同じ市区町村」の者では「なじみがある」ことを理由とする割合が高い。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県内の別の市区町村」から来た者ではホームレスに対する「人数、施策、炊き出し」を理由とする割合が高い。
- 「現在路上（野宿）生活をしている都道府県外の市区町村」から来た者では「住みやすさ」を理由とする割合が高い。

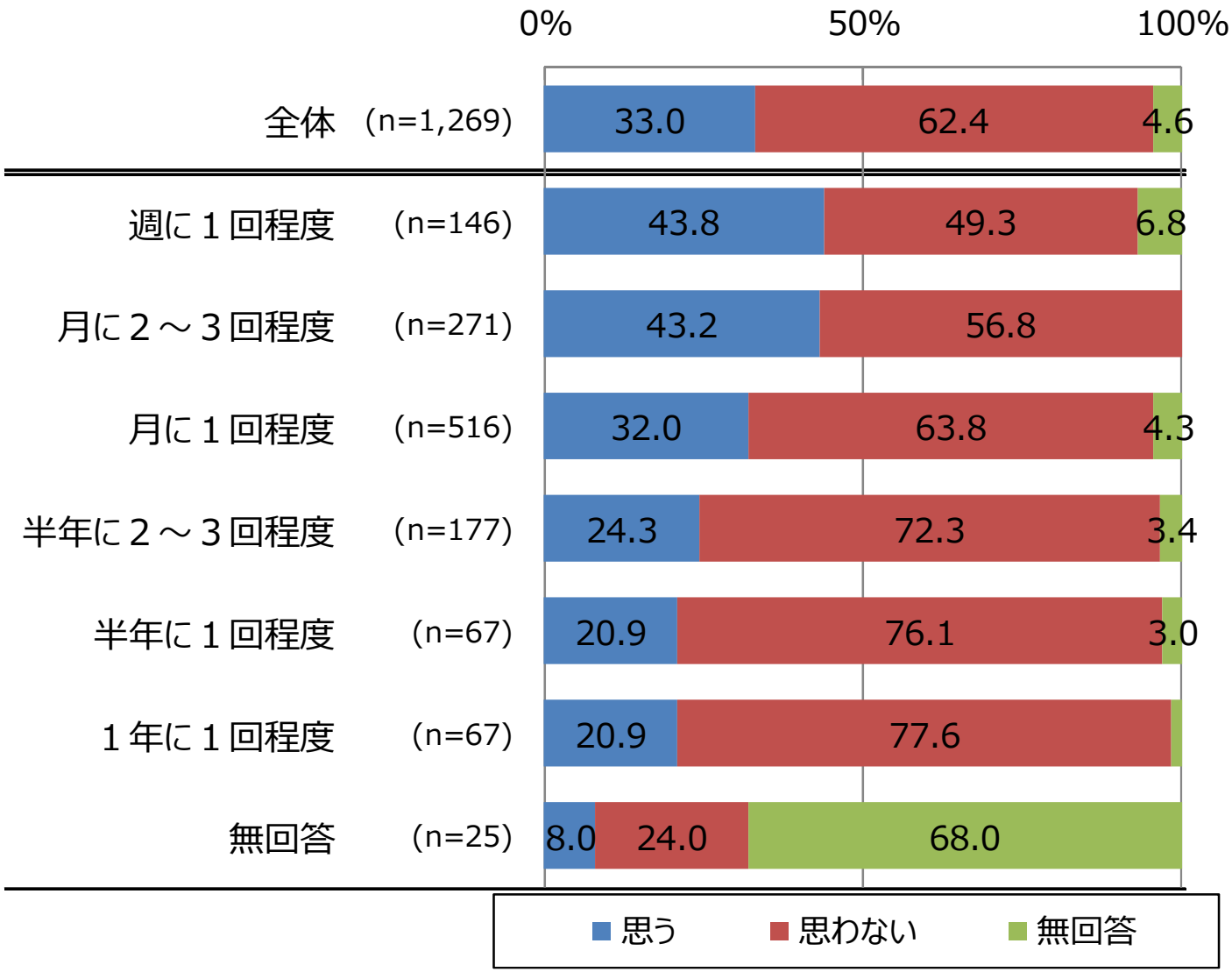
図表166　現在の市区町村に来た主な理由（複数回答）× 別の路上（野宿）生活場所



問２５－１　巡回の頻度 × 問２５－２　頻繁に巡回するようになったと思うか

- 「頻繁に巡回するようになったと思うか」と「巡回の頻度」との関係では「月に２～３回程度」以上の巡回があることにより、「思う」の割合が高い傾向にある。

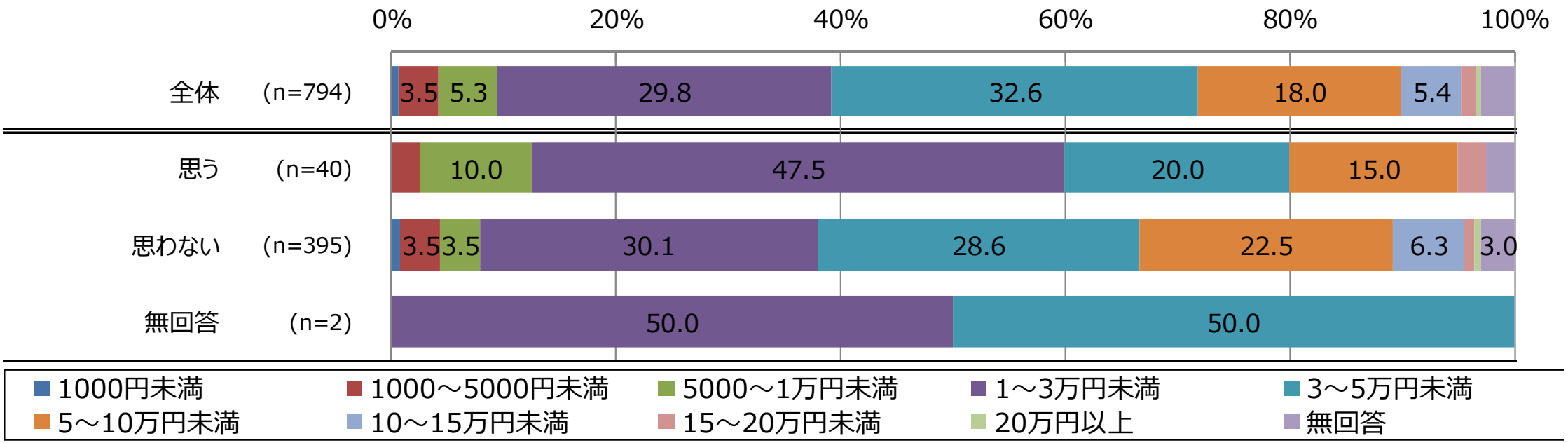
図表167　巡回の頻度 × 頻繁に巡回するようになったと思うか



問２６－１　シェルターの利用意向 × 問６－２　仕事による収入（月額・円）

- 仕事による収入（月額）については、「（シェルターを利用したいと）思う」者では、「５，０００円～３万円未満」の割合が高く、仕事による収入額が低い傾向にある。
- 「（シェルターを利用したいと）思わない」者では「１～３万円未満」及び「５～１０万円未満」の割合が高く、仕事による収入額が高い傾向にある。

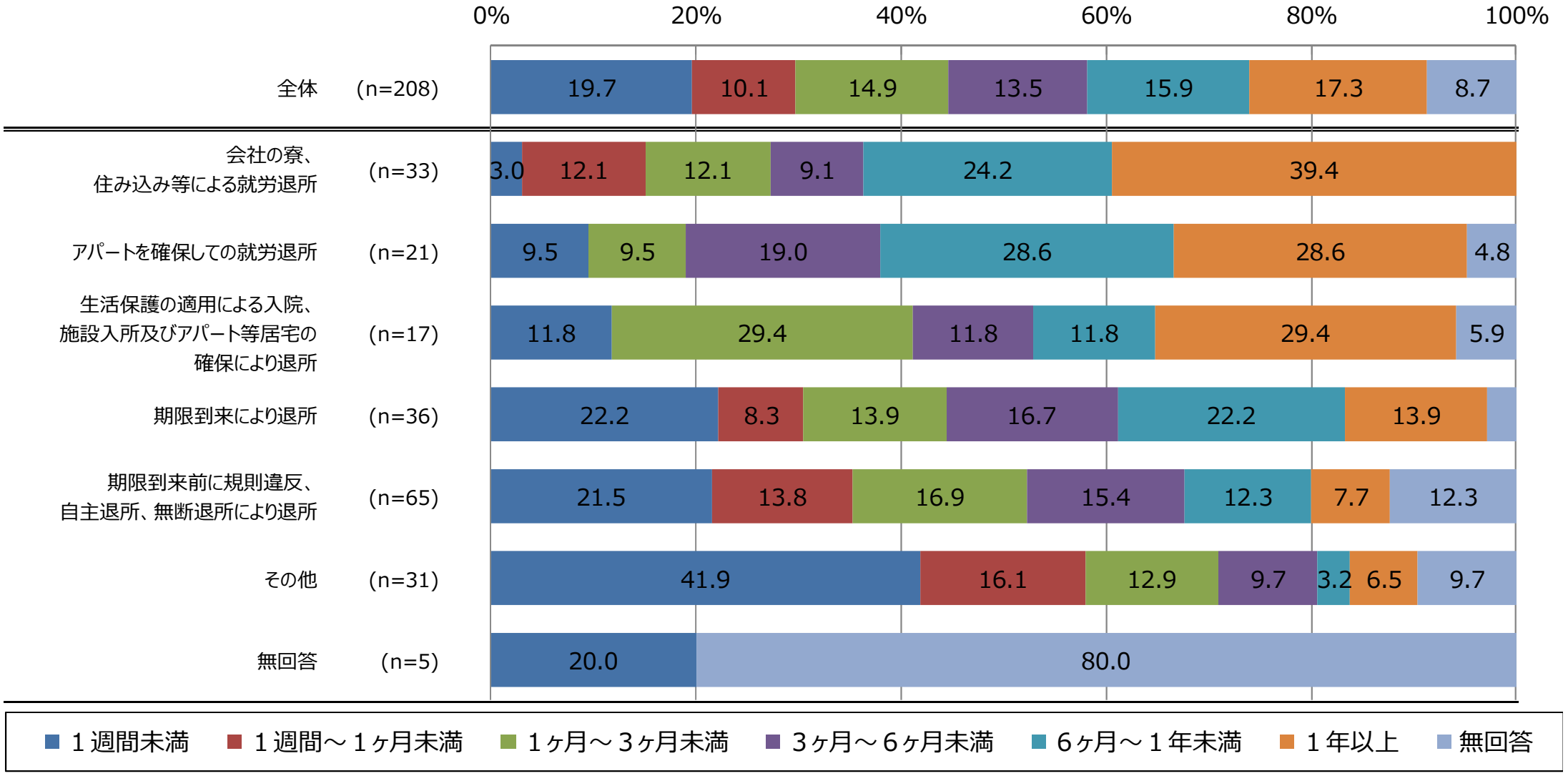
図表168　シェルターの利用意向 × 仕事による収入・月額（円）



問２７－２　自立支援センターの退所理由 × 問２７－１　退所から路上生活に戻るまでの期間

- 自立支援センターの退所から路上生活に戻るまでの期間については、退所理由を「会社の寮、住み込み等による就労退所」、「アパートを確保しての就労退所」、「生活保護の適用」と回答した者では、「１年以上」の割合が高い。
- 「期限到来」または「無断退所等」と回答した者では、「１週間」の割合が高い。

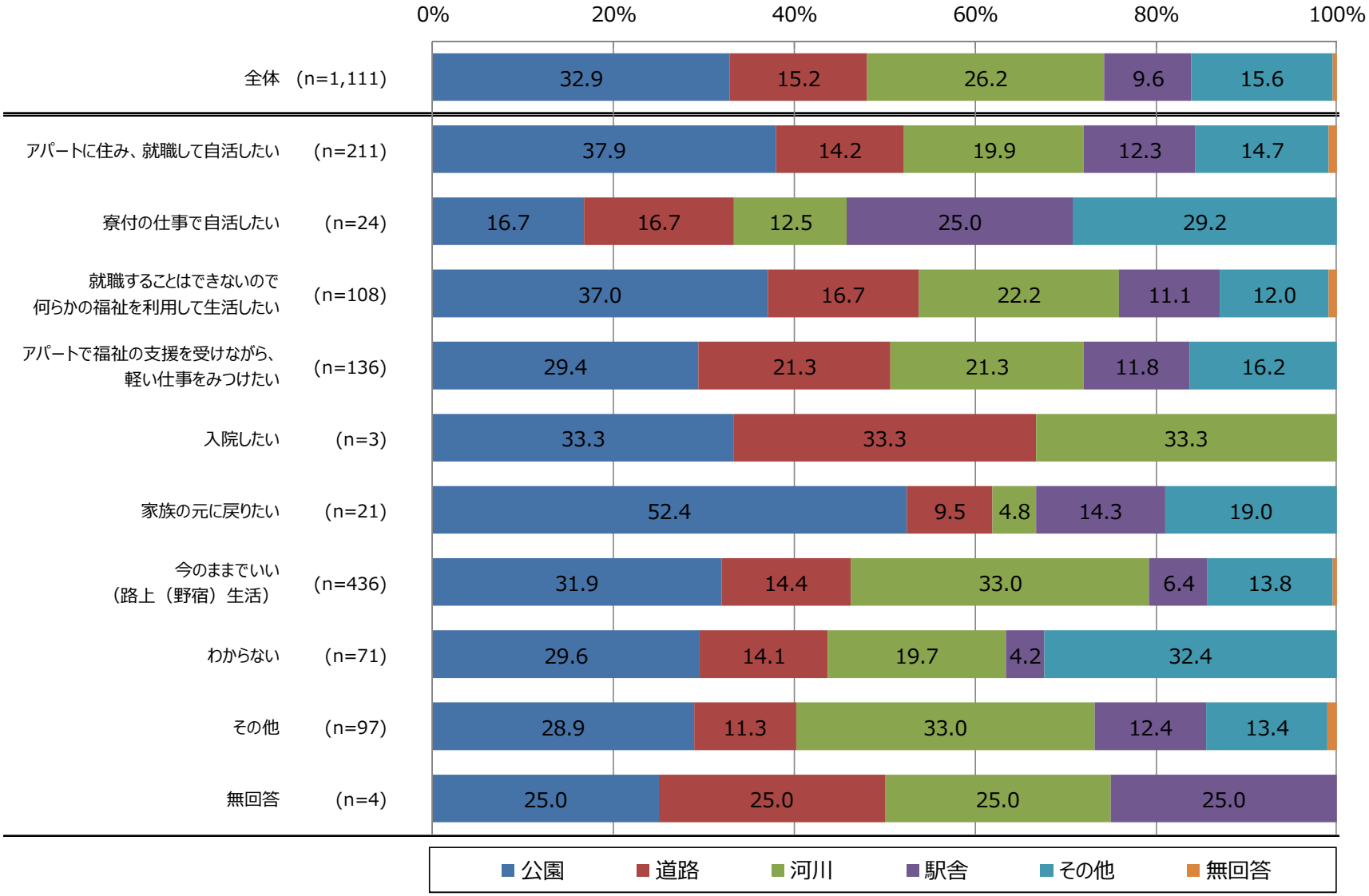
図表169　自立支援センター退所理由 × 退所から路上生活に戻るまでの期間



問３３　今後望んでいる生活 × 問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今後望んでいる生活との関係については、「公園」にいる者では「アパートに住み、就職」、「何らかの福祉を利用」、「家族の元に戻りたい」の割合が高い。
- 「河川」にいる者では「今のままでいい」の割合が高い。
- 「駅舎」にいる者では「寮付の仕事で自活」の割合が高い。

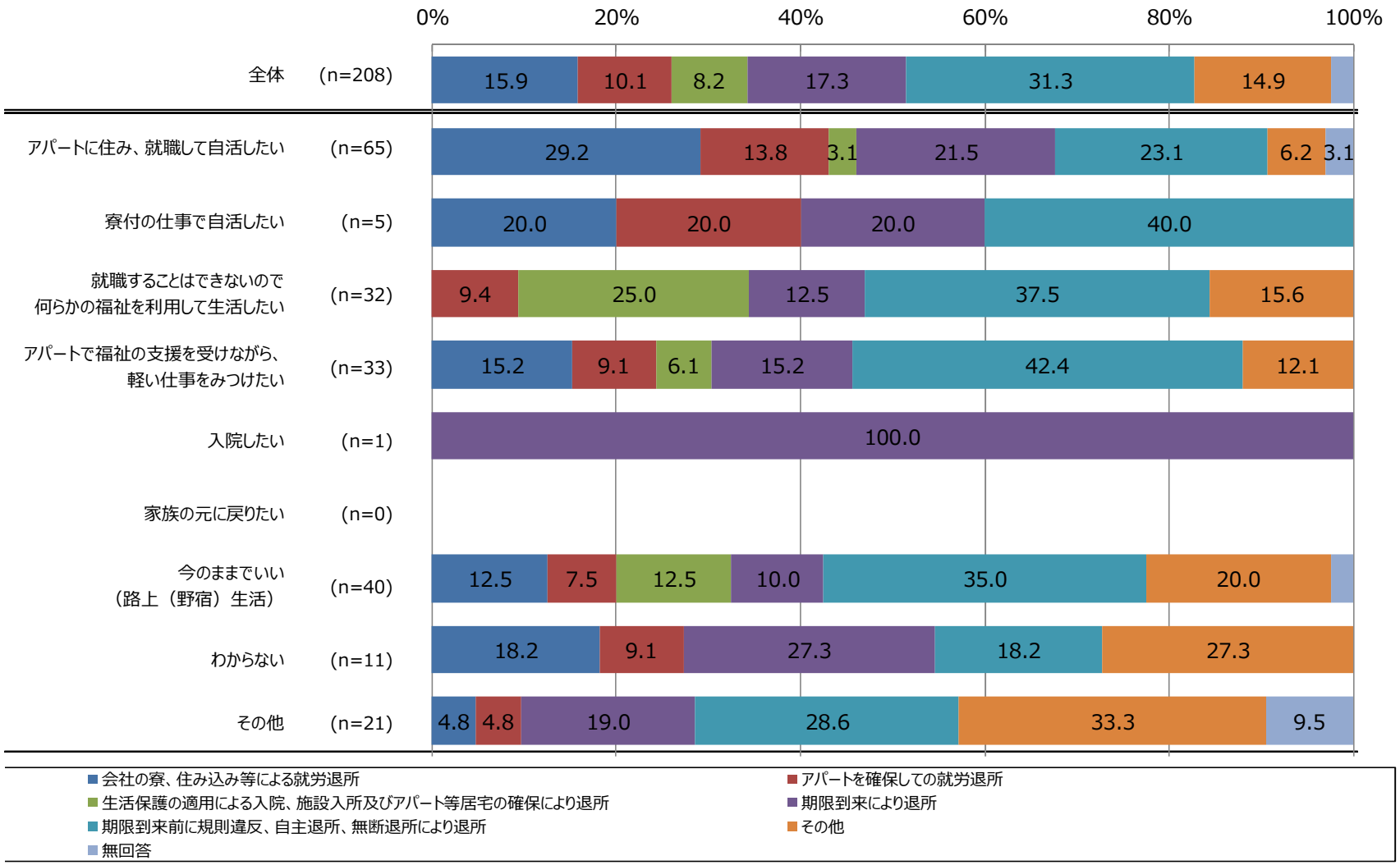
図表170　今後望んでいる生活 × 寝ている場所（具体的に）



問３３　今後望んでいる生活 × 問２７－２　自立支援センター退所理由

- 今後望んでいる生活と自立支援センターの退所理由との関係については、「会社の寮、住み込み等による就労退所」及び「アパートを確保しての就労退所」と回答した者では「アパートや寮付で就職して自活」の割合が高い。
- 「無断退所等」と回答した者では「何らかの福祉を利用」、「軽い仕事」、「今のままでいい」の割合が高い。

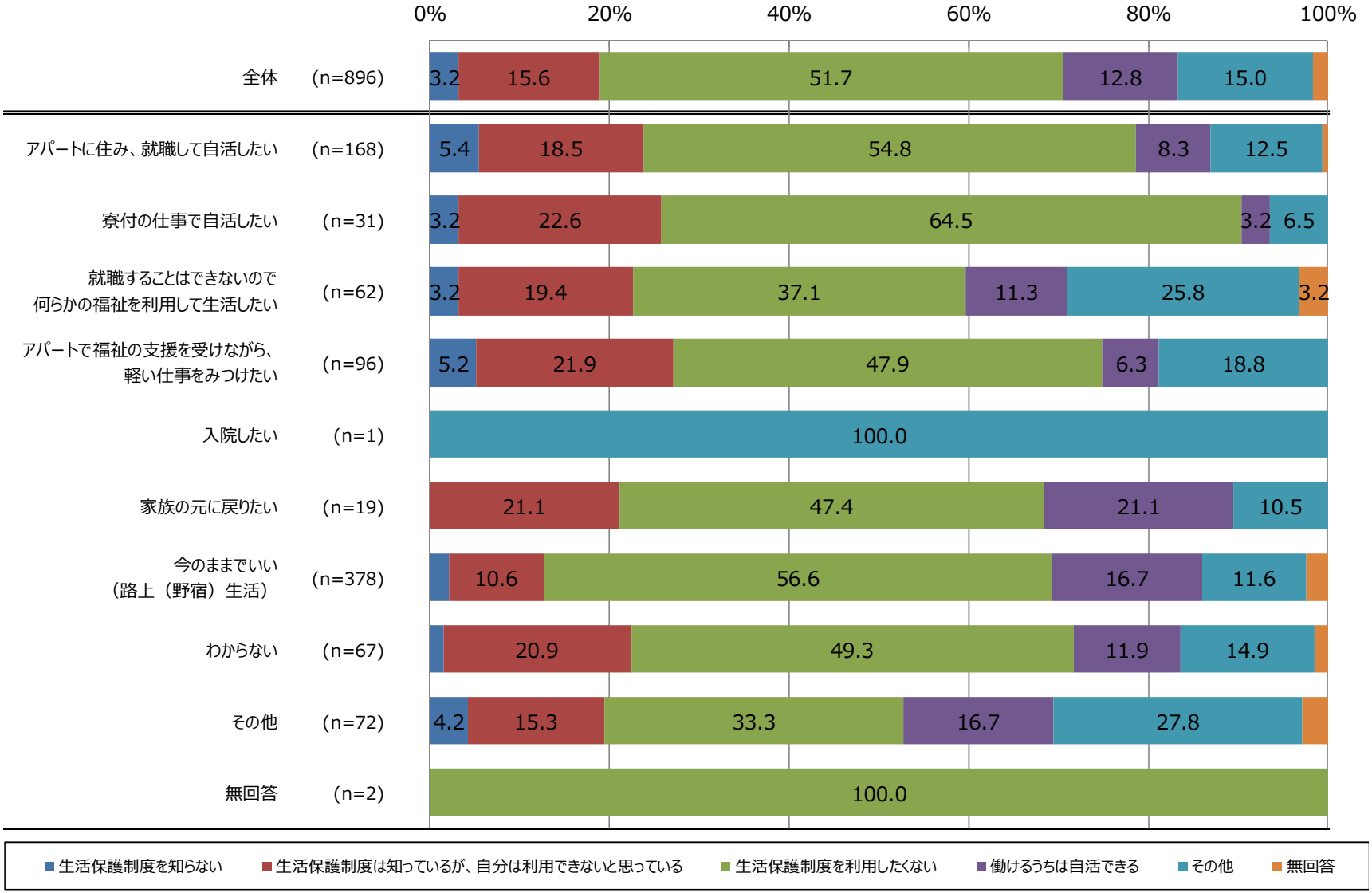
図表171　今後望んでいる生活 × 自立支援センター退所理由



問３３　今後望んでいる生活 × 問２９－２　生活保護制度を利用しなかった理由

- 今後望んでいる生活と生活保護制度を利用しなかった理由の関係については、「自分は利用できないと思っている」と回答した者では「寮付の仕事」及び「家族の元に戻りたい」の割合が高い。
- 「生活保護を利用したくない」と回答した者では「アパートに住み、就職」、「寮付きの仕事」、「今のままでいい」の割合が高い。

図表172　今後望んでいる生活 × 生活保護制度を利用しなかった理由



問３３－１　今の生活のままでいい理由 × 問１－１　寝ている場所（具体的に）

- 寝ている場所と今のままでいい理由の関係については、「河川」にいる者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」及び「今の場所になじんでいる」の割合が高い。
- 「公園」にいる者では「都市雑業的な仕事があるので暮らしていける」及び「自由だから」の割合が高い。
- 「道路」にいる者では「支援を受けられると思っていない」及び「自由だから」の割合が高い。

図表173　今の生活のままでいい理由 × 寝ている場所（具体的に）

